厚生労働省 ひと、くらし、みらいのために Ministry of Health, Labour and Welfare

ホームレスの実態に関する全国調査（生活実態調査）の分析結果

厚生労働省社会・援護局地域福祉課
生活困窮者自立支援室

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

基本クロスのパターンについて・・・・・・・・・・・・・・・3
（１）性別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
（２）年齢階層別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
（３）今回の路上生活期間別・・・・・・・・・・・・・・・・109
（４）支援制度利用タイプ別・・・・・・・・・・・・・・・・145
（５）地域別（事業実施別）・・・・・・・・・・・・・・・・152
（６）地域別（人口別）・・・・・・・・・・・・・・・・・・177
（７）設問間クロス集計・・・・・・・・・・・・・・・・・・210

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

基本クロスのパターンについて

令和３年11月に実施したホームレスの実態に関する全国調査（生活実態調査）より、詳細に分析・検証を進めるに当たり、主に以下の６つ　＜（１）～（６）＞の基本クロスのパターンにより分析を行った。

（１）性別

以下の２分類

①男性
②女性

（２）年齢階層別

以下の14分類

①１９歳以下
②２０～２４歳
③２５～２９歳
④３０～３４歳
⑤３５～３９歳
⑥４０～４４歳
⑦４５～４９歳
⑧５０～５４歳
⑨５５～５９歳
⑩６０～６４歳
⑪６５～６９歳
⑫７０～７４歳
⑬７５～７９歳
⑭８０歳以上

基本クロスのパターンについて

（３）今回の路上生活期間別

以下の８分類

①1ヶ月未満
②1ヶ月～3ヶ月未満
③3ヶ月～6ヶ月未満
④6ヶ月～1年未満
⑤1年～3年未満
⑥3年～5年未満
⑦5年～10年未満
⑧10年以上

（４）支援制度利用別

以下の５分類

①自立相談支援事業（巡回相談）
巡回相談員に相談したことがあるものの、以下②、③に該当しない（問27が１、問28、問29が１以外）
②一時生活支援事業（自立支援センター利用）
ホームレス自立支援センターを利用したケース（問29が１）
③一時生活支援事業（シェルター）
シェルターを利用したことがあるものの、②以外（問28が１、問29が1以外）
④その他支援
住宅の斡旋や宿泊事業、健康診断、食料・衣類の支給などの公的支援を利用したことがあるものの、①～③に該当しないケース
⑤制度利用内
①～④のいずれにも該当しないケース

基本クロスのパターンについて

（５）地域別（事業実施別）

以下の３（５）分類

①一時生活支援事業（自立支援センター）実施9自治体
仙台市、東京都23区、川崎市、横浜市、名古屋市、
京都市、大阪市、北九州市、福岡市

②一時生活支援事業（シェルター）実施自治体

ア．シェルター、自立支援センターの双方実施7自治体
仙台市、東京都23区、横浜市、名古屋市、京都市、
大阪市、福岡市

イ．シェルターのみ実施15自治体
札幌市、さいたま市、千葉市、市川市、相模原市、
平塚市、新潟市、静岡市、堺市、神戸市、岡山市、
広島市、久留米市、熊本市、那覇市、

③一時生活支援事業未実施5自治体
戸田市、川口市、厚木市、浜松市、尼崎市

＜※令和４年４月現在（生活困窮者自立支援室調べ）数値精査中＞

（６）地域別（人口別）

以下の５分類

①200万人以上（4自治体）
東京23区、横浜市、名古屋市、大阪市

②100～200万人未満（8自治体）
札幌市、仙台市、さいたま市、川崎市、京都市、
神戸市、広島市、福岡市

③50～100万人未満（10自治体）
川口市、千葉市、相模原市、新潟市、浜松市、静岡市、
堺市、岡山市、北九州市、熊本市

④30～50万人未満（4自治体）
市川市、尼崎市、久留米市、那覇市

⑤30万人未満（3自治体）
戸田市、厚木市、平塚市

＜※令和３年1月1日現在（住民基本台帳）＞

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

性別

1

ひと、くらし、みらいのために

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

性別の傾向について

路上での生活

- 具体的な寝場所では、男女ともに公園の割合が最も高い。男性に比べ女性は河川の割合が低い。
- 寝場所をつくる方法では、男女ともに簡易な敷物が最も高い。男性に比べ女性は寝場所をつくらない割合が高い。
- 仕事では、男性に比べ女性は仕事をしている者の割合が低い一方で、仕事以外の収入がある割合は高く、その内容は年金収入である。
- 障害者手帳の所持では、男性に比べ女性は、今持っている割合が高い。

路上生活までのいきさつ

- これまで一番長くやってきた仕事では、男性は建設関係、女性は事務・サービス業の割合が高い。
- 路上生活に至った理由は、男性は仕事関係、女性は家庭の事情に起因するものの割合が高い。

福祉制度の周知・利用状況

- シェルターや自立支援センターの周知度・利用度は、いずれも女性より男性の割合が高い。
- 生活保護制度を利用しない理由では、男女ともに「制度を利用したくない」が最も高いが、男性に比べ女性は、「制度をしらない」「制度を知っているが自分は利用できないと思っている」の割合が高い。

性別の傾向について

今後の生活

- 今後望んでいる生活では、男女ともに現状維持を望む割合が高い。変化を望む人では、男性はアパートでの自活や福祉の手をかりても軽い仕事につきたい割合が高い一方で、女性は何らかの福祉を利用した生活を望む割合がやや高い。

生活歴

- 結婚歴では、男性に比べ女性は結婚歴のある割合が高く、家族と連絡を取り合っている割合もやや高い。

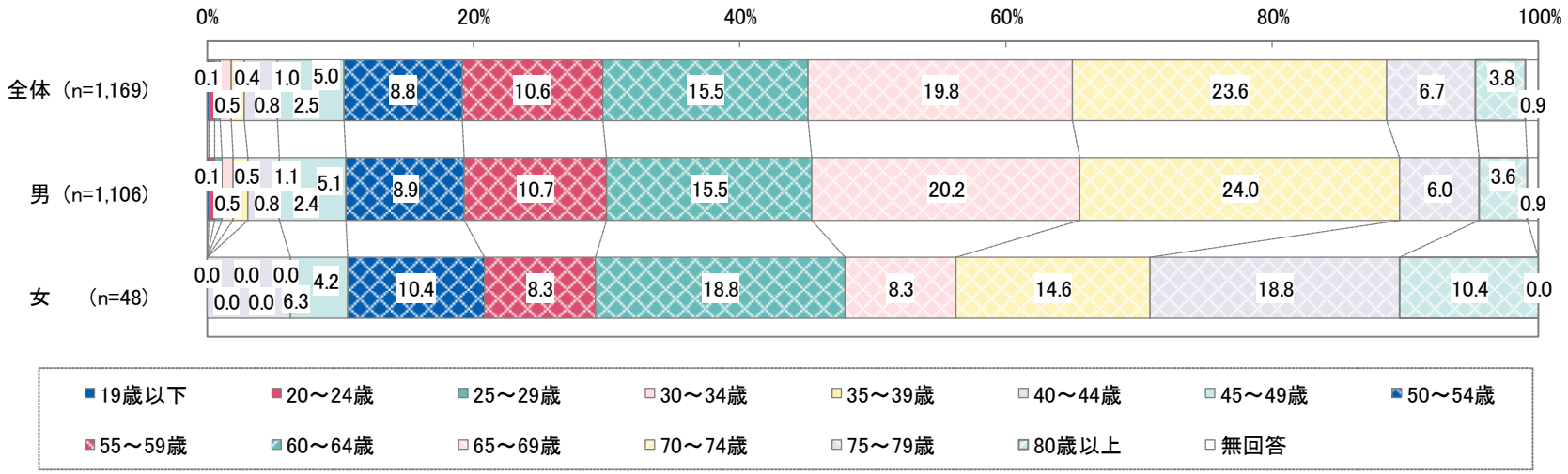
現在の気持ち

- 現在の気持ちでは、男性に比べ女性は希望を持っている割合が低い。

年齢

- 年齢については、「男性」では「７０～７４歳」の割合が24.0%（女性 ： 14.6%）である一方、「女性」では「７５～７９歳」の割合が18.8%（男性：6.0%）と高い。

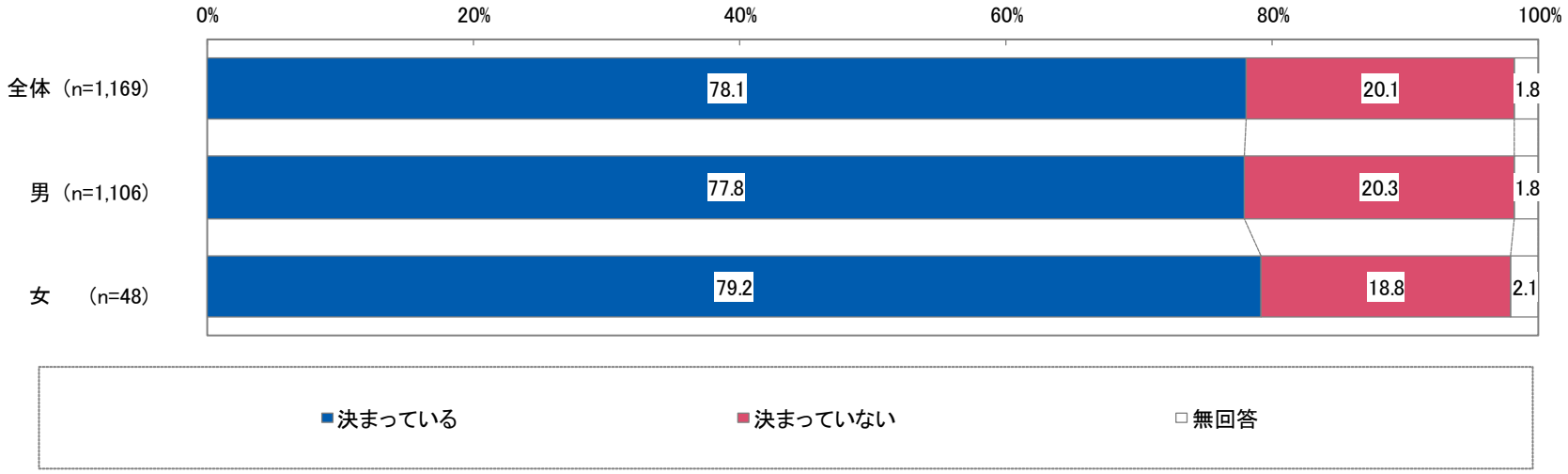
図表１　年齢階層（性別）



問１　寝ている場所

- 寝ている場所については、「男性」では一定の場所で「決まっている」の割合が77.8%であり、「女性」では一定の場所で「決まっている」の割合が79.2%と男性に比べ若干高い。

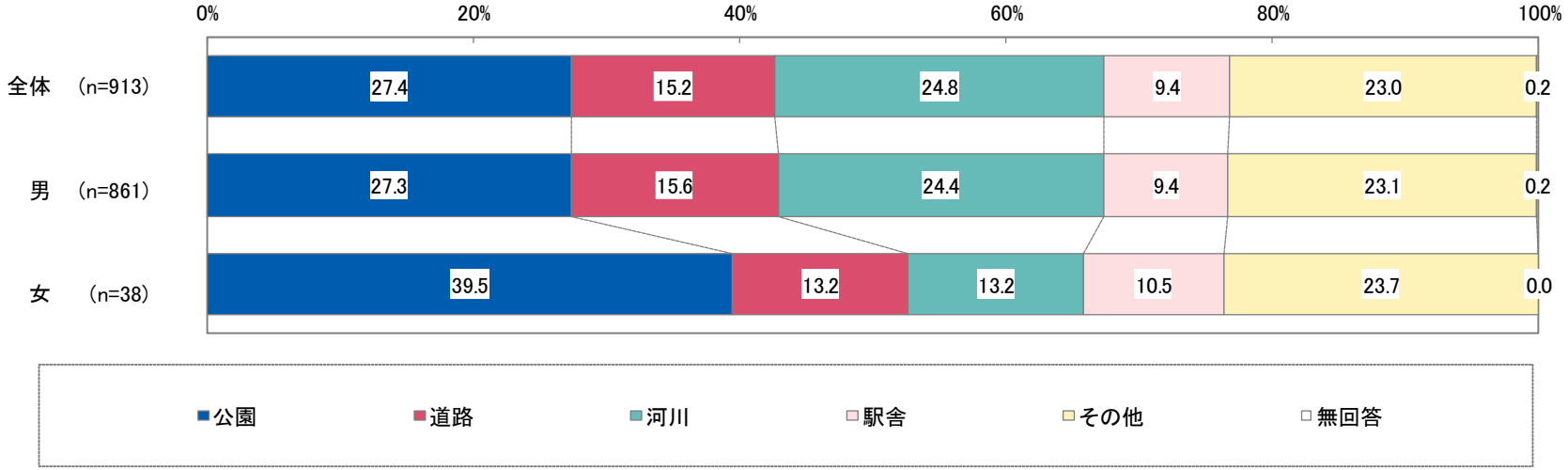
図表２　寝ている場所（性別）



問１－１ 寝ている場所（具体的に）

- 寝ている場所については、「男性」 では「公園」（27.3%）、「女性」でも「公園」（39.5%）の割合が高い。「女性」では「河川」（13.2%）の割合が低い。

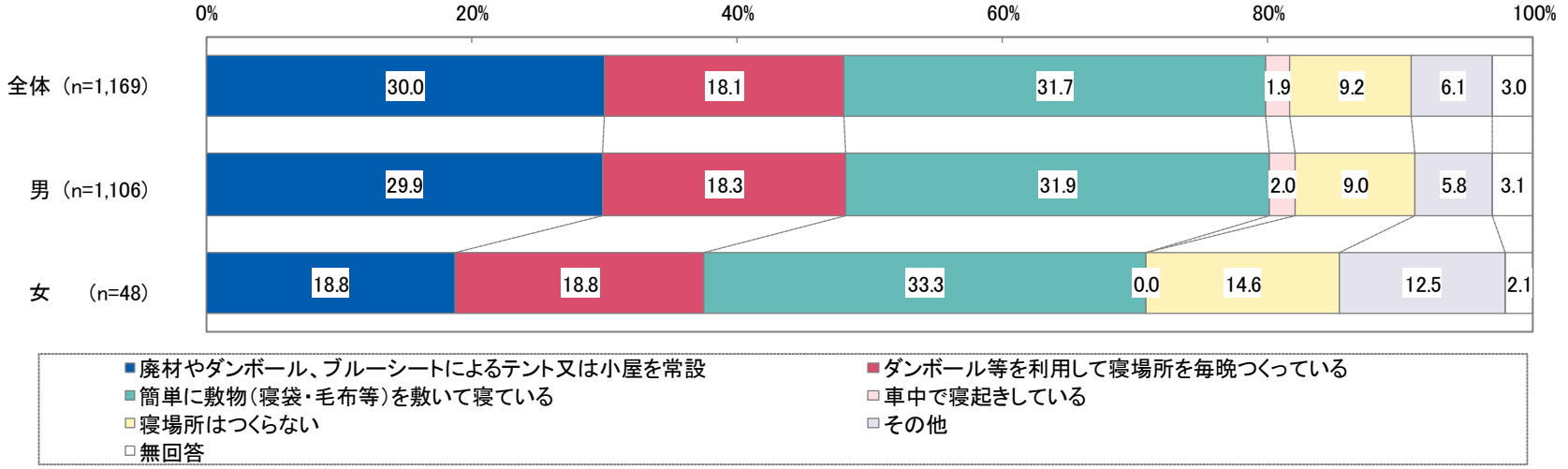
図表3　寝ている場所（具体的に）（性別）



問２ 寝場所を作る方法

- 寝（野宿）場所をつくる方法については、「男性」では「廃材やダンボール、ブルーシートによるテント又は小屋を常設」（29.9%）の割合が高く、「女性」では「簡易に敷物（寝袋・毛布等）を敷いて寝ている」（33.3%）「寝場所はつくらない」（14.6%）の割合が高い。

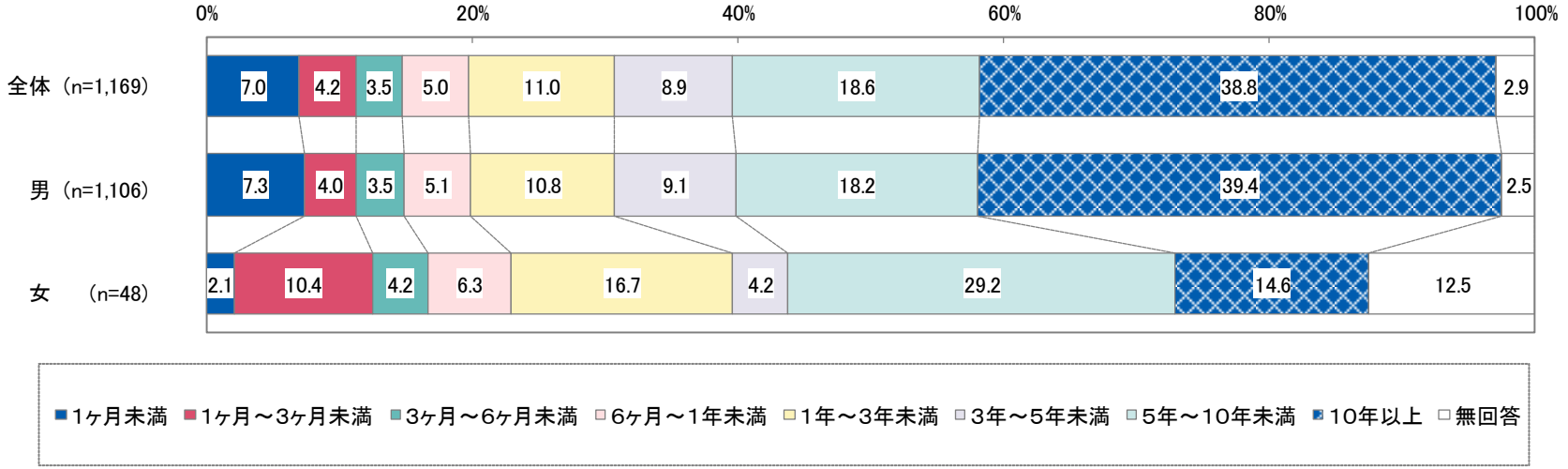
図表４　寝場所を作る方法（性別）



問３ 今回の路上生活の期間

- 今回の路上（野宿）生活の期間については、「男性」では「１０年以上」（39.4%）の割合が高く、「女性」では「５年～１０年未満」（29.2%）の割合が高い。

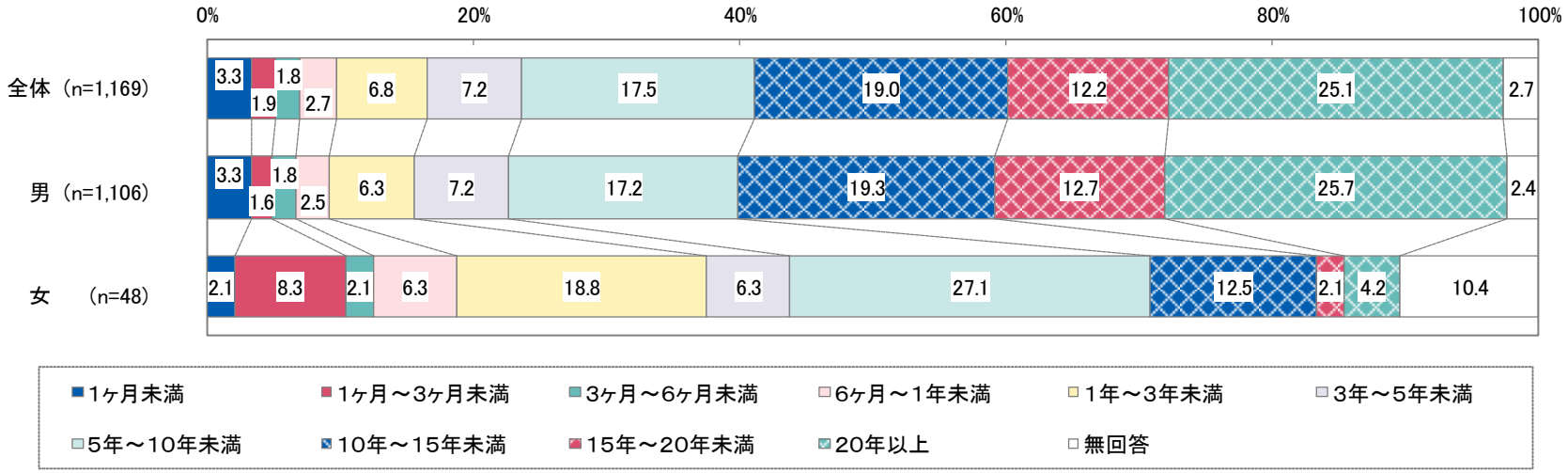
図表５　今回の路上生活の期間（性別）



問５ 初めて路上生活をしてからの期間

- 初めて路上（野宿）生活してからの経過期間については、「全体」及び「男性」では「２０年以上」（全体 ： 25.1%、男性：25.7%、女性：4.2%）の割合が高く、「女性」では「５年～１０年未満」（男性17.2%、女性27.1%）の割合が高い。

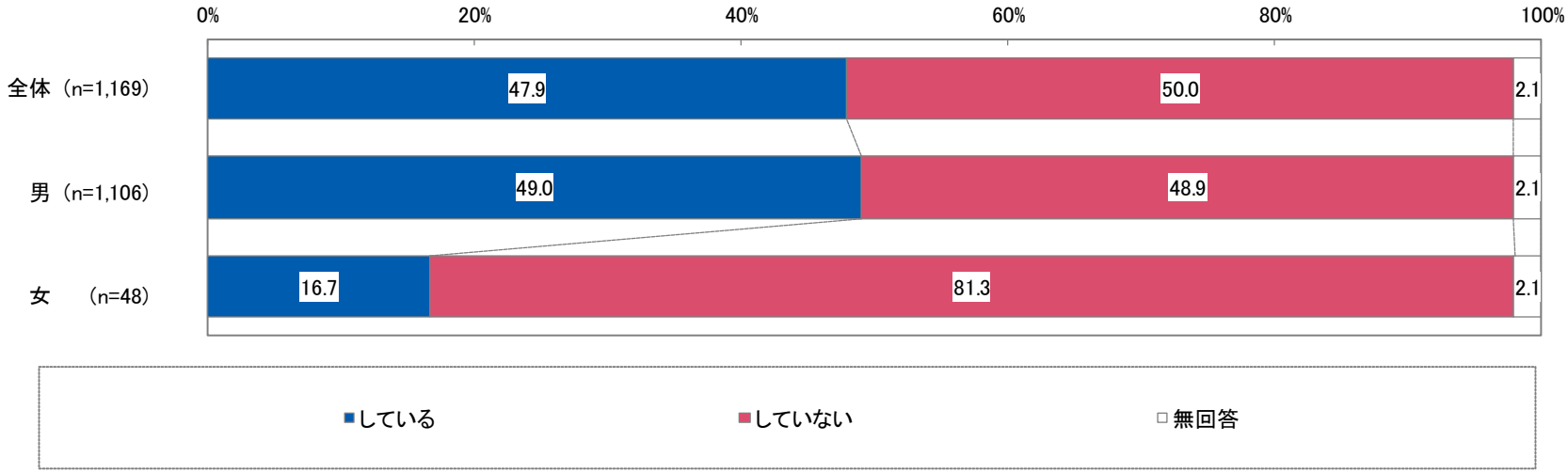
図表6　初めて路上生活をしてからの期間（性別）



問６ 現在収入のある仕事

- 現在収入のある仕事については、「男性」では「している」（49.0%）の割合が高く、「女性」では「していない」（81.3%）の割合が高い。

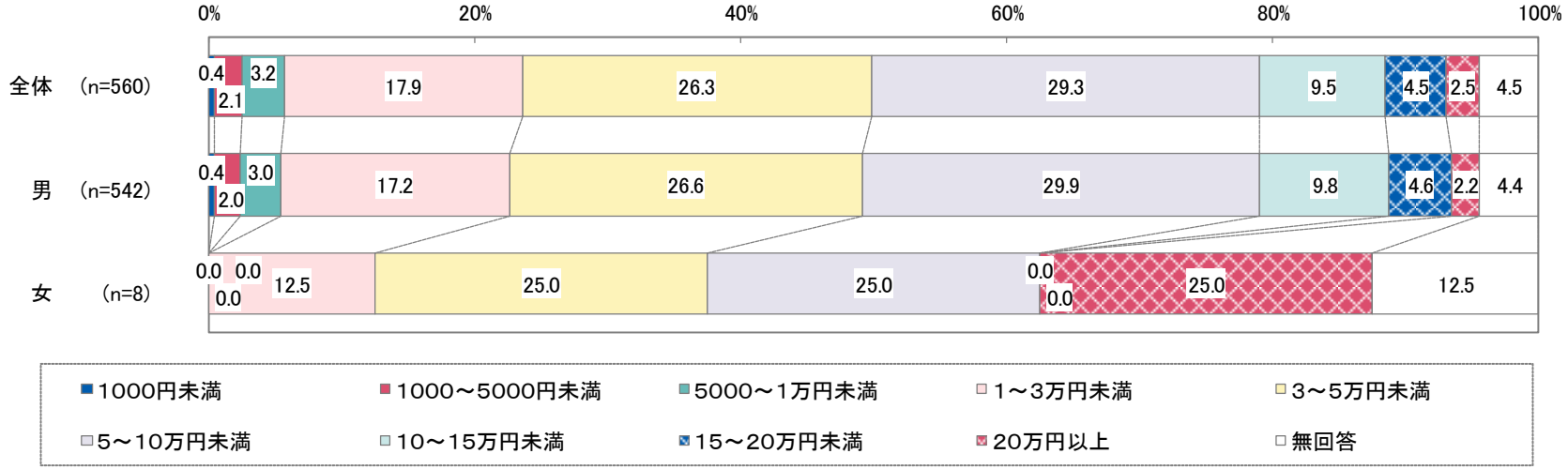
図表7　現在収入のある仕事（性別）



問６－２ 仕事による平均収入

- 仕事による平均収入（性別）については、「男性」では「５～１０万円未満」（29.9%）及び「３～５万円未満」（26.6%）の割合が高く、「女性」では「３～５万円未満」「５～１０万円未満」「２０万円以上」（それぞれ25.0%）の割合が高い。

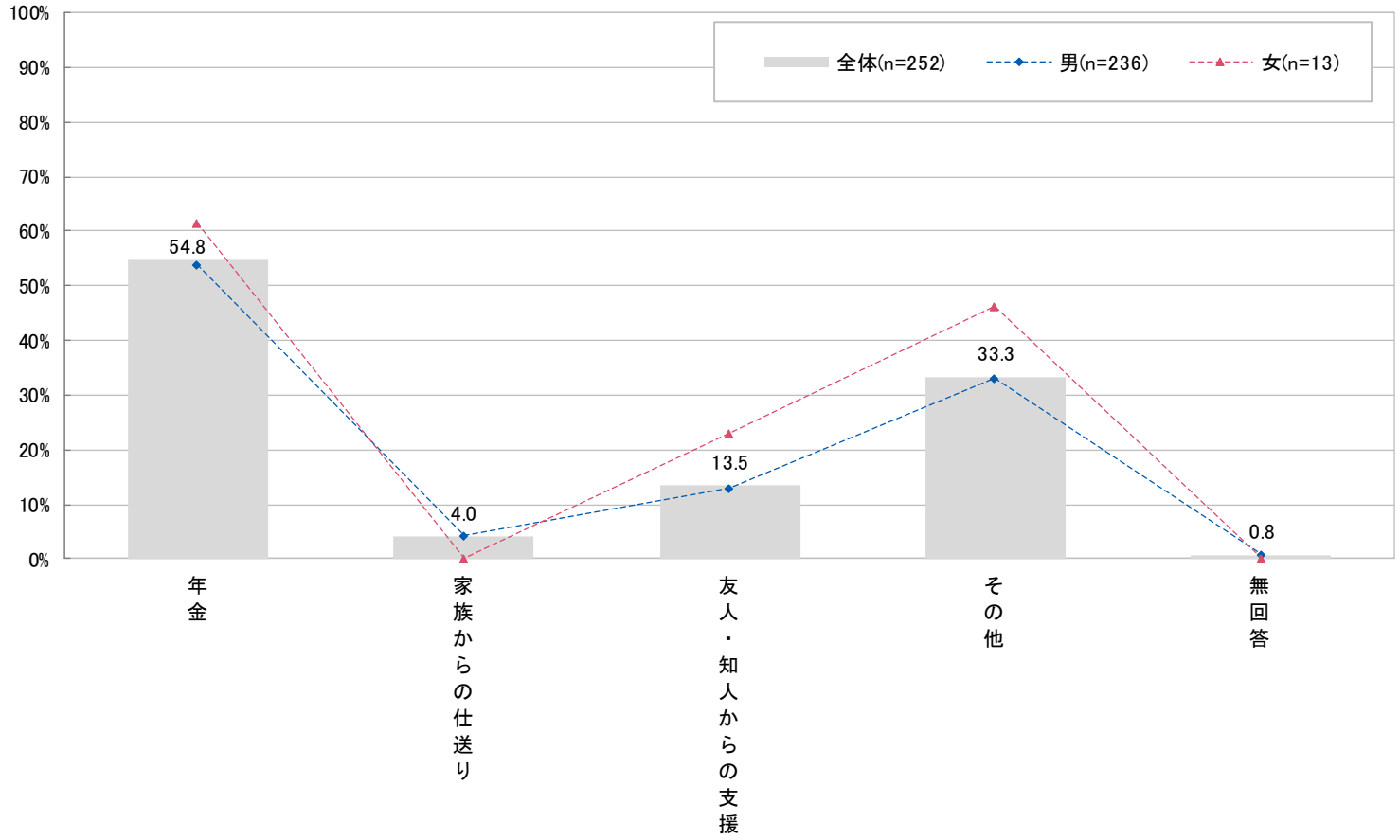
図表８　仕事による平均収入（性別）



問７－１ 仕事以外の収入の種類

- 仕事以外の収入の種類については、「男性」「女性」ともに「年金」の割合が高い。

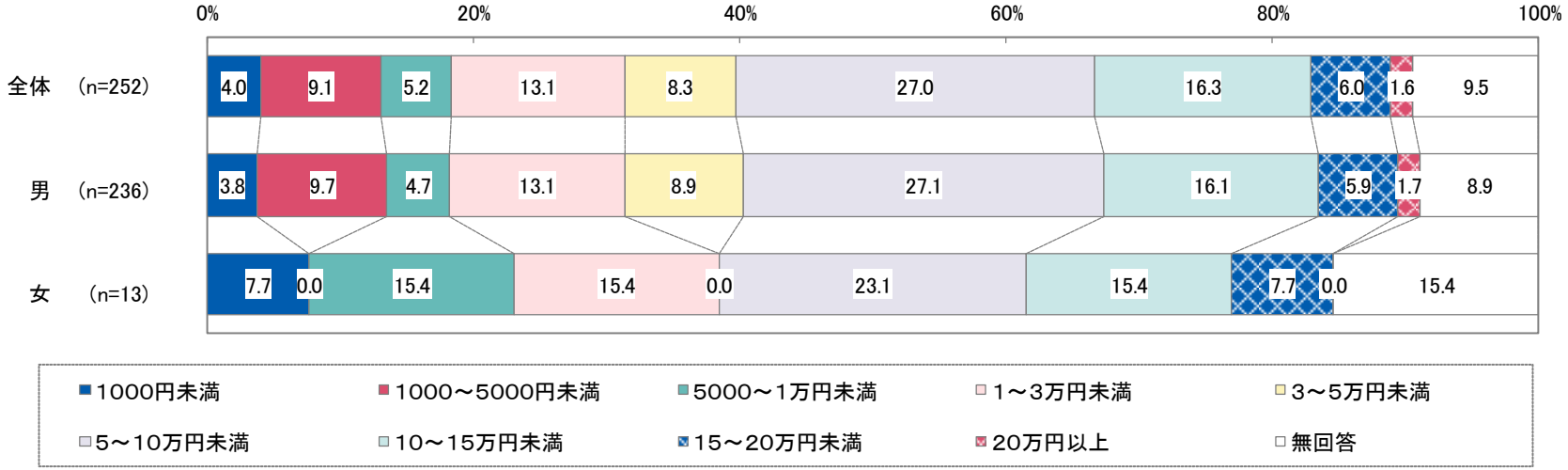
図表９　仕事以外の収入の種類（性別）



問７－２ 仕事以外の平均収入

- 仕事以外の平均収入（性別）について、「男性」では、「５～１０万円未満」（27.1%）の割合が高く、「女性」においても「５～１０万円未満」（23.1%）の割合が高い。

図表10　仕事以外の平均収入（性別）



問１４ これまで一番長くやっていた仕事

- これまで一番長くやっていた仕事については、「男性」では「建設・採掘従事者」（34.2%）の割合が高いのに対し、「女性」では「その他」を除き、「事務従事者」「サービス職業従事者」（それぞれ16.7%）の割合が高い。

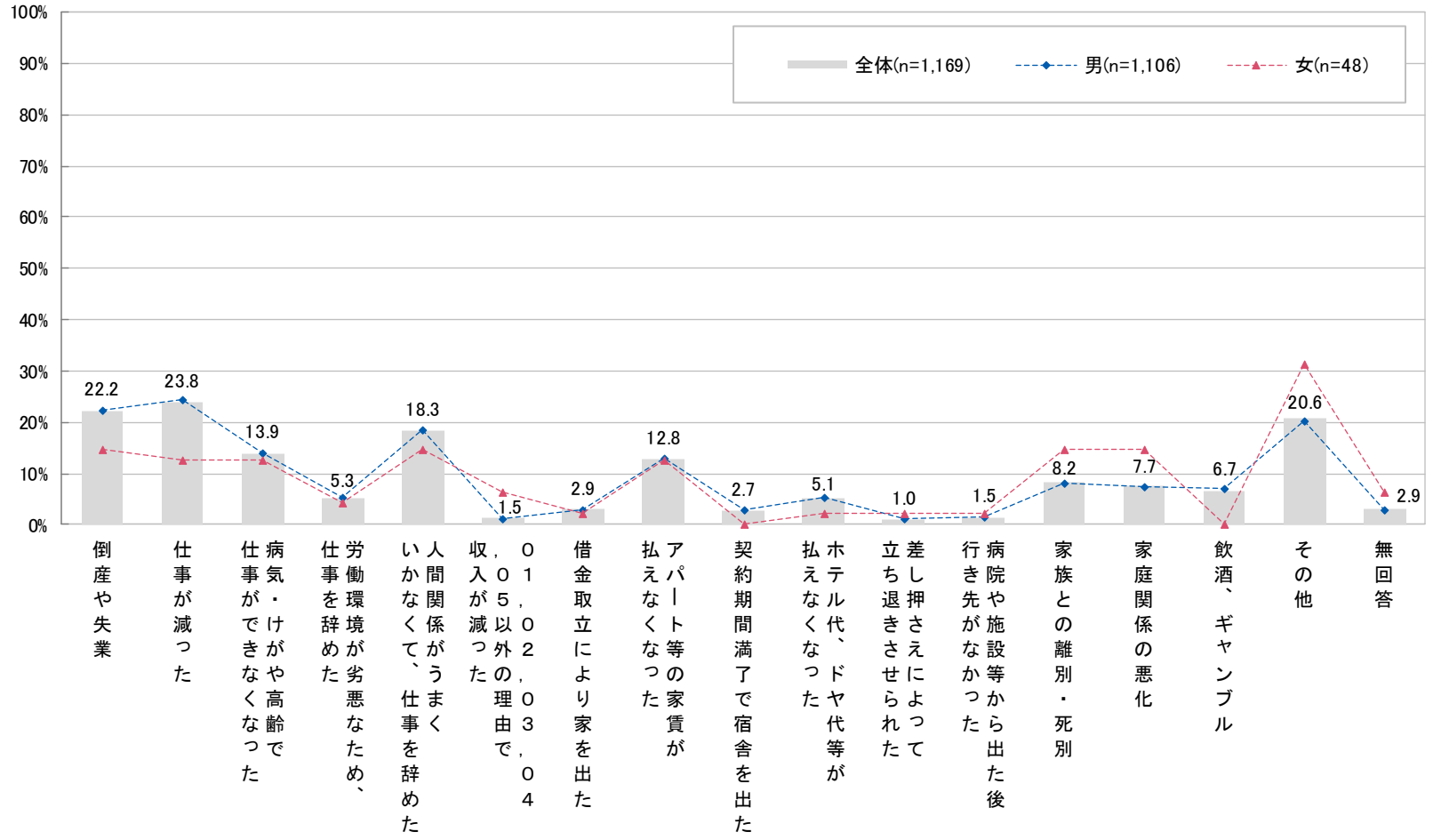
図表11　これまで一番長くやっていた仕事（性別）



問１７ 今回の路上生活をするようになった主な理由

- 今回の路上（野宿）生活をするようになった主な理由については、「男性」では「仕事が減った」「倒産や失業」の割合が高く、「女性」では「その他」を除き、「倒産や失業」「人間関係がうまくいかなくて、仕事を辞めた」の割合が高い。

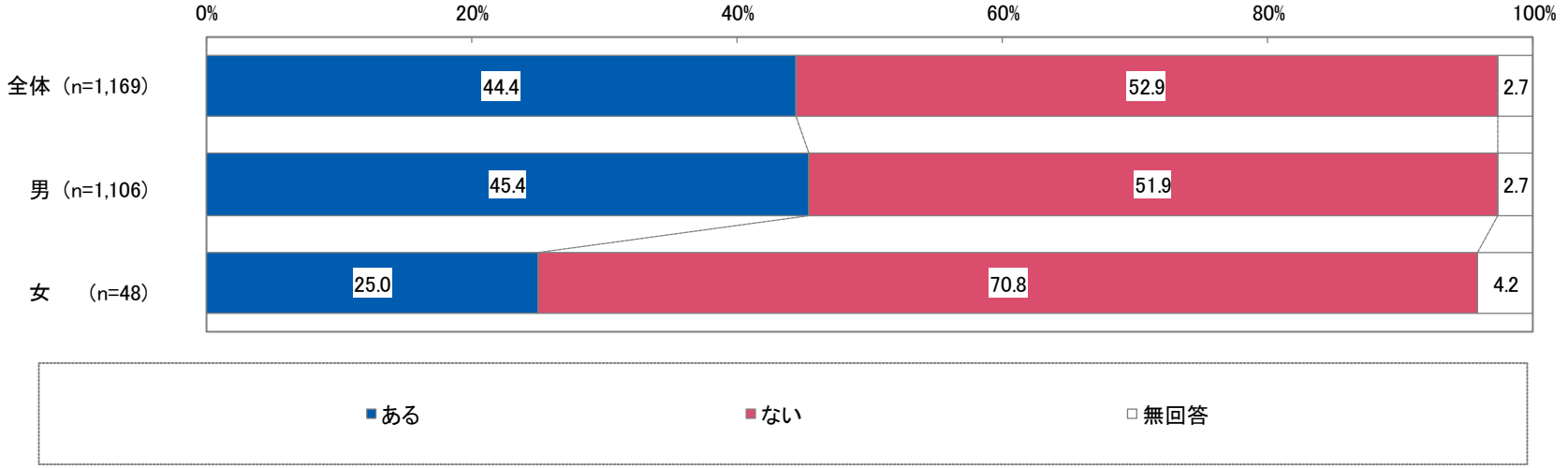
図表12　今回の路上生活をするようになった主な理由（性別）



問１８ 別の場所での路上生活の経験

- 別の場所での路上（野宿）生活経験については、「男性」では「ある」の割合が45.4%である一方、「女性」では25.0%と低い。

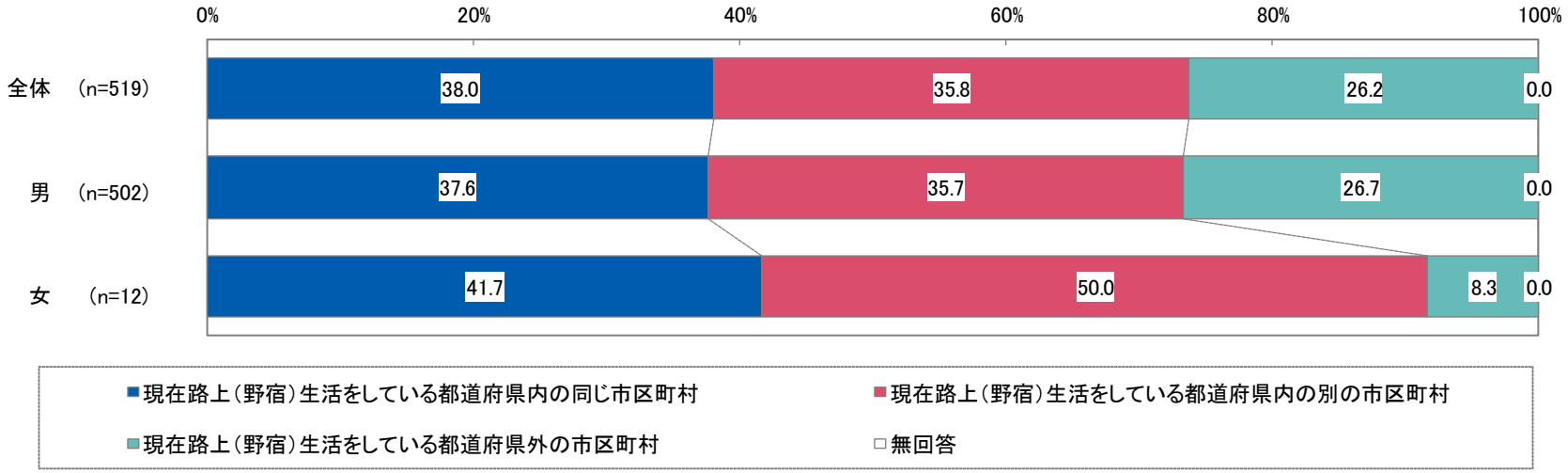
図表13　別の場所での路上生活の経験（性別）



問１８－１ 別の路上生活場所

- （路上（野宿）生活の経験がある人の）別の路上（野宿）生活場所については、「男性」では「現在路上生活をしている都道府県の同じ市区町村」（37.6%）の割合が高く、「女性」では「都道府県内の別の市区町村」（50.0%）の割合が高い。

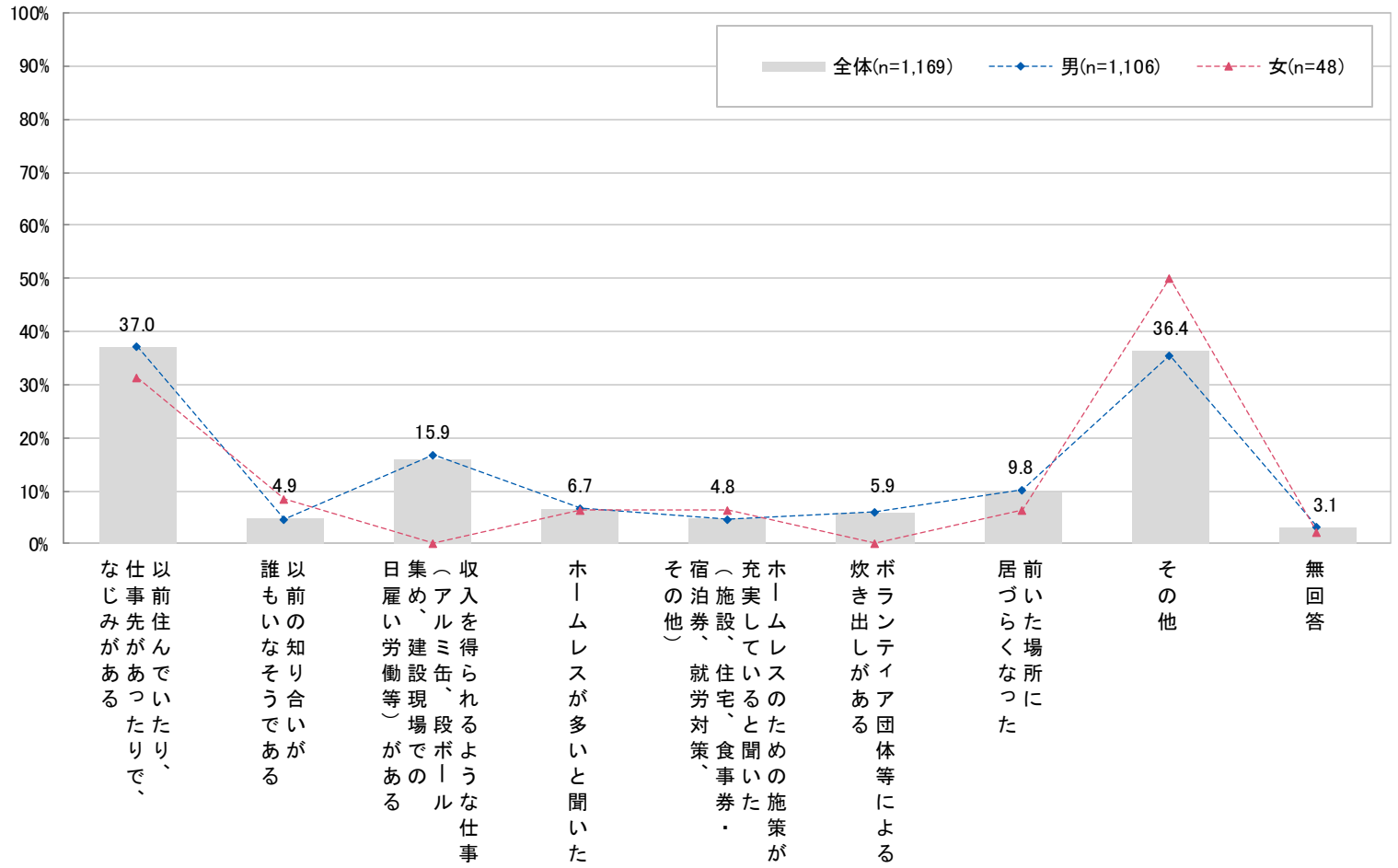
図表１４　別の路上生活場所（性別）



問１９ 現在の市区町村にきた主な理由

- 現在の市区町村に来た主な理由については、「その他」を除き、「男性」では「以前住んでいたり、仕事先があったりで、なじみがある」「収入を得られるような仕事がある」の割合が高く、「女性」では「以前住んでいたり、仕事先があったりで、なじみがある」「以前の知り合いが誰もいなそうである」の割合が高い。

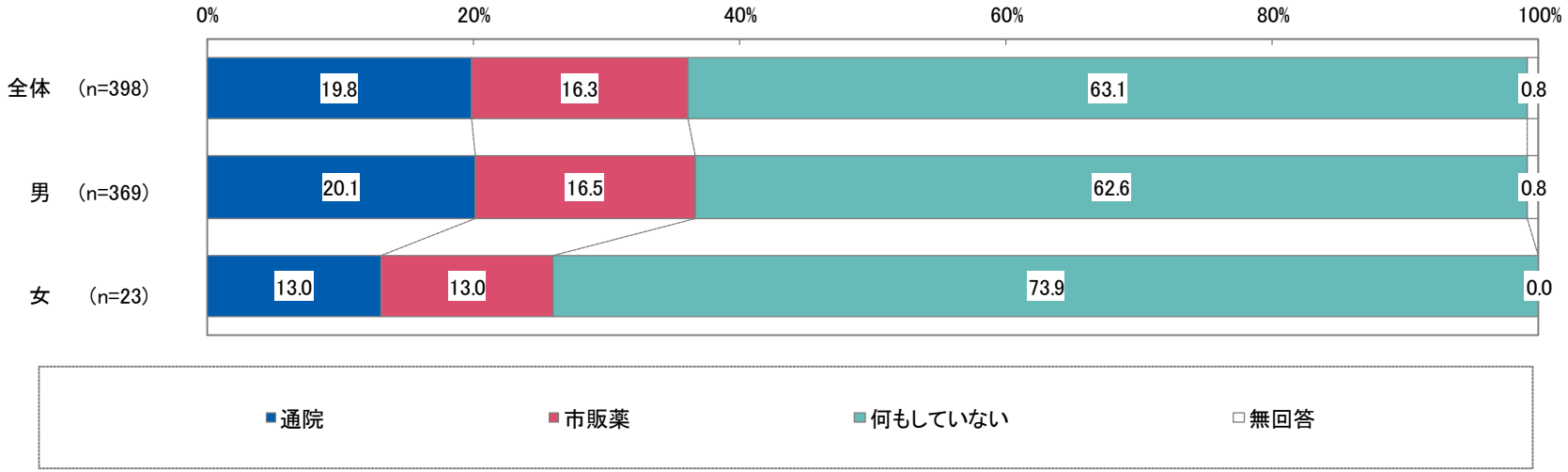
図表15　現在の市区町村にきた主な理由（性別）



問２１－１ 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法

- 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法ついては、「男性」「女性」ともに「何もしていない」（それぞれ62.6%、73.9%）の割合が高い。

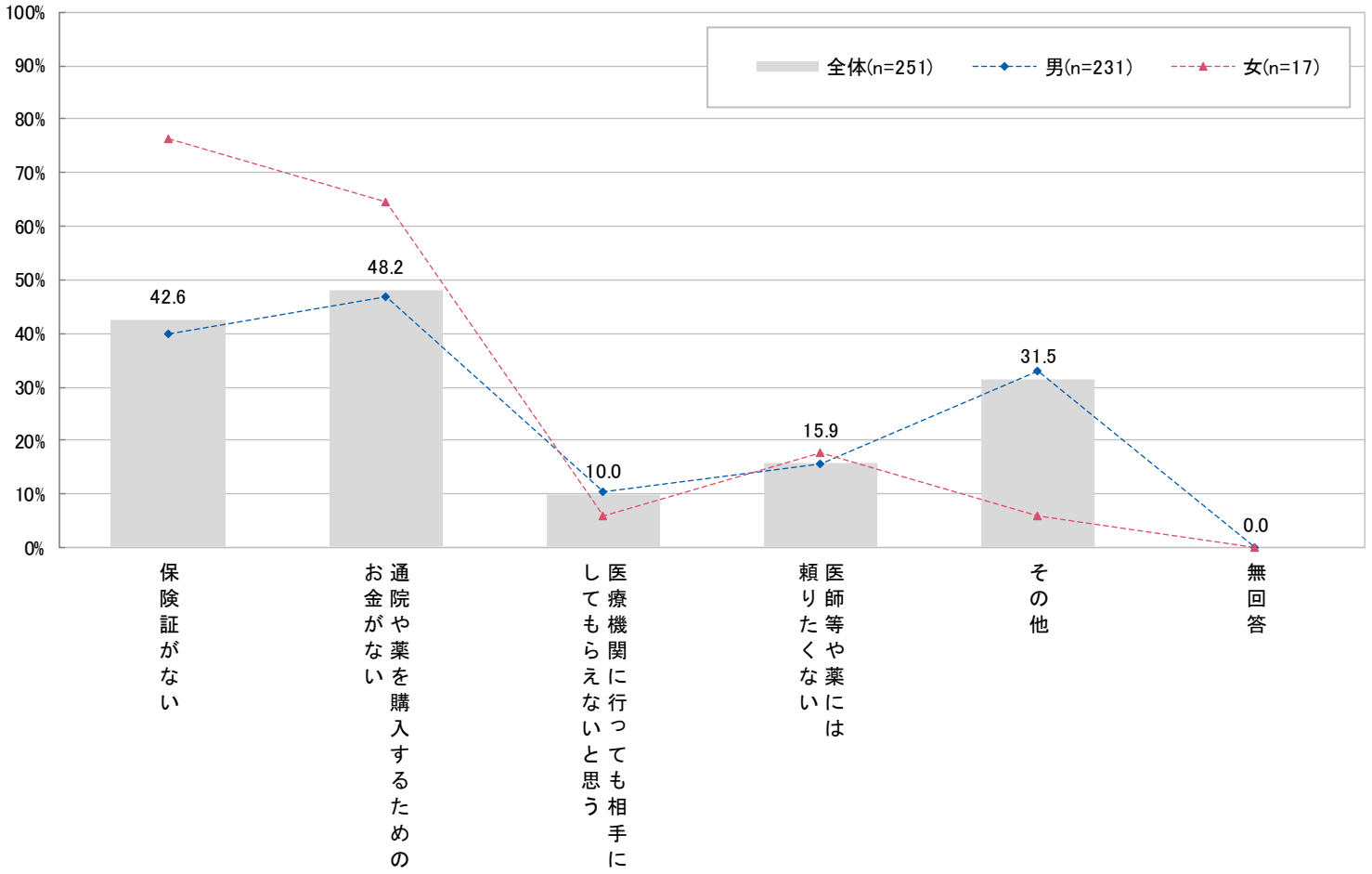
図表16　健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法（性別）



問２１－２ 何も対処しない理由

- 何も対処しない理由について、「男性」では「通院や薬を購入するためのお金がない」の割合が高く、「女性」では「保険証がない」「通院や薬を購入するためのお金がない」の割合が高い。

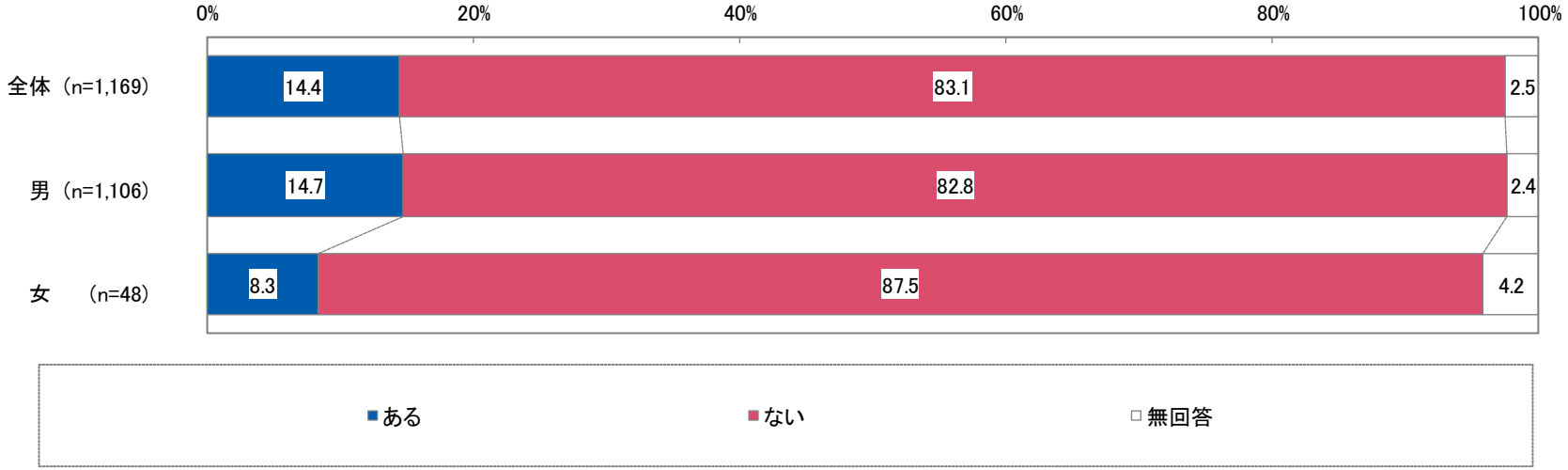
図表17　何も対処しない理由（性別）



問２５ 路上生活してからの入院

- 路上（野宿）生活をしてからの入院経験については、「男性」では「ある」（14.7%）、「女性」では「ある」（8.3%）となっている。

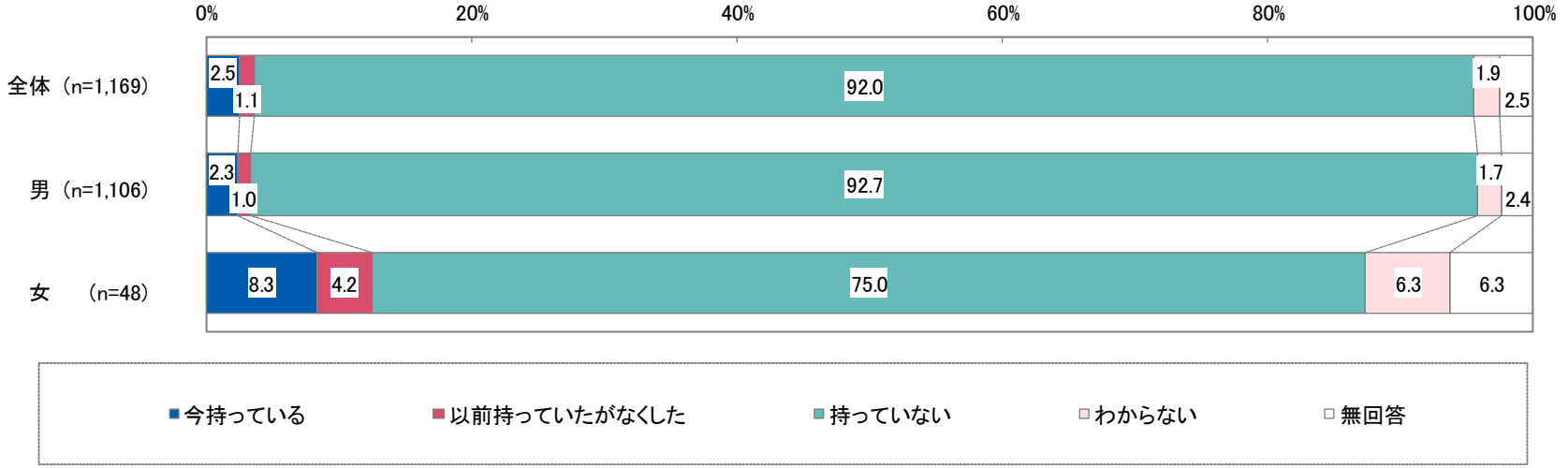
図表18　路上生活してからの入院（性別）



問２６ 障害者手帳の所有

- 障害者手帳の所持状況については、「男性」では「今持っている」（2.3%）に対し、「女性」では「今持っている」（8.3%）との割合が高い。

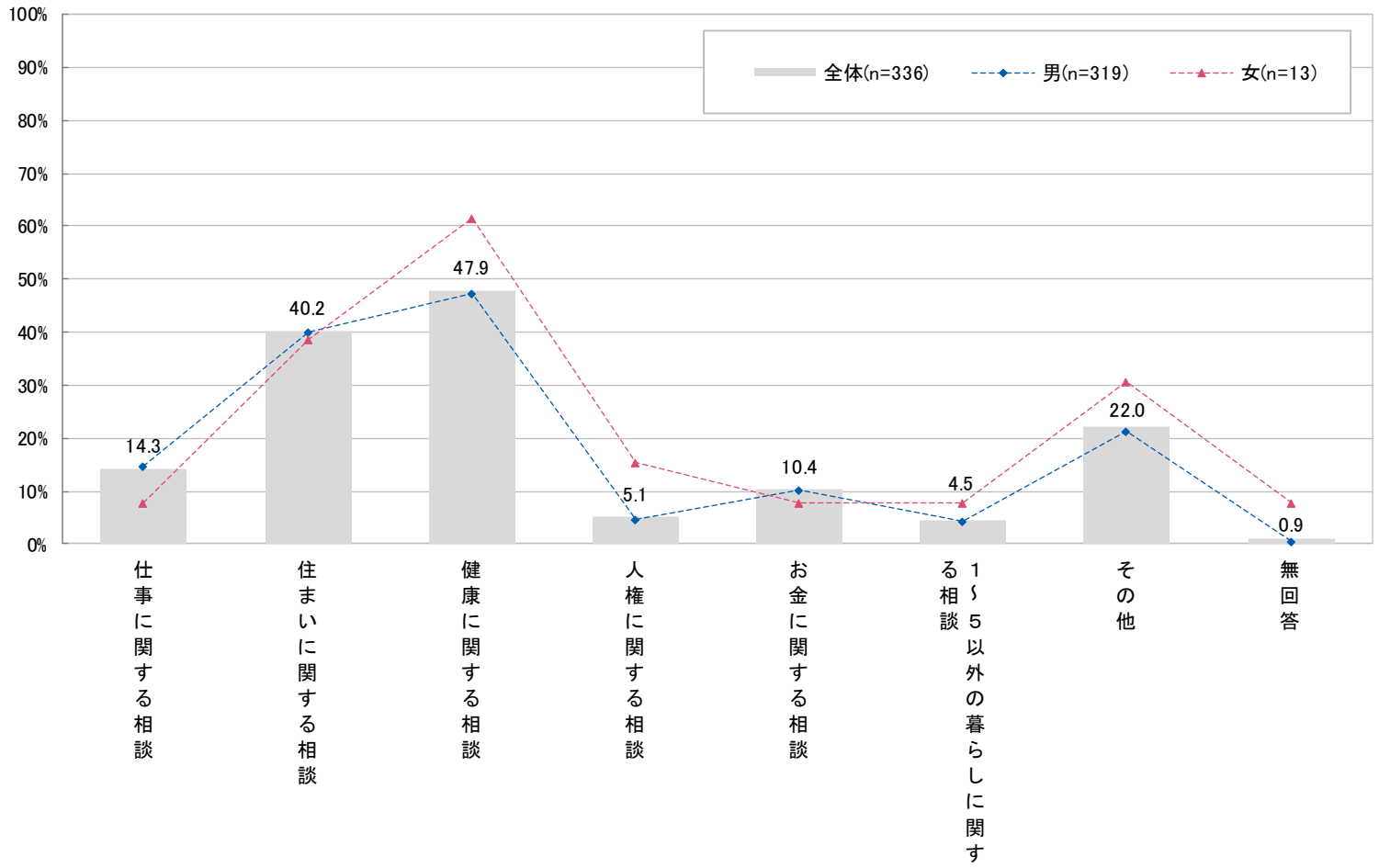
図表１９　障害者手帳の所有（性別）



問２７－３ どのような相談をしたか

- 巡回相談員への相談状況について、「男性」「女性」ともに、「健康に関する相談」「住まいに関する相談」の割合が高い。

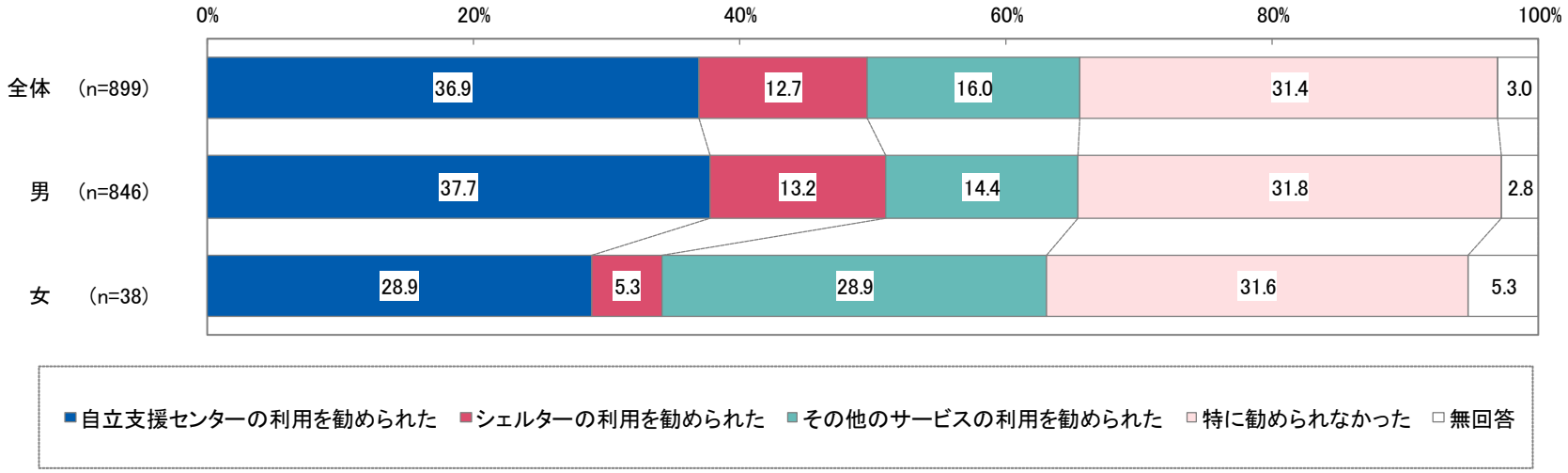
図表20　どのような相談をしたか（性別）



問２７－４ 自立支援センターやシェルター等の利用の勧め

- 巡回相談員から自立支援センターやシェルター等の利用勧奨状況について、「男性」では「自立支援センターの利用を勧められた」（37.7%）の割合が高く、「女性」では「その他のサービスの利用を勧められた」（28.9%）の割合が高い。

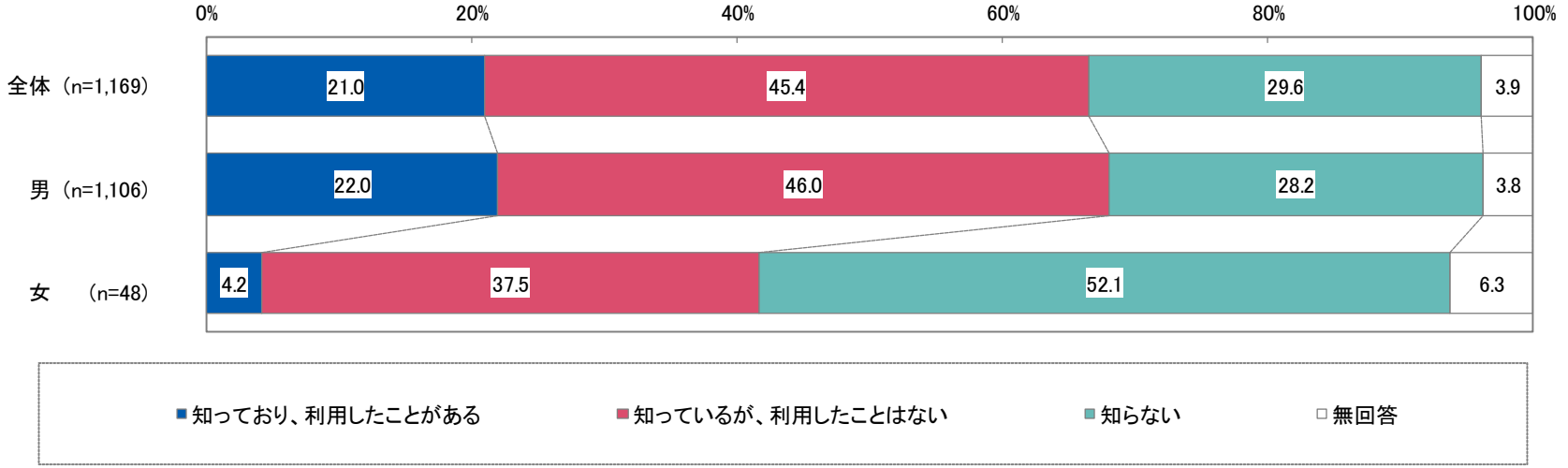
図表21　自立支援センターやシェルター等の利用の勧め（性別）



問２８ シェルター内容の認知度・利用度

- シェルターの内容の認知度・利用度については、「男性」では「知っているが、利用したことはない」（46.0%）の割合が高く、「女性」では「知らない」（52.1%）の割合が高い。

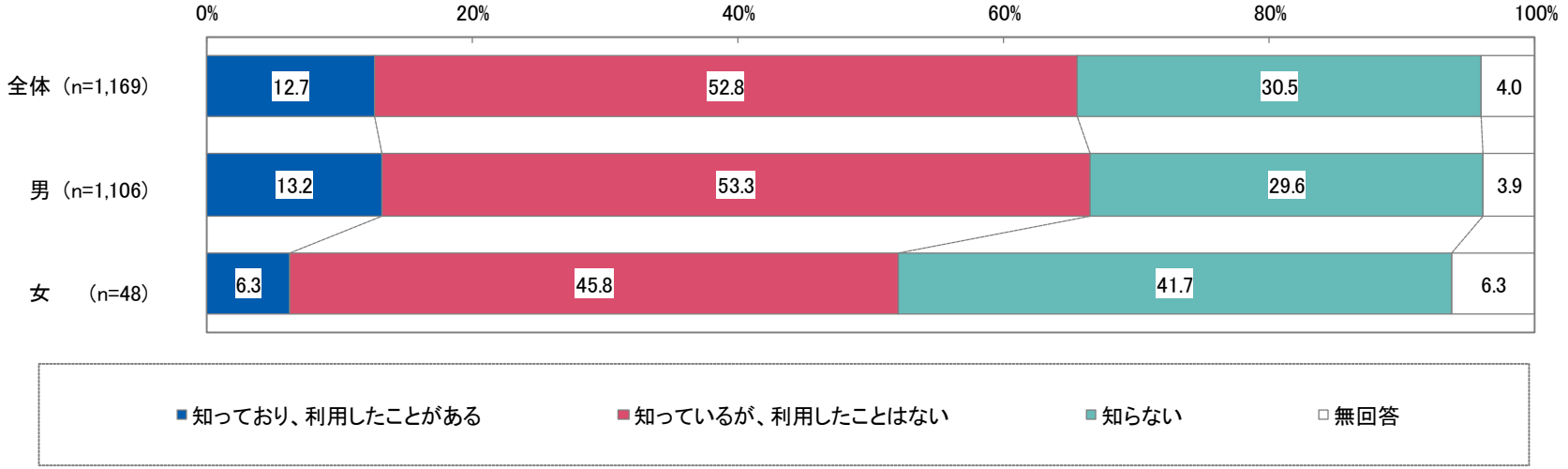
図表22　シェルター内容の認知度・利用度（性別）



問２９ 自立支援センターの内容の認知度・利用度

- 自立支援センターの内容の認知度・利用度については、「男性」では「知っているが、利用したことはない」（53.3%）の割合が高く、「女性」では「知らない」（41.7%）の割合が高い。

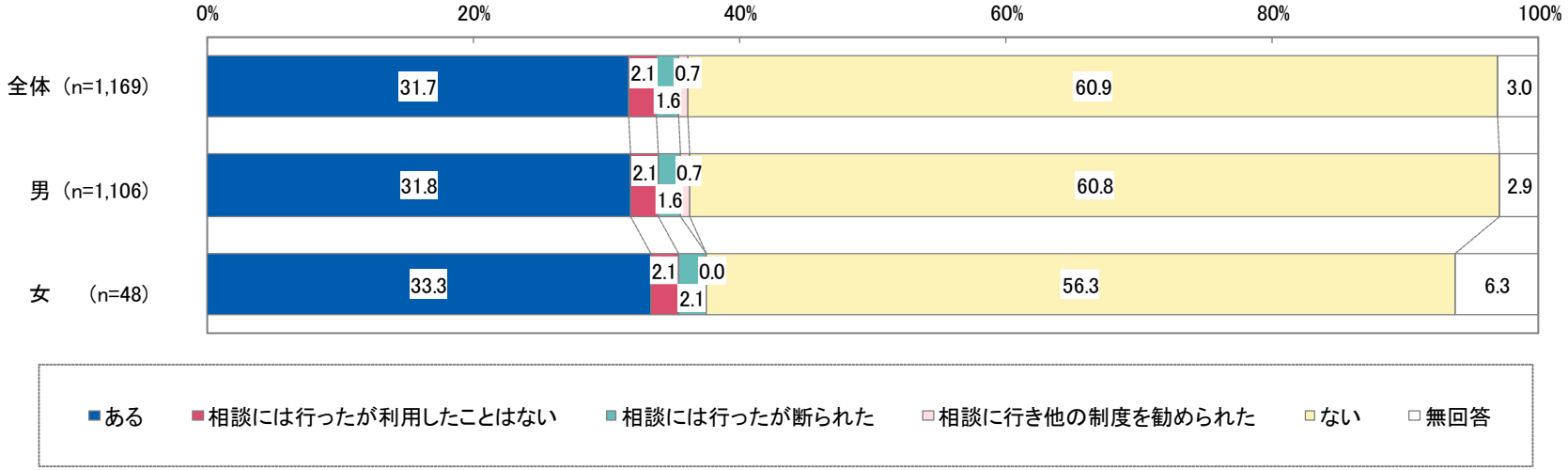
図表23　自立支援センターの内容の認知度・利用度（性別）



問３１ 生活保護の利用経験

- 生活保護制度の利用経験については、「男性」「女性」ともに「ない」（それぞれ60.8%、56.3%）の割合が高く、次いで「ある」（それぞれ31.8%、33.3%）となっている。

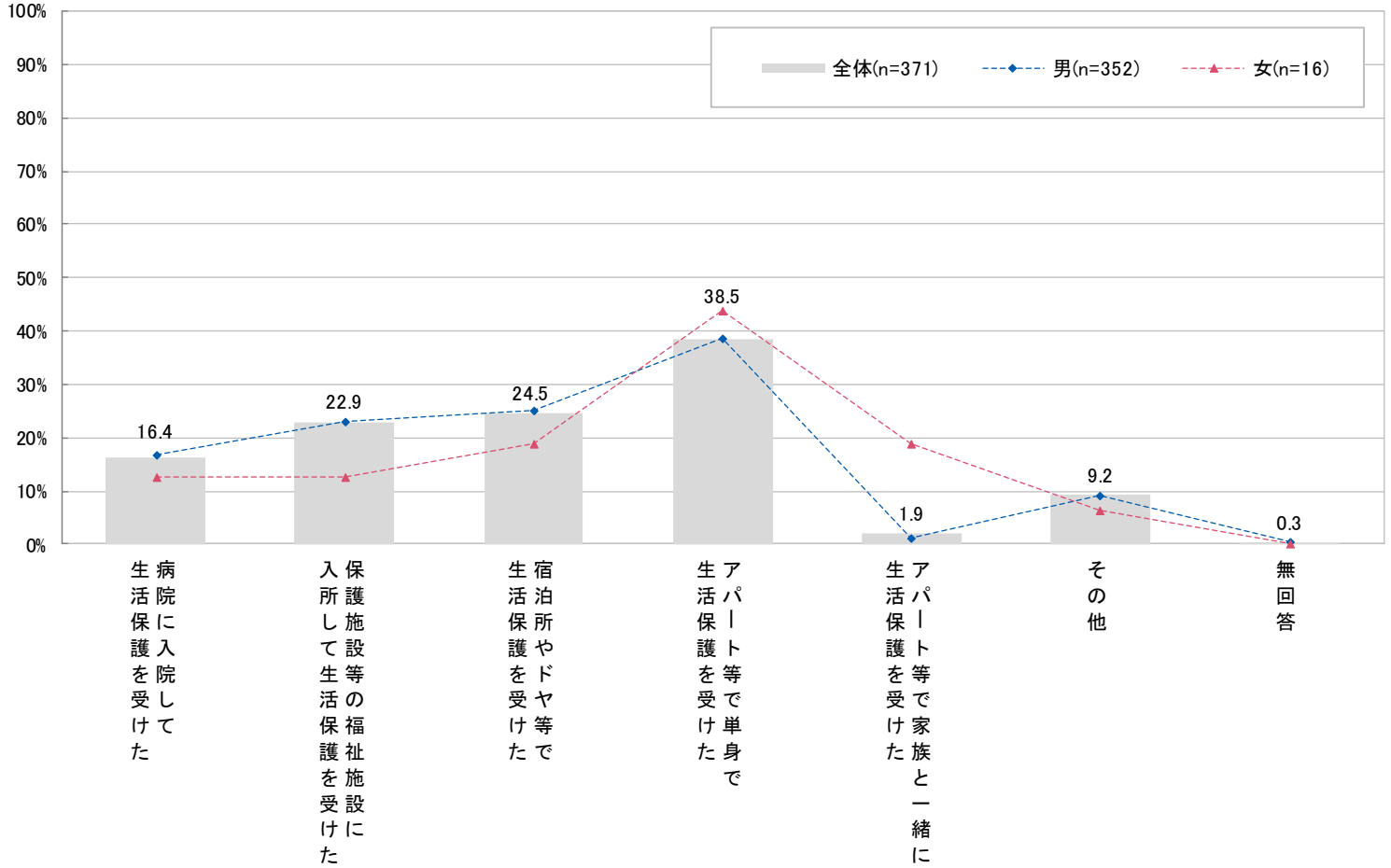
図表24　生活保護の利用経験（性別）



問３１－１ 生活保護制度の利用方法

- 生活保護制度の利用方法については、「男性」「女性」ともに「アパート等で単身で生活保護を受けた」「宿泊所やドヤ等で生活保護を受けた」の割合が高く、「女性」のみでは「アパート等で家族と一緒に生活保護を受けた」の割合が高い。

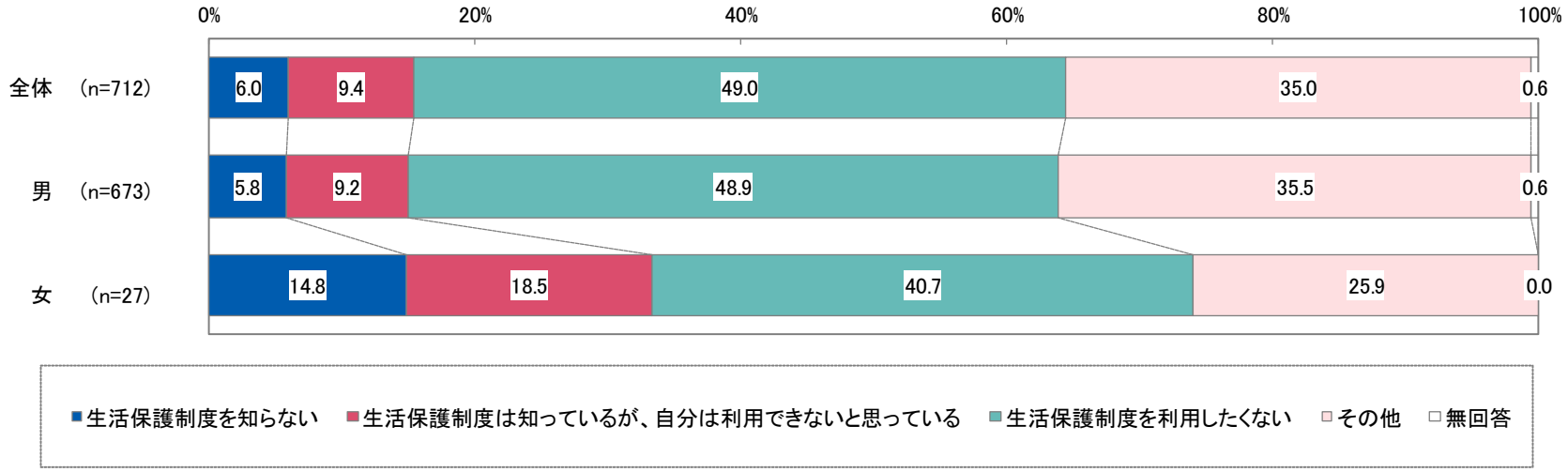
図表25　生活保護制度の利用方法（性別）



問３１－３ 生活保護制度を利用しなかった理由

- 生活保護制度を利用しなかった理由については、「男性」「女性」ともに「生活保護制度を利用したくない」（それぞれ48.9%、40.7%）の割合が高く、「女性」のみでは「生活保護制度は知っているが、自分は利用できないと思っている」（18.5%）、「生活保護制度を知らない」（14.8%）の割合が高い。

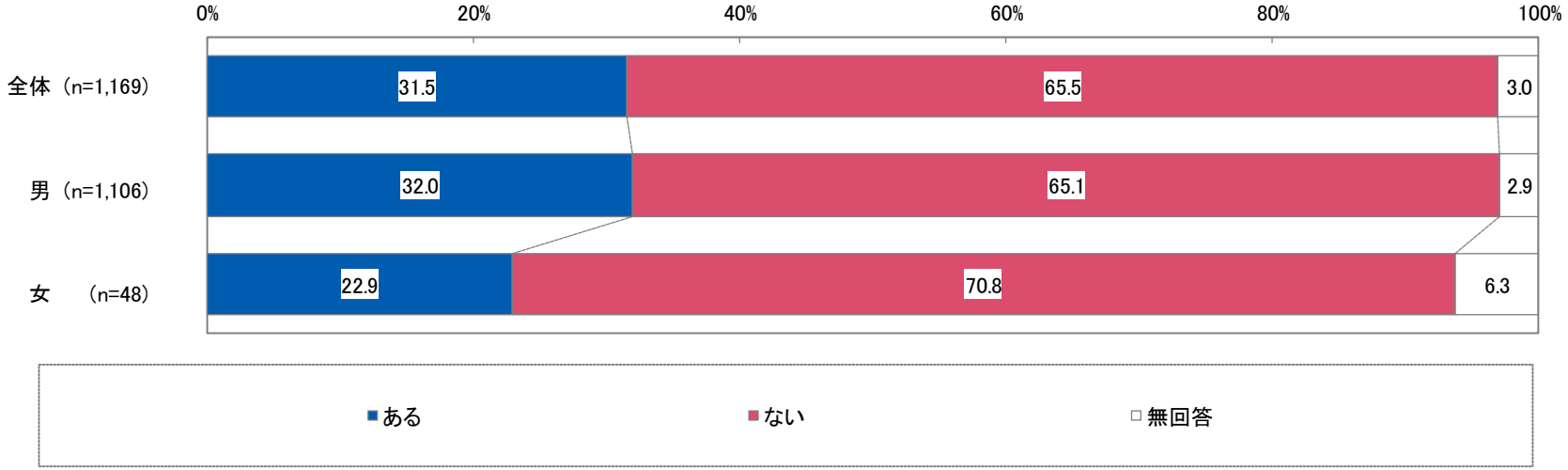
図表26　生活保護制度を利用しなかった理由（性別）



問３２ その他の公的支援の利用

- その他の公的支援の利用経験については、「男性」では「ある」（32.0%）に対し、「女性」では「ある」（22.9%）と割合が低い。

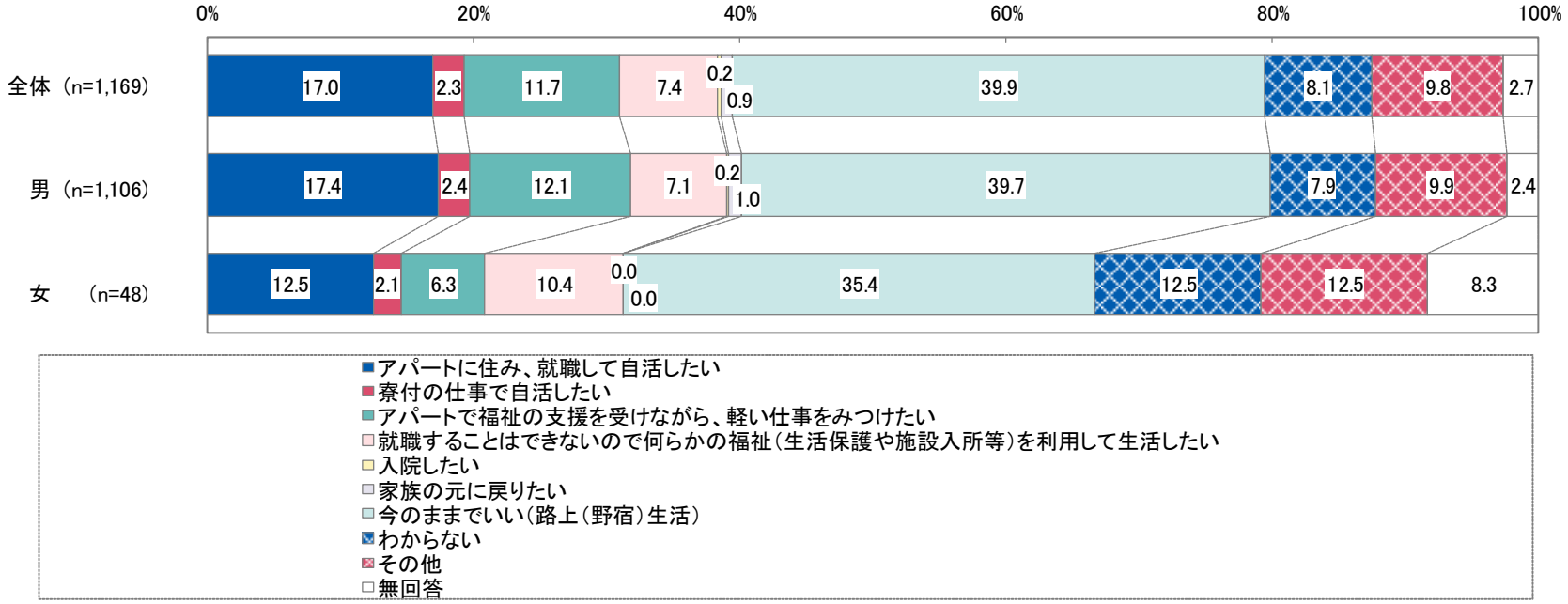
図表27　その他の公的支援の利用（性別）



問３６ 今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、「男性」「女性」ともに「今のままでいい」（男性：39.7%、女性：35.4%）、「アパートに住み、就職して自活したい」（男性：17.4%、女性：12.5%）の割合が高く、「女性」では「就職することはできないので何らかの福祉を利用して生活したい」（男性：7.1%、女性：10.4%）の割合が高い。

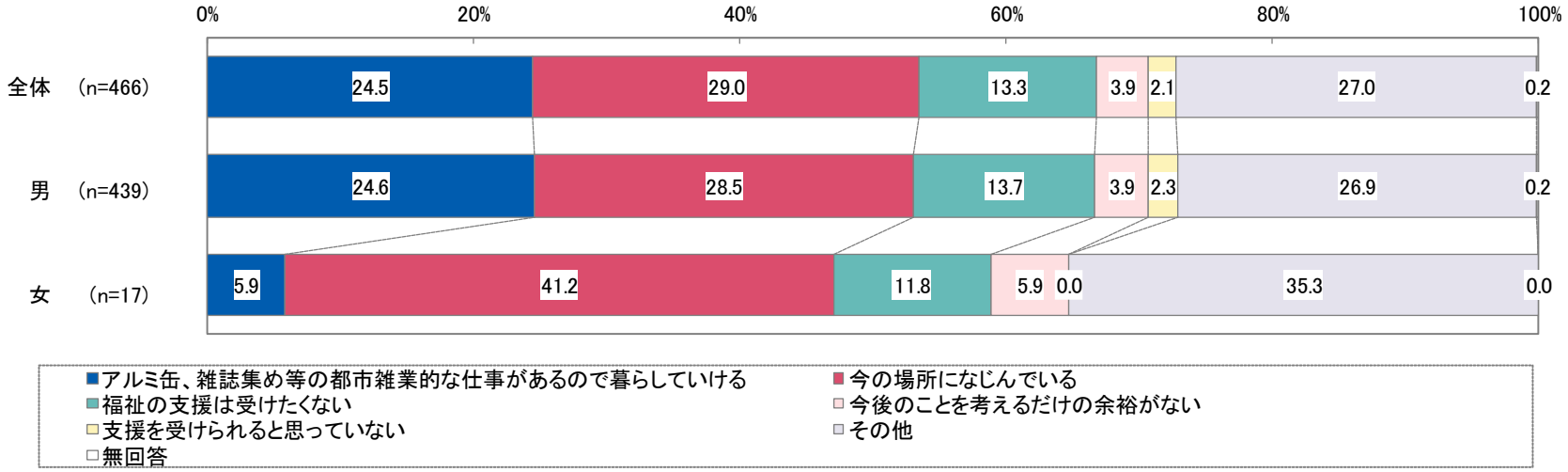
図表２８　今後望んでいる生活（性別）



問３６－１ 今のままでいい理由

- 今の生活のままでいい理由については、「男性」では「都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」（男性：24.6%、女性：5.9%）の割合が高く、「女性」では「今の場所になじんでいる」（男性：28.5%、女性：41.2%）の割合が高い。

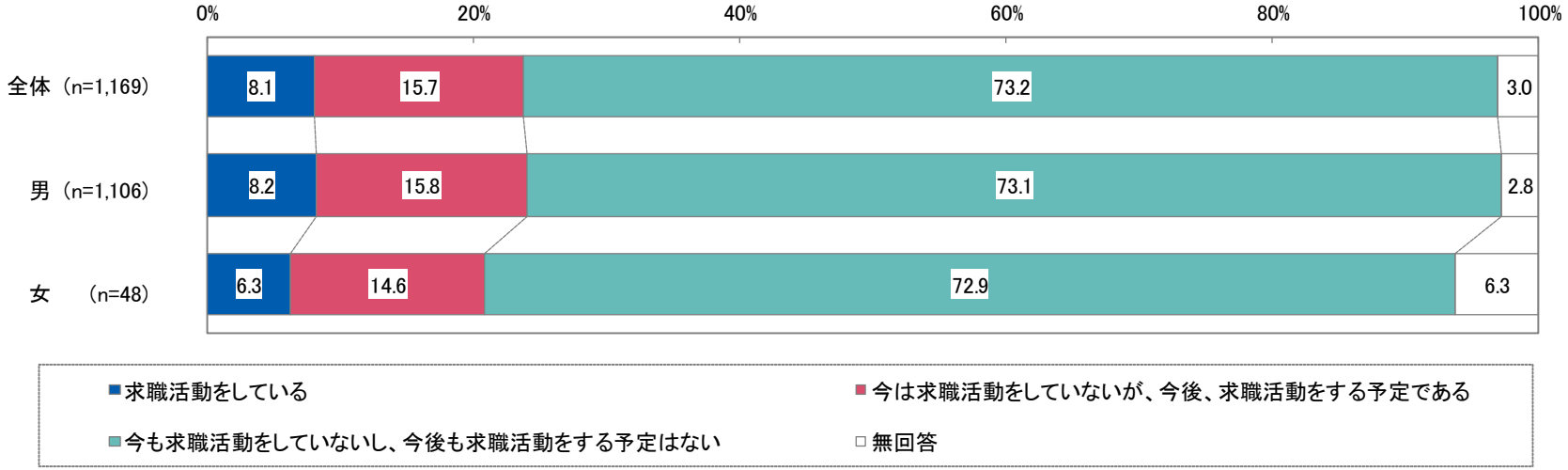
図表29　今のままでいい理由（性別）



問３７ 就職するための求職活動

- 就職するための求職活動の状況については、「男性」「女性」ともに「今も求職活動をしていないし、今後も求職活動をする予定はない」（73.1%、72.9%）の割合が高い。

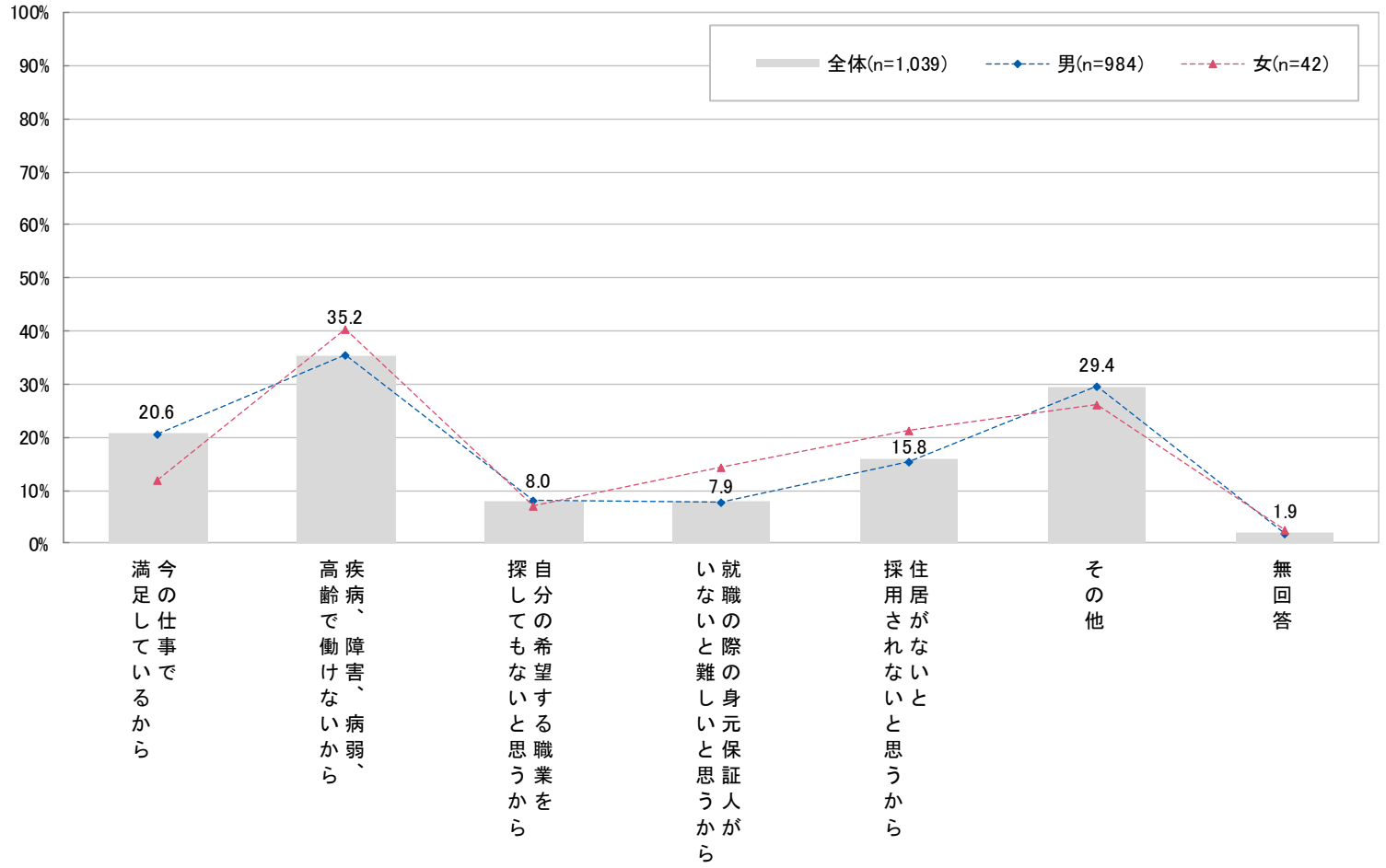
図表30　就職するための求職活動（性別）



問３７－２ 求職活動をしていない理由

- 求職活動をしていない理由については、「男性」では「今の仕事で満足しているから」の割合が高く、「女性」では「疾病、障害、病弱、高齢で働けないから」の割合が高い。

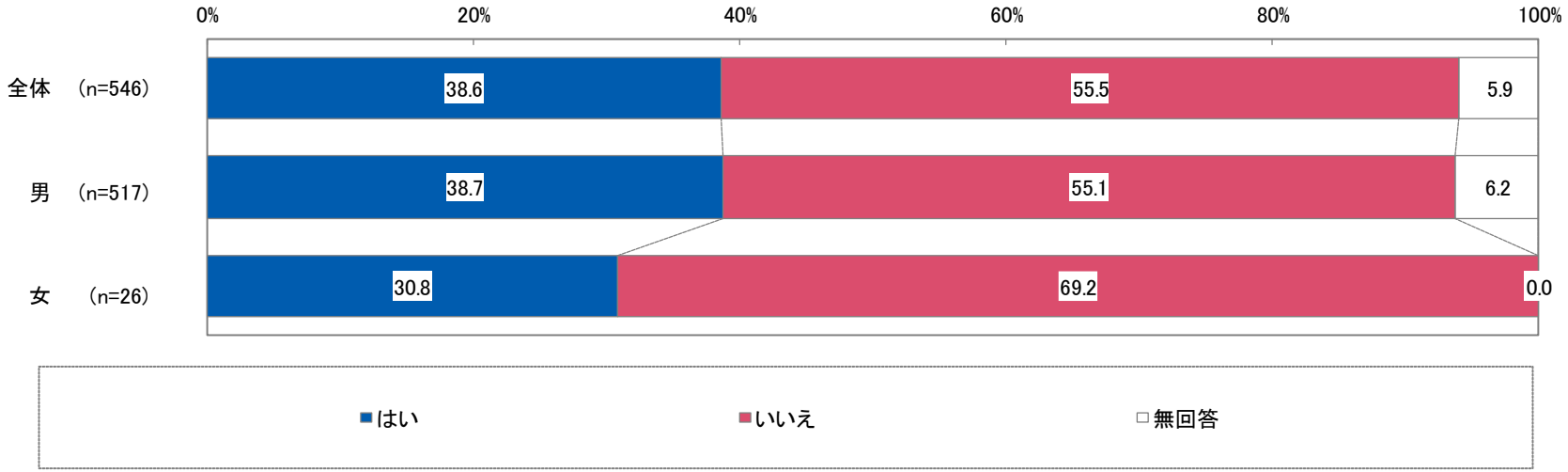
図表31　求職活動をしていない理由（性別）



問３７－３ 軽作業への参加意向

- 軽作業への参加意向の有無については、「はい」の割合が「男性」では38.7%であるのに対し、「女性」では30.8%と低い。

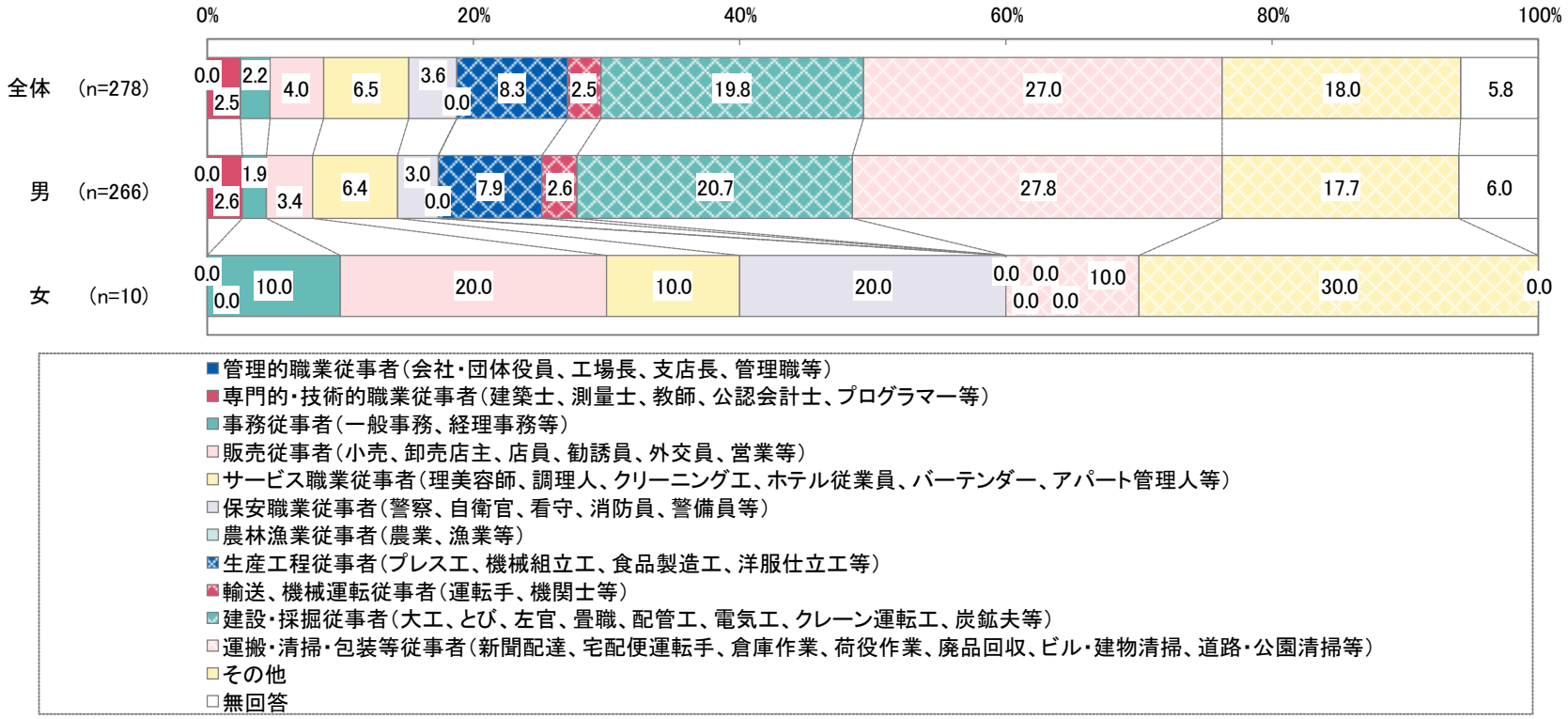
図表32　軽作業への参加意向（性別）



問３７－４ 希望の職業

- 希望の職業については、「男性」では「建設・採掘従事者」（男性：20.7%、女性：0%）、「運搬・清掃・包装等従事者」（男性：27.8%、女性：10.0%）の割合が高く、「女性」では「販売従事者」（男性：3.4%、女性：20.0%）、「保安職業従事者」（男性：3.0%、女性：20.0%）の割合が高い。

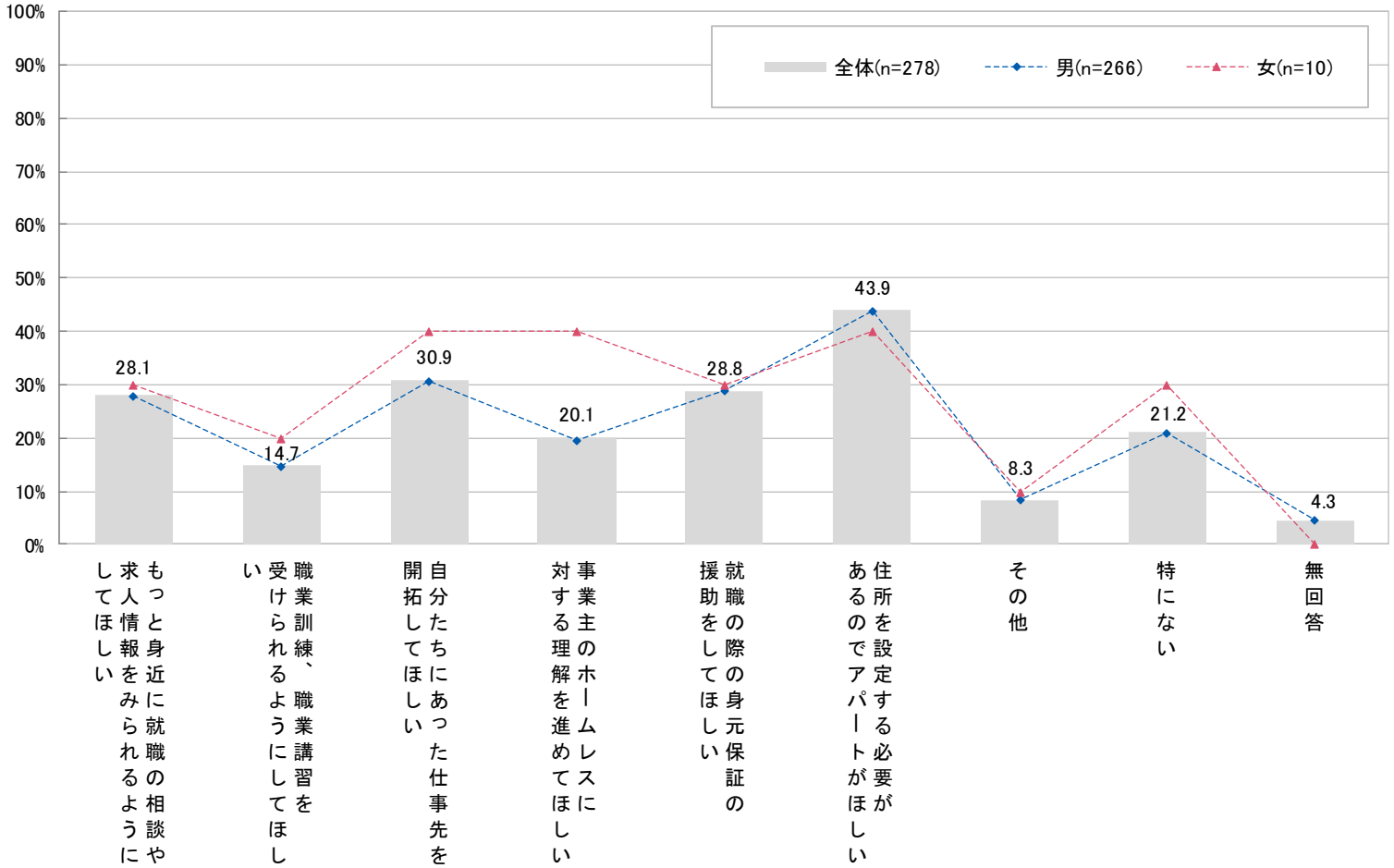
図表33　希望の職業（性別）



問３７－５ 就職するために望む支援

- 就職するために望む支援については、「男性」では「アパートがほしい」の割合が高く、「女性」では「自分たちにあった仕事先を開拓してほしい」、「事業主のホームレスに対する理解を進めてほしい」の割合が高い。

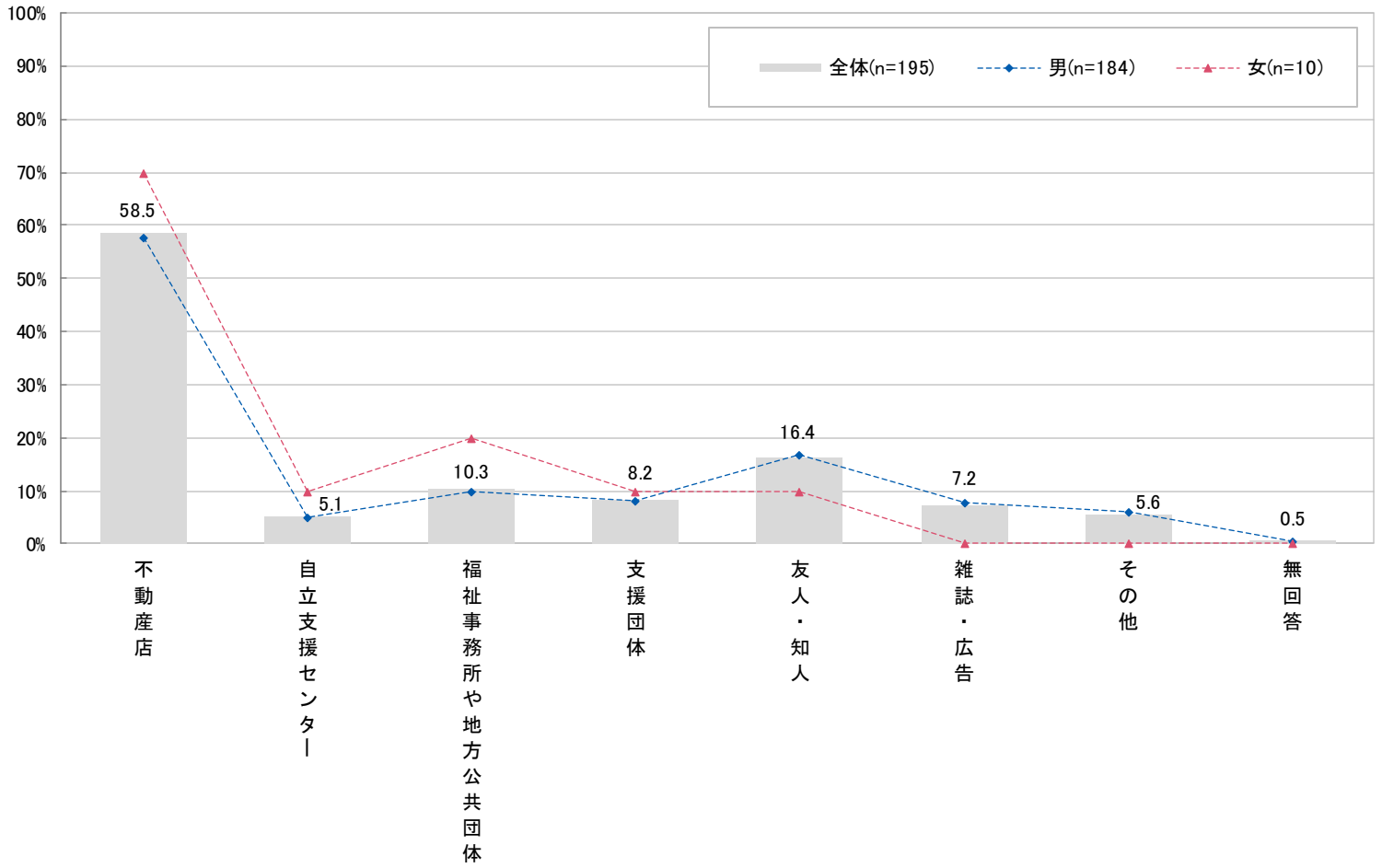
図表34　就職するために臨む支援（性別）



問３９－１ 住宅を探した場所

- 住宅を探した場所については、男女ともに「不動産店」の割合が高いが、「男性」では「友人・知人」の割合が高く、「女性」では「福祉事務所や地方公共団体」、「自立支援センター」の割合が高い。

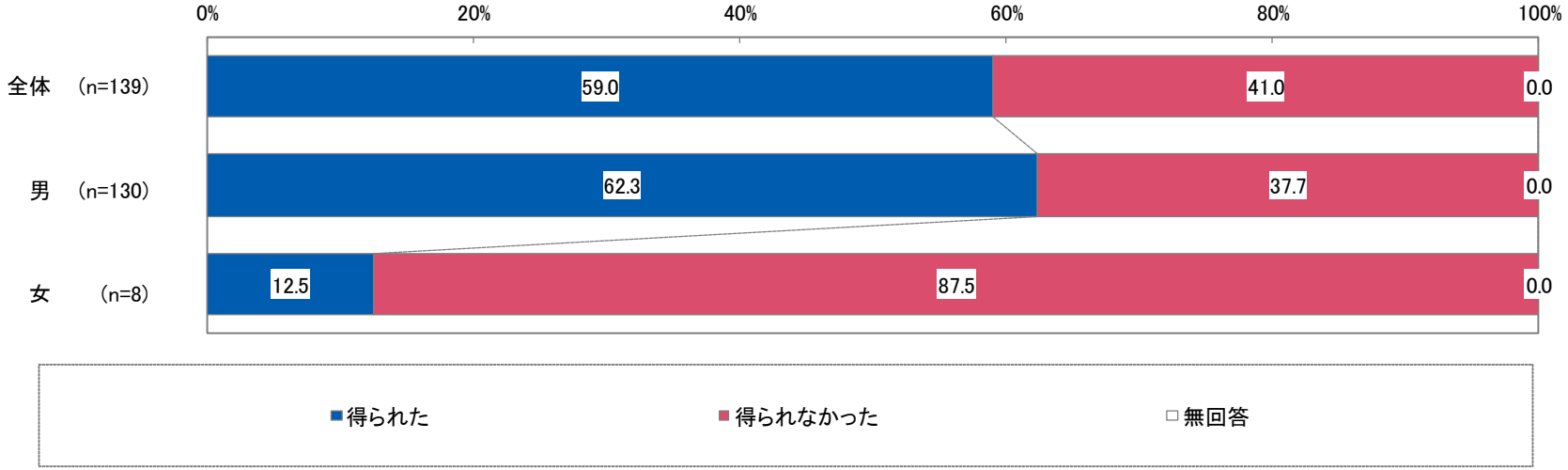
図表35　住宅を探した場所（性別）



問３９－２ 安い家賃の情報

- 安い家賃の情報については、「男性」では「得られた」が62.3%と高く、「女性」では「得られなかった」が87.5%と高い。

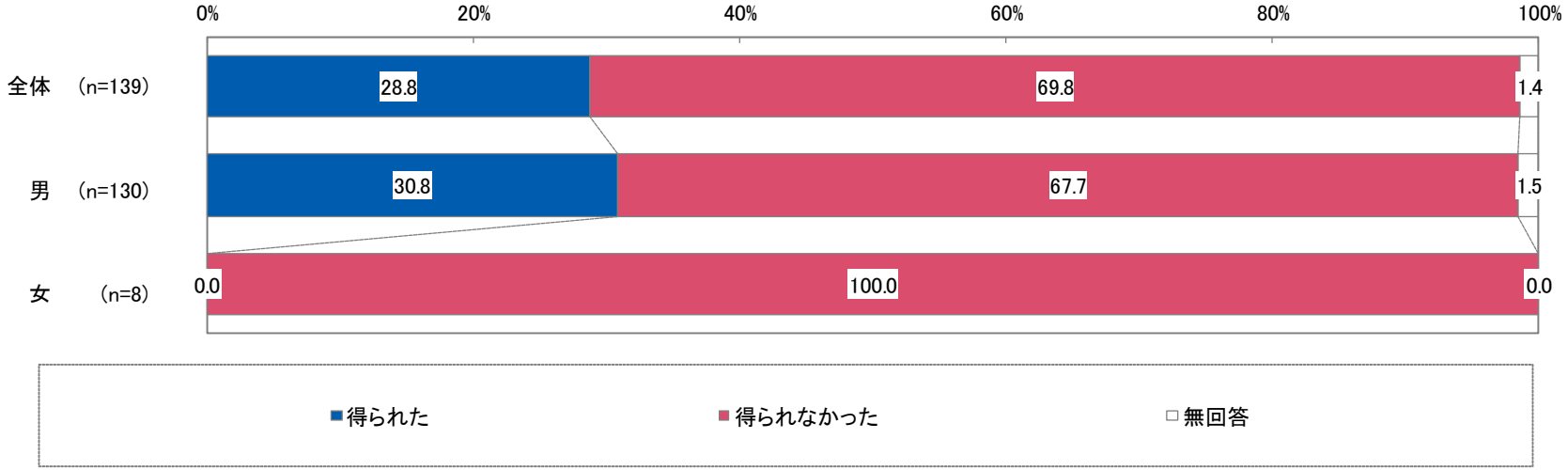
図表36　安い家賃の情報（性別）



問３９－３ 民間保証会社の情報

- 民間保証会社の情報が得られたかについては、「男性」では「得られた」が30.8%と高く、「女性」では「得られなかった」が100.0%となっている。

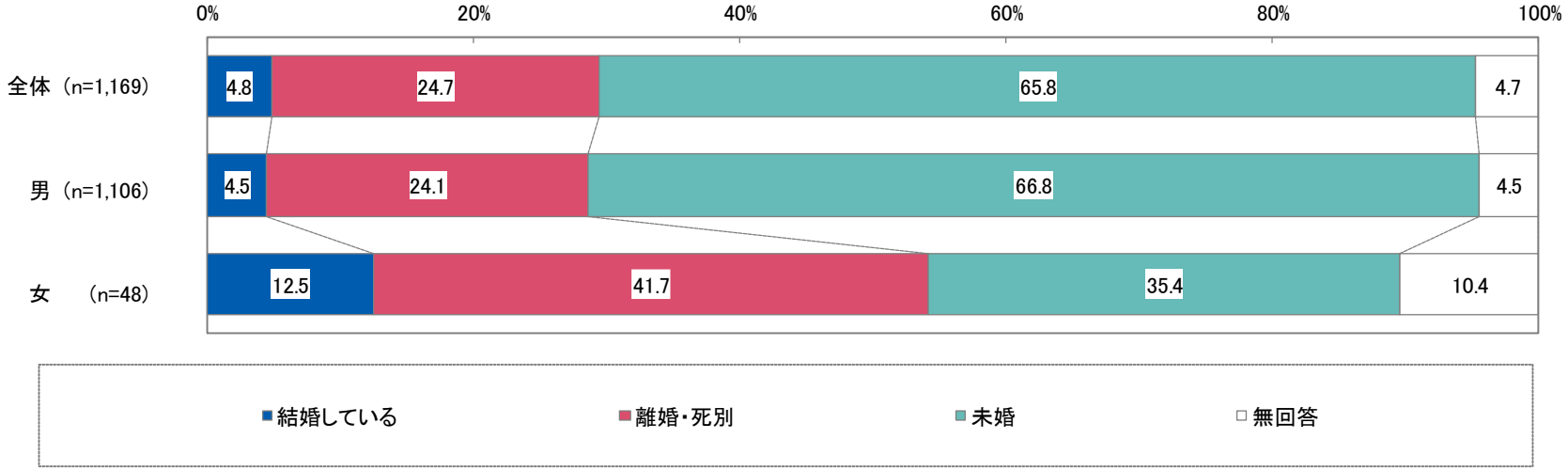
図表37　民間保証会社の情報（性別）



問４１ 結婚の状況

- 結婚については、「女性」では「結婚している」（男性：4.5%、女性：12.5%）、「離婚・死別」（男性：24.1%、女性：41.7%）の割合が高い。

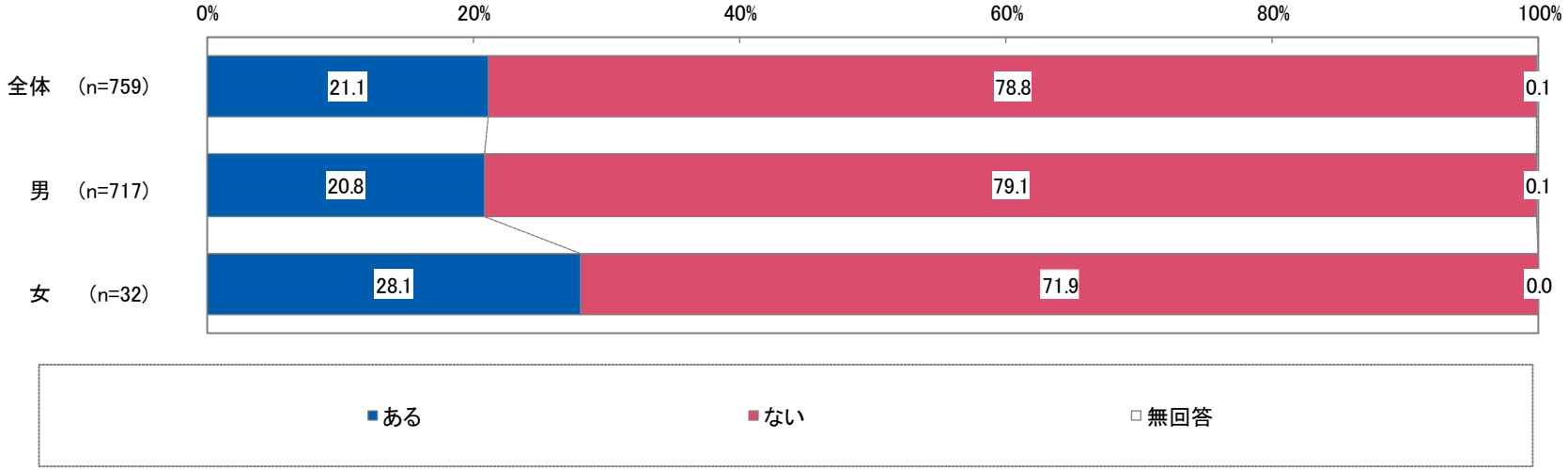
図表38　結婚の状況（性別）



問４２－１ 家族・親族との連絡

- 家族・親族との連絡については、「女性」では「ある」が28.1%と高く、「男性」では「ない」が79.1%と割合が高い。

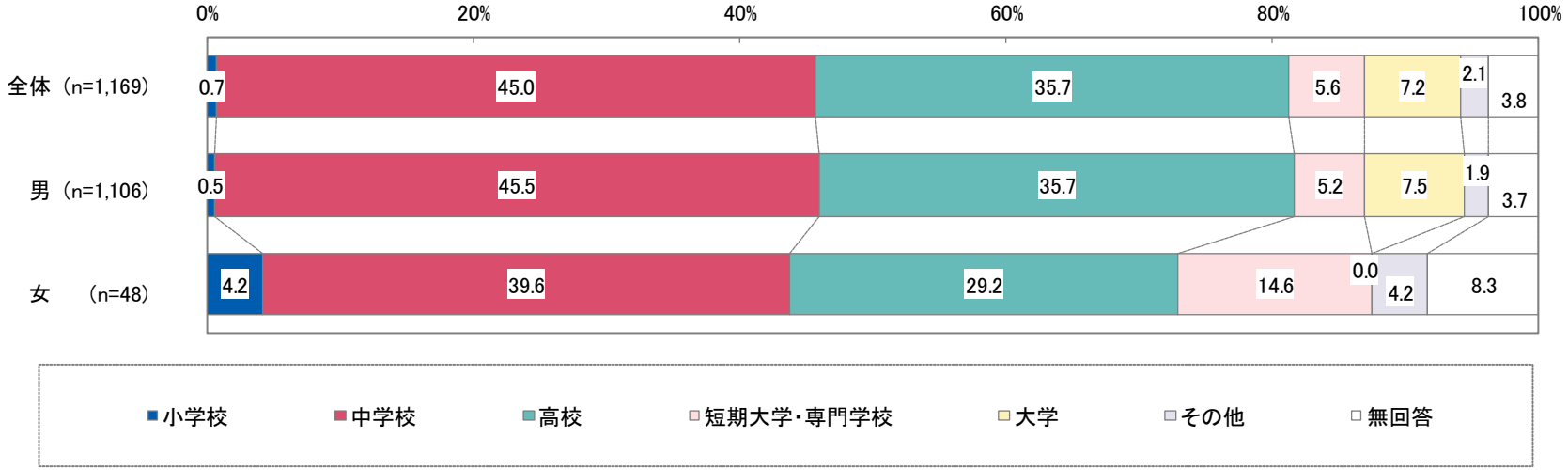
図表39　家族・親族との連絡（性別）



問４５ 最後に出た学校

- 最後に出た学校については、男女ともに「中学校」及び「高校」の割合が高いが、「女性」では「短期大学・専門学校」（男性：5.2%、女性：14.6%）の割合が高い。

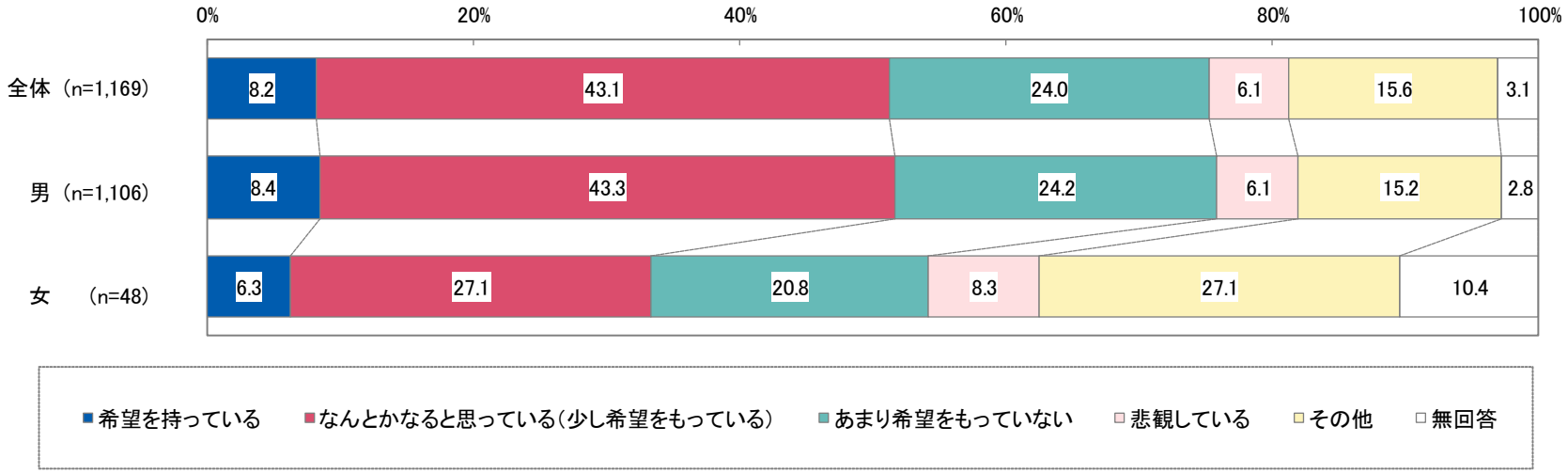
図表40　最後に出た学校（性別）



問４７ 現在の気持ち

- 現在の気持ちについては、 「男性」は、「希望を持っている」 （男性：8.4%、女性：6.3%）、「なんとかなると思っている（少し希望を持っている） 」 （男性：43.3%、女性：27.1%） が高く、「女性」は、「悲観している」 （男性：6.1%、女性：8.3%） が高い。

図表４１　現在の気持ち（性別）



2

年齢階層別

年齢階層別の傾向について

路上での生活

- 具体的な寝場所では、年齢階層が上がるほど一定の場所で決まっている割合が高くなり、具体的な場所では、年齢が上がるとともに河川の割合が高くなっている。
- 寝場所をつくる方法では、年齢階層が上がるほど、テントやダンボール、あるいは簡易な敷物などで寝場所をつくる割合が高くなる一方、年齢階層が下がるほど、寝場所をつくらない割合が高い。
- 仕事では、24歳以下及び30～39歳では仕事により収入を得ている割合が低い。仕事以外の収入では、75歳以上が仕事以外の収入があると回答している割合が高い。
- 現在、困ったときに相談できる相手がいるかでは、40～44歳、65～69歳、80歳以上が他の年齢層に比べて、相談できる相手がいる割合が高い。

路上生活までのいきさつ

- 路上生活に至った理由では、全年齢階層で仕事関係による割合が高いが、44歳以下では家族との離別・死別、家庭関係の悪化の割合がやや高い。

年齢階層別の傾向について

福祉制度の周知・利用状況

- シェルターや自立支援センターの周知度・利用度では、30歳以上では年齢階層が下がれば下がるほど、周知度・利用度ともに高くなる傾向がある。
- シェルター・自立支援センターの利用意向では、年齢階層が下がるほど、利用意向が高い。

今後の生活

- 今後望んでいる生活は、年齢階層が下がるほどアパートや寮といった住居と仕事を確保して自活を希望する割合が高く、年齢階層が上がるほど福祉を利用しながらの生活を希望する又は現在の路上生活を維持することを希望する割合が高い。

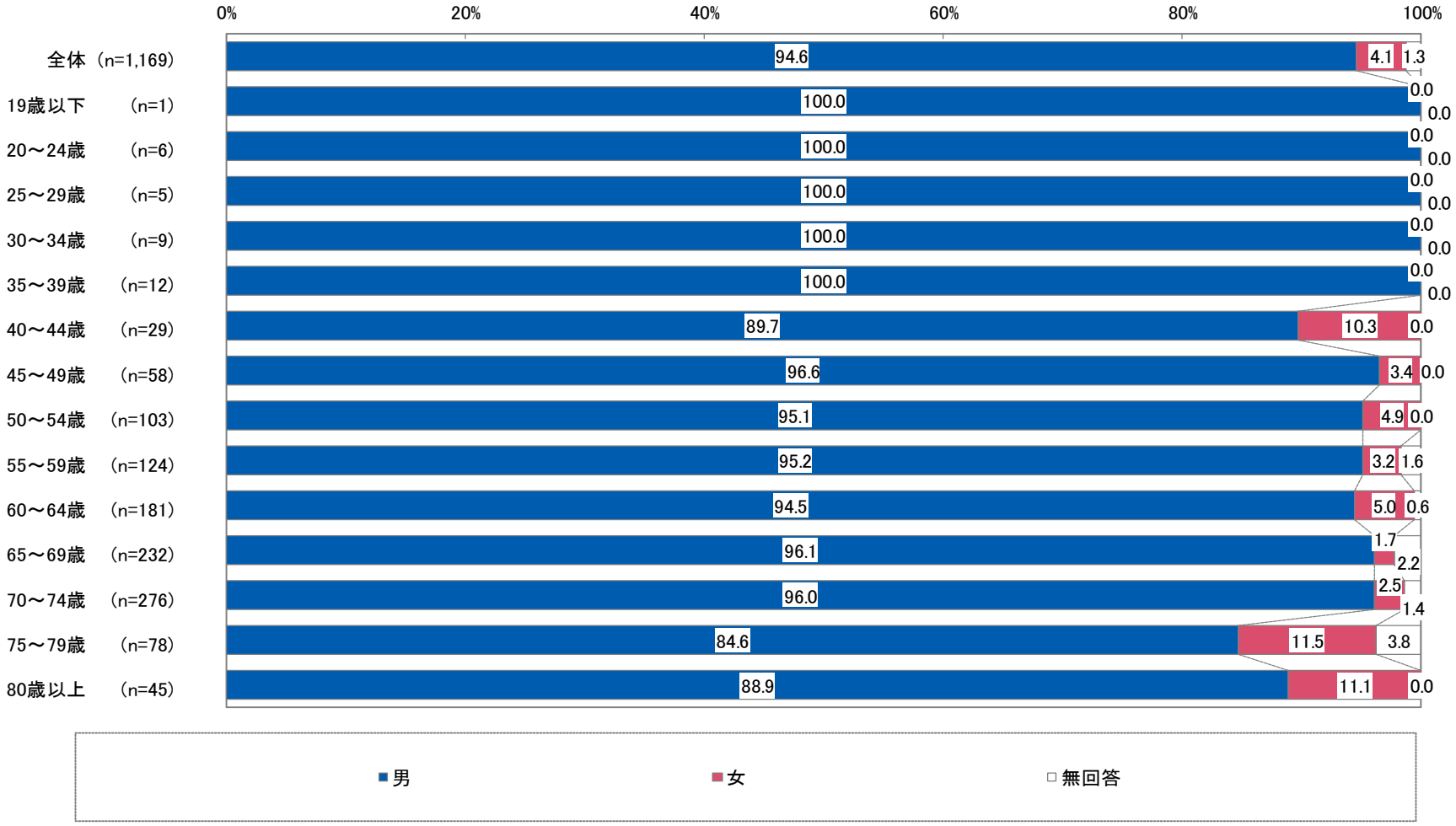
現在の気持ち

- 現在の気持ちでは、年齢階層が下がるほど希望を持っている割合が高い。44歳以下では45歳以上よりも悲観している割合が高い。

性別

- 性別については、どの年代でも「男性」の割合が高い。「７５～７９歳」では「女性」の割合が11.5%と高い。

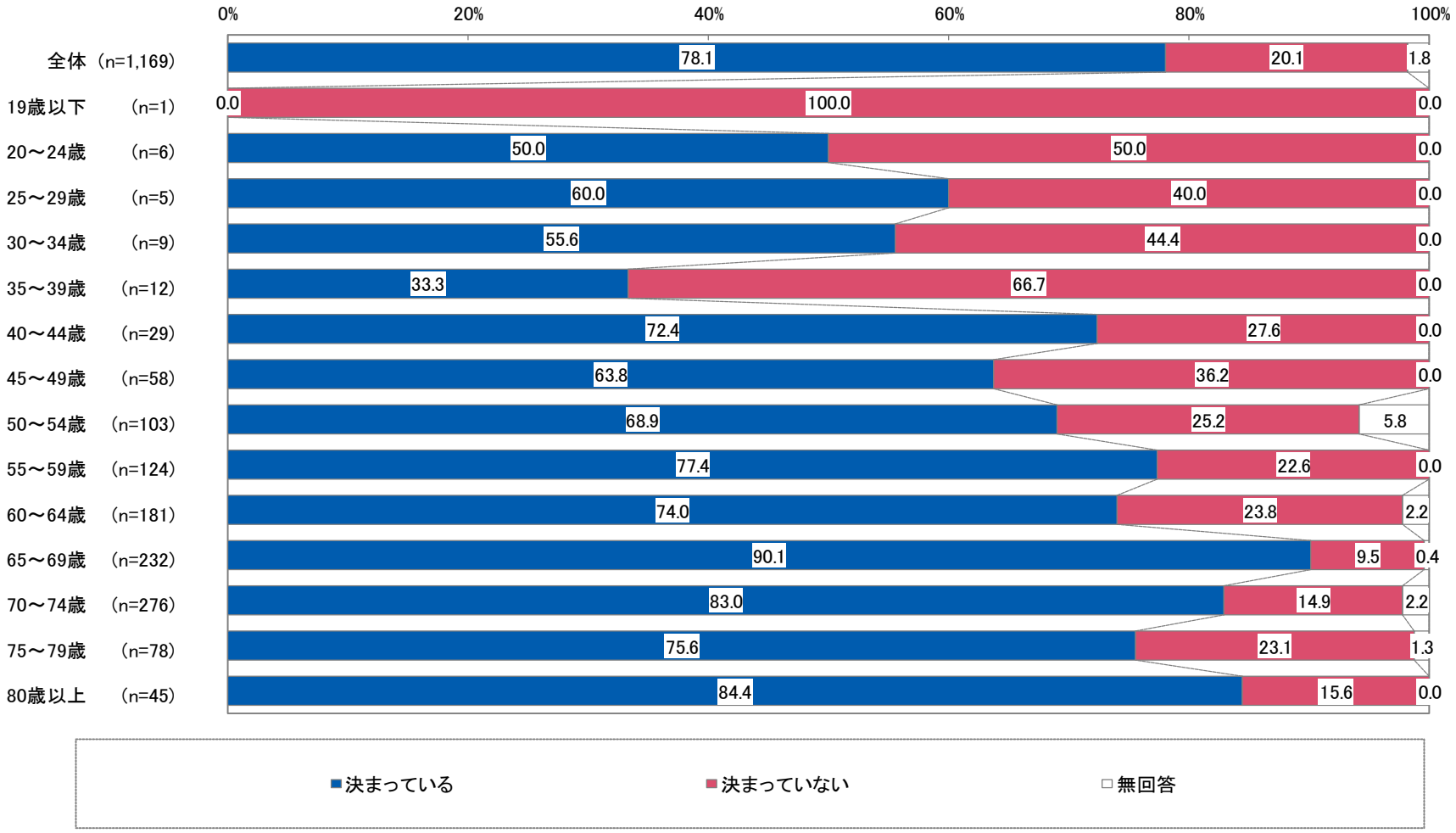
図表42　性別（年齢階層別）



問１　寝ている場所

- 寝ている場所については、「３５～３９歳以下」の者では「決まっていない」の割合が高く、その他の年代については「決まっている」の割合が高い。

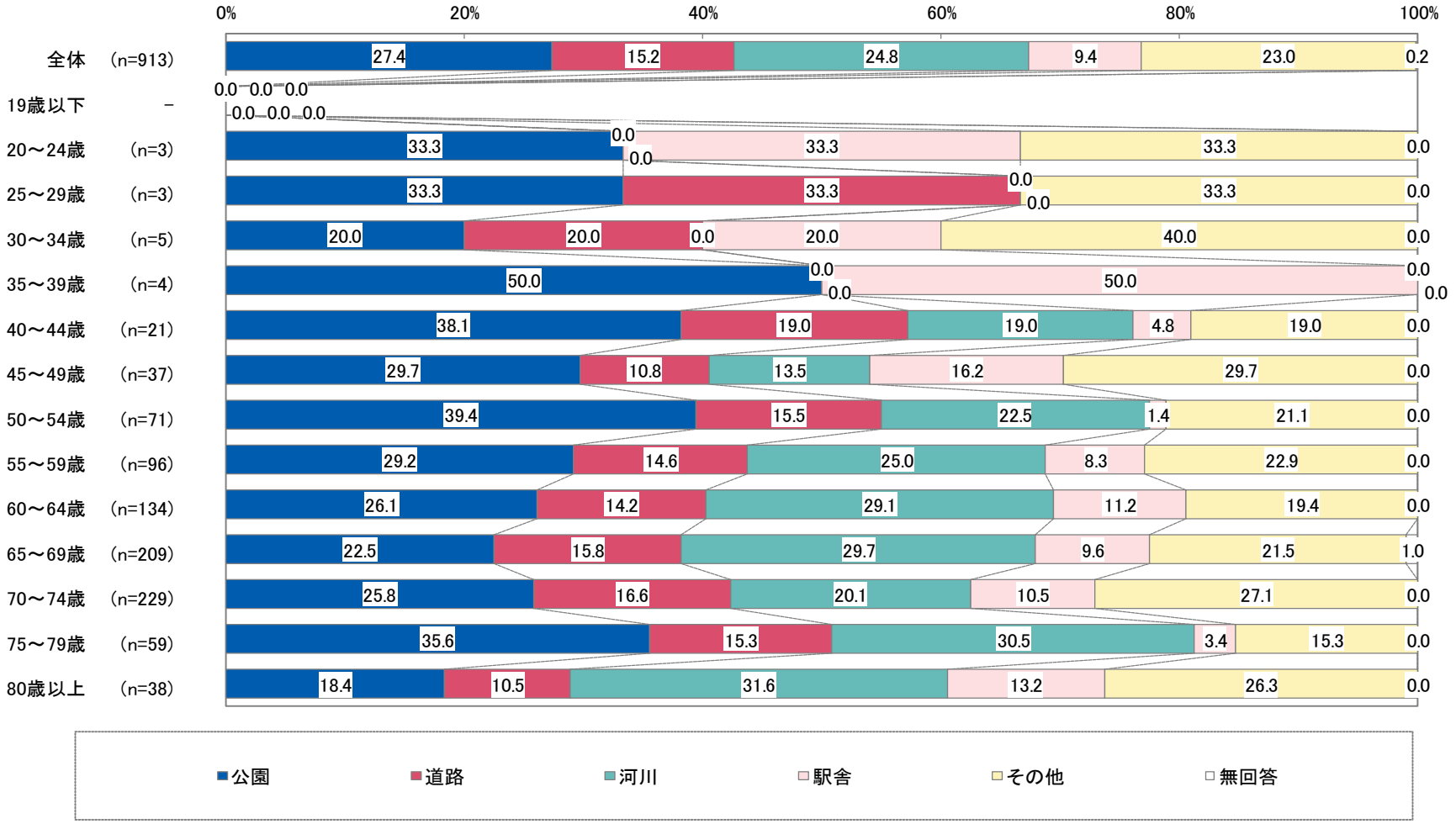
図表43　寝ている場所（年齢階層別）



問１－１ 寝ている場所（具体的に）

- 寝ている場所については、「３５～５９歳以下」の者では「公園」の割合が高く、「８０歳以上」の者では「河川」の割合が高い。

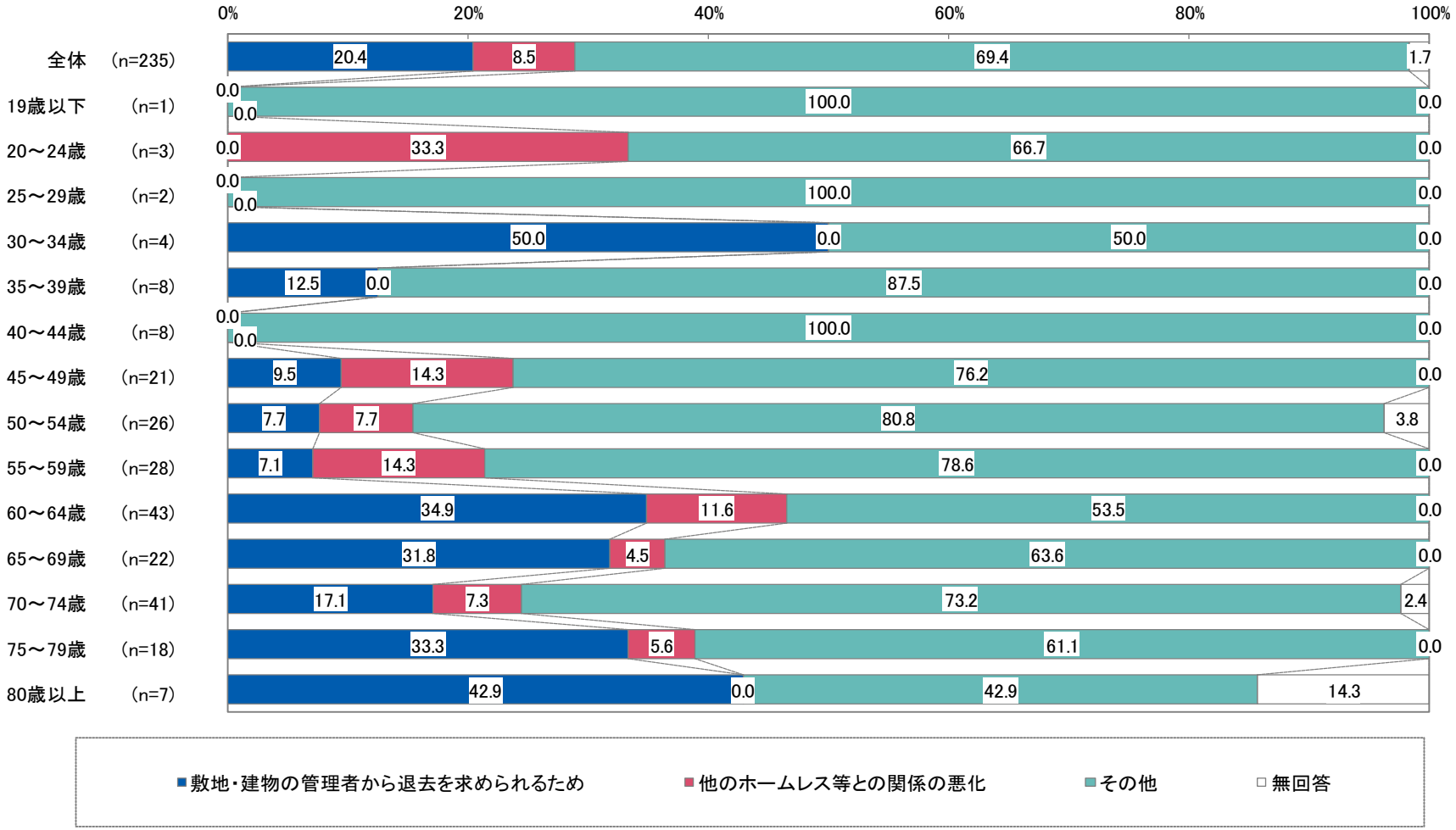
図表44　寝ている場所（具体的に）（年齢階層別）



問１－２ 寝ている場所を変更する理由

- 寝ている場所を変更する理由については、「３０～３４歳以下」の者では「敷地・建物の管理者から退去を求められるため」（全体：20.4%、３０～３４歳以下：50.0%）の割合が高く、「２０～２４歳以下」「４5～４９歳以下」「５５～５９歳以下」の者では「ほかのホームレスとの関係悪化」（全体：8.5%、２０～２４歳以下：33.3%、４5～４９歳以下：14.3%、５５～５９歳以下：14.3%）と割合が高くなっている。

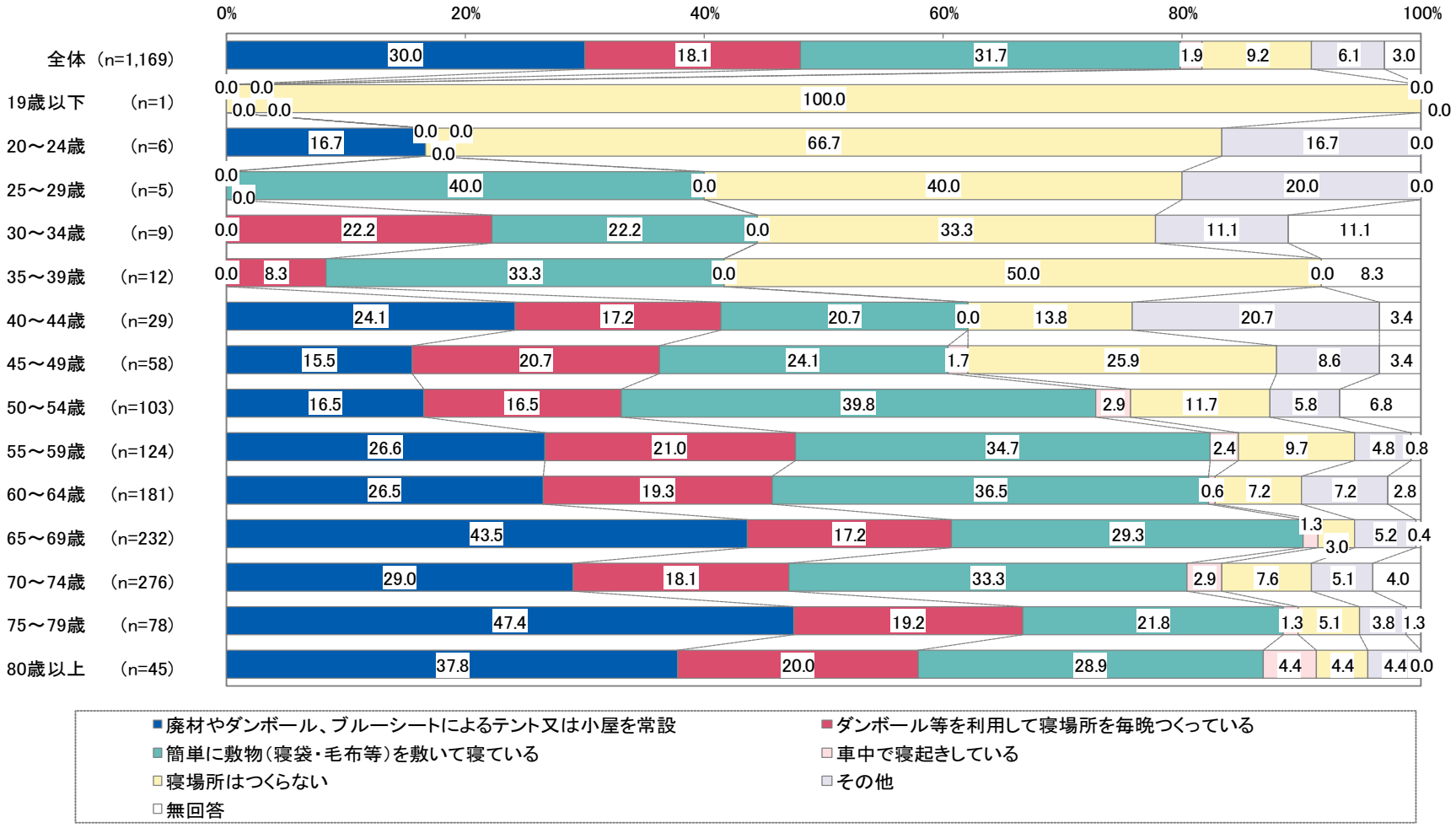
図表45　寝ている場所を変更する理由（年齢階層別）



問２ 寝場所を作る方法

- 寝ている場所を作る方法については、「６５～６９歳以下」の者では「廃材やダンボール、ブルーシートによるテント又は小屋を常設」（全体：30.0%、６５～６９歳以下：43.5%）の割合が高い。

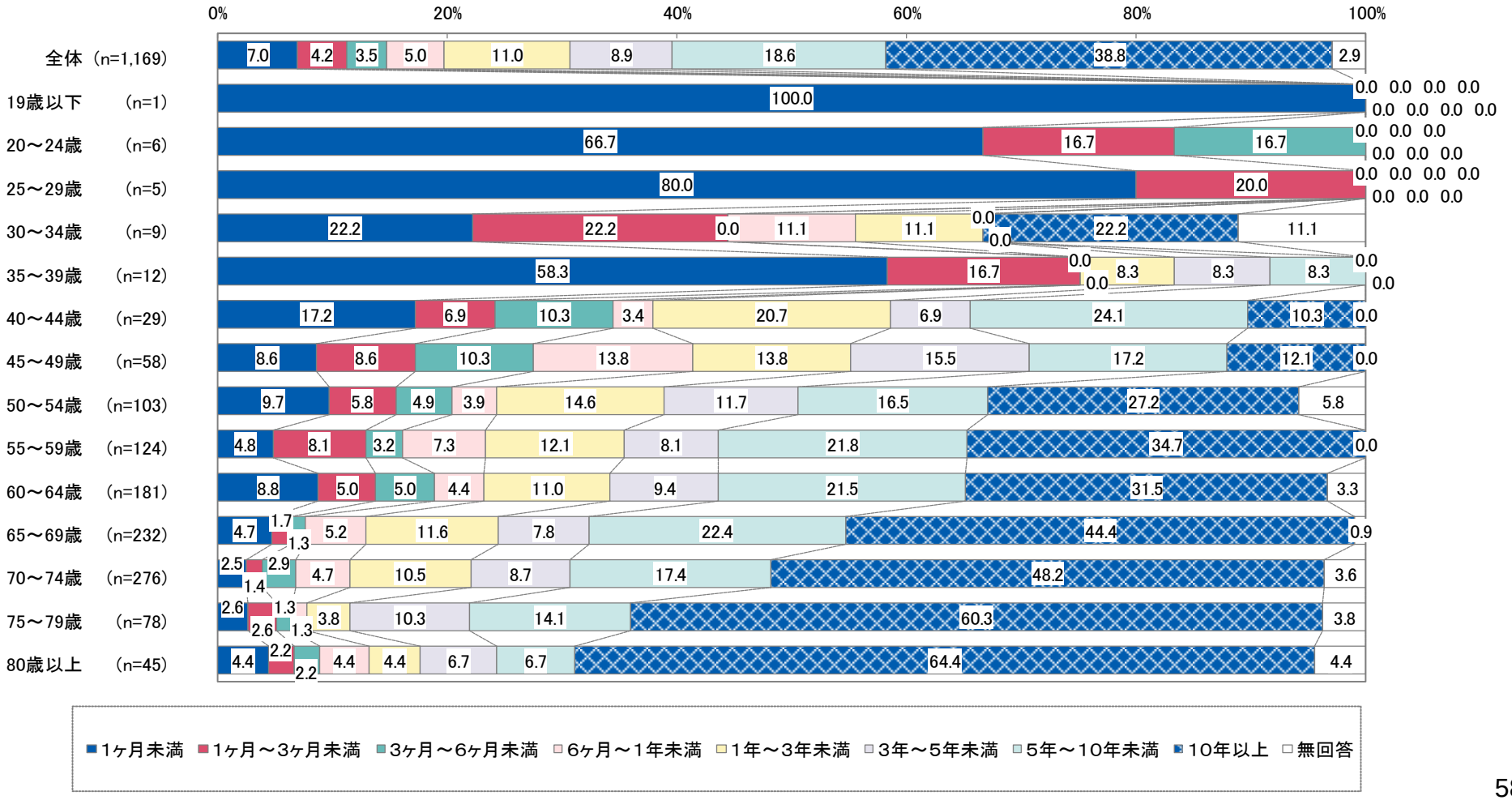
図表46　寝場所を作る方法（年齢階層別）



問３ 今回の路上生活の期間

- 今回の路上生活の期間について、「５０歳～５４歳以下」から「８０歳以上」は「１０年以上」の割合が高い。

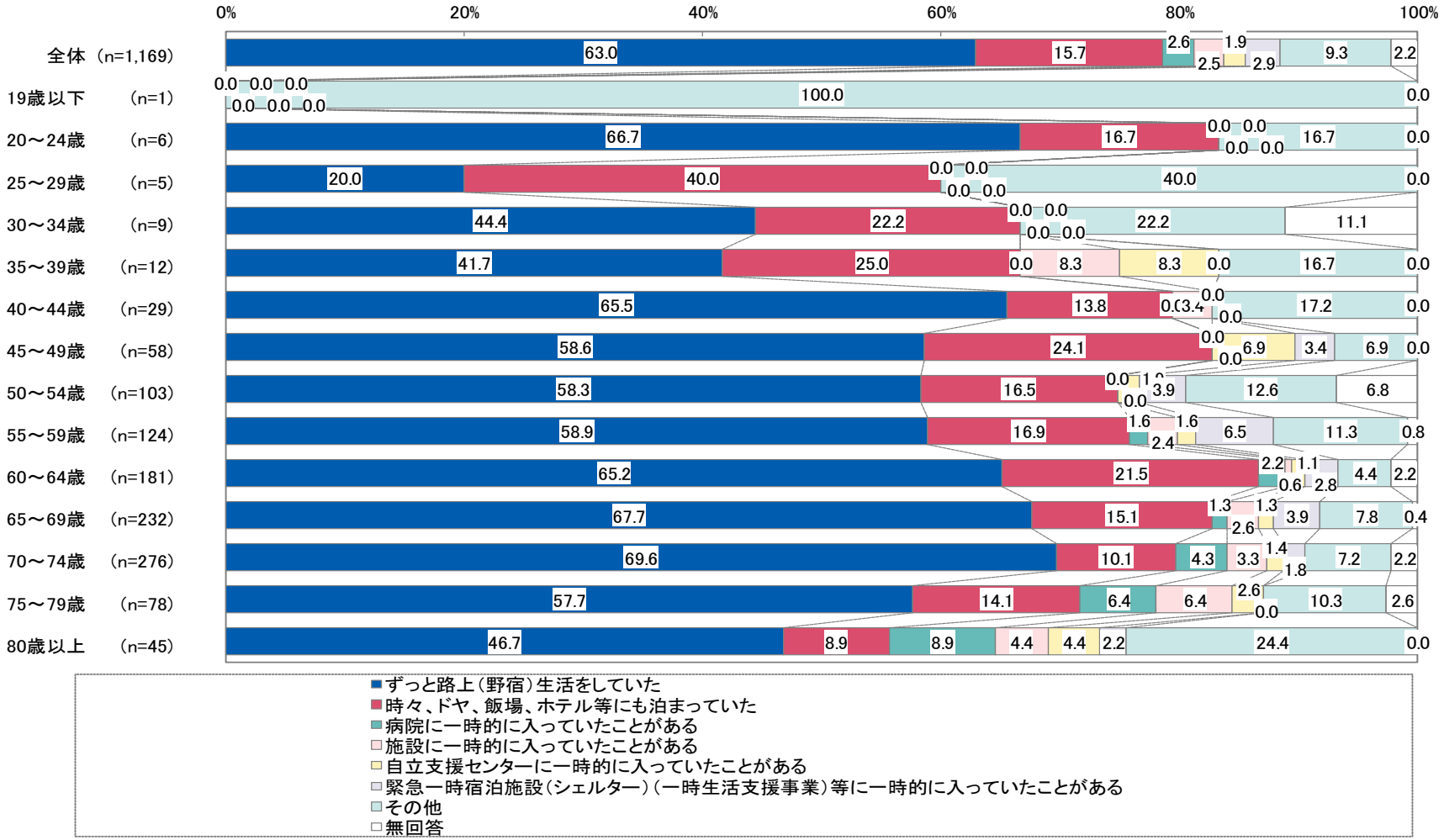
図表47　今回の路上生活の期間（年齢階層別）



問４ 今回の路上生活の継続について

- 今回の路上生活の継続については、「７０～７４歳以下」の者では「ずっと路上生活をしていた」（全体：63.0%、７０～７４歳以下：69.6%）の割合が高い。

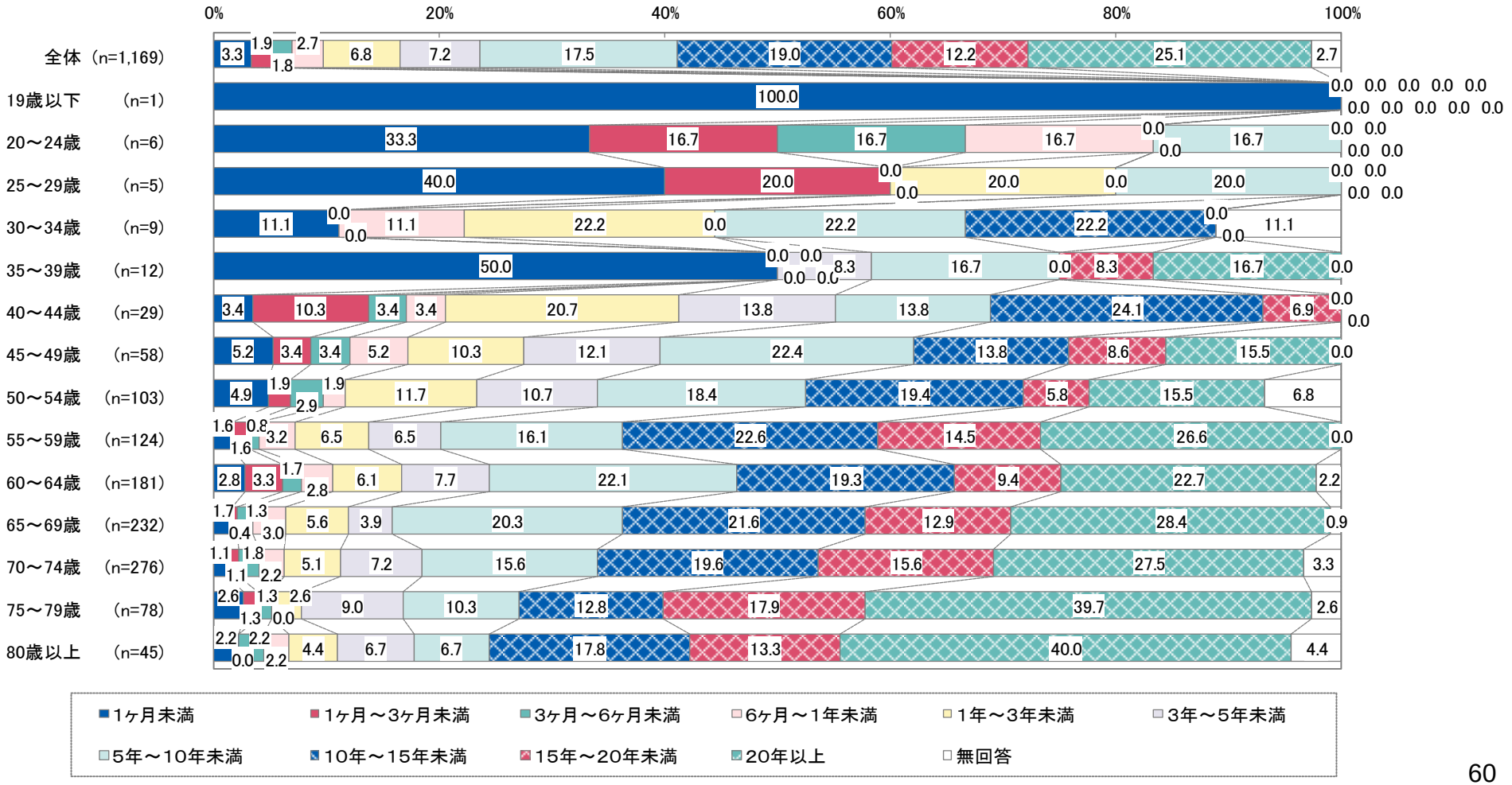
図表48　今回の路上生活の継続について（年齢階層別）



問５ 初めて路上生活をしてからの期間

- 初めて路上生活をしてからの期間について、「５５歳～５９歳」から「８０歳以上」は「１０年以上」の割合が高い。

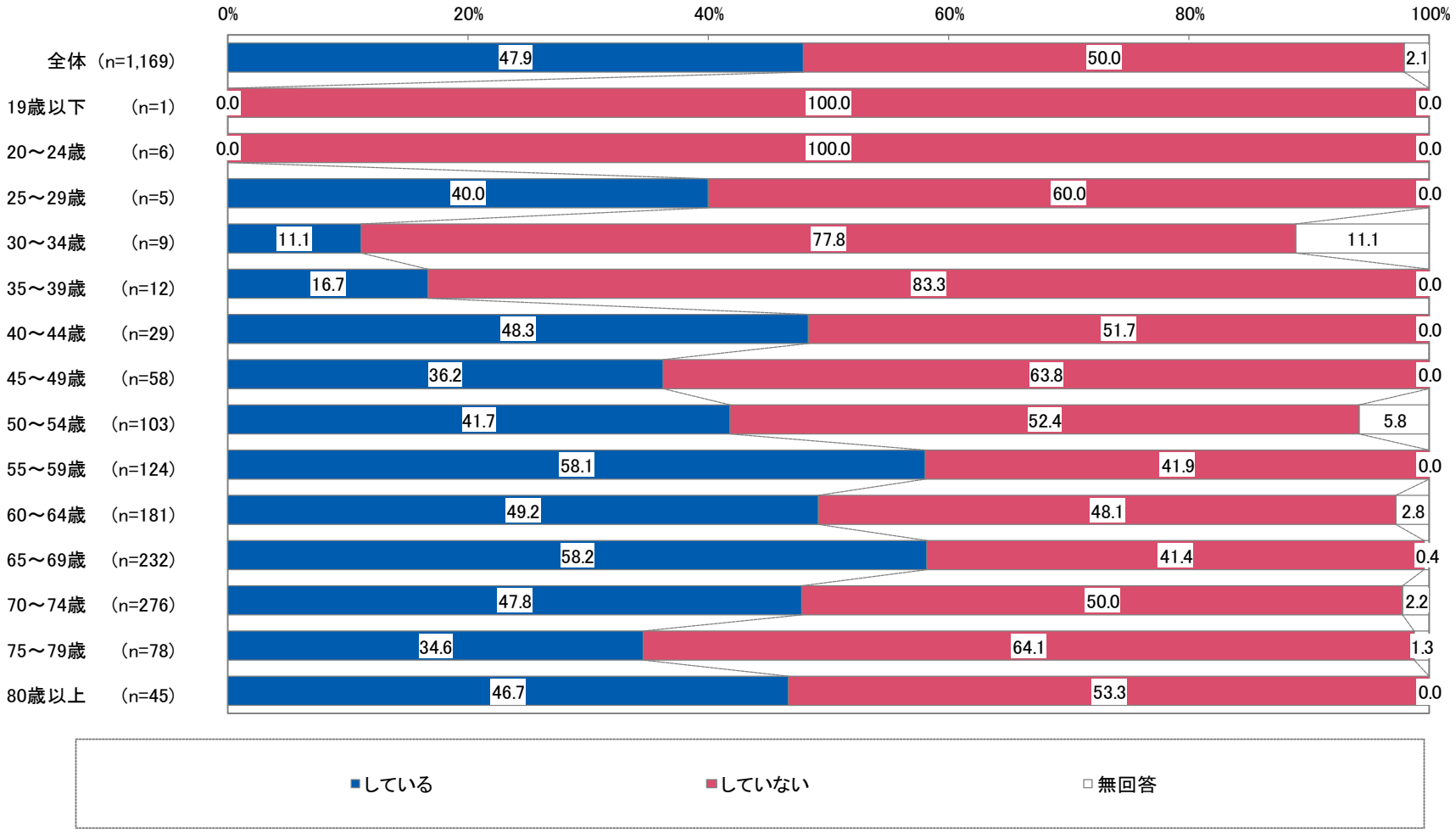
図表49　初めて路上生活をしてからの期間（年齢階層別）



問６ 現在収入のある仕事

- 現在収入のある仕事については、「５５～５９歳以下」「６５～６９歳以下」の者では「している」（全体：47.9%、５５～５９歳以下：58.1%、６５～６９歳以下：58.2%）の割合が高い。

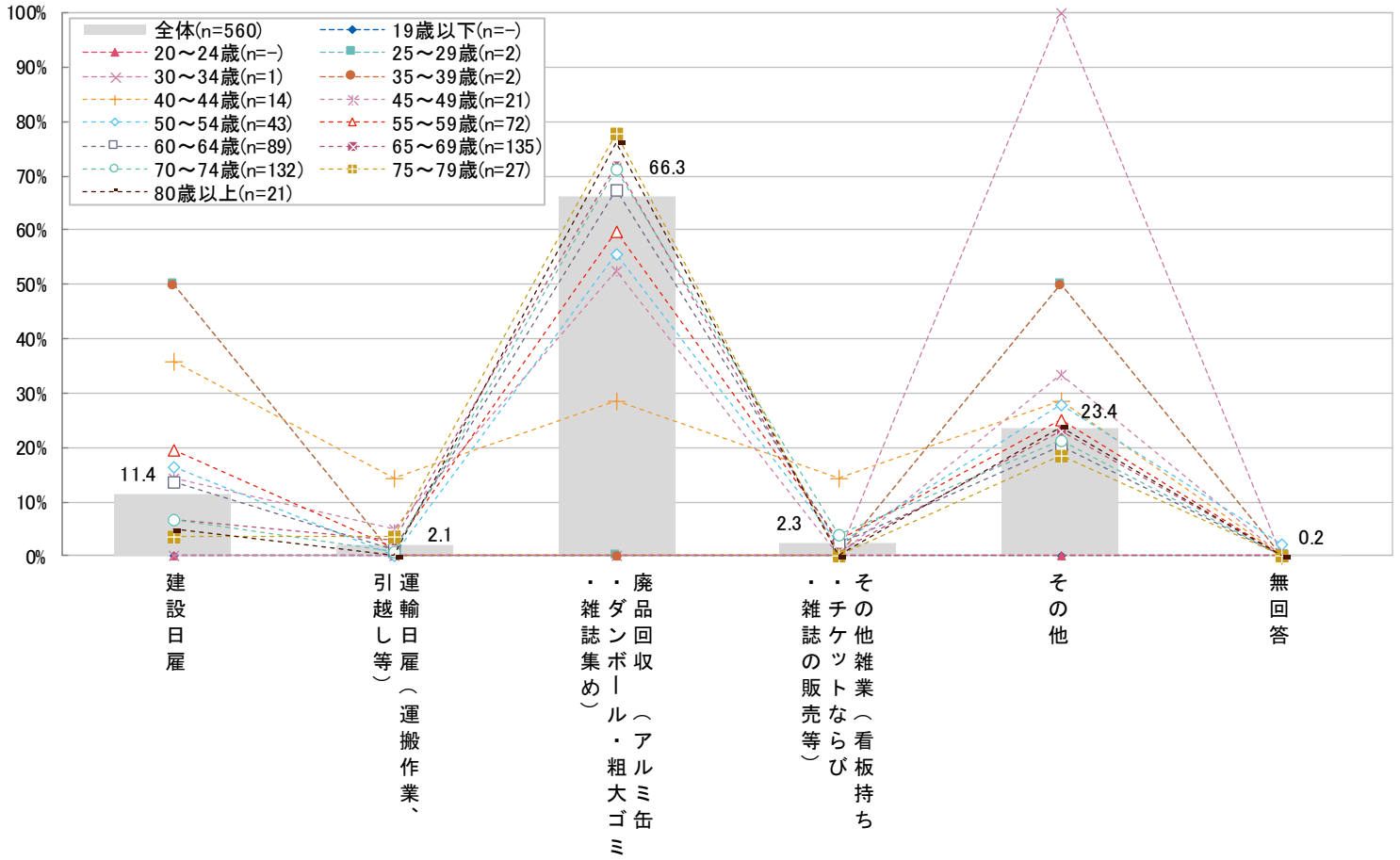
図表50　現在収入のある仕事（年齢階層別）



問６－１ 仕事（具体的に）

- 仕事については、いずれの年代でも「廃品回収」の割合が高い。

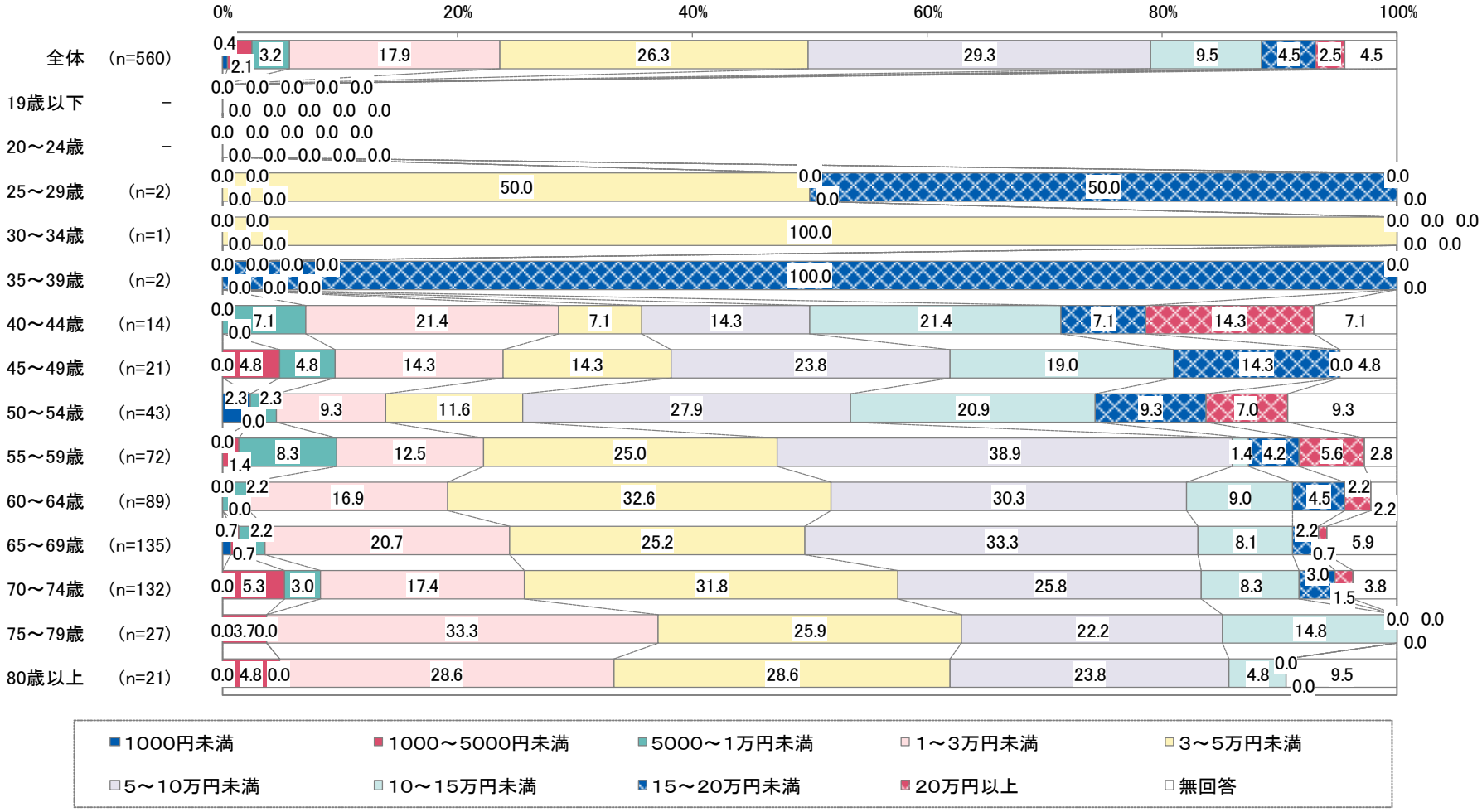
図表51　仕事（具体的に）（年齢階層別）



問６－２ 仕事による平均収入

- 仕事による平均収入については、「６０～６４歳以下」 「７0～７4歳以下」の者では「３～５万円未満」の割合が高く、「６５～６９歳以下」の者では「５～１０万円未満」の割合が高い。

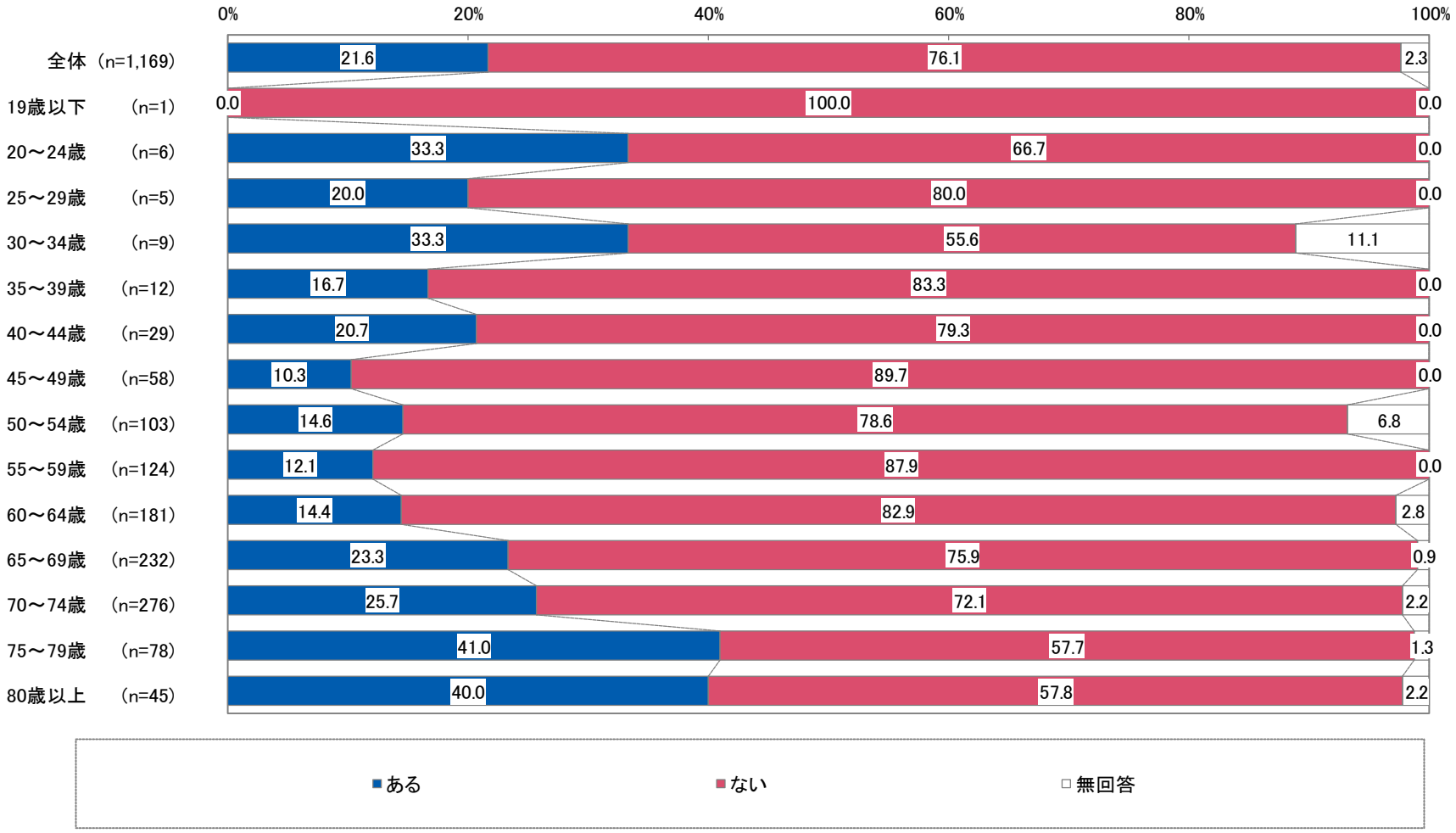
図表52　仕事による平均収入（年齢階層別）



問７ 仕事以外の収入

- 仕事以外の収入については、「２０～２４歳以下」「３０～３４歳以下」及び「７５～７９歳以下」「８０歳以上」の者では「ある」の割合が高い。

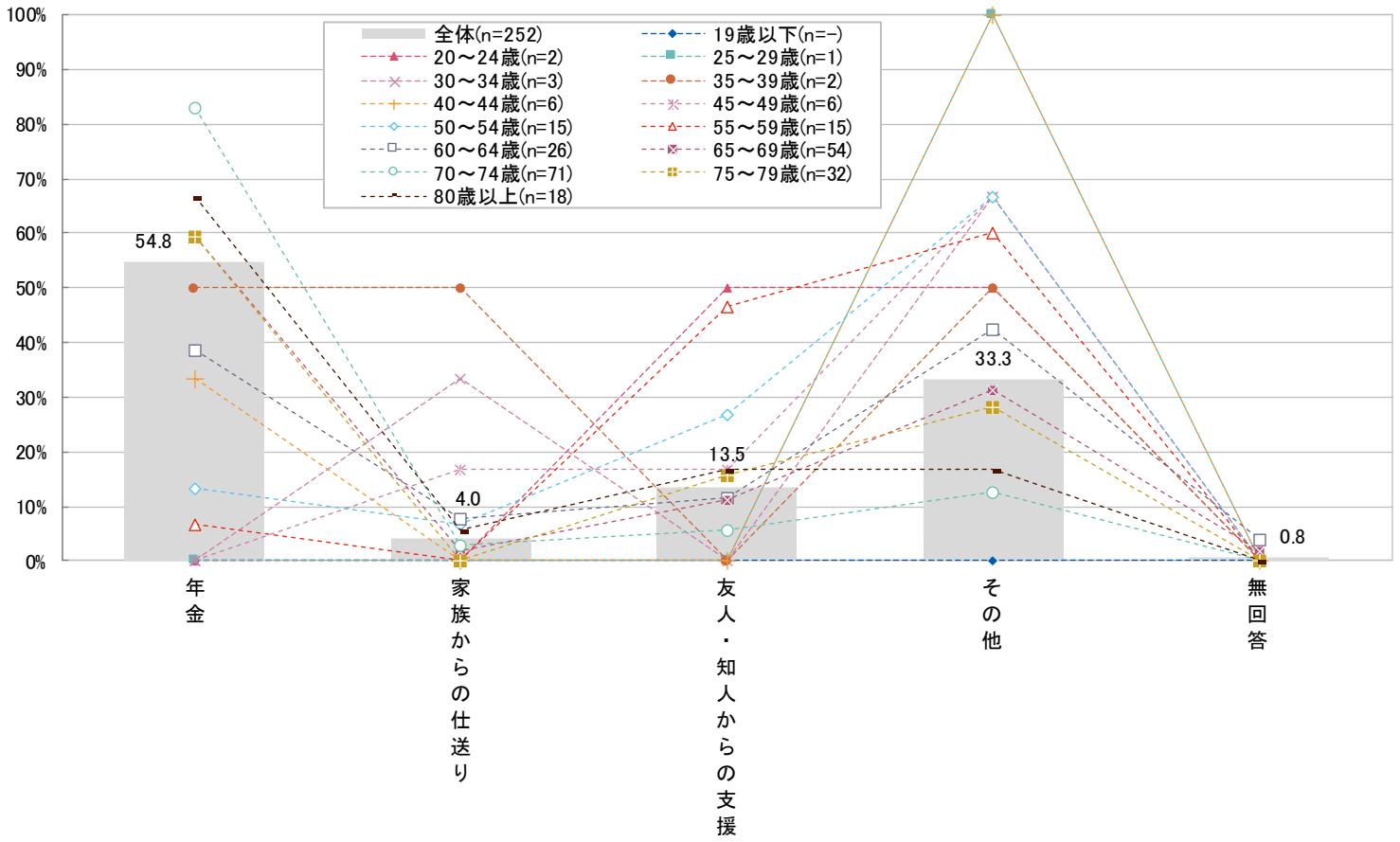
図表53　仕事以外の収入（年齢階層別）



問７－１ 仕事以外の収入の種類

- 仕事以外の収入の種類については、「６５歳以上」の者では「年金」の割合が高い。

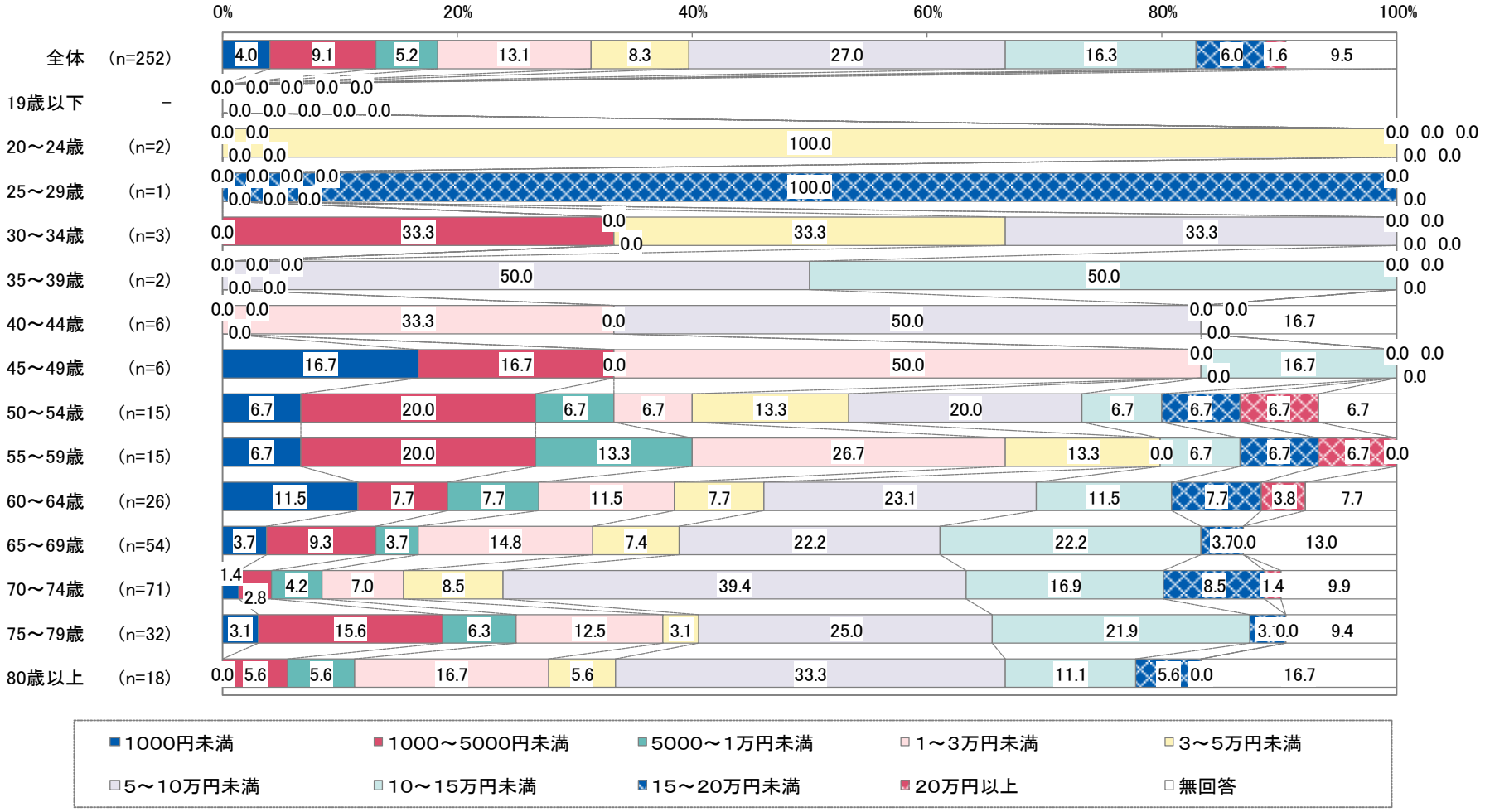
図表54　仕事以外の収入の種類（年齢階層別）



問７－２ 仕事以外の平均収入

- 仕事以外の平均収入については、「４０～５９歳以下」の者では、「１～３万円未満」の割合が高く、「７０～７４歳以上」の者では、「５～１０万円未満」の割合が高い。

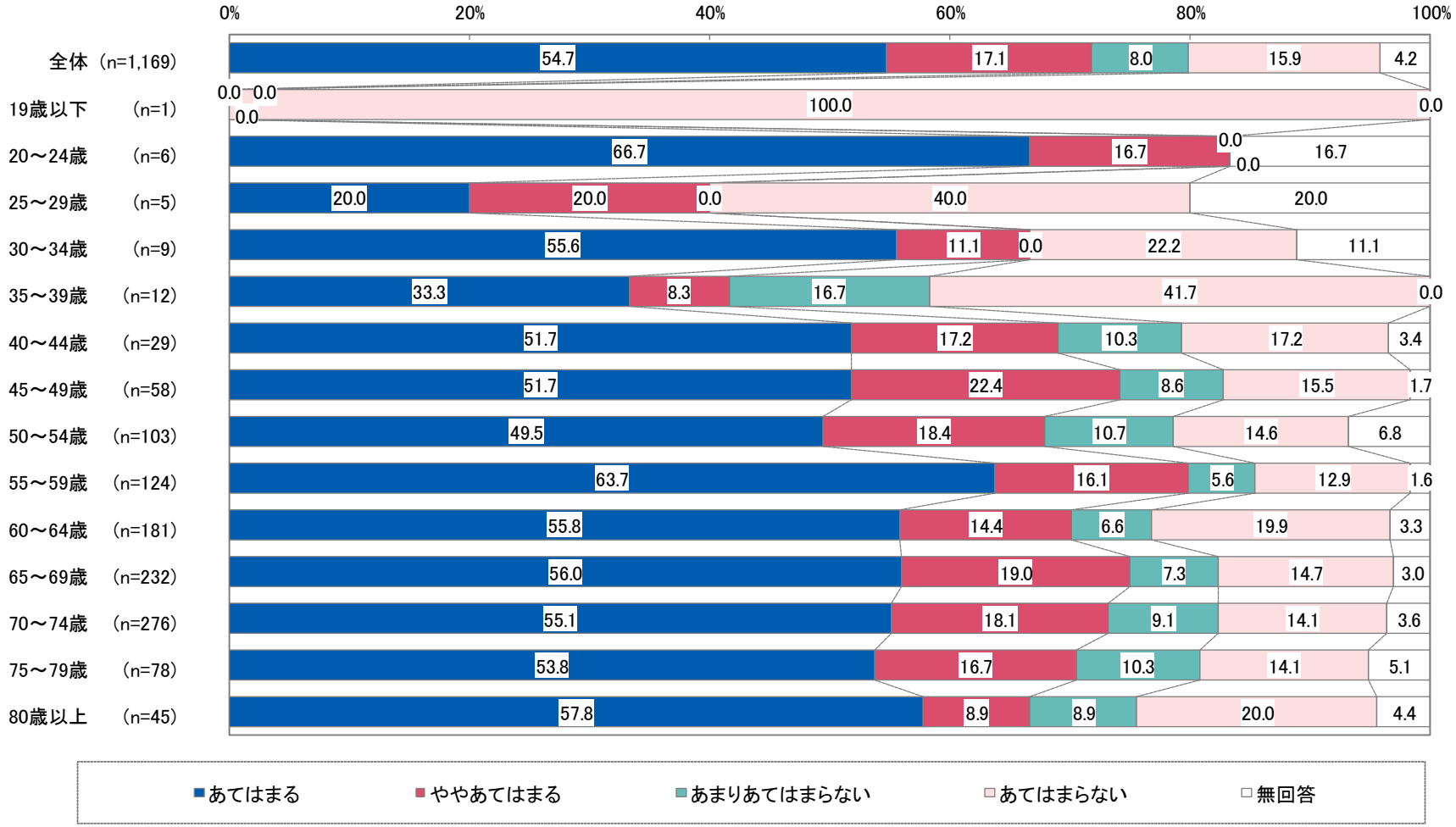
図表55　仕事以外の平均収入（年齢階層別）



問９ 周囲とのつながり

- 路上（野宿）生活前、挨拶をする相手がいたかについて、「５５歳～５９歳」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：54.7%、５５歳～５９歳：63.7%）

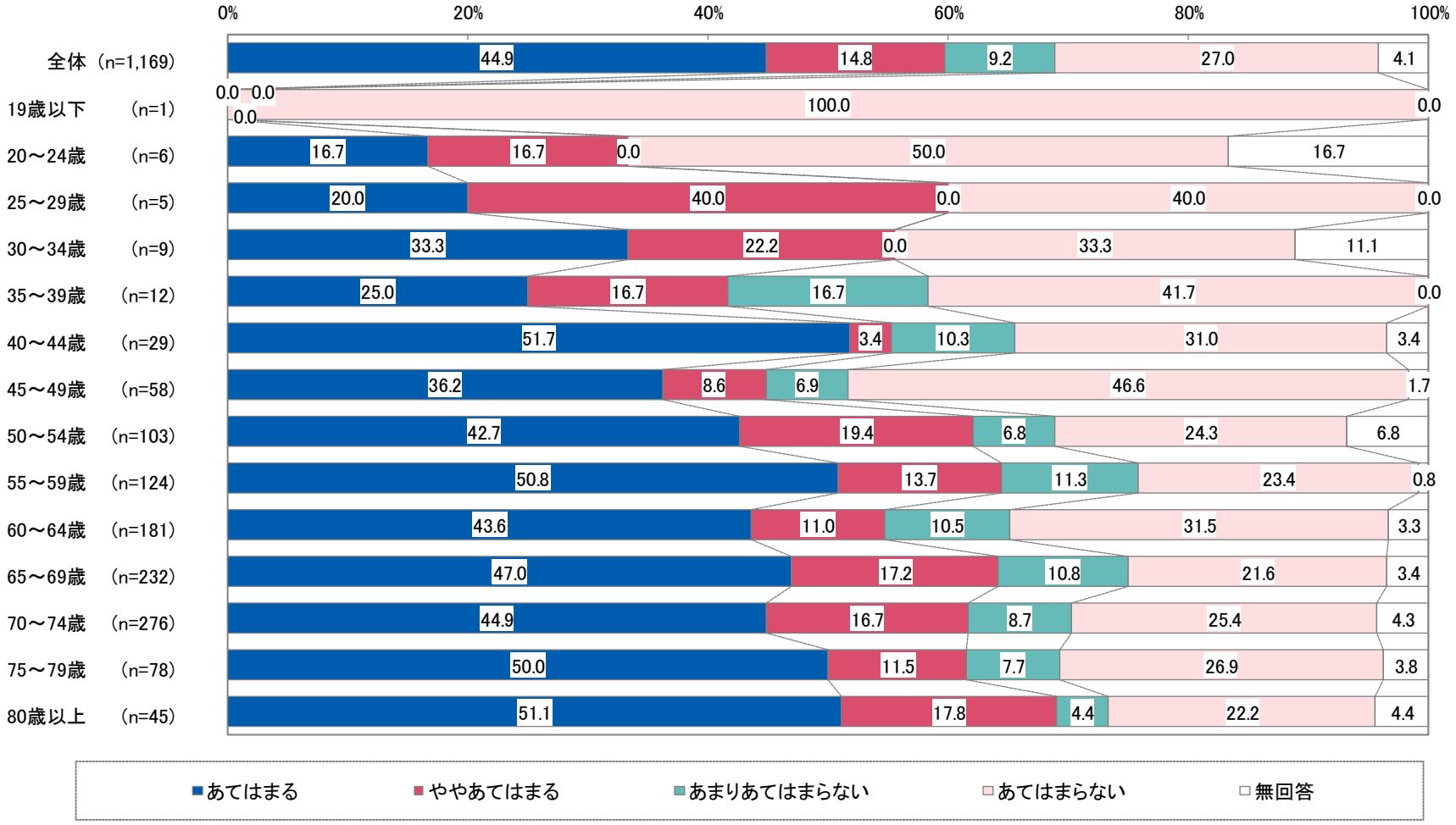
図表56-1　周囲とのつながり：挨拶をする相手がいる＜路上（野宿）生活前＞（年齢階層別）



問９ 周囲とのつながり

- 現在、挨拶をする相手がいるかについて、「４０歳～４４歳」「５５歳～５９歳」「８０歳以上」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：44.9%、４０歳～４４歳：51.7%、５５歳～５９歳：50.8%、８０歳以上：51.1%）

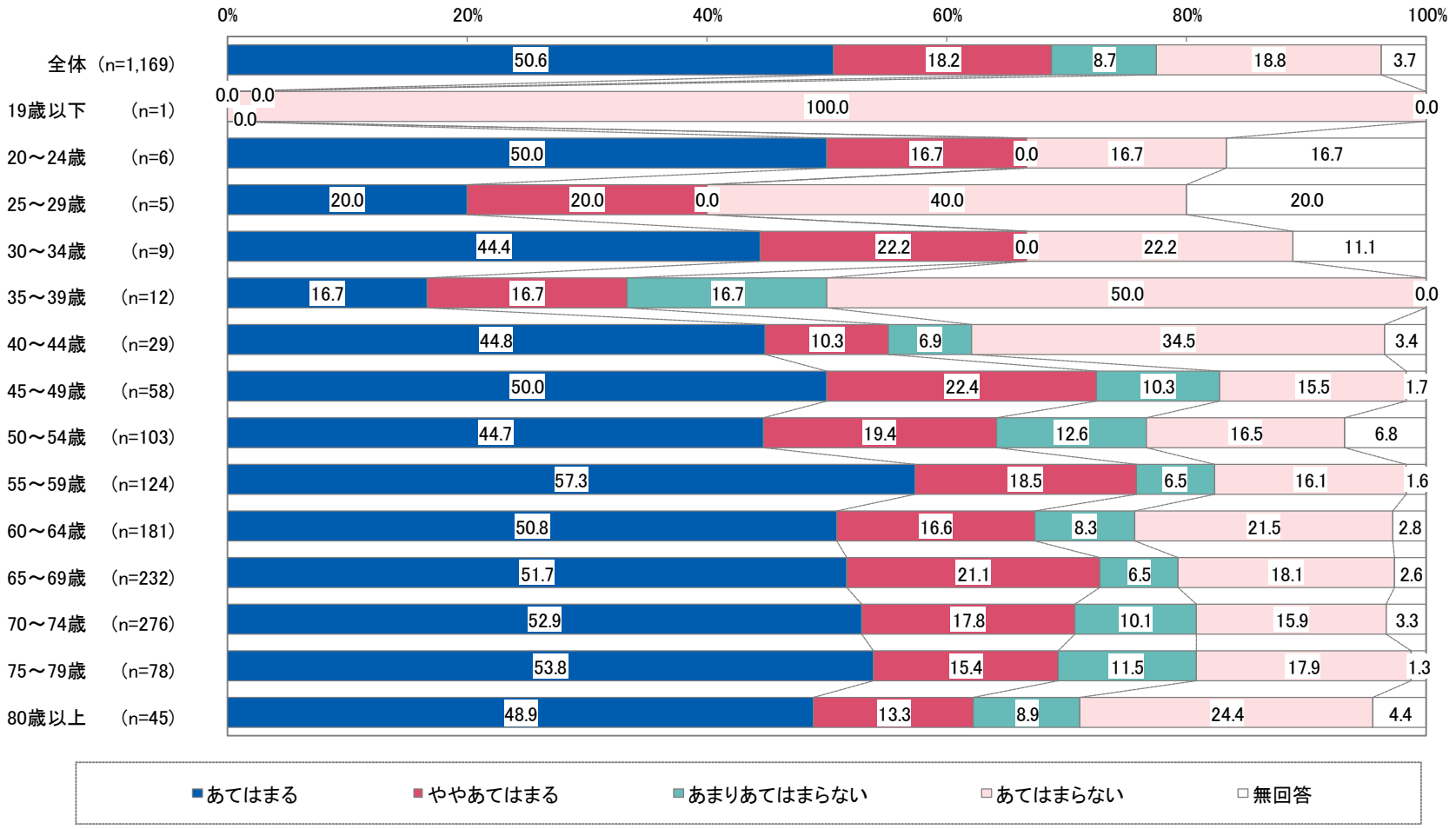
図表56-2　周囲とのつながり：挨拶をする相手がいる＜現在＞（年齢階層別）



問９ 周囲とのつながり

- 路上（野宿）生活前、世間話をする相手がいたかについて、「５５歳～５９歳」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：50.6%、５５歳～５９歳：57.3%）

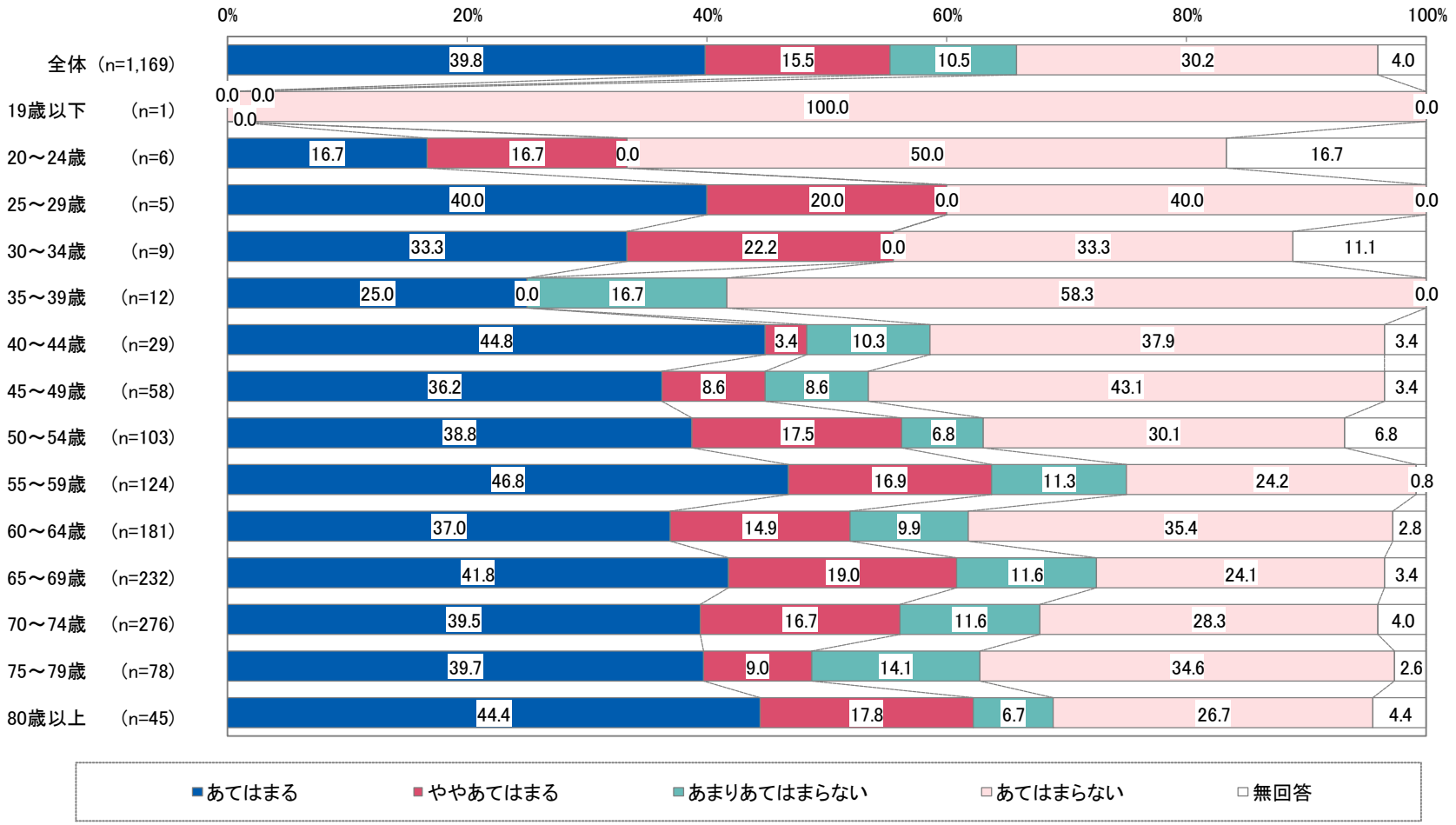
図表56-3　周囲とのつながり：世間話をする相手がいる＜路上（野宿）生活前＞（年齢階層別）



問９ 周囲とのつながり

- 現在、世間話をする相手がいるかについて、「４０歳～４４歳」「５５歳～５９歳」「８０歳以上」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：39.8%、４０歳～４４歳：44.8%、５５歳～５９歳：46.8%、８０歳以上：44.4%）

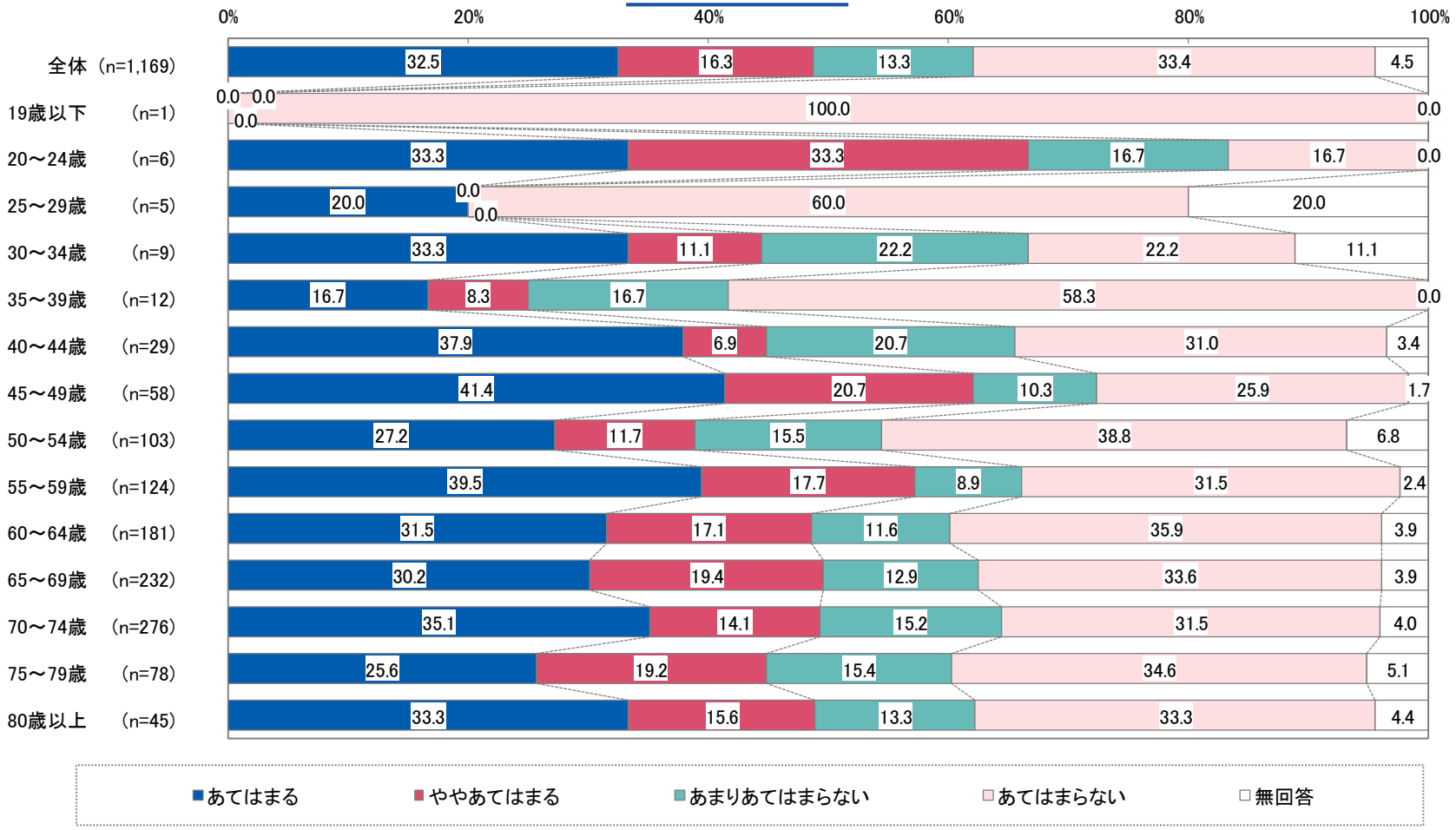
図表56-4　周囲とのつながり：世間話をする相手がいる＜現在＞（年齢階層別）



問９ 周囲とのつながり

- 路上（野宿）生活前、困った時に相談できる相手がいたかについて、「４５歳～４９歳」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：32.5%、４５歳～４９歳：41.4%）

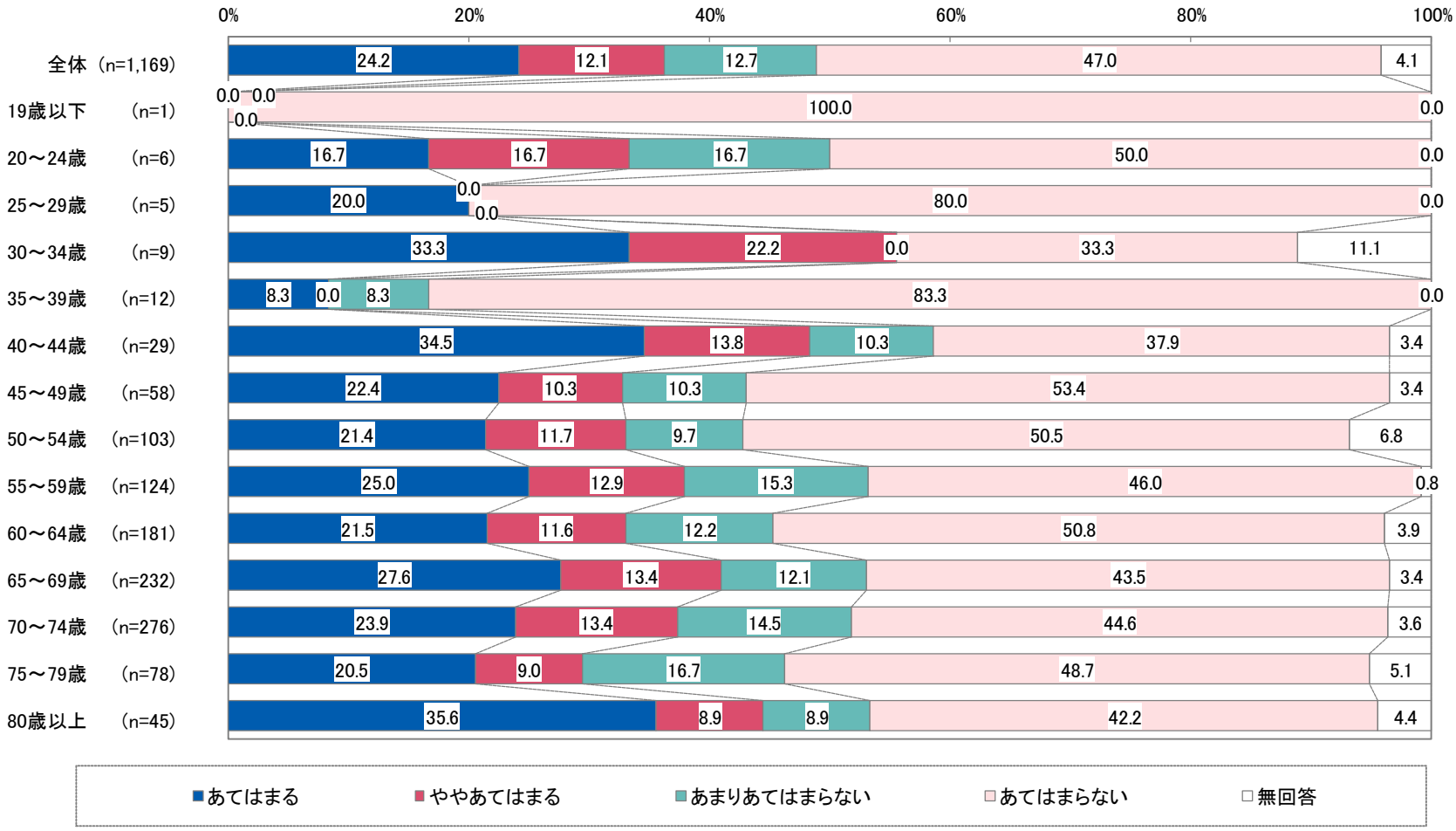
図表56-5　周囲とのつながり：困った時に相談できる相手がいる＜路上（野宿）生活前＞（年齢階層別）



問９ 周囲とのつながり

- 現在、困った時に相談できる相手がいるかについて、「３０歳～３４歳」「４０歳～４４歳」「８０歳以上」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：24.2%、３０歳～３４歳：33.3%、４０歳～４４歳：34.5%、８０歳以上：35.6%）

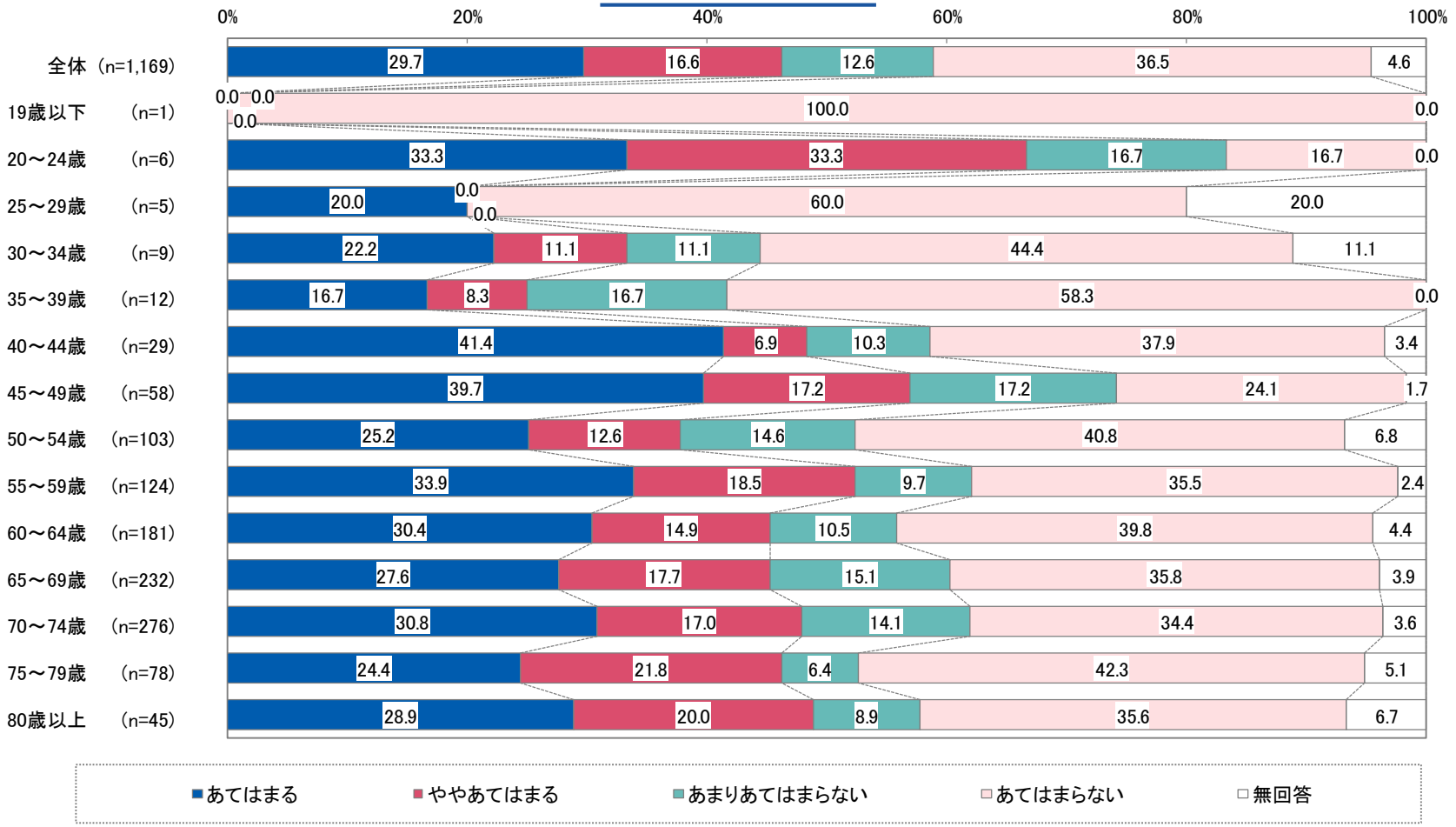
図表56-6　周囲とのつながり：困った時に相談できる相手がいる＜現在＞（年齢階層別）



問９ 周囲とのつながり

- 路上（野宿）生活前、困った時に助けてくれる相手がいたかについて、「４０歳～４４歳」「４５歳～４９歳」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：29.7%、４０歳～４４歳：41.4%、４５歳～４９歳：39.7%）

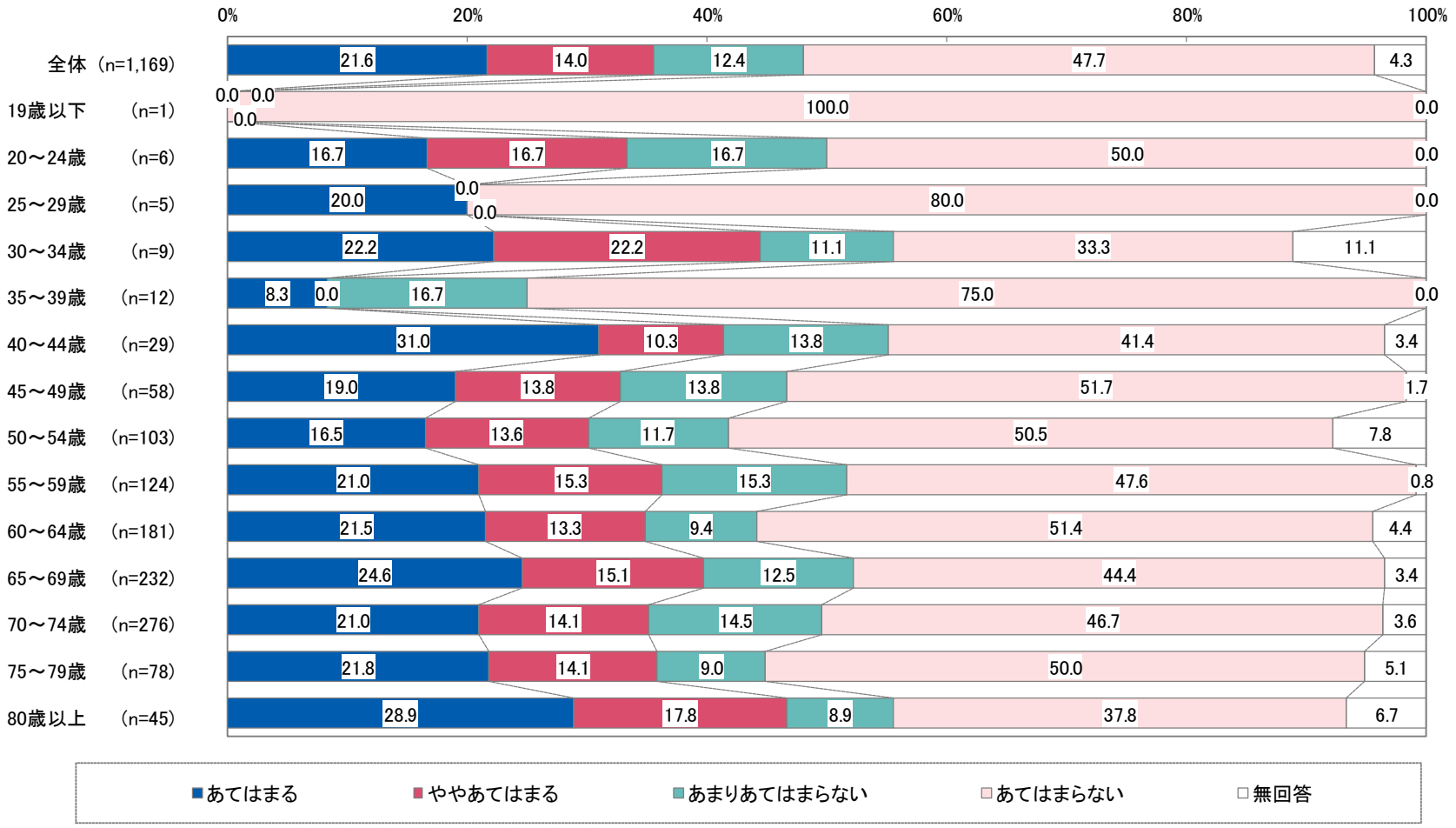
図表56-7　周囲とのつながり：困った時に助けてくれる相手がいる＜路上（野宿）生活前＞（年齢階層別）



問９ 周囲とのつながり

- 現在、困った時に助けてくれる相手がいるかについて、「４０歳～４４歳」「８０歳以上」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：21.6%、４０歳～４４歳：31.0%、８０歳以上：28.9%）

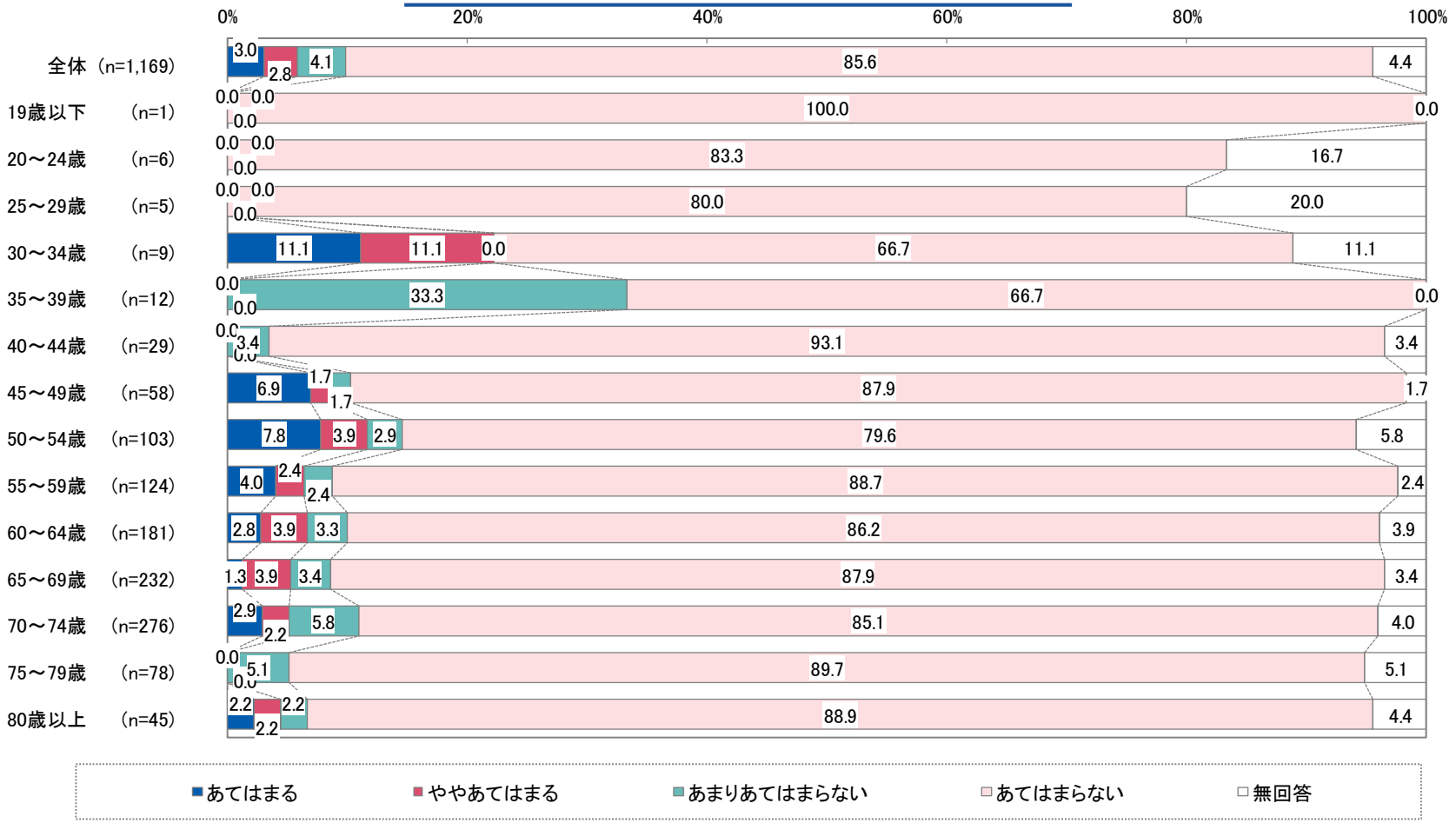
図表56-8　周囲とのつながり：困った時に助けてくれる相手がいる＜現在＞（年齢階層別）



問９ 周囲とのつながり

- 路上（野宿）生活前、NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加していたかについて、「３０歳～３４歳」の者では「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合が高い。（全体：5.8%、３０歳～３４歳：22.2%）

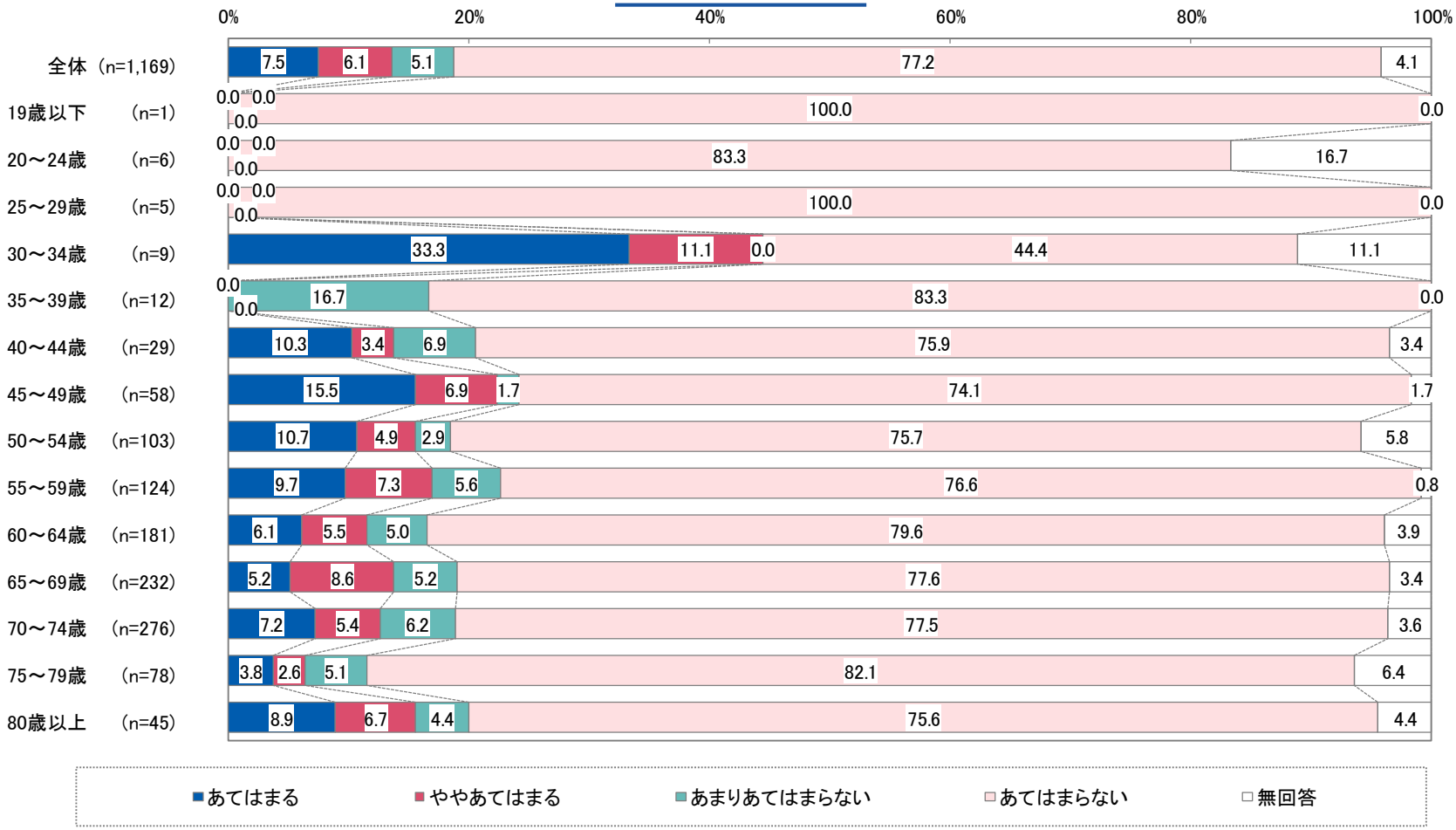
図表56-9　周囲とのつながり：NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加している＜路上（野宿）生活前＞（年齢階層別）



問９ 周囲とのつながり

- 現在、NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加しているかについて、「３０歳～３４歳」の者では「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合が高い。（全体：13.6%、３０歳～３４歳：44.4%）

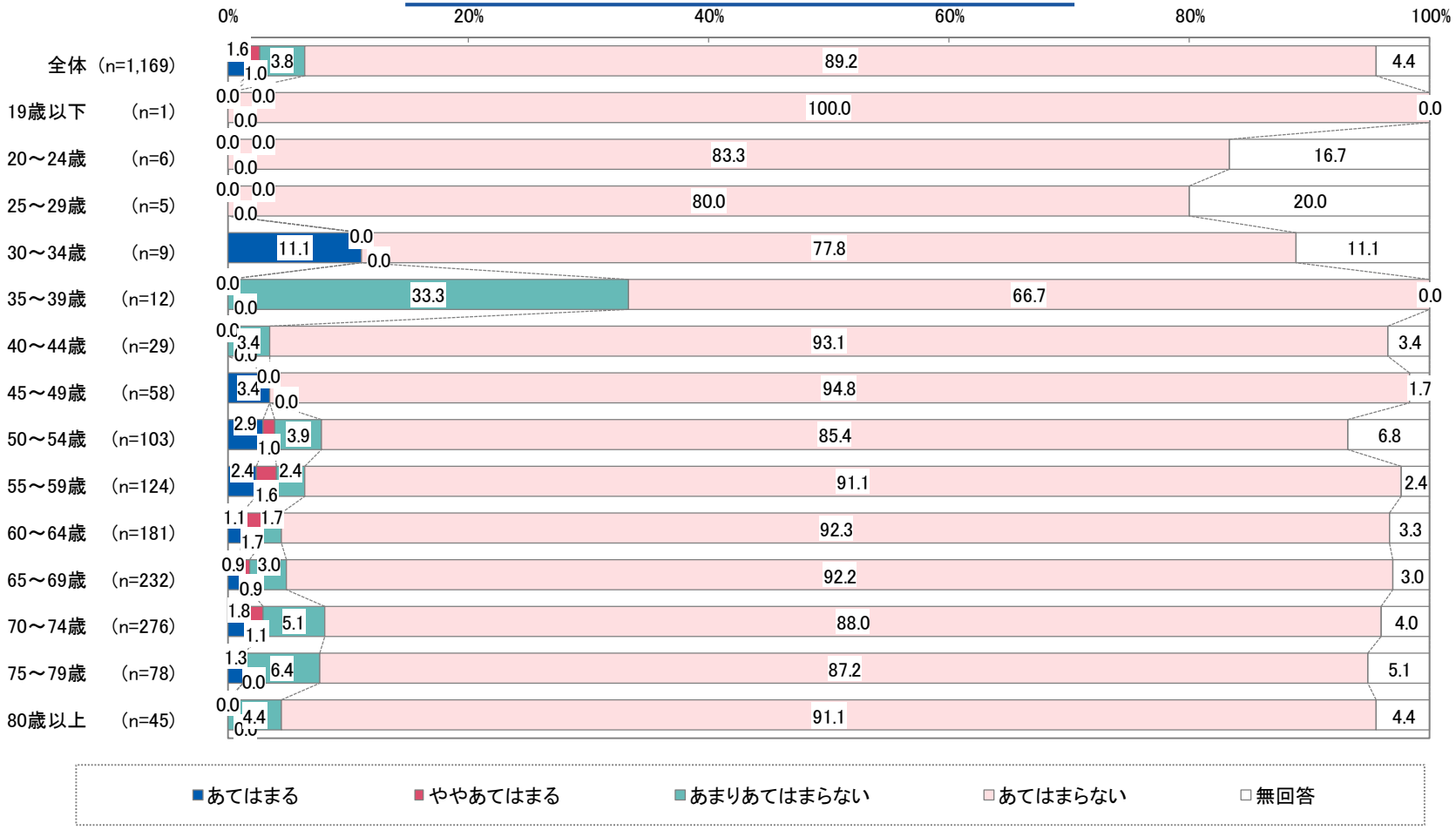
図表56-10　周囲とのつながり：NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加している＜現在＞（年齢階層別）



問９ 周囲とのつながり

- 路上（野宿）生活前、行政が開催する集会・相談会等に参加していたかについて、「３０歳～３４歳」の者では「あてはまる」の割合が高い。
  （全体：1.6%、３０歳～３４歳：11.1%）

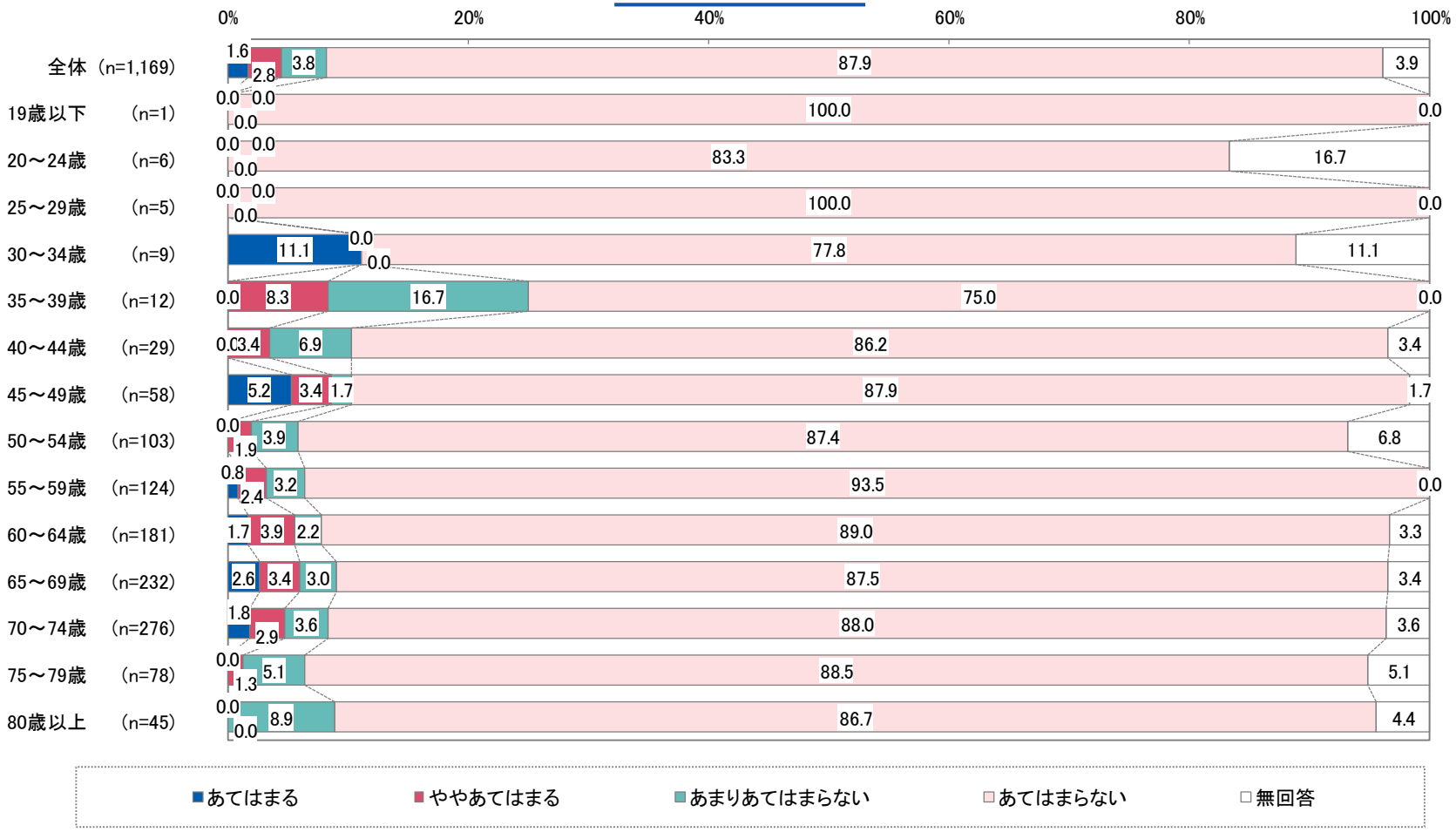
図表56-11　周囲とのつながり：行政が開催する集会・相談会等に参加している
＜路上（野宿）生活前＞（年齢階層別）



問９ 周囲とのつながり

- 現在、行政が開催する集会・相談会等に参加しているかについて、「３０歳～３４歳」の者では「あてはまる」の割合が高い。（全体：1.6%、３０歳～３４歳：11.1%）

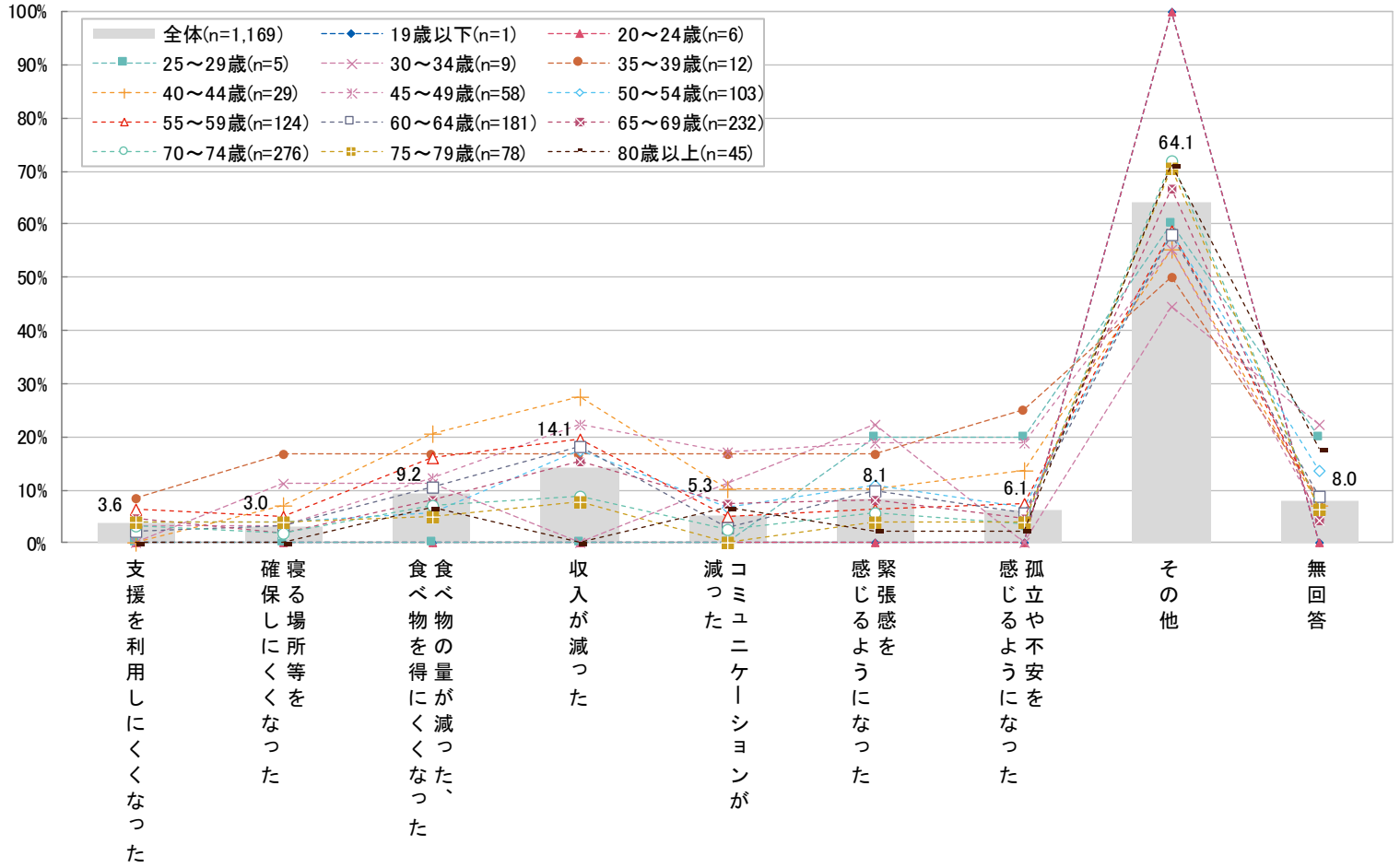
図表56-12　周囲とのつながり：行政が開催する集会・相談会等に参加している＜現在＞（年齢階層別）



問１０ コロナの影響

- コロナの影響について、「４０～４４歳」の者では「収入が減った」の割合が高い。

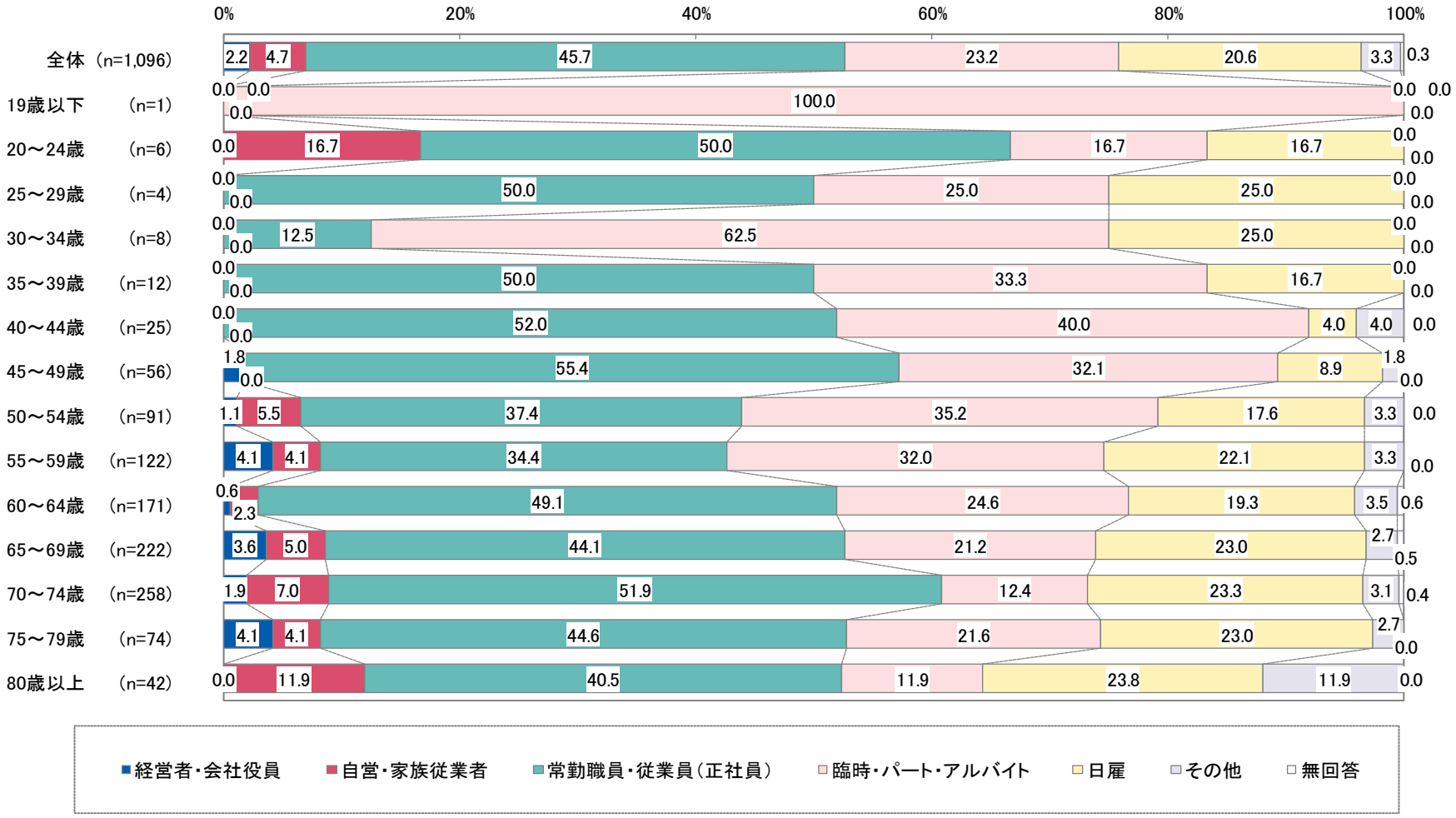
図表57　コロナの影響（年齢階層別）



問１１－１ 路上生活前の仕事の立場

- 路上生活前の仕事の立場については、「３０～３４歳以下」の者では、「臨時・パート・アルバイト」の割合が高く（62.5%）、「４５～４９歳以下」の者では「常勤職員・従業員（正社員）」の割合が高い（55.4%）。

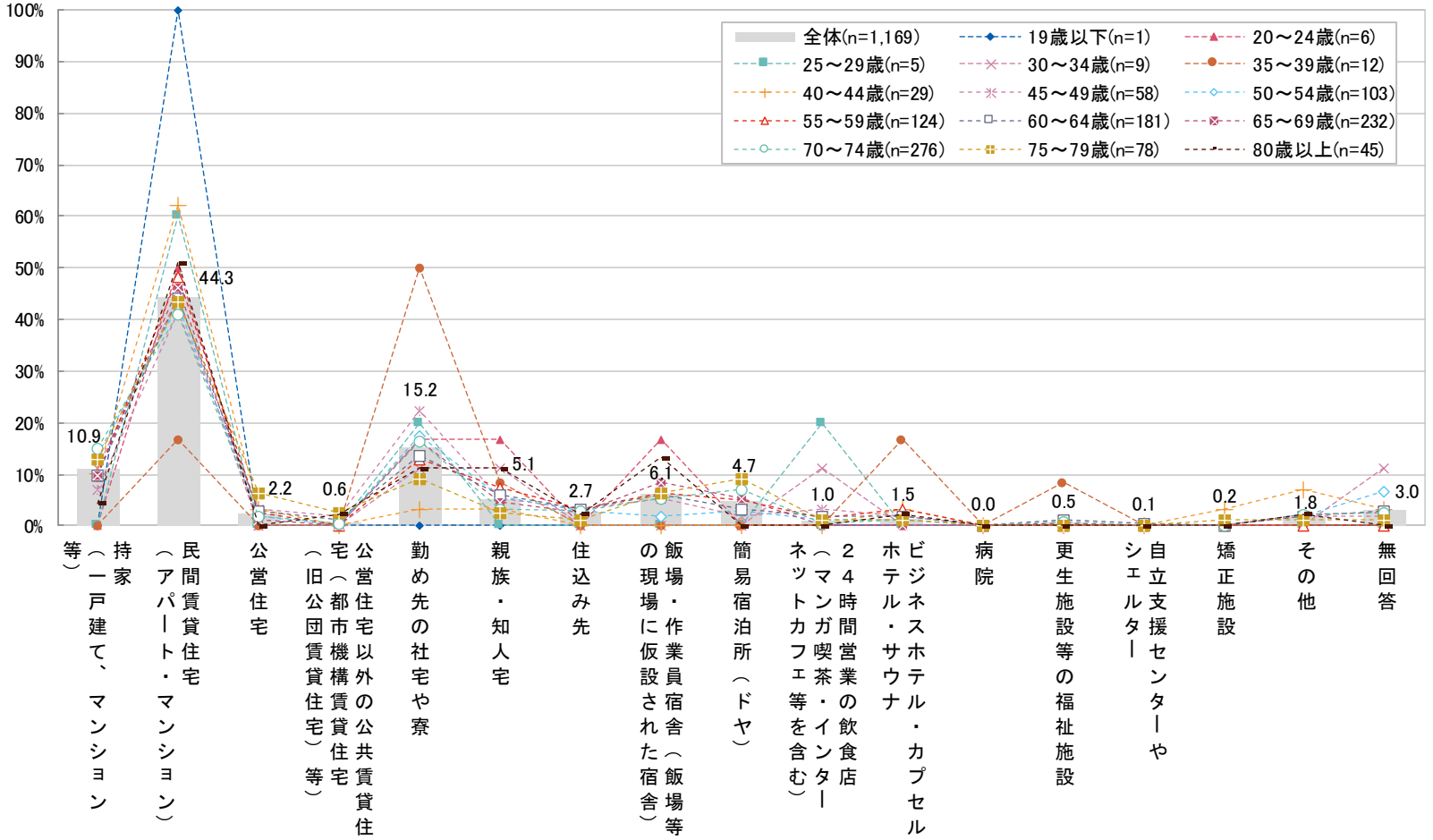
図表58　路上生活前の仕事の立場（年齢階層別）



問１２ 初めて路上生活する前に住んでいたところ

- 初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいたところについては、「２５～２９歳以下」「４０～４４歳以下」の者では「民間賃貸住宅」の割合が高く、「３５～３９歳以下」の者では「勤め先の社宅や寮」及び「ビジネスホテル・カプセルホテル・サウナ」の割合が高い。「２５～２９歳以下」の者では「２４時間営業の飲食店」の割合が他の年代と比べ高い。

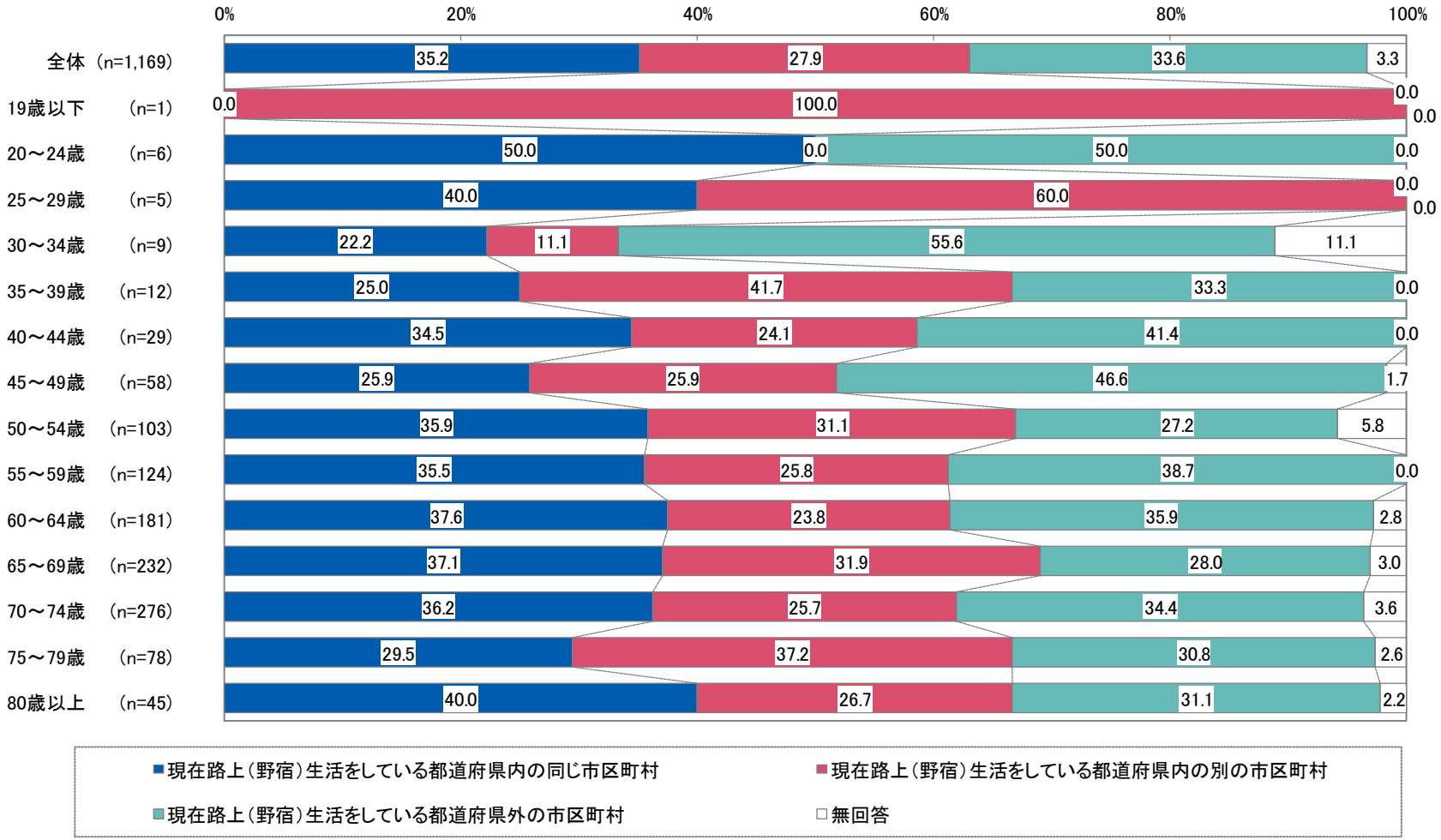
図表59　初めて路上生活する前に住んでいたところ（年齢階層別）



問１３ 初めて路上生活をする前に住んでいた地域

- 初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域については、「３０～３４歳以下」の者では「都道府県外」の割合が高く（55.6%）、「８０歳以上」の者では「同じ市区町村」の割合が高い（40.0%）。

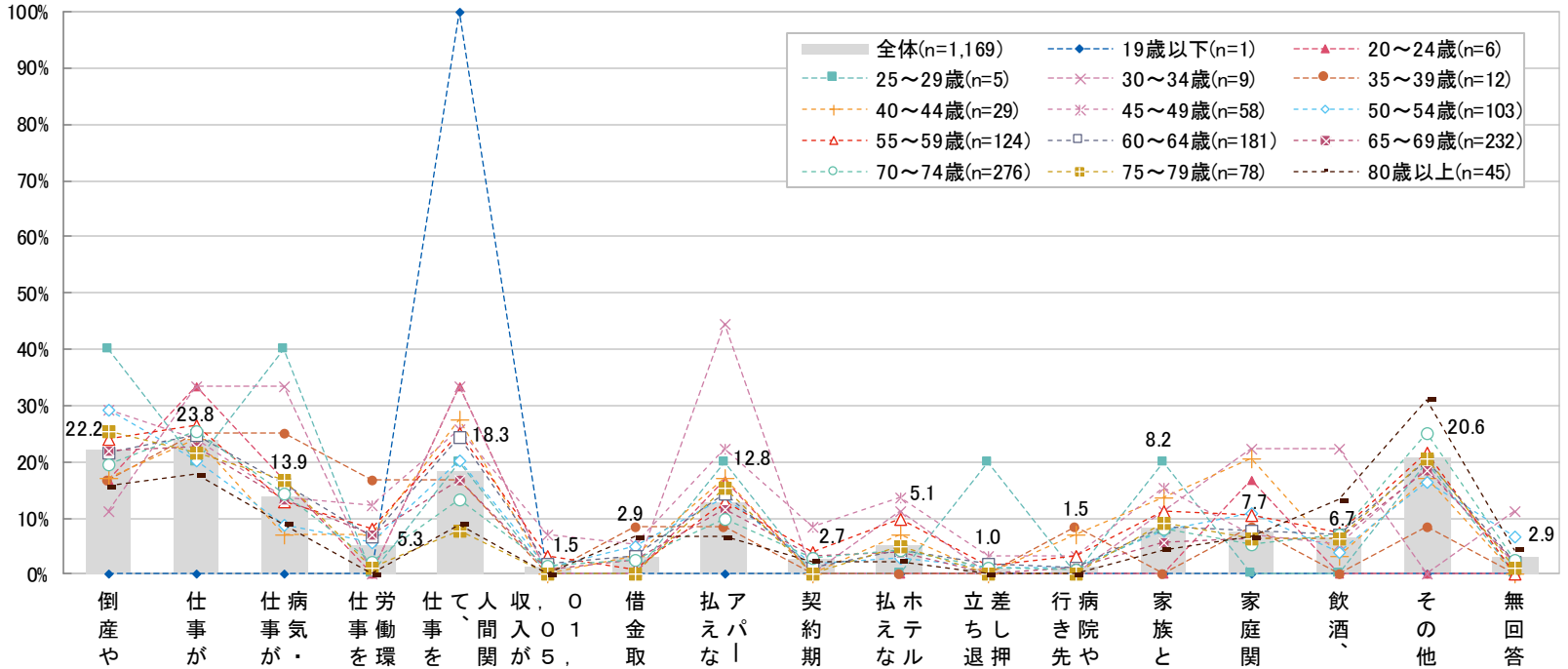
図表60　路上生活する前に住んでいた地域（年齢階層別）



問１７ 今回の路上生活をするようになった主な理由

- 今回の路上（野宿）生活をするようになった主な理由については、 「２５～２９歳以下」の者では「倒産や失業」「病気・けがや高齢で仕事が出来なくなった」 の割合が高く、「３０～３４歳以下」の者では「アパート等の家賃が払えなくなった」の割合が高い。

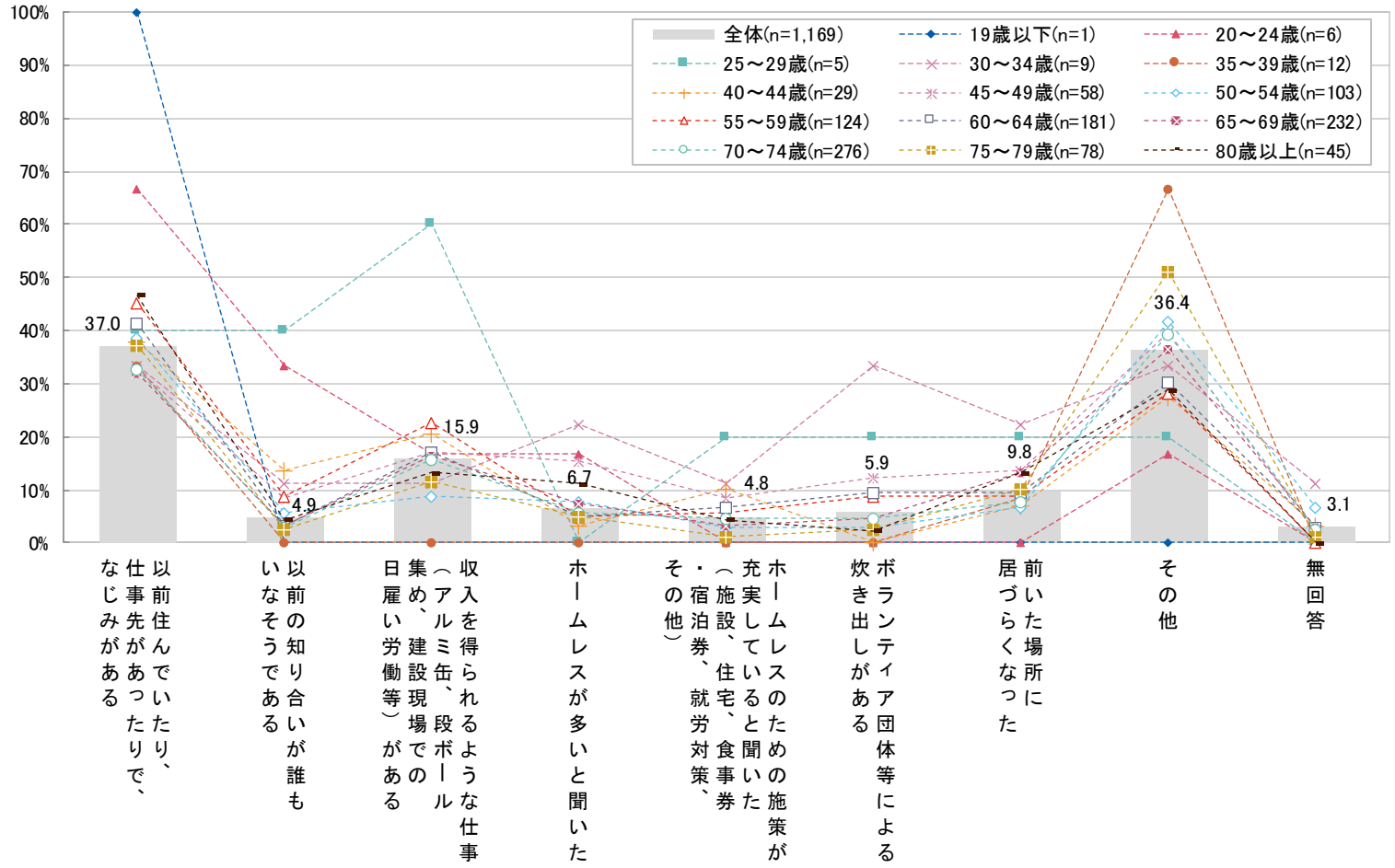
図表61　今回の路上生活をするようになった主な理由（年齢階層別）



問１９ 現在の市区町村にきた主な理由

- 現在の市区町村に来た主な理由については、「２５～２９歳以下」の者では「収入を得られるような仕事がある」の割合が高く、「３０～３４歳以下」の者では「なじみがある」「ボランティア団体等による炊き出しがある」の割合が高く、「２０～２４歳以下」の者では「なじみがある」の割合が高い。

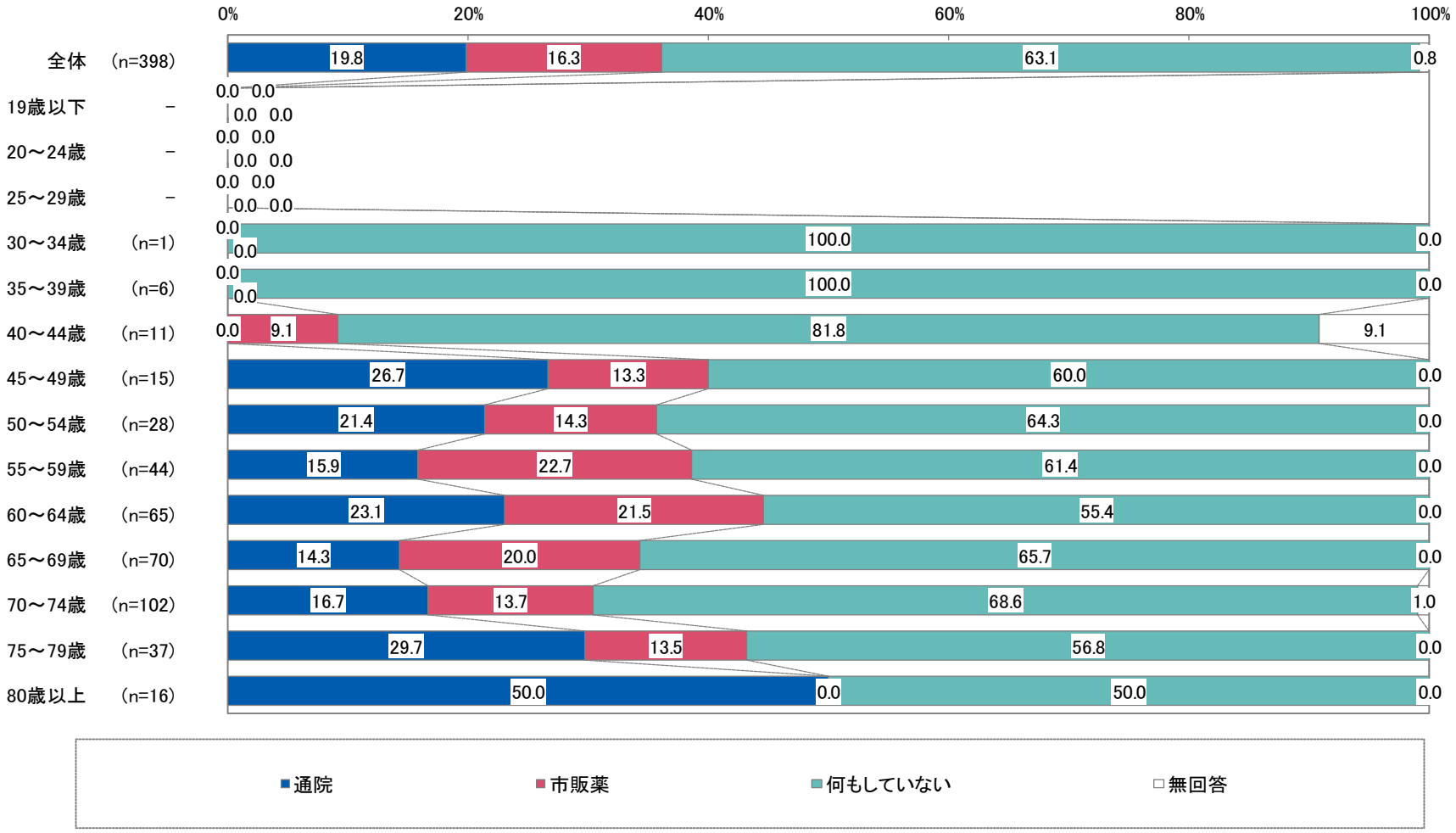
図表62　現在の市区町村にきた主な理由（年齢階層別）



問２１－１ 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法

- 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法について、「５５歳～５９歳」は「市販薬」の割合が高い（22.7%）。「８０歳以上」は、「通院」の割合が高い（50.0%）。

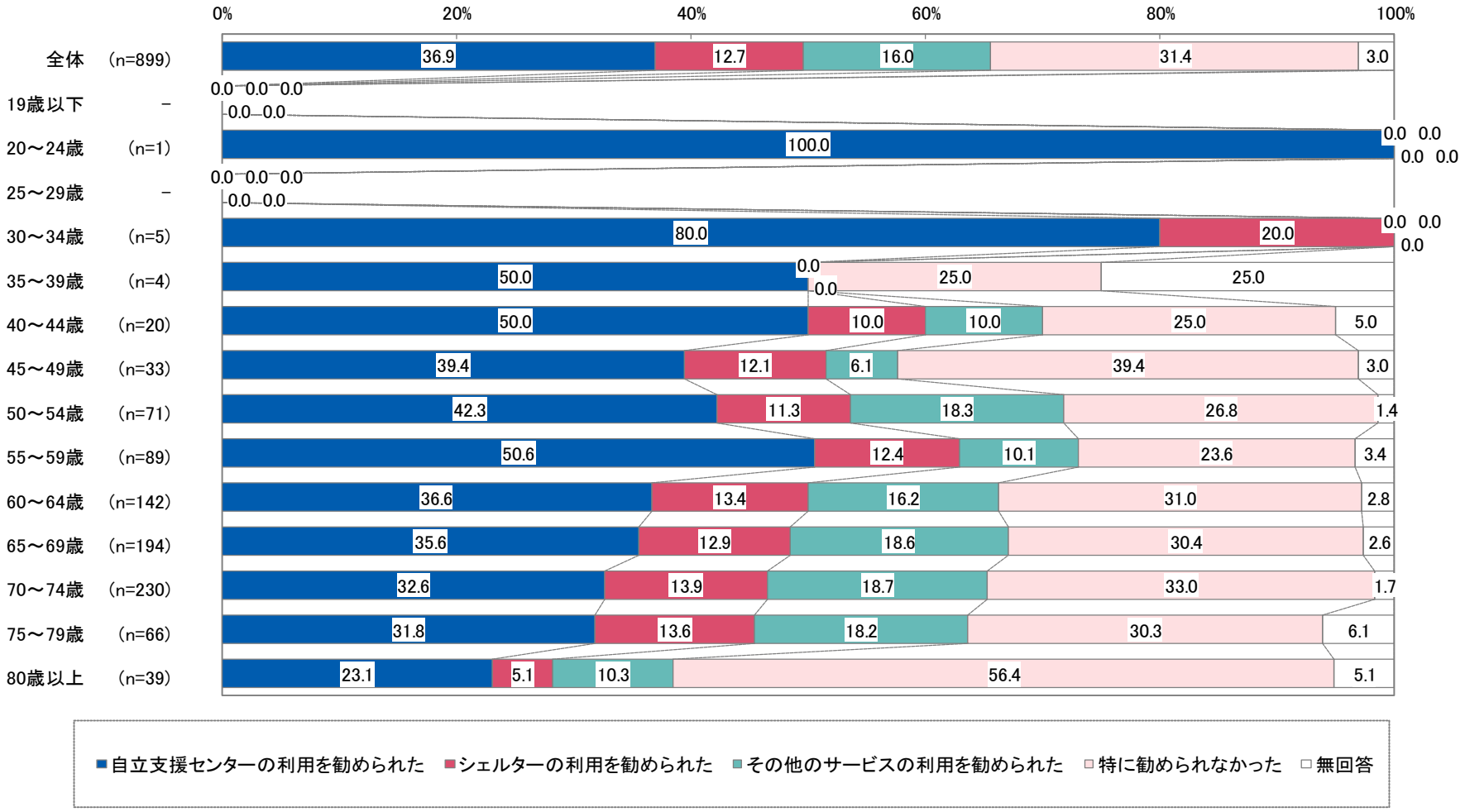
図表63　健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法（年齢階層別）



問２７－４ 自立支援センターやシェルター等の利用の勧め

- 自立支援センターやシェルター等の利用の勧めについては、「５５～５９歳以下」の者では「自立支援センターの利用を勧められた」の割合が高く（50.6%）、「８０歳以上」の者では「特に勧められなかった」の割合が高い（56.4%）。

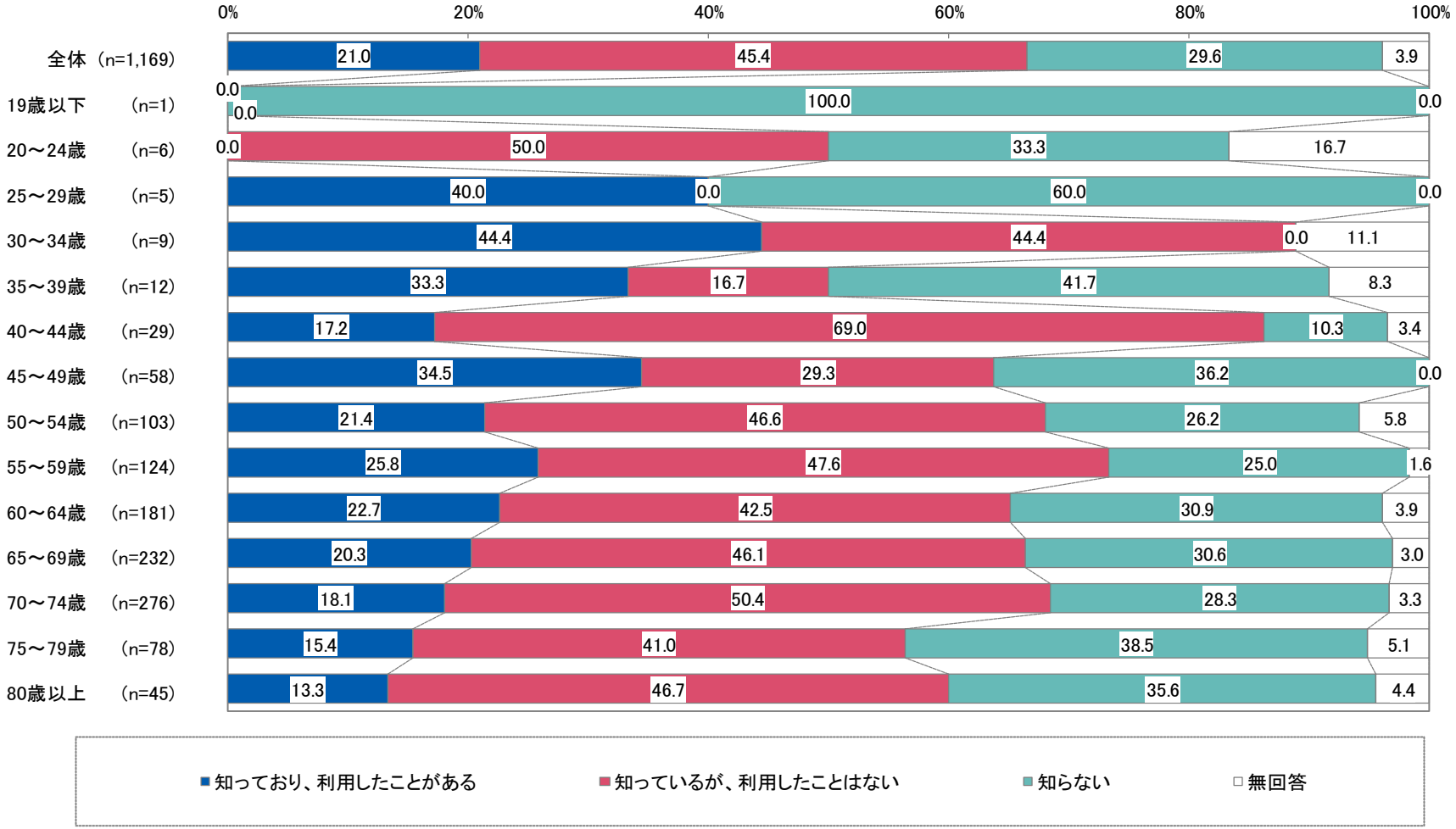
図表64　自立支援センターやシェルター等の利用の勧め（年齢階層別）



問２８ シェルター内容の認知度・利用度

- シェルターの内容の認知度・利用度については、「３０～３４歳以下」では「知っており、利用したことがある」の割合が高く（44.4%）、「７５～７９歳以下」及び「８０歳以上」の者では「知っており、利用したことがある」の割合が低く（それぞれ15.4%、13.3%）、「４０～４４歳以下」の者では「知っているが、利用したことはない」の割合が高い（69%）。

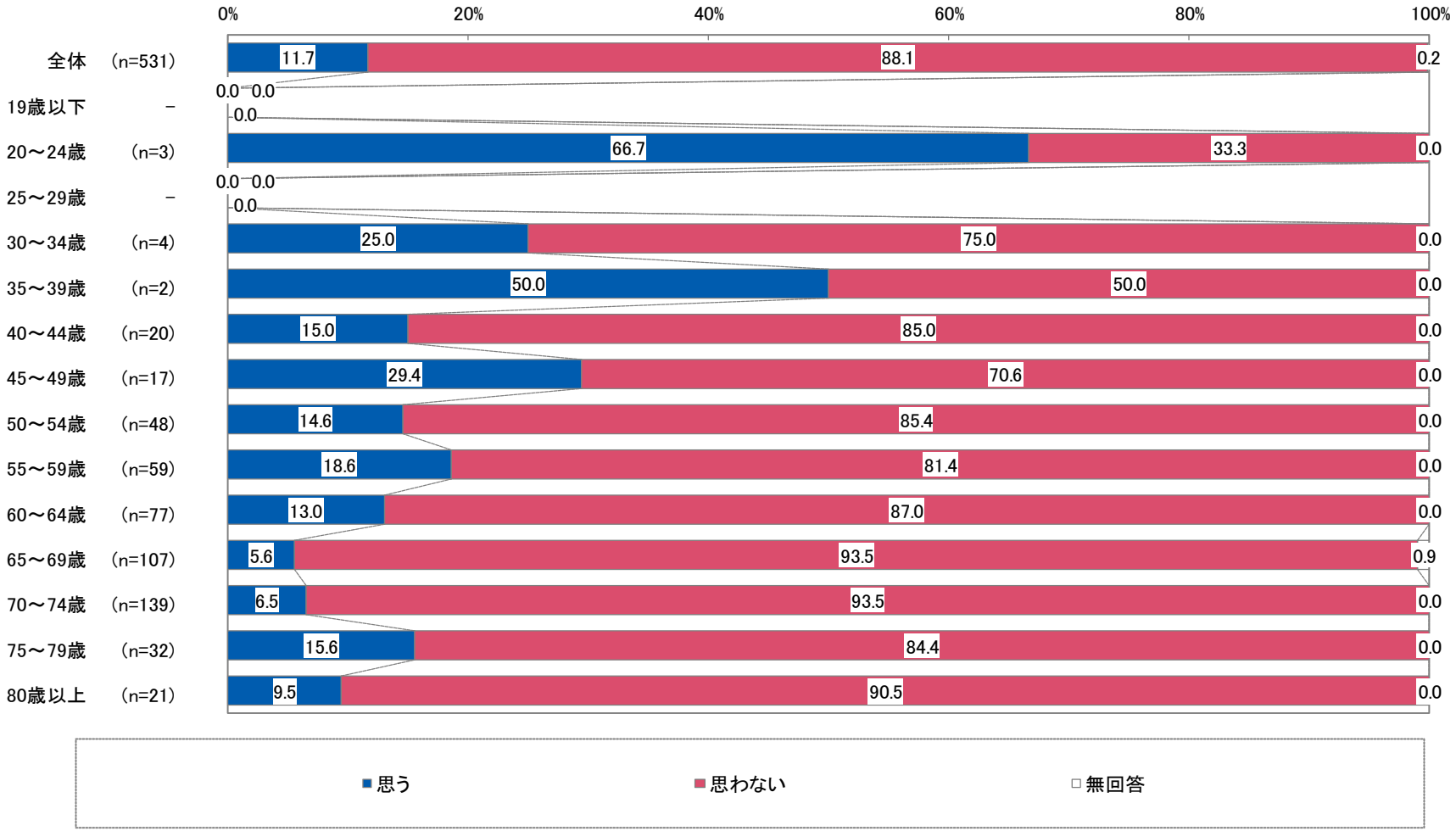
図表65　シェルター内容の認知度・利用度（年齢階層別）



問２８－１ シェルターの利用意向

- シェルターの利用意向については、すべての年齢において「思わない」の割合が高いが、「４５～４９歳以下」（29.4%）、 「５５～５９歳以下」（18.6%）及び 「７５～７９歳以下」（15.6%）の者では比較的「思う」の割合が高い。

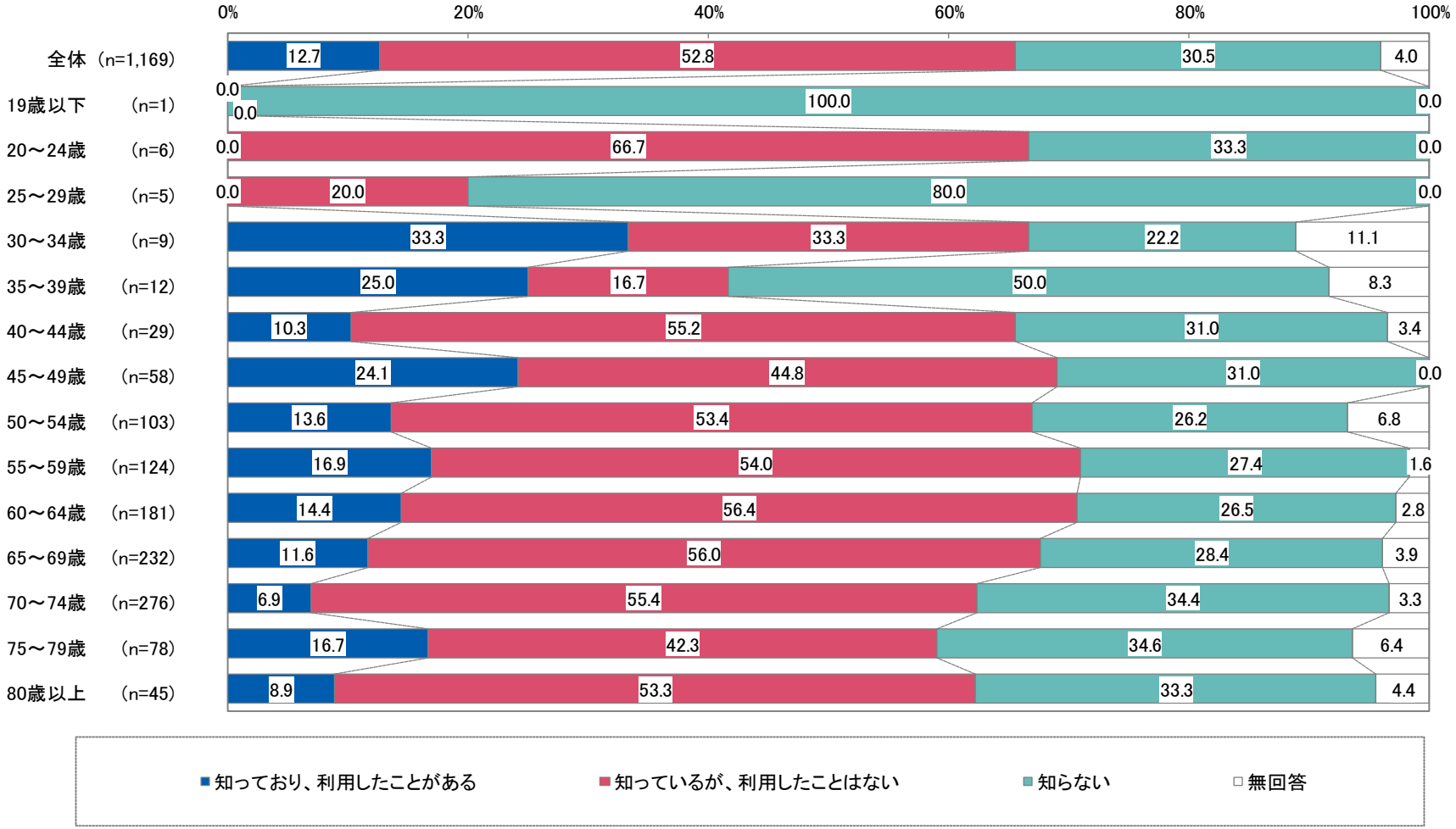
図表66　シェルターの利用意向（年齢階層別）



問２９ 自立支援センターの内容の認知度・利用度

- 自立支援センターの内容の認知度・利用度については、年齢が下がることに伴って、「知っており、利用したことがある」の割合が高くなる傾向にある。「７５～７９歳以下」の者では「知っており、利用したことがある」の割合が高い（16.7%）。
- 「３５～３９歳以下」の者では「知らない」の割合が高い（50.0%）。

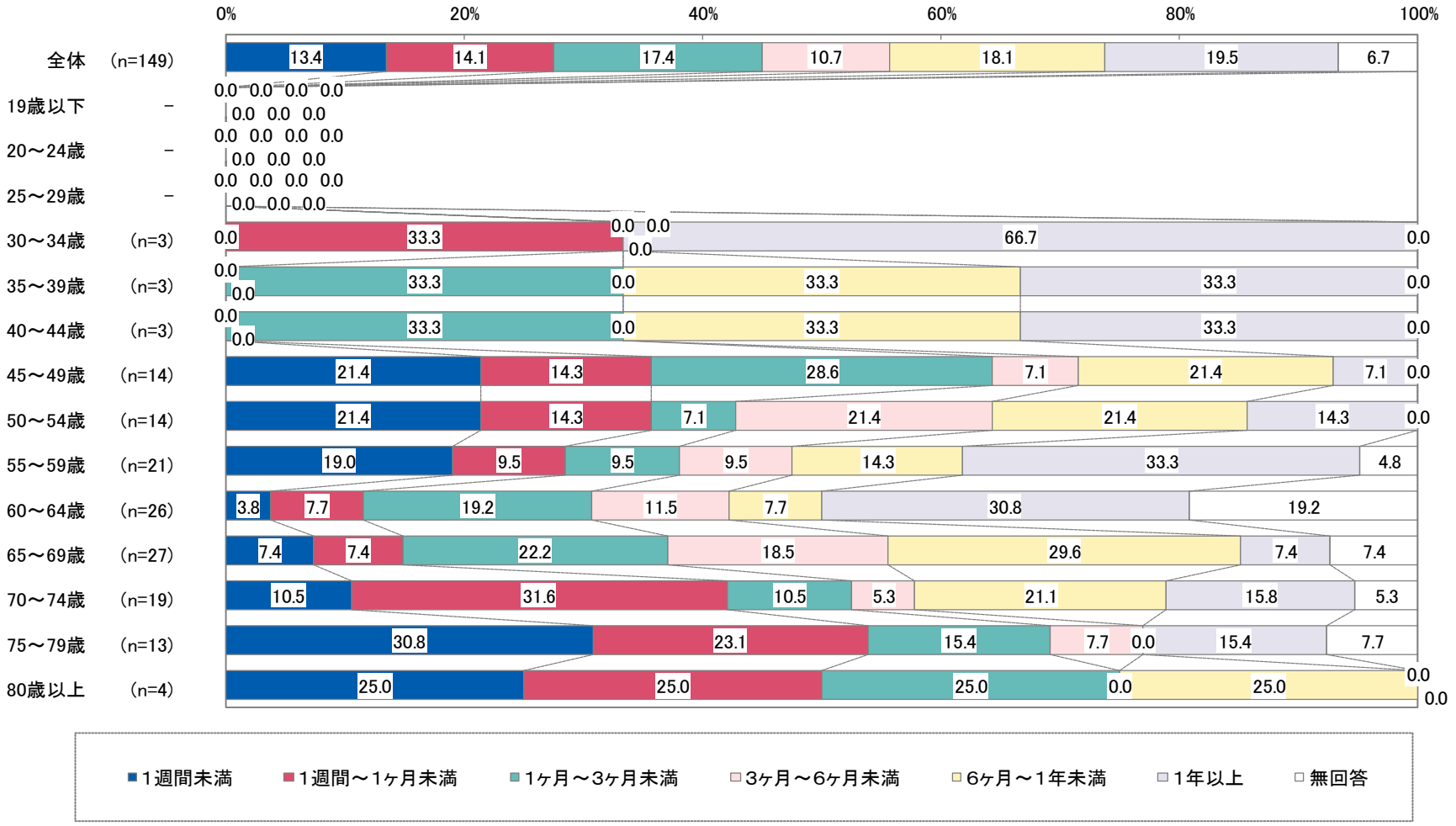
図表67　自立支援センターの内容の認知度・利用度（年齢階層別）



問２９－１ 退所から路上生活に戻るまでの期間

- 退所から路上生活に戻るまでの期間については、「５５～５９歳以下」の者では「１年以上」の割合が高く（33.3%）、「７０～７４歳以下」の者では「１週間～１ヶ月未満」の割合が高く（31.6%）、「７５～７９歳以下」の者では「１週間未満」の割合が高い（30.8%）。

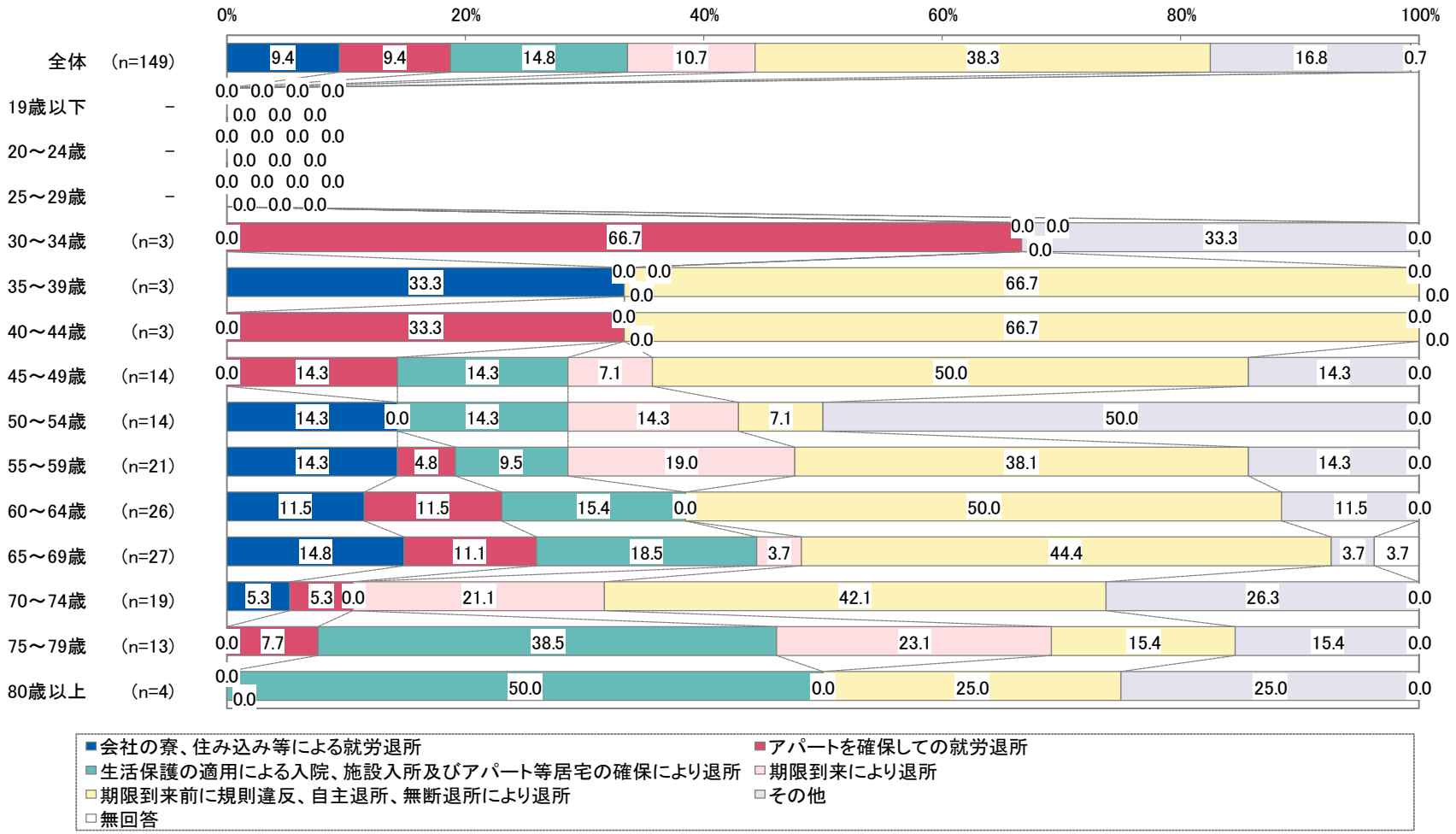
図表68　退所から路上生活に戻るまでの期間（年齢階層別）



問２９－２ 退所理由

- 退所理由については、「７５～７９歳以下」の者では「生活保護の適用による退所」（38.5%）及び「期限到来による退所」（23.1%）の割合が高く、「４５～４９歳以下」「６０～６４歳以下」及び「６５～６９歳以下」の者では「無断退所等」の割合が高い傾向にある（それぞれ50.0%、50.0%、44.4%）。

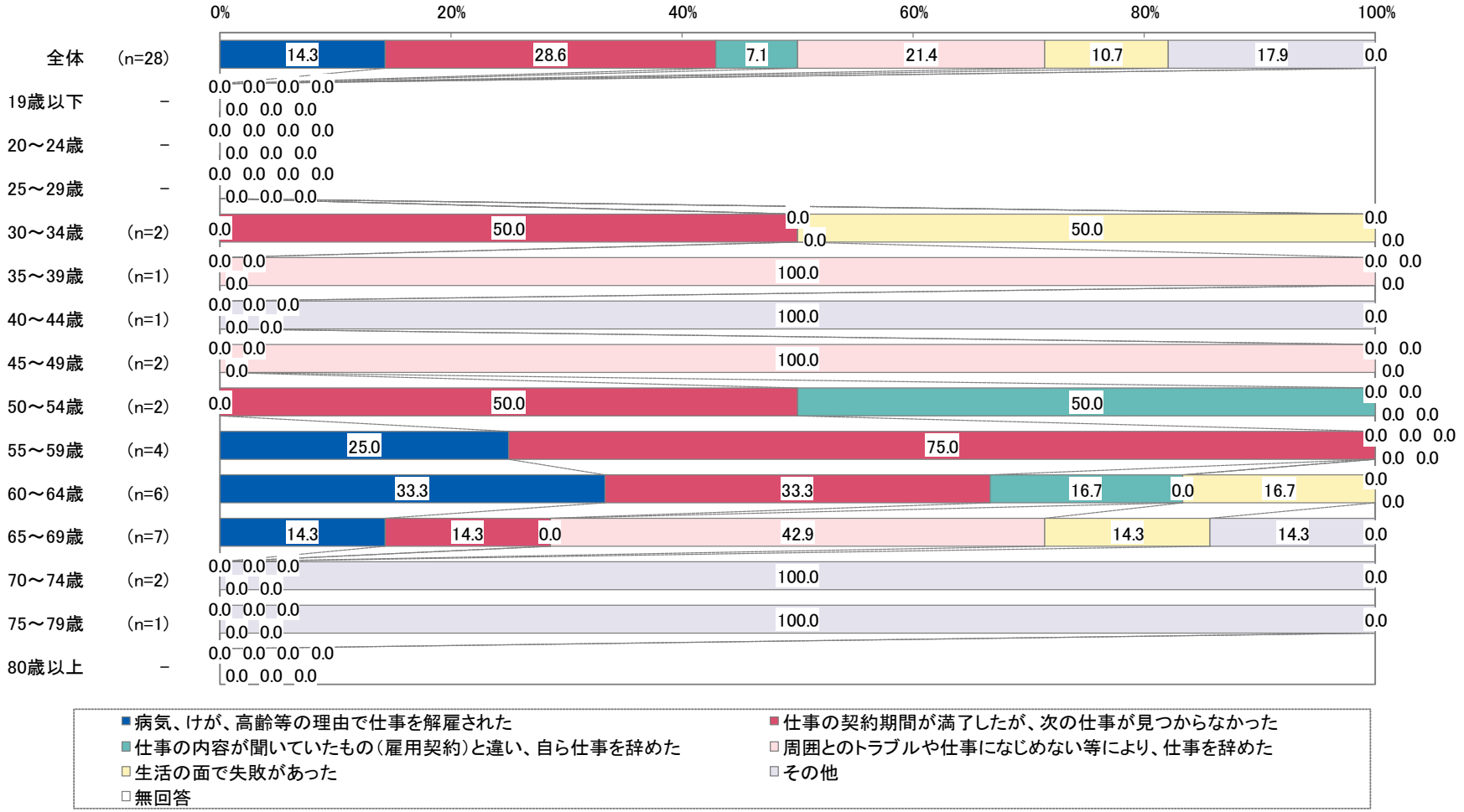
図表69　退所理由（年齢階層別）



問２９－３ 路上生活に戻った主な理由

- 路上生活に戻った主な理由については、「６０～６４歳以下」の者では「病気・けが・高齢等」 「仕事の契約期間が満了したが、次の仕事が見つからなかった」の割合が高く（33.3%）、「５５～５９歳以下」の者では「仕事の契約期間が満了したが、次の仕事が見つからなかった」の割合が高い傾向にある（75.0%）。

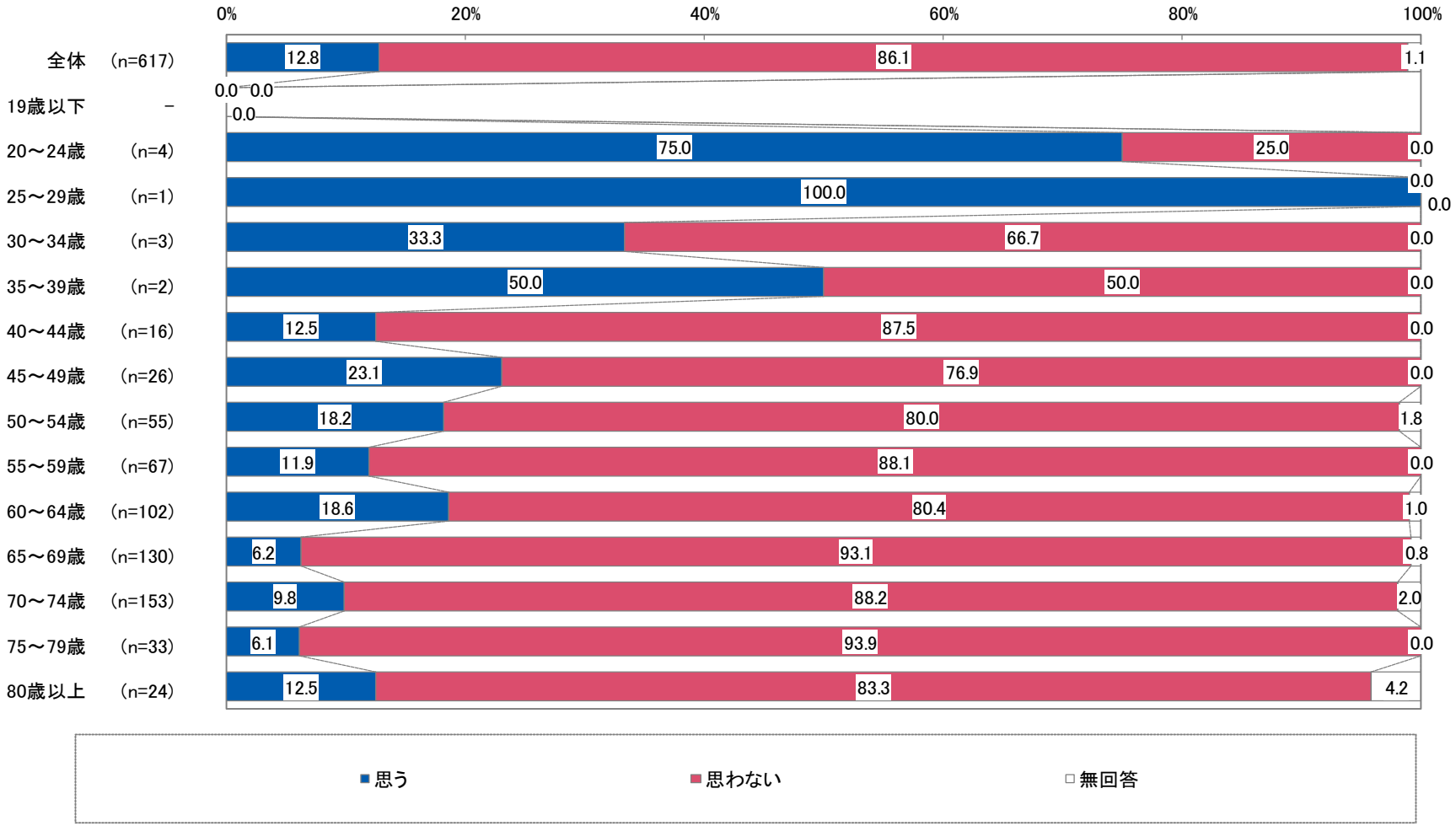
図表70　路上生活に戻った主な理由（年齢階層別）



問２９－４ 自立支援センターの利用意向

- 自立支援センターの利用意向については、「７５～７９歳以下」の者では「思わない」の割合が高く（93.9%）、「４５～４９歳以下」の者では「思う」の割合が高い傾向にある（23.1%）。

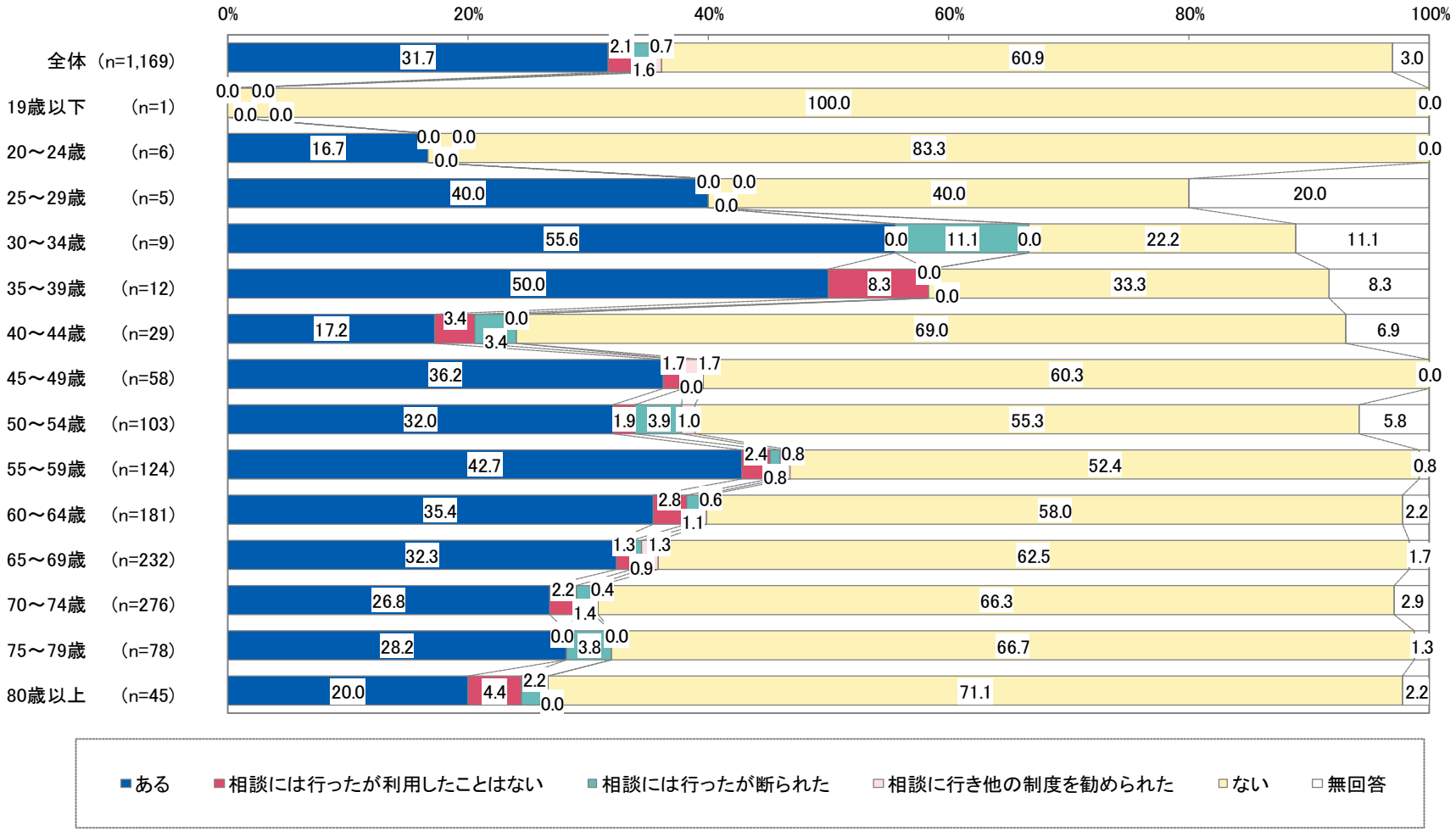
図表71　自立支援センターの利用意向（年齢階層別）



問３１ 生活保護の利用経験

- 生活保護制度の利用経験については、「３５～５９歳以下」の者では「ある」の割合が高い（50.0%）。

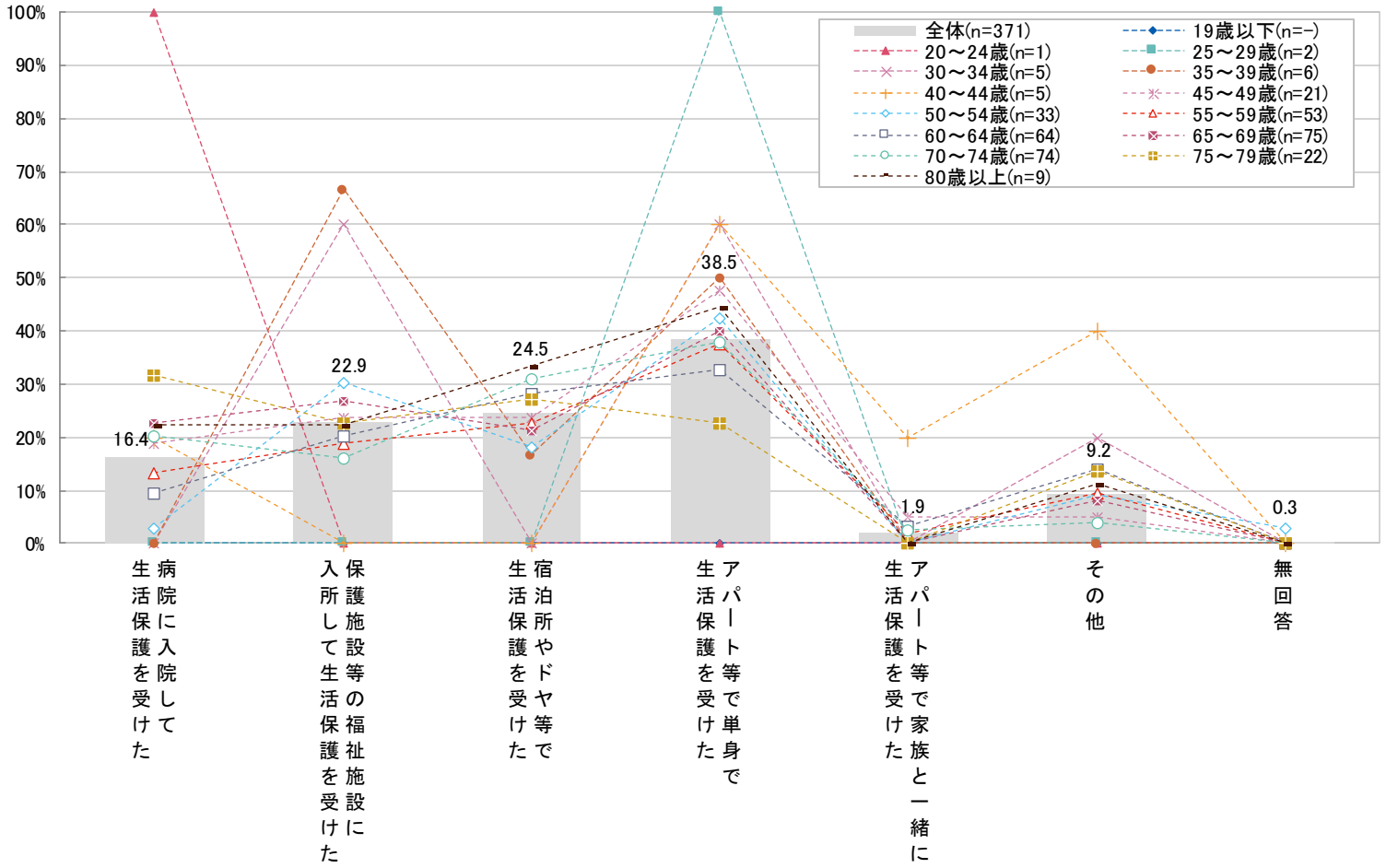
図表72　生活保護の利用経験（年齢階層別）



問３１－１ 生活保護制度の利用方法

- 生活保護制度の利用方法については、「４０～４４歳以下」及び「６５～６９歳以下」の者では「アパート等で単身」の割合が高く、「３５～３９歳以下」の者では「福祉施設」の割合が高く、「７５～７９歳以下」の者では「病院に入院していた」の割合が高い。

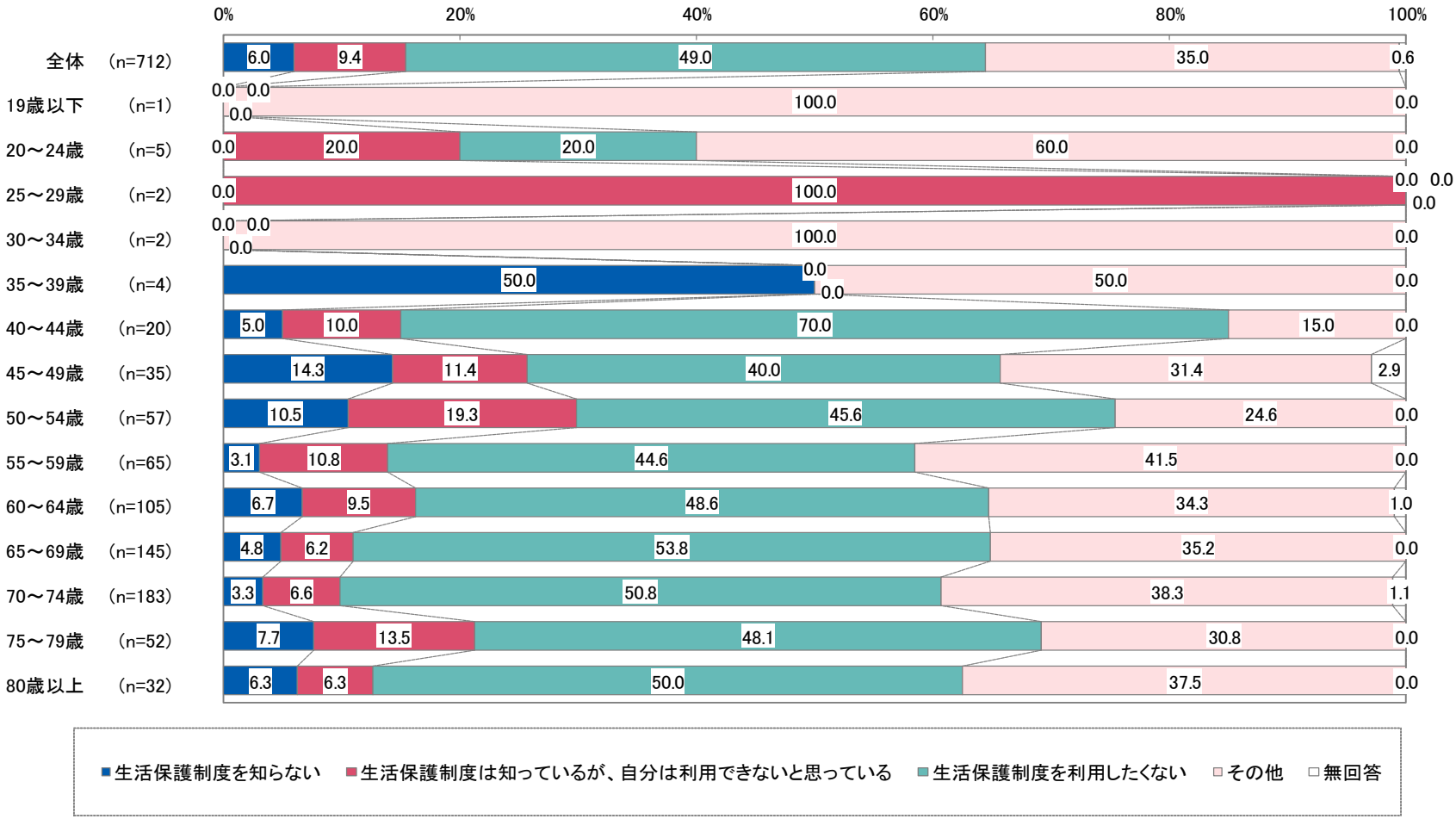
図表73　生活保護制度の利用方法（年齢階層別）



問３１－２ 生活保護制度を利用しなかった理由

- 生活保護制度を利用しなかった理由については、 「５０～５４歳以下」 及び「７５～７９歳以下」の者では「利用できないと思っている」の割合が高く（それぞれ19.3% 、13.5%）、「４０～４４歳以下」及び「６５～６９歳以下」の者では「利用したくない」の割合が高い（それぞれ70.0%、53.8%）。

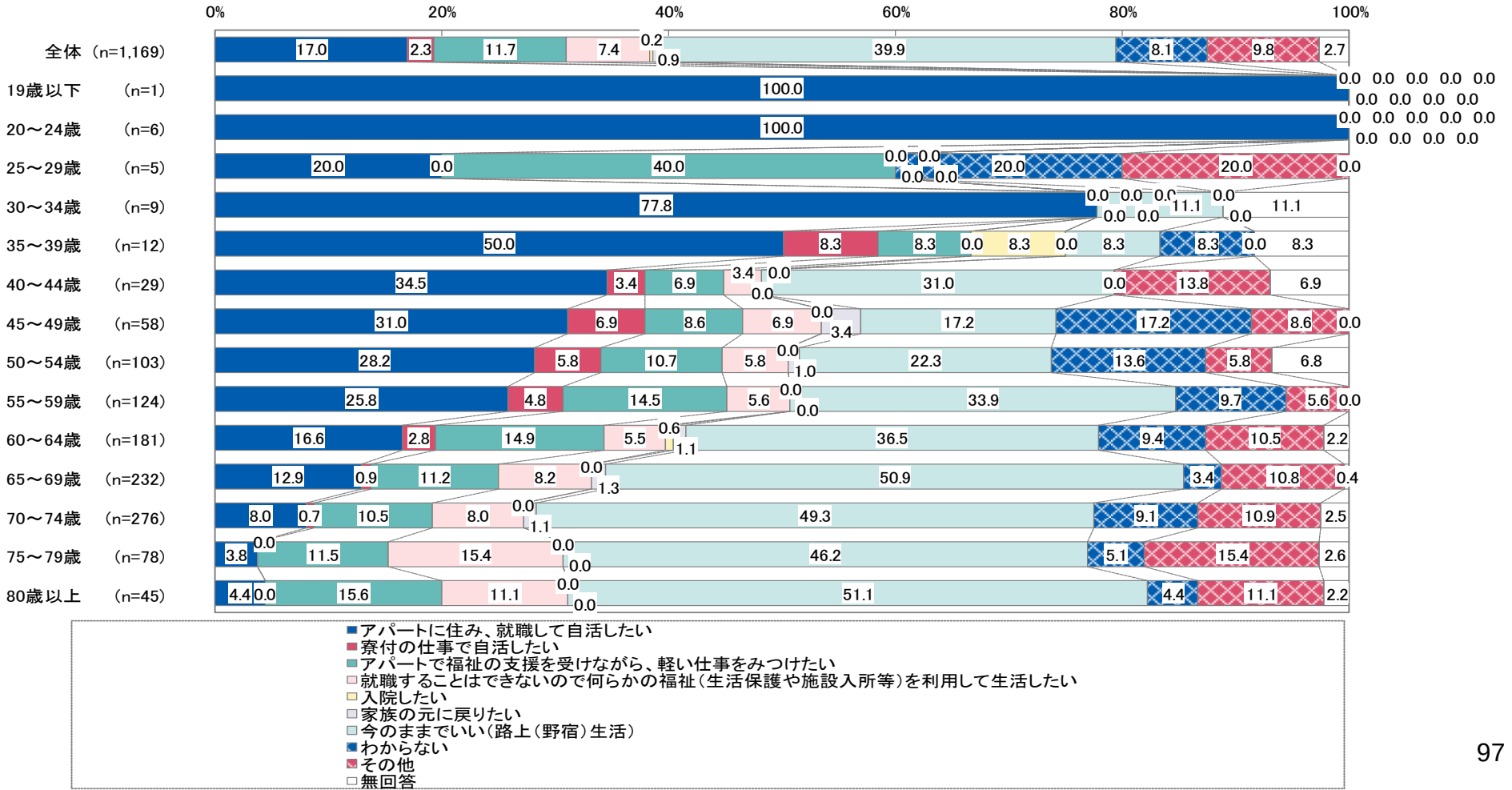
図表74　生活保護制度を利用しなかった理由（年齢階層別）



問３６ 今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、年齢が下がるごとに、「アパートに住み、就職して自活したい」の割合が高くなり、年齢が上がるごとに「今のままでいい」の割合が高くなる傾向にある。

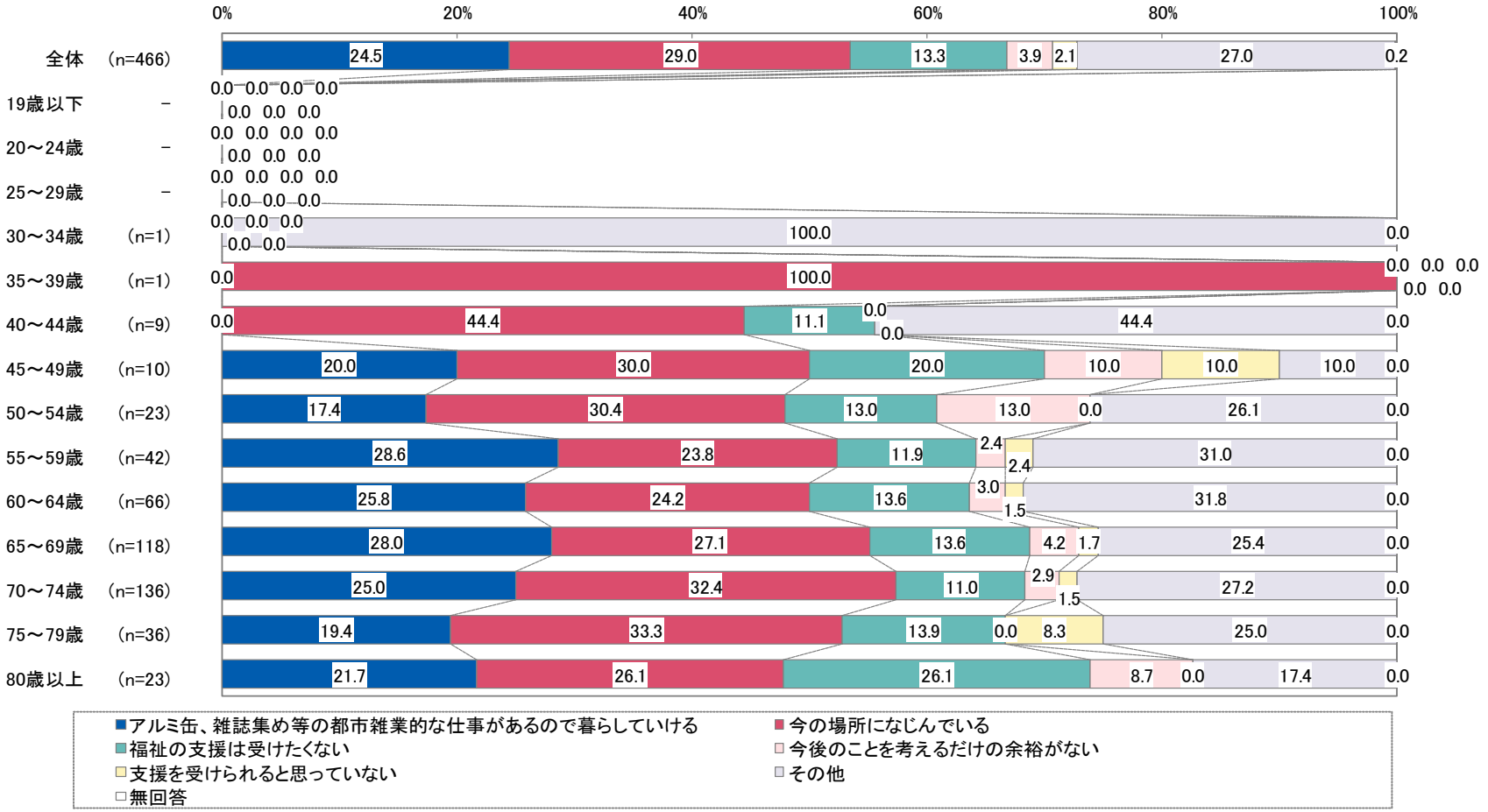
図表75　今後望んでいる生活（年齢階層別）



問３６－１ 今のままでいい理由

- 今の生活のままでいい理由については、「５５～５９歳以下」の者では「都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」の割合が高く（28.6%）、「７５～７９歳以下」の者では「今の場所になじんでいる」（33.3%）、「８０歳以上」の者では「今の場所になじんでいる」 「福祉の支援は受けたくない」の割合が高い傾向にある（26.1%）。

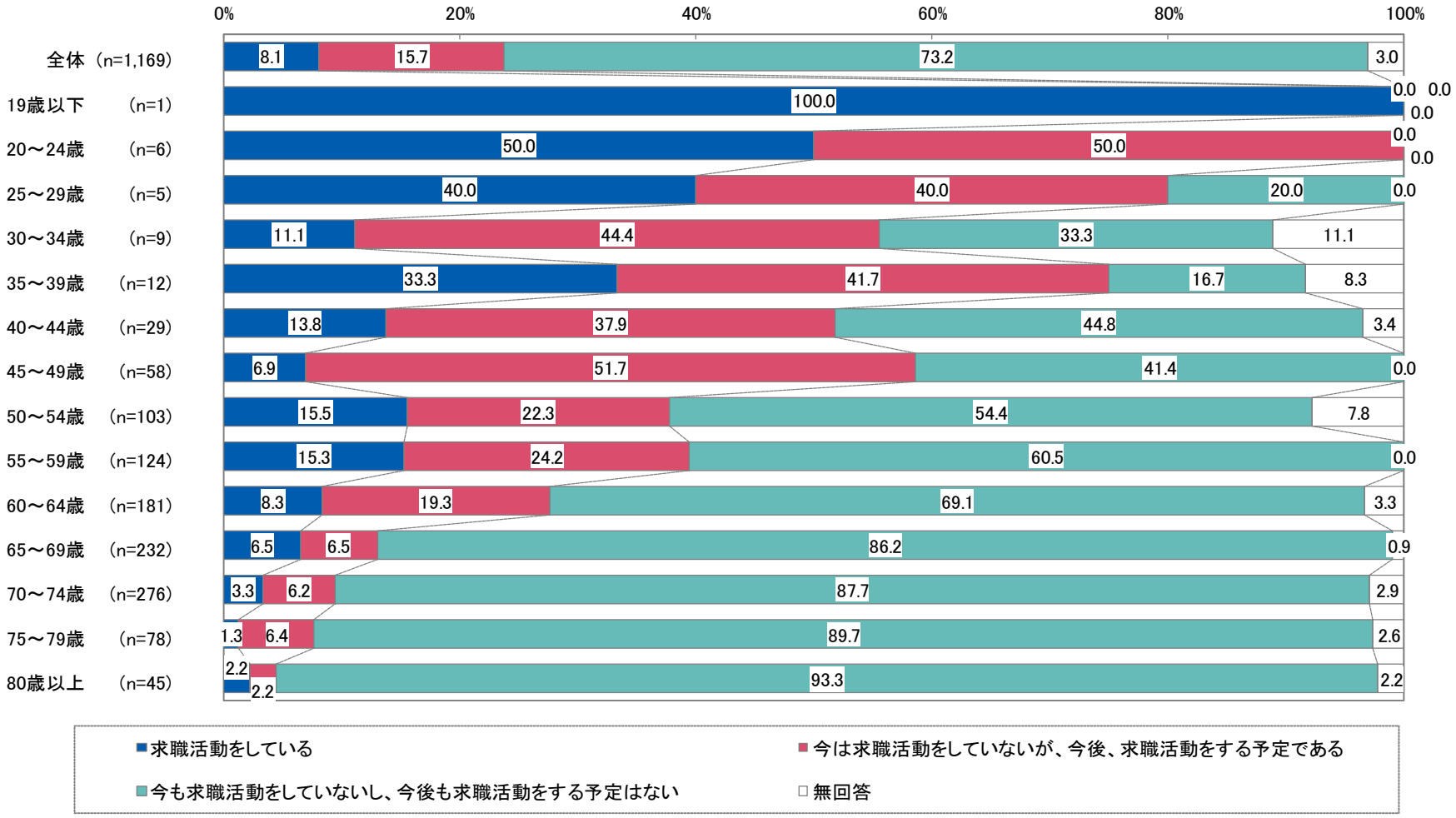
図表76　今のままでいい理由（年齢階層別）



問３７ 就職するための求職活動

- 就職するための求職活動については、「４９歳以下」の者では「求職活動をしている」及び「今後、求職活動する予定である」の割合が高く、「５０歳以上」の者では「求職活動する予定はない」の割合が高い。

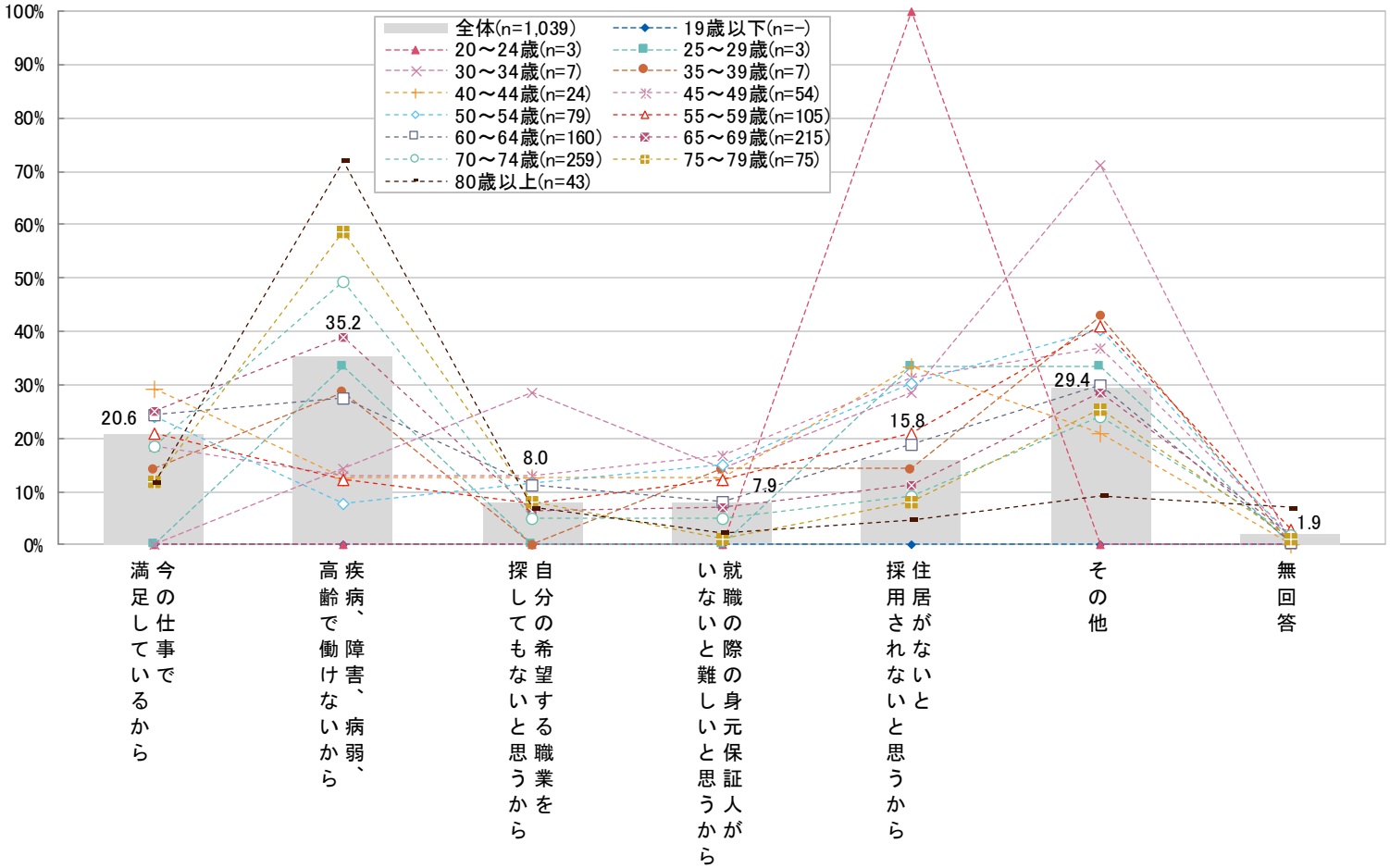
図表77　就職するための求職活動（年齢階層別）



問３７－２ 求職活動をしていない理由

- 求職活動をしていない理由については、「４０～４４歳以下」「４５～４９歳以下」「５０～５４歳以下」の者では「住居がないと採用されないと思う」の割合が高く、「６５歳以上」の者では「「疾病、障害、病弱、高齢で働けないから」の割合が高い傾向にある。

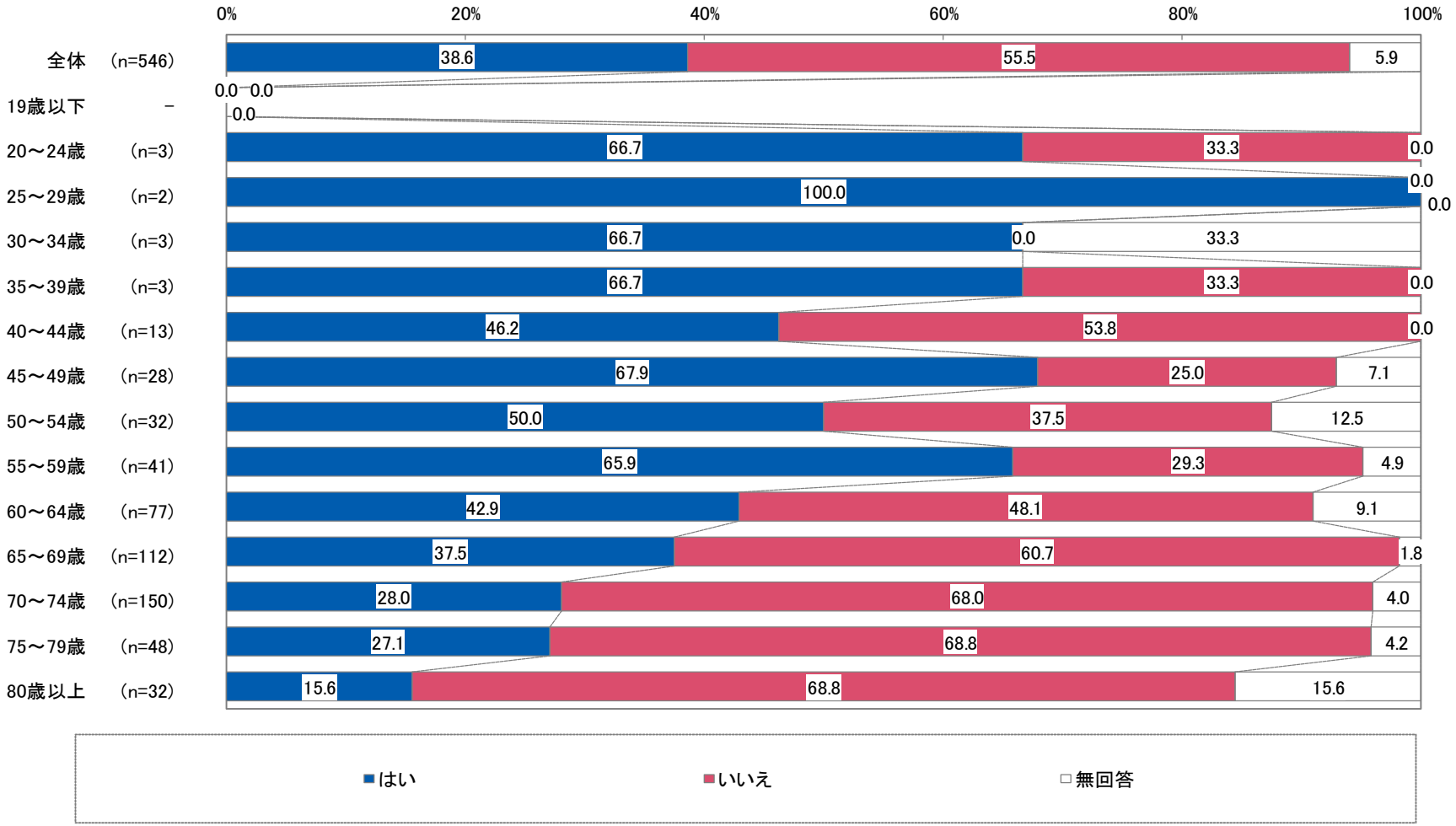
図表78　求職活動をしていない理由（年齢階層別）



問３７－３ 軽作業への参加意向

- 軽作業への参加意向について、「５９歳以下」 （４０～４４歳以下を除く）の者では「はい」の割合が高く、「６０歳以上」の者では「いいえ」の割合が低い。

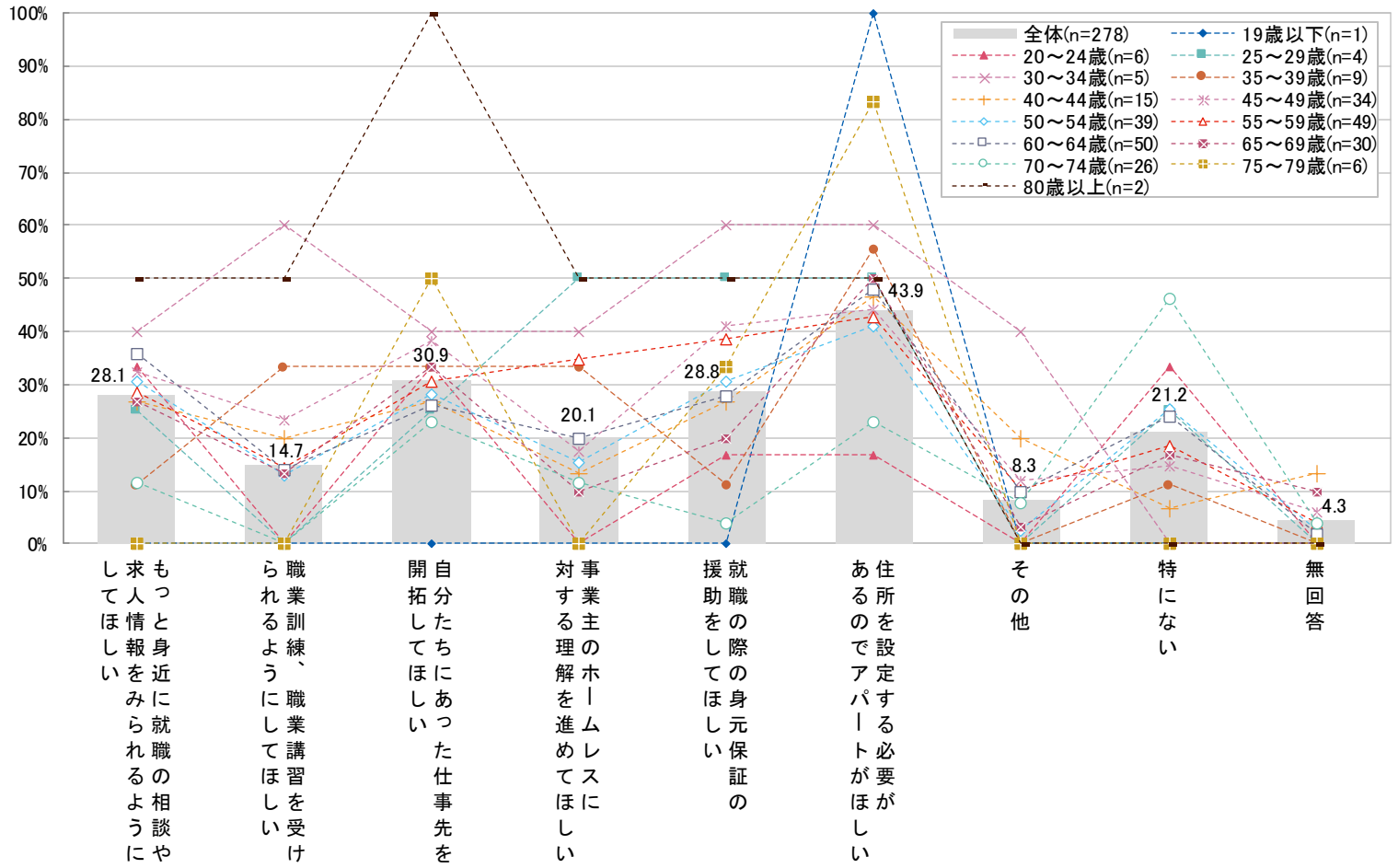
図表79　軽作業への参加意向（年齢階層別）



問３７－５ 就職するために望む支援

- 就職するために望む支援については、「２０～２４歳以下」「８０歳以上」を除く年齢で「住所を設定する必要があるのでアパートが欲しい」の割合が高い。

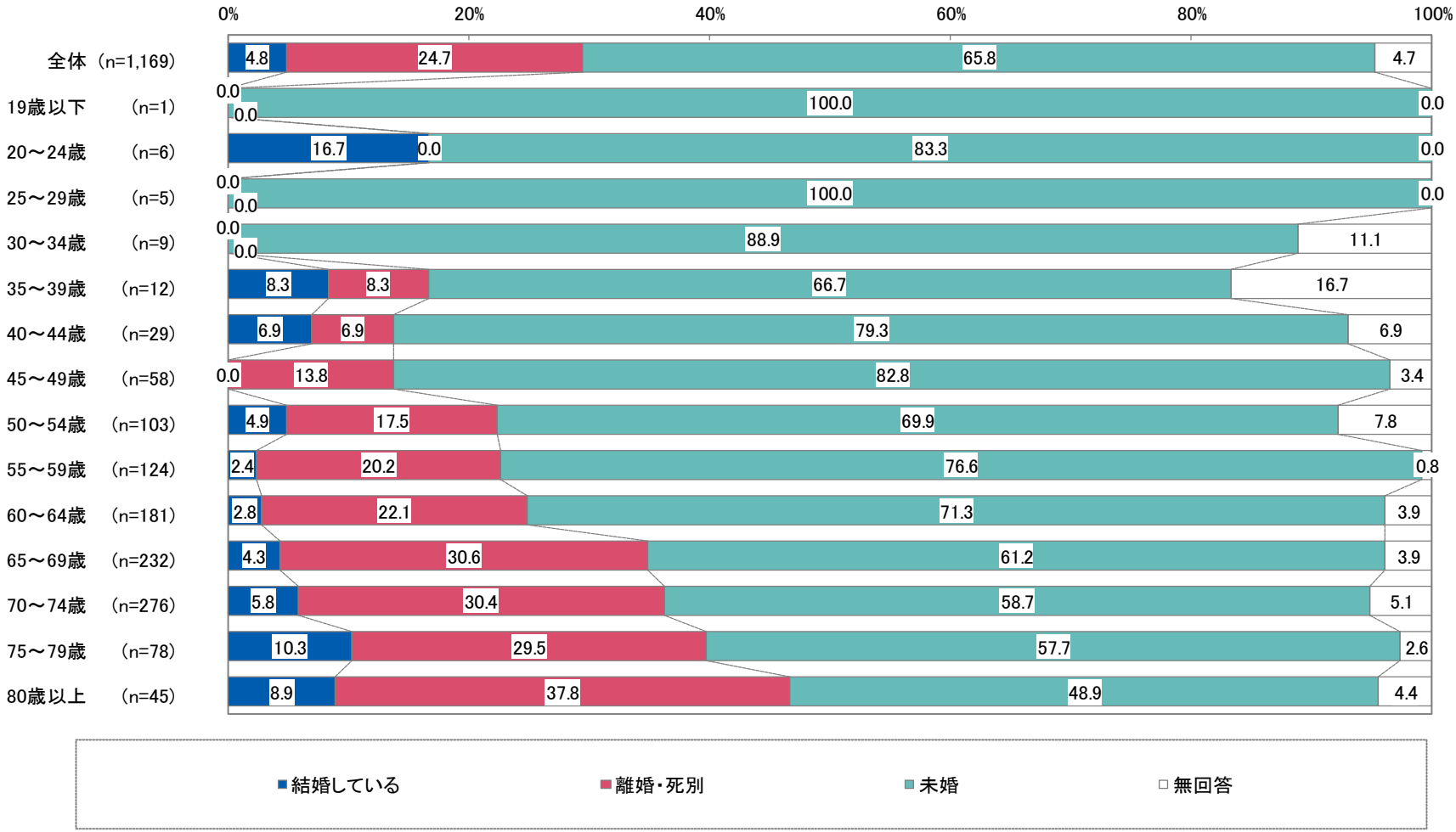
図表80　就職するために望む支援（年齢階層別）



問４１ 結婚の状況

- 結婚については、「５０歳以上」の者では「結婚歴のある人（「結婚している」＋「離別・死別」）」の割合が高くなる傾向にある。

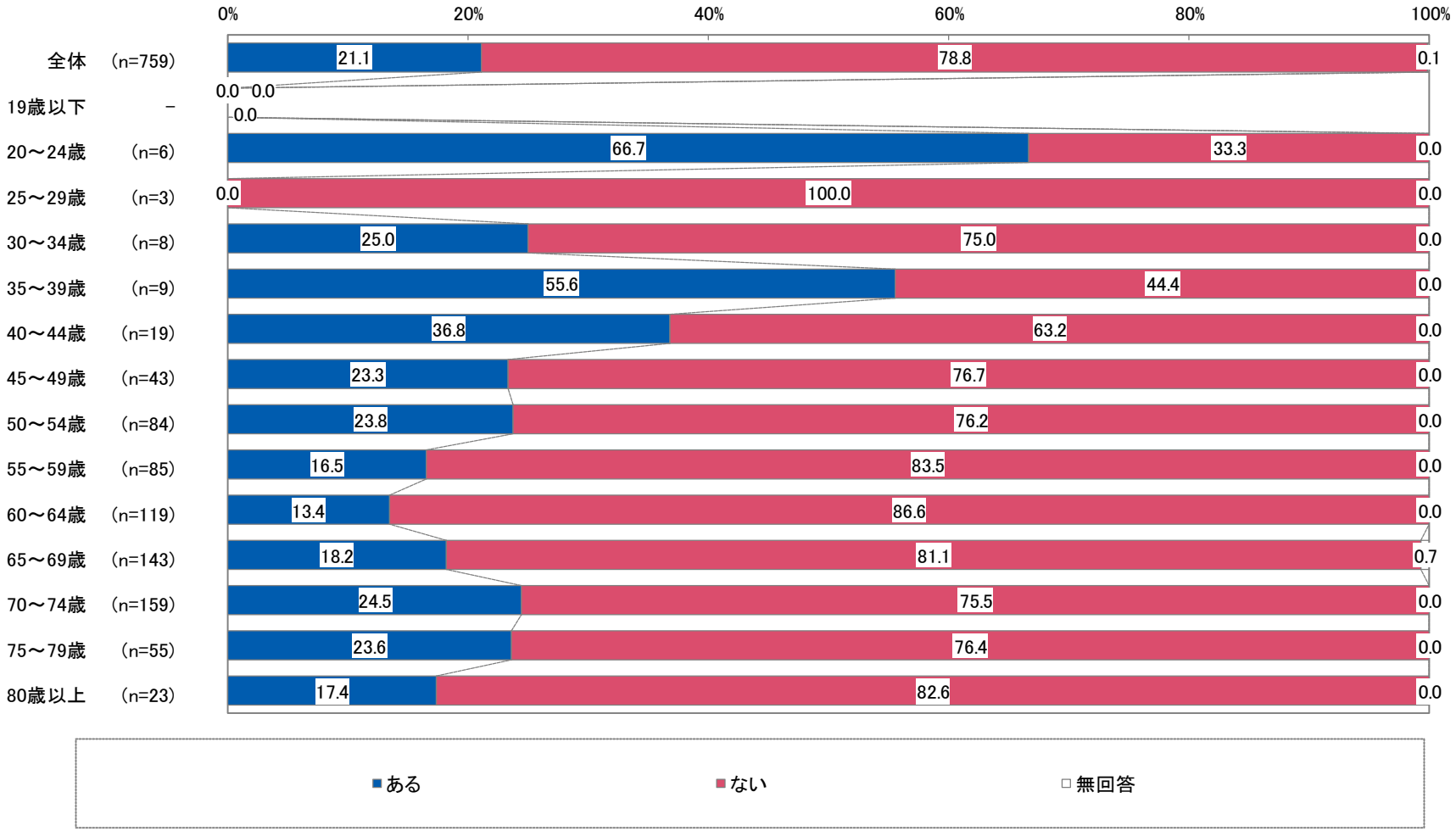
図表81　結婚の状況（年齢階層別）



問４２－１ 家族・親族との連絡

- 家族・親族との連絡については、全世代で「ない」の割合が高いが、「４０～４４歳以下」及び「７０～７４歳以下」の者では「ある」の割合が高い（それぞれ36.8%、24.5%）。

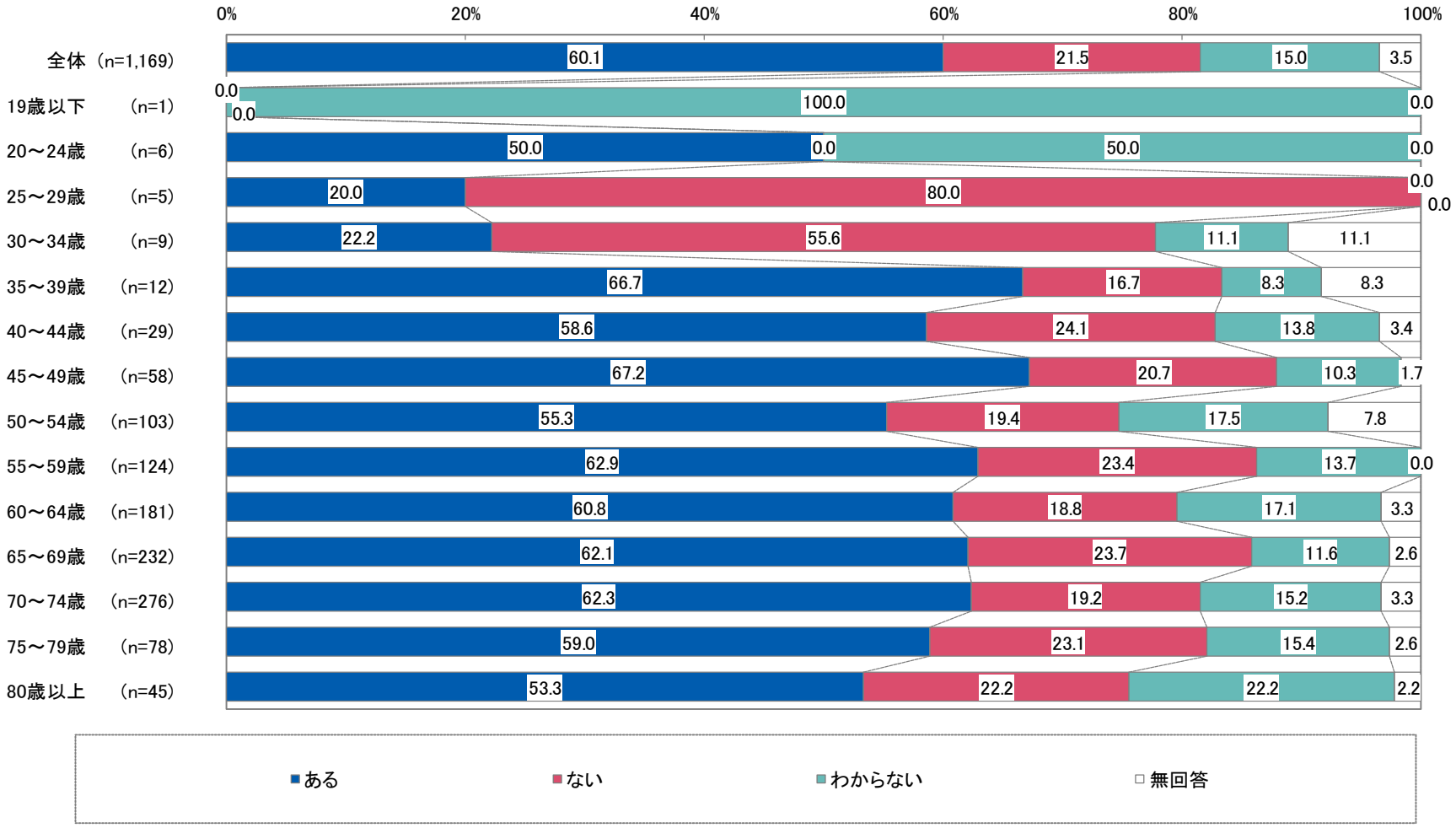
図表82　家族・親族との連絡（年齢階層別）



問４３ 公的年金の保険料の納付

- 公的年金の保険料の納付については、「３５歳以上」の者では「ある」の割合が高く、「２５～３４歳以下」の者では「ない」の割合が高い。

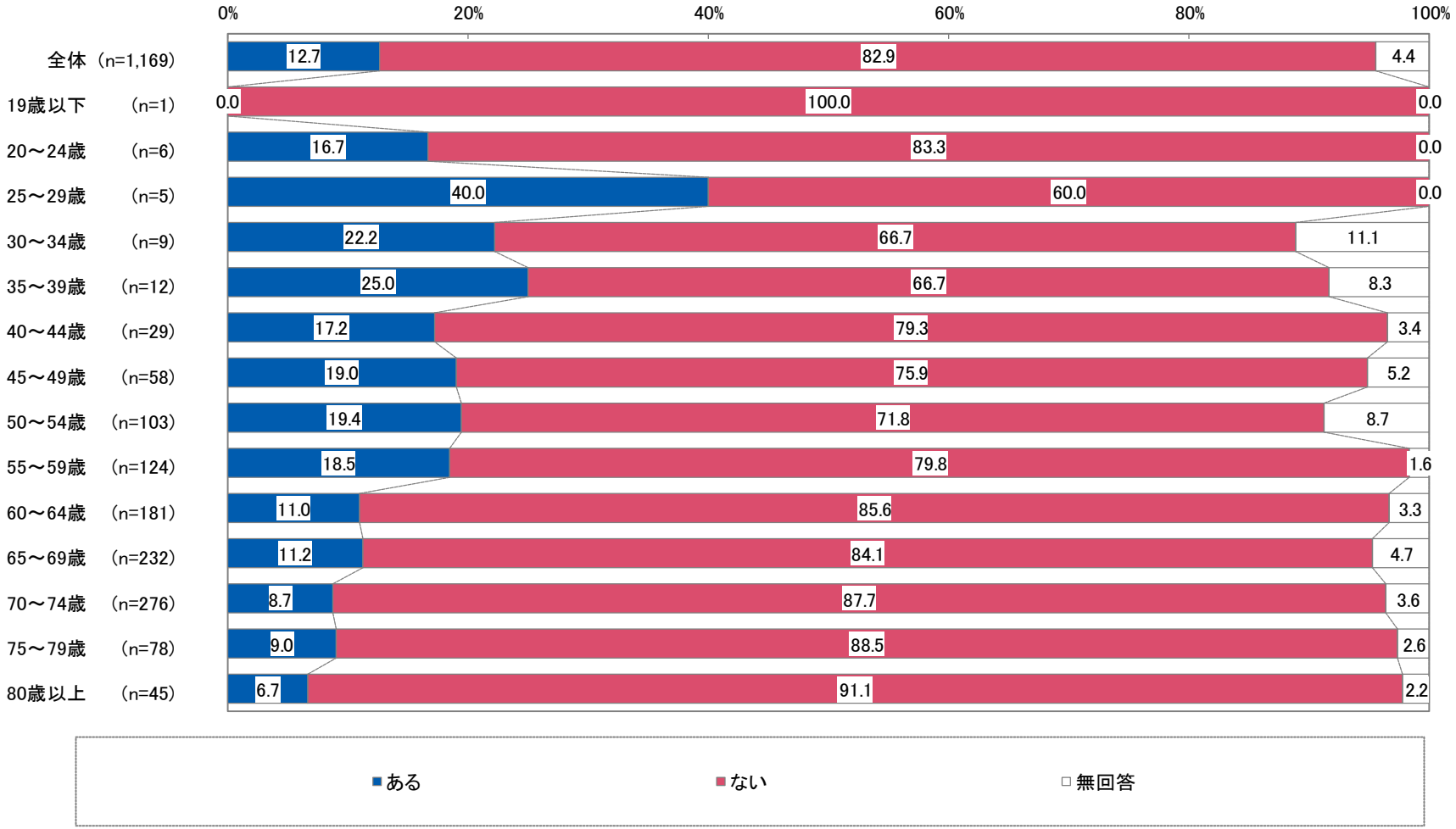
図表83　公的年金の保険料の納付（年齢階層別）



問４４ 金融機関や消費者金融等への借金

- 金融機関や消費者金融からの借金については、年齢が下がることに伴って、「ある」の割合が高い傾向にある。

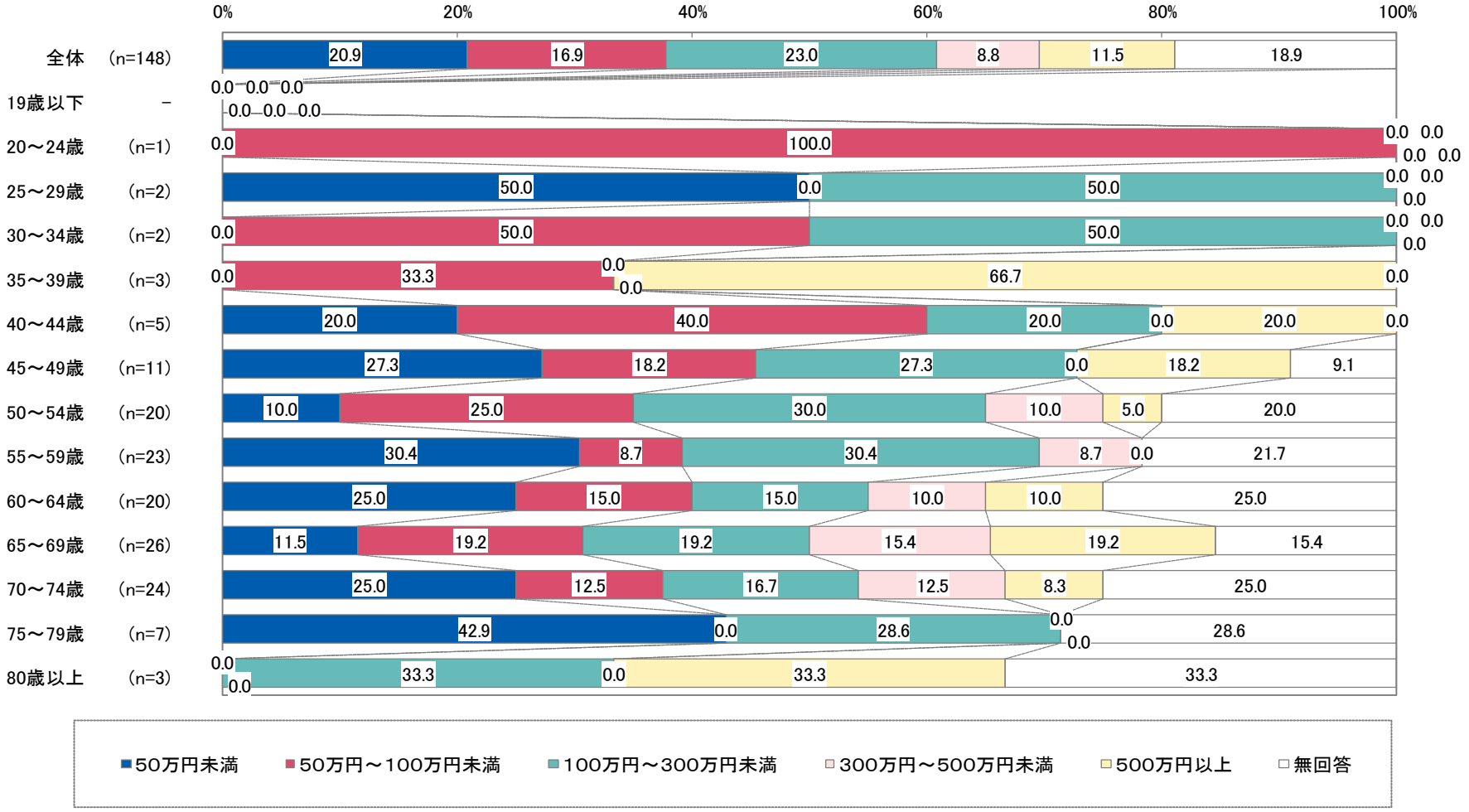
図表84　金融機関や消費者金融等への借金（年齢階層別）



問４４－１ 借金の金額

- 借金の金額については、年齢が上がることに伴って、借金の金額が高くなる傾向にある。

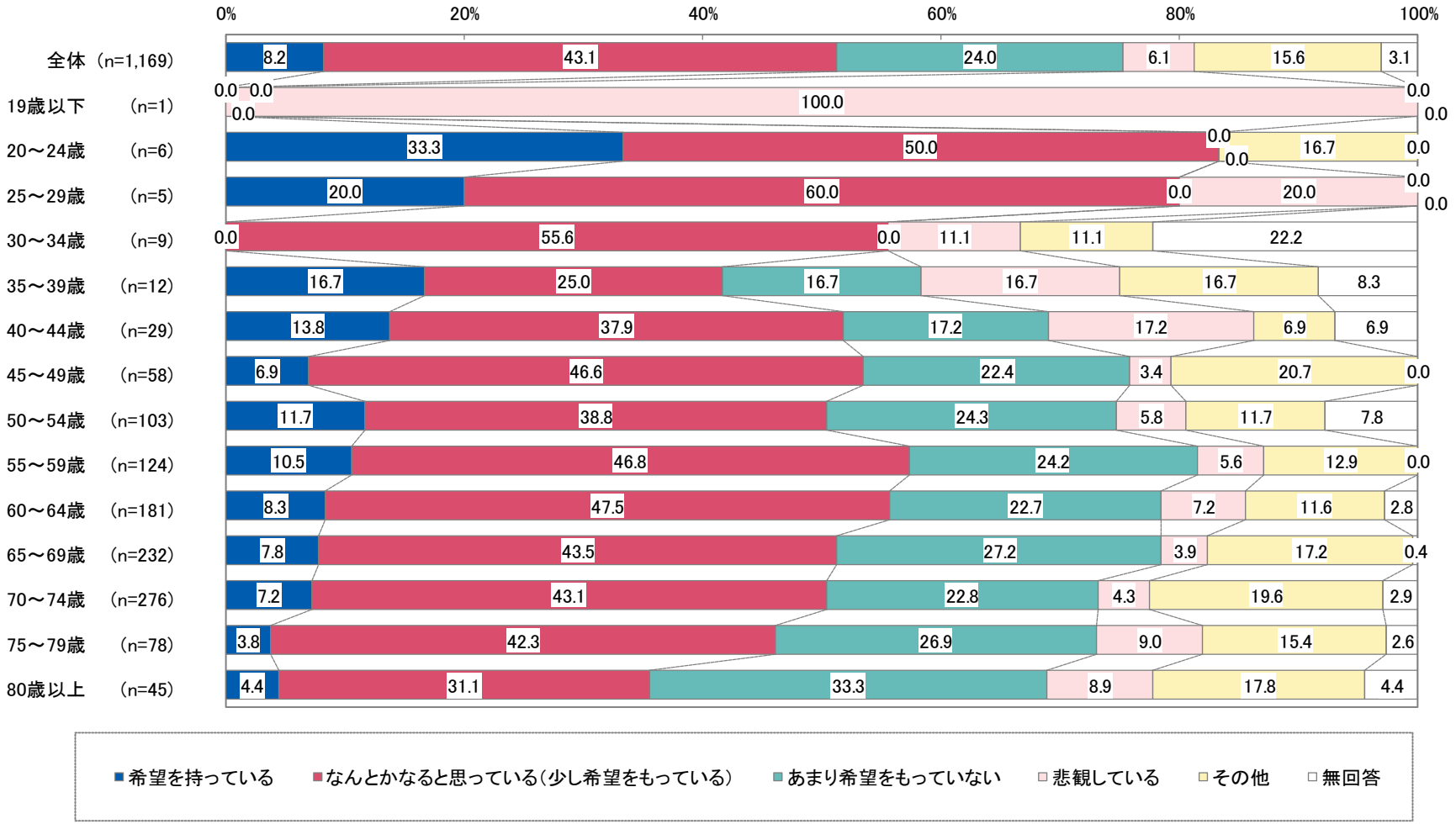
図表85　借金の金額（年齢階層別）



問４７ 現在の気持ち

- 現在の気持ちについて、「３５歳～３９歳」「８０歳以上」は、「希望をもっている」「なんとかなると思っている（少し希望を持っている）」をあわせた割合が低い。（全体：51.3%、 35歳～39歳：41.7%、80歳以上：35.5%）

図表86　現在の気持ち（年齢階層別）



Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

3

今回の
路上生活期間別

ひと、くらし、みらいのために

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

路上生活期間別の傾向について

路上での生活

- 路上での生活期間が長くなるに伴い、年齢も上がる傾向にある。
- 寝場所は、路上生活期間が長くなるほど一定の場所に決まっている割合が高い。
- 具体的な寝場所では、路上生活期間が１年を超えると河川の割合が高くなる。
- 寝場所をつくる方法では、路上生活期間が長くなるほど、テントや小屋を常設の割合が高くなる。
- 仕事では、路上生活期間が３年以上は仕事による収入を得ている割合が高い。
- 周囲とのつながりでは、路上生活期間が短いほど挨拶や世間話をする割合が低い。一方、「３ヶ月～１年未満」はNPO法人や公的機関の集会や相談会への参加割合が高い。

福祉制度の周知・利用状況

- シェルターや自立支援センターの周知度・利用度では、大きな差が見られないが、路上生活期間が短いほど、シェルター・自立支援センターの利用意向が高い。

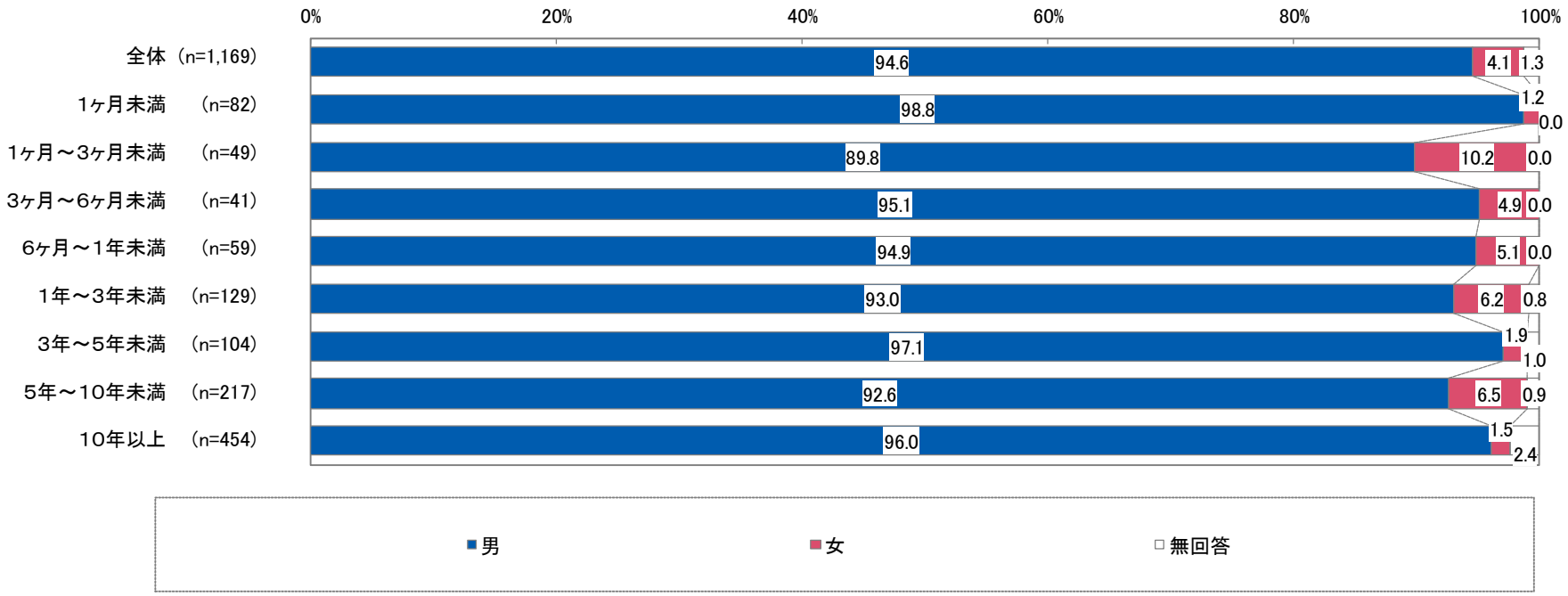
今後の生活

- 今後望んでいる生活は、路上生活期間が短くなればなるほど、アパートや寮といった住居と仕事を確保して自活を希望する割合が高い。
- 路上生活期間が短いほど、求職活動中、求職活動意向、軽作業への参加意向の割合が高い。

性別

- 今回の路上生活期間別については、全体の「女性」が4.1%である一方で、「１ヶ月～３年未満」の者では「女性」10.2%と割合が高い。

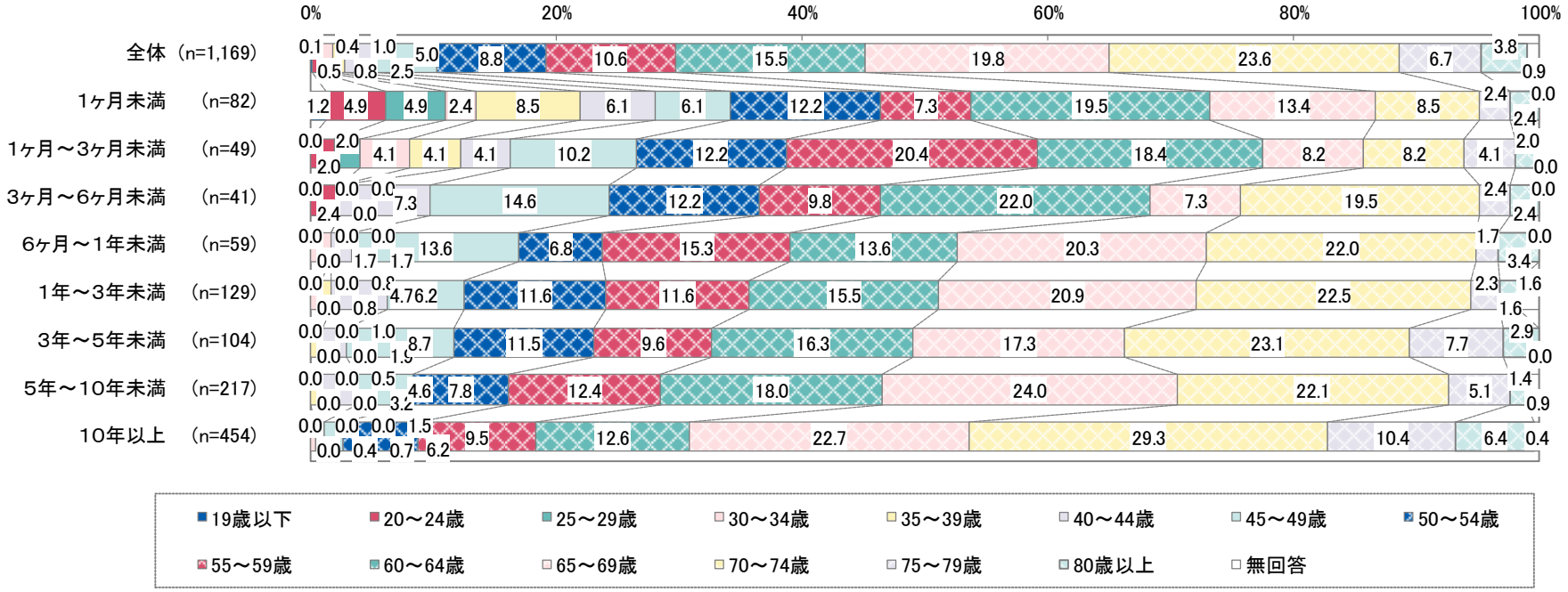
図表87　性別（今回の路上生活期間別）



年齢

- 年齢については、路上生活期間が長くなることに伴って、年齢も上がる傾向にあり、「１ヶ月～３ヶ月未満」の者では「５５～５９歳以下」の割合が高く（20.4%）、「６ヶ月～１年未満」の者では「６５～６９歳以下」の割合が高く（20.3%）、「３年～５年未満」の者では「７０～７４歳以下」の割合が高い（23.1%）。

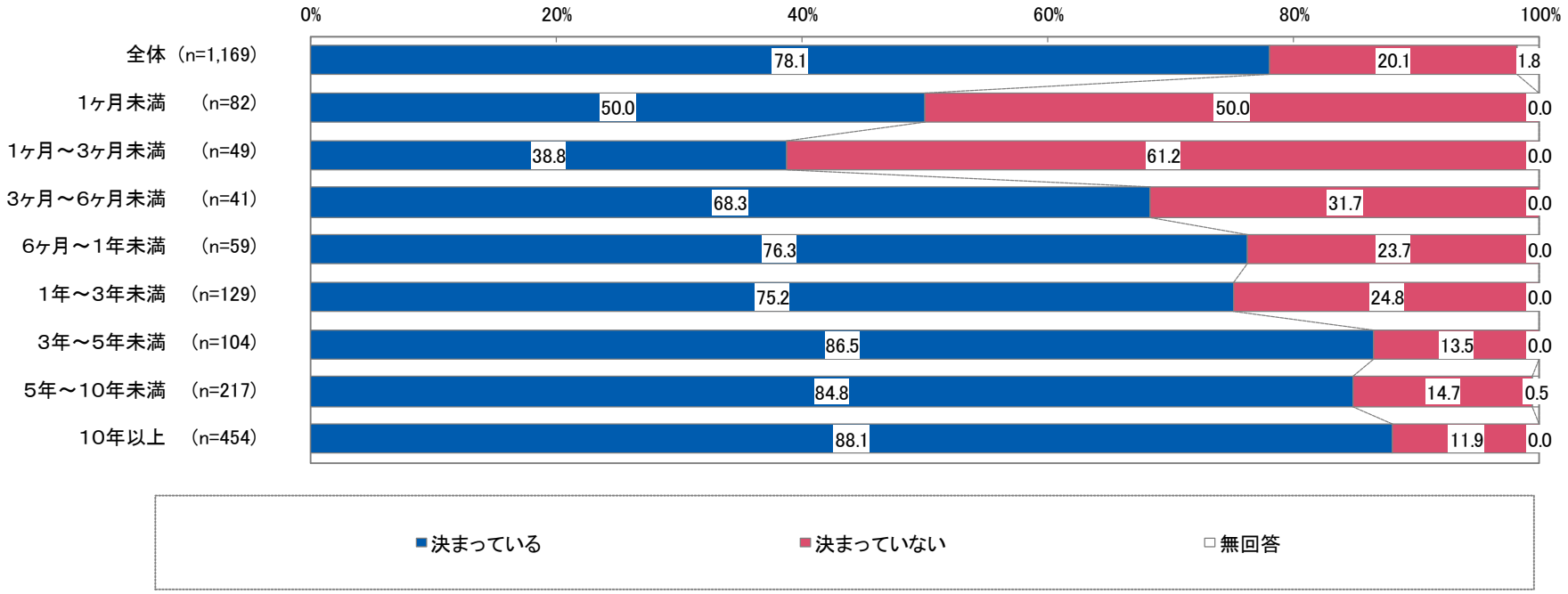
図表88　年齢（今回の路上生活期間別）



問１　寝ている場所

- 寝ている場所については、「３ヶ月以上」の者では「一定の場所で決まっている」の割合が高くなる傾向にある。

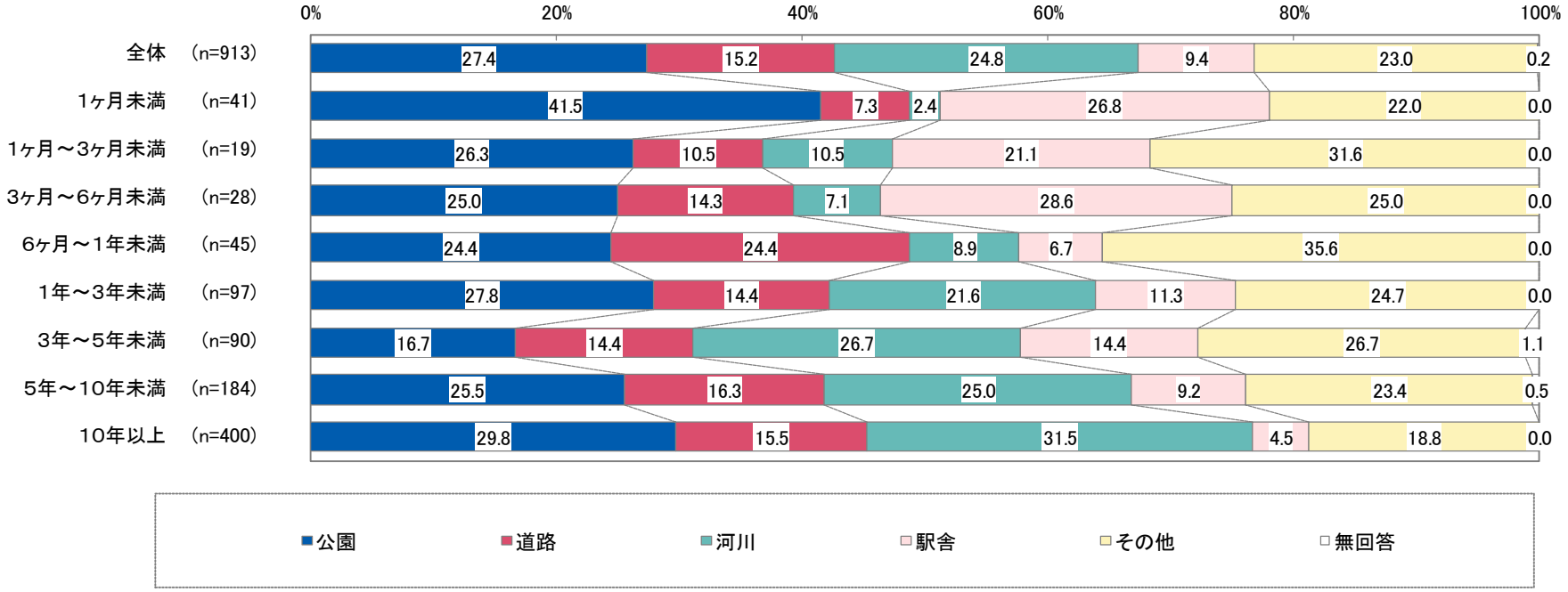
図表89　寝ている場所（今回の路上生活期間別）



問１－１ 寝ている場所（具体的に）

- 寝ている場所（具体的に）については、「１ヶ月未満」の者では「公園」の割合が高く（41.5%）、「３～６ヶ月未満」の者では「駅舎」の割合が高く（28.6%）、「６ヶ月～１年未満」の者では「道路」の割合が高く（24.4%）、「１０年以上」の者では「河川」の割合が高い（31.5%）。

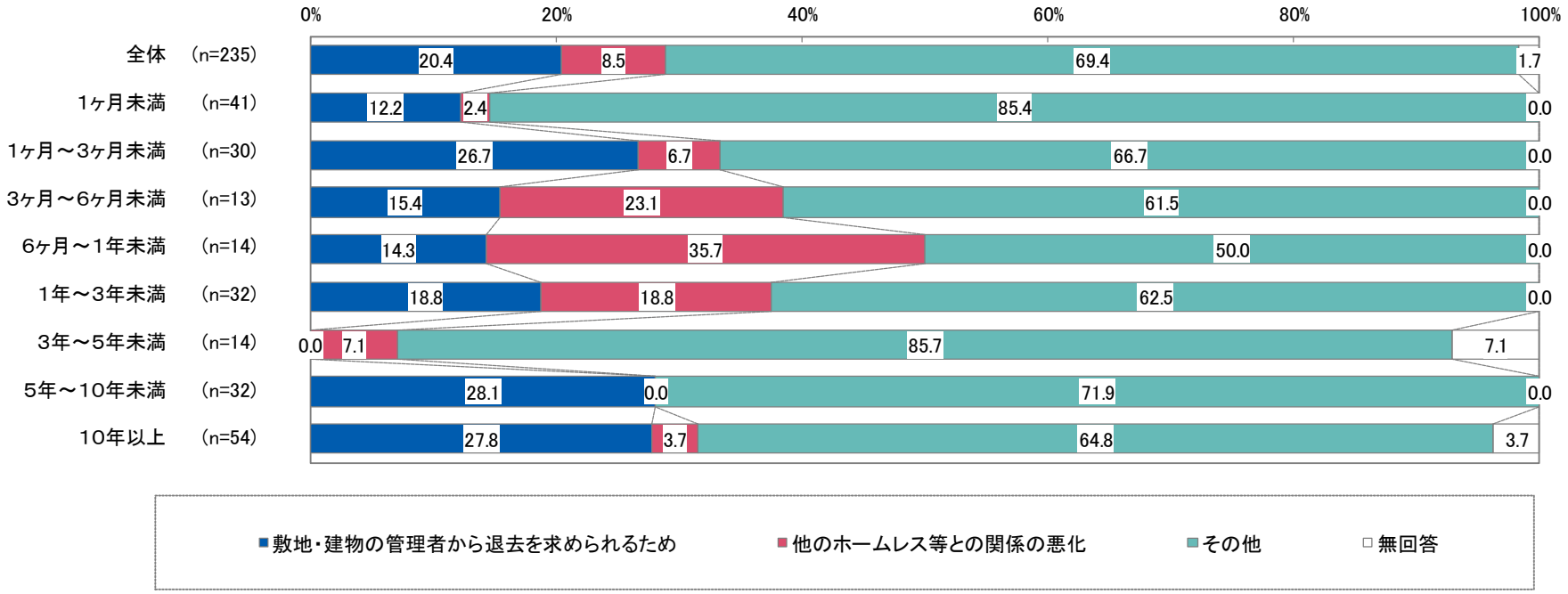
図表90　寝ている場所（具体的に）（今回の路上生活期間別）



問１－２ 寝ている場所を変更する理由

- 寝ている場所を変更する理由について、「６ヵ月～１年未満」では「他のホームレス等との関係の悪化」の割合が高い（35.7%）。

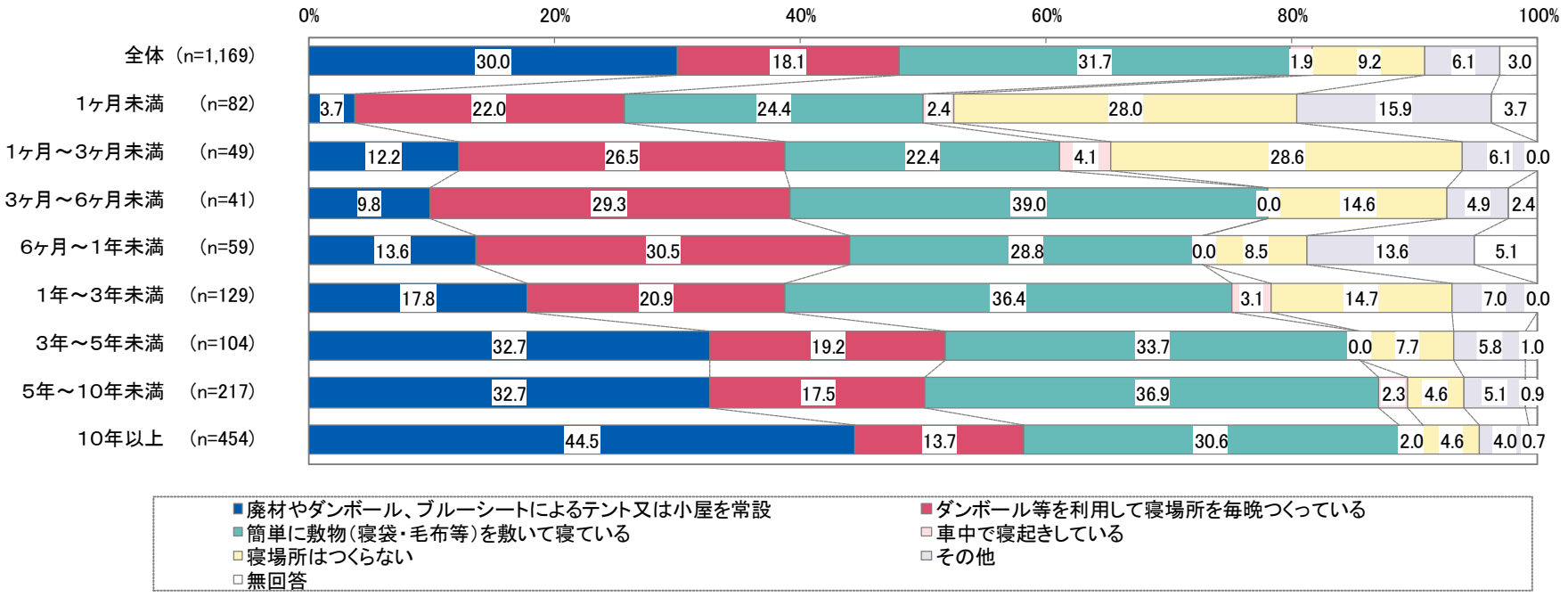
図表91　寝ている場所を変更する理由（今回の路上生活期間別）



問２ 寝場所を作る方法

- 寝（野宿）場所をつくる方法については、路上生活期間が長くなることに伴って、「テント又は小屋を常設」の割合が高くなり、「寝場所はつくらない」の割合が低くなる傾向にある。「３ヶ月～１０年未満」の者では「寝場所はつくらない」の割合が高い。

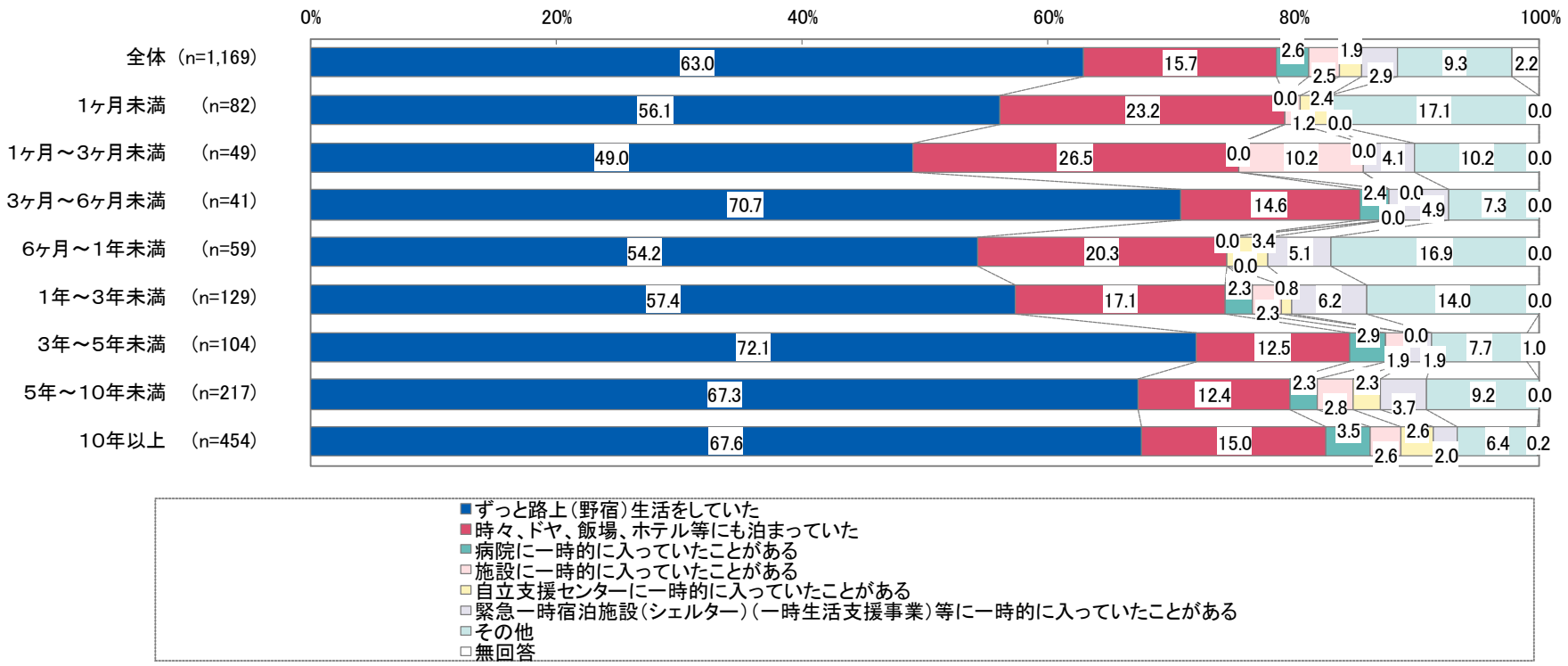
図表92　寝場所を作る方法（今回の路上生活期間別）



問４ 今回の路上生活の継続について

- 今回の路上（野宿）生活の継続については、路上生活期間にかかわらず「ずっと路上（野宿）生活をしていた」の割合が高いが、一定数は路上生活以外との行き来がある。

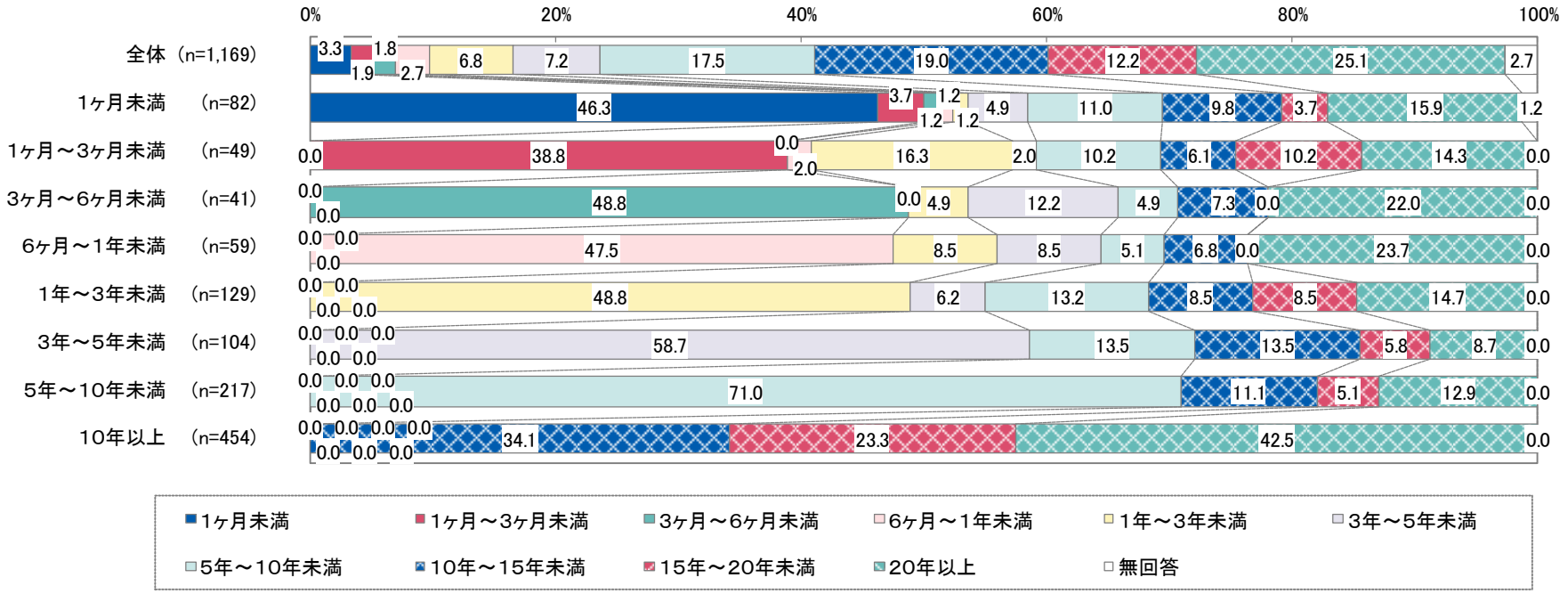
図表93　今回の路上生活の継続について（今回の路上生活期間別）



問５ 初めて路上生活をしてからの期間

- 初めて路上生活をしてからの期間について、「１０年以上」の者では「２０年以上」の割合が高い（42.5%）。

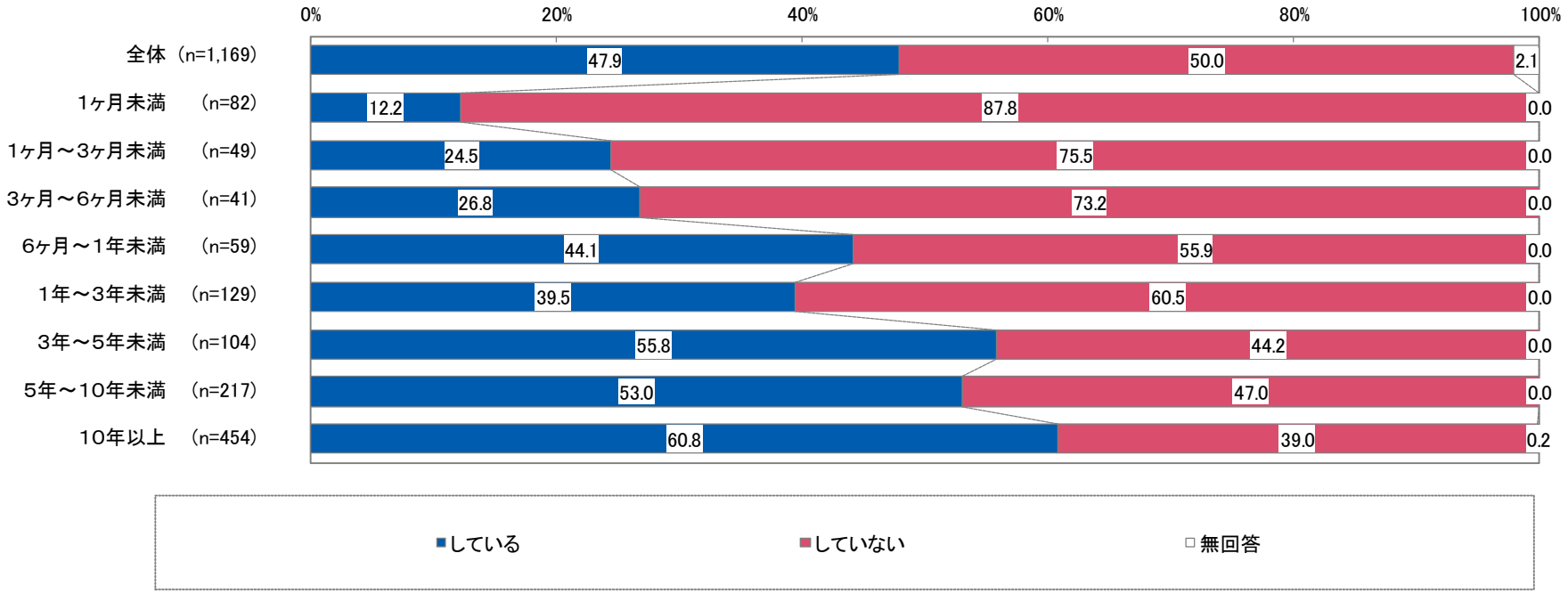
図表94　初めて路上生活をしてからの期間（今回の路上生活期間別）



問６ 現在収入のある仕事

- 現在収入のある仕事については、「３年以上」の者では「している」の割合が高い。

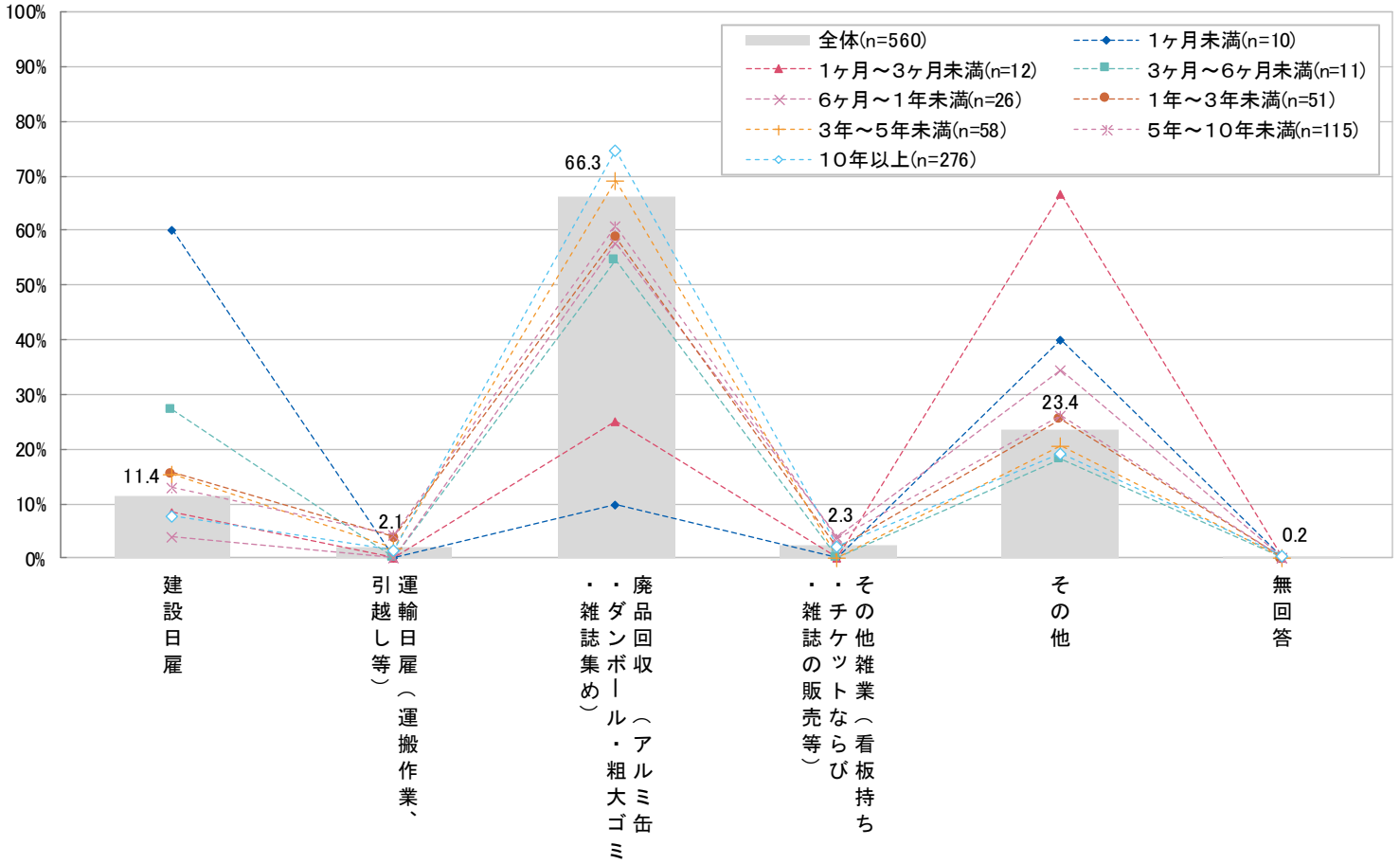
図表95　現在収入のある仕事（今回の路上生活期間別）



問６－１ 仕事（具体的に）

- 仕事内容については、「１ヶ月未満」の者では「建設日雇」の割合が高く、「１ヶ月未満」及び「１ヶ月～３ヶ月未満」の者以外では「廃品回収」の割合が高い。

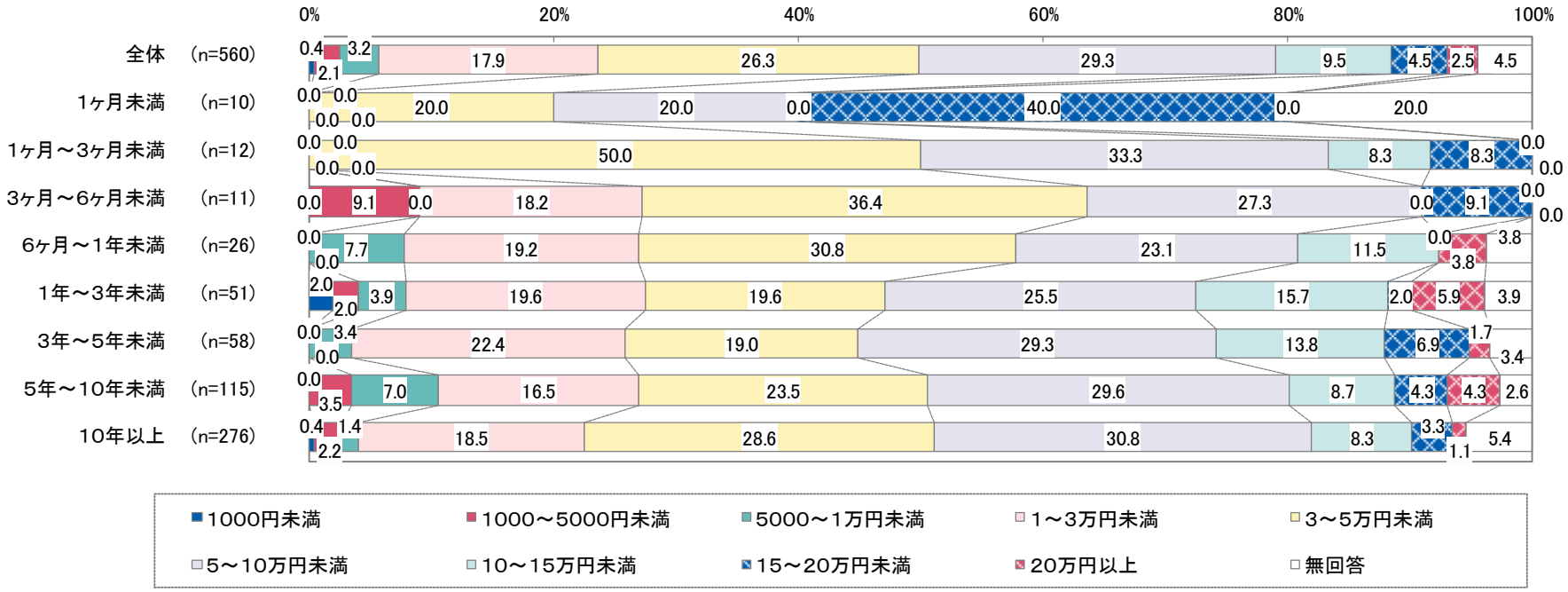
図表96　仕事（具体的に）（今回の路上生活期間別）



問６－２ 仕事による平均収入

- 仕事による平均収入について、「１ヵ月未満」の者では「１５～２０万円未満」の割合が高い（40.0%）。また、「１ヵ月～３ヵ月未満」の者では「３～５万円未満」の割合が高い（50.0%）。

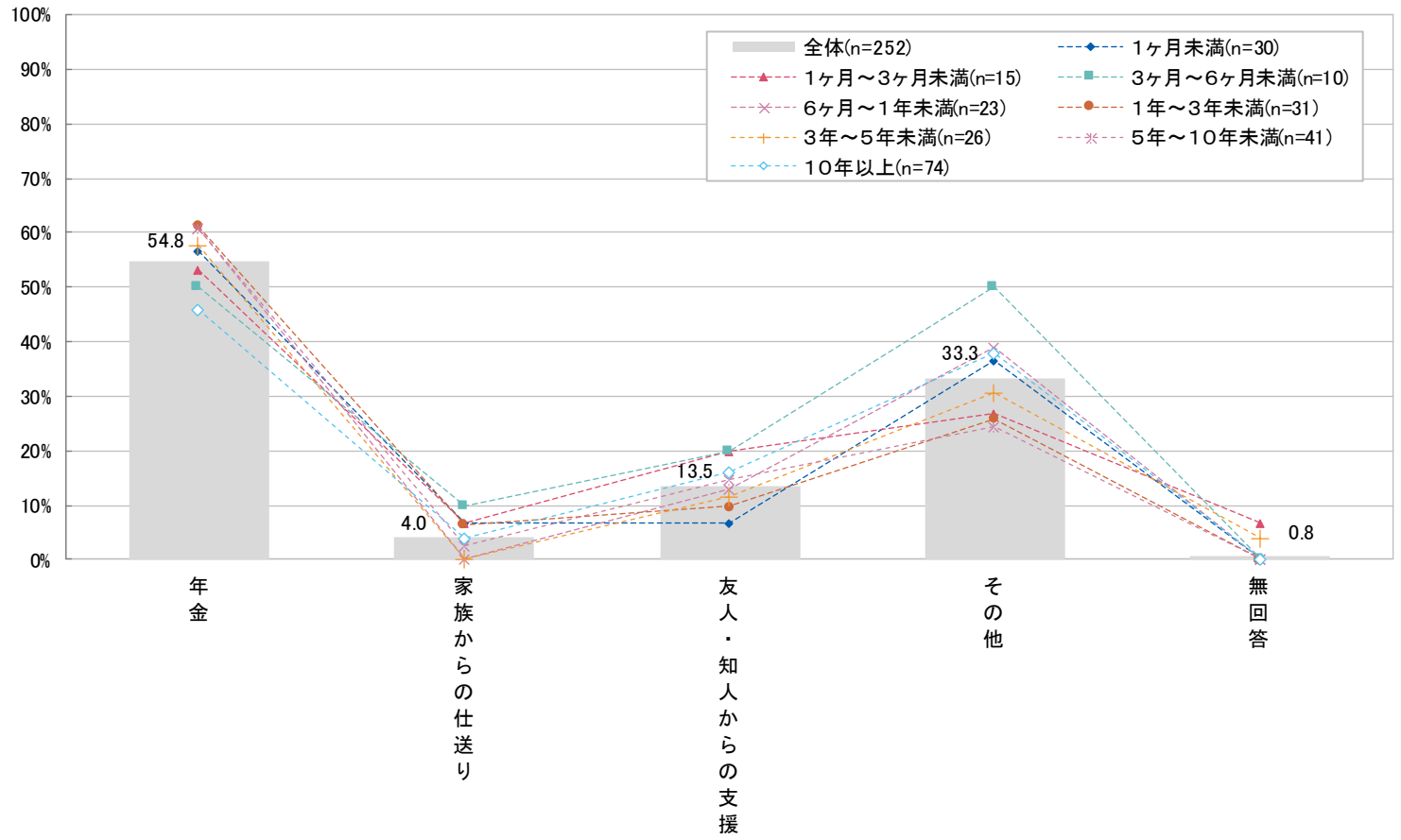
図表97　仕事による平均収入（今回の路上生活期間別）



問７－１ 仕事以外の収入の種類

- 仕事以外の収入の種類については、路上生活期間にかかわらず「年金」の割合が高く、「１ヶ月～３ヶ月」「３ヶ月～６ヶ月未満」の者では「友人・知人からの支援」の割合が高い。

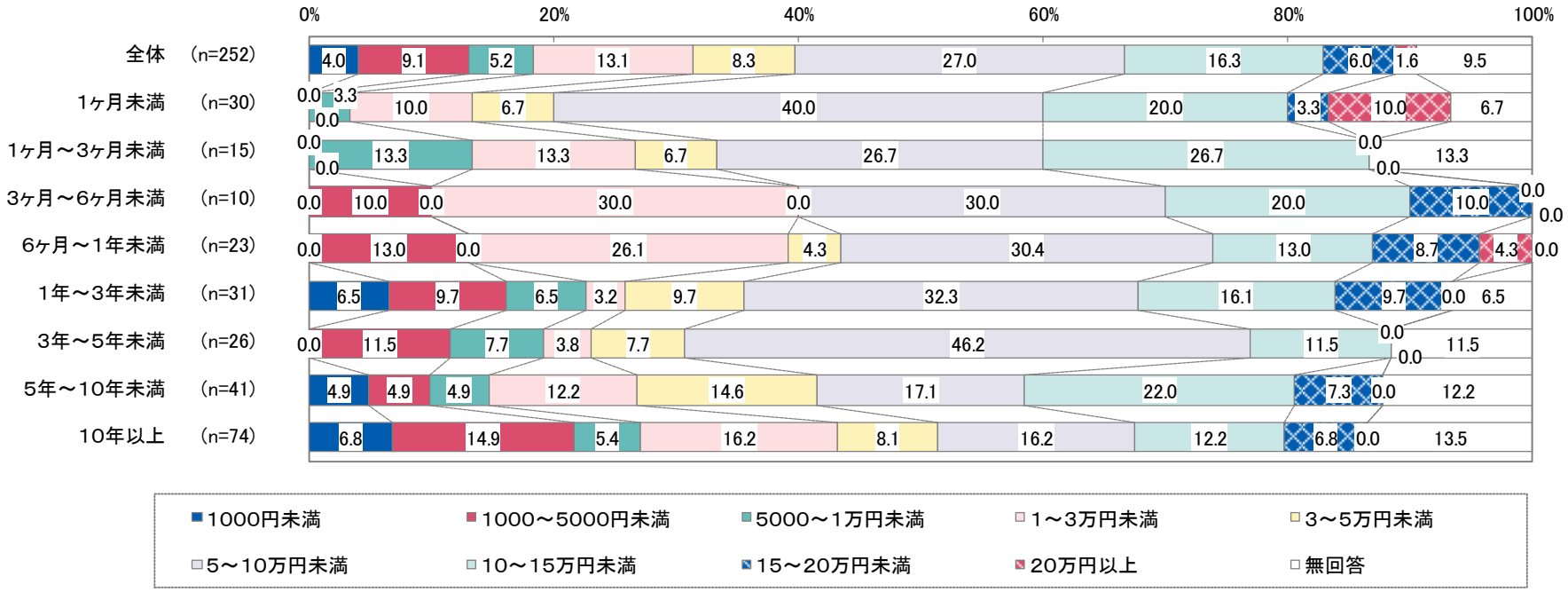
図表98　仕事以外の収入の種類（今回の路上生活期間別）



問７－２ 仕事以外の平均収入

- 仕事以外の平均収入（月額）については、「１ヶ月未満」の者では「５～１０万円未満」の割合が高く（40.0%）、「５年～１０年未満」の者では、「１０～１５万円未満」の割合が高い（22.0%）。

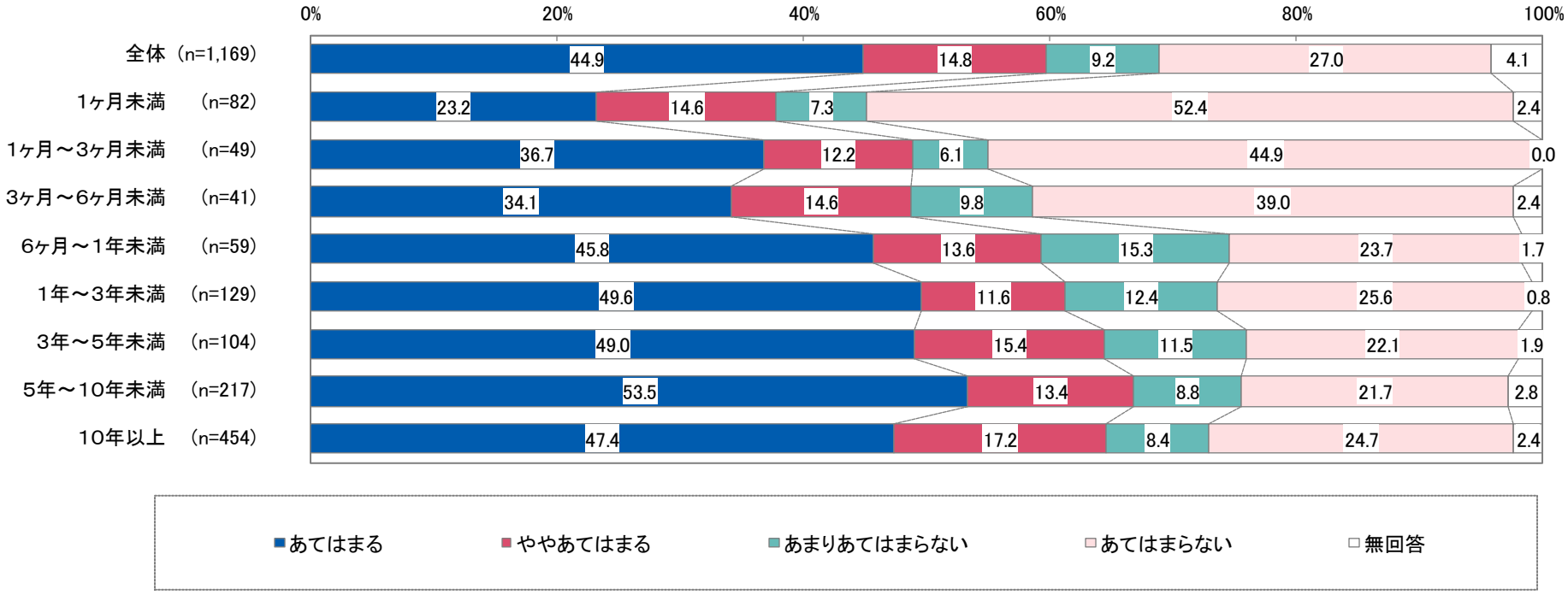
図表99　仕事以外の平均収入（今回の路上生活期間別）



問９ 周囲とのつながり

- 挨拶をする相手がいるかについては、「６ヶ月未満」の者では「あてはまらない」の割合が高く、「６ヶ月」以上の者は「あてはまる」の割合が高い。

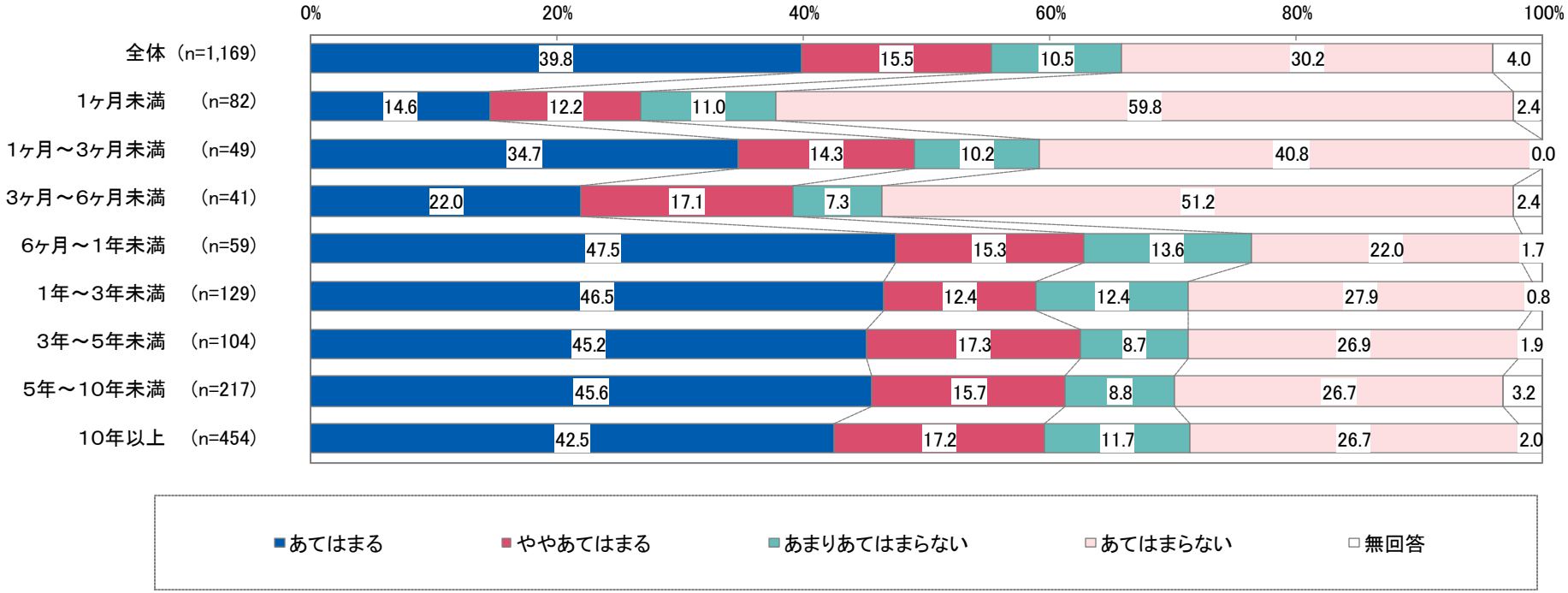
図表100-１　周囲とのつながりについて：挨拶をする相手がいる＜現在＞



問９ 周囲とのつながり

- 世間話をする相手がいるかについては、「6ヶ月未満」の者では「あてはまらない」の割合が高く、「６ヶ月」以上の者は「あてはまる」の割合が高い。

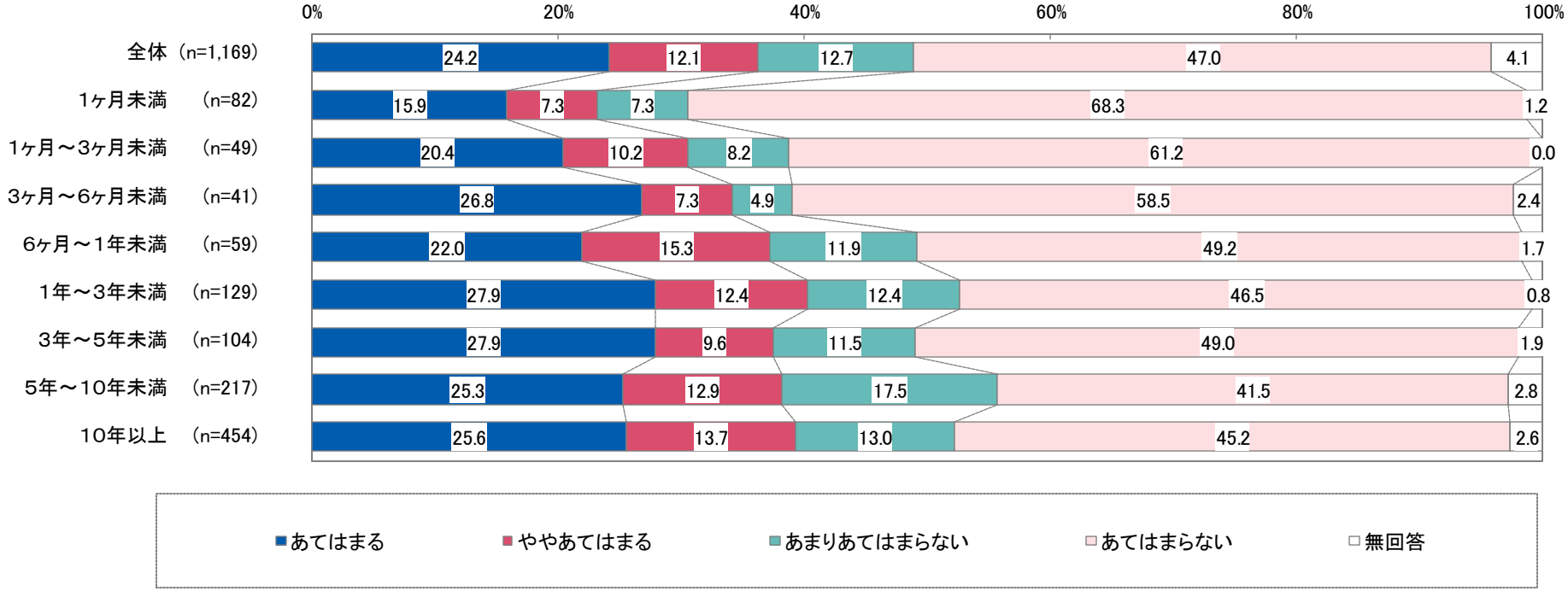
図表100-２　　周囲とのつながりについて：世間話をする相手がいる＜現在＞



問９ 周囲とのつながり

- 困った時に相談できる相手がいるかについては、「１ヶ月未満」の者の「あてはまる」の割合が低い。

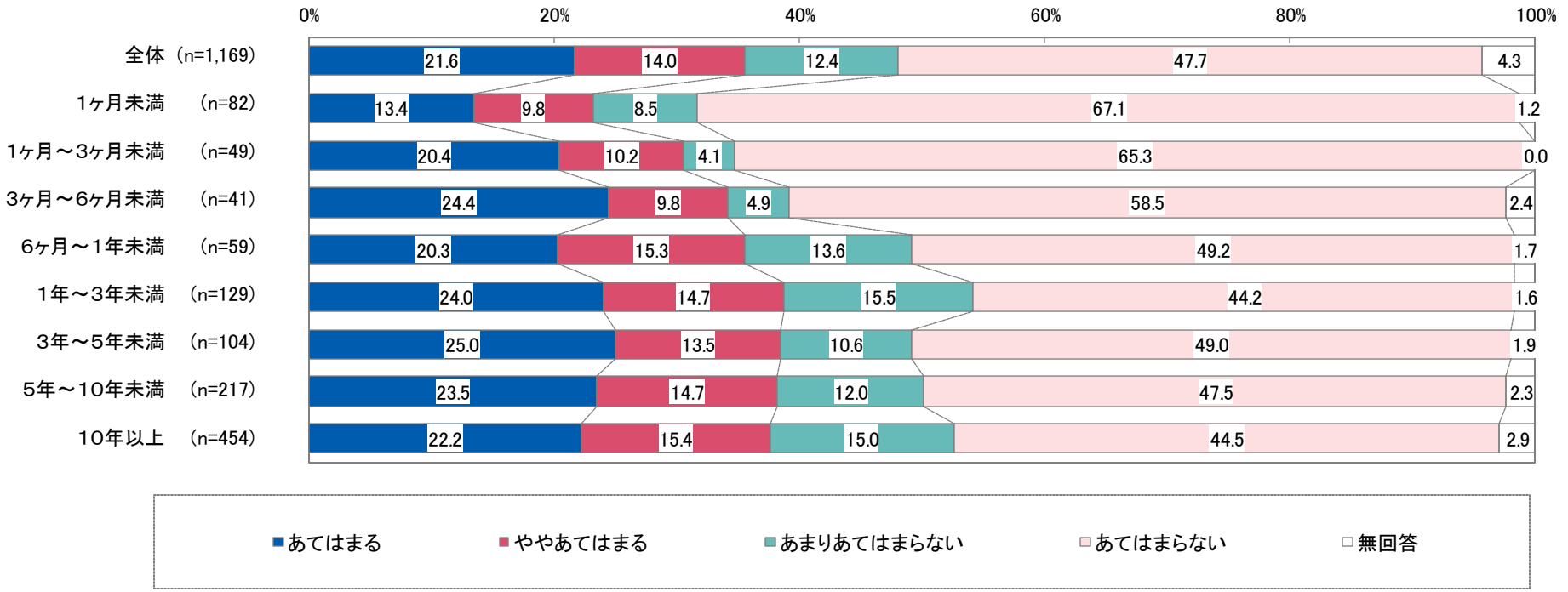
図表100-3　周囲とのつながりについて：困った時に相談できる相手がいる＜現在＞



問９ 周囲とのつながり

- 困った時に助けてくれる相手がいるかについては、「１ヶ月未満」の者の「あてはまる」の割合が低い。

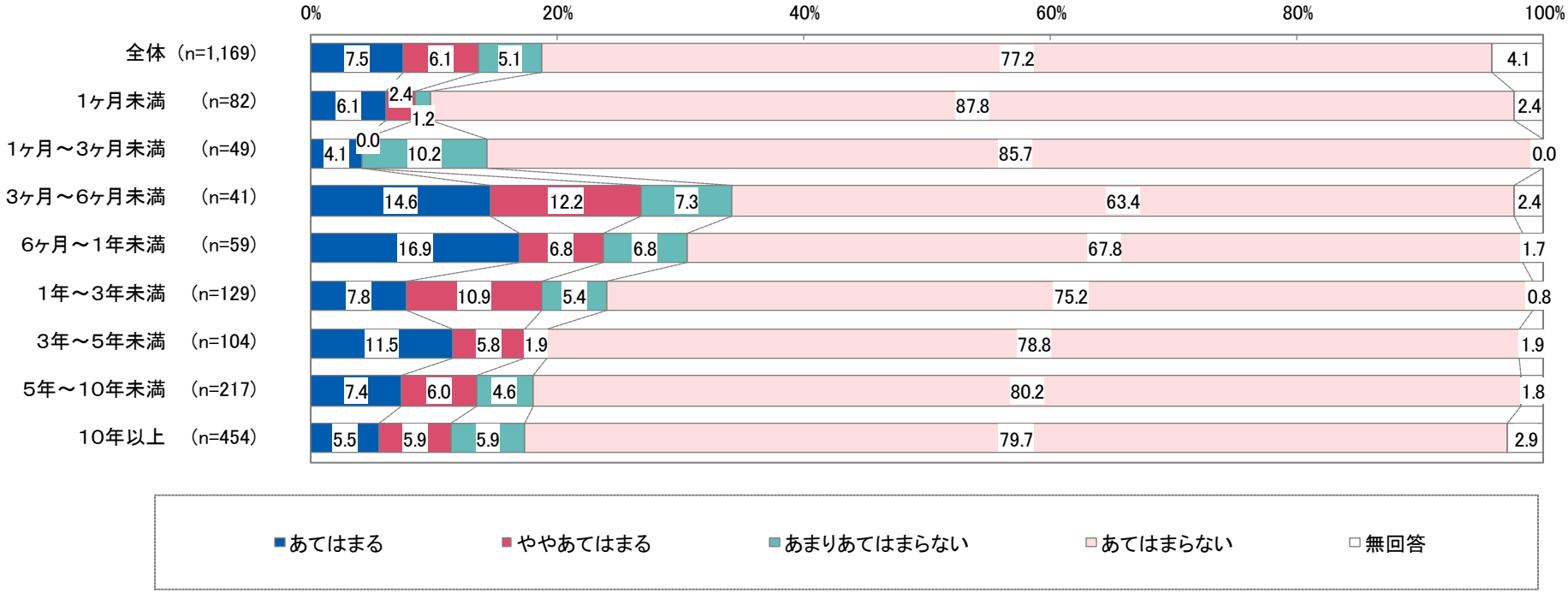
図表100-４　周囲とのつながりについて：困った時に助けてくれる相手がいる＜現在＞



問９ 周囲とのつながり

- NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加しているかについては、「３ヶ月～１年未満」の者の「あてはまる」の割合が高い。

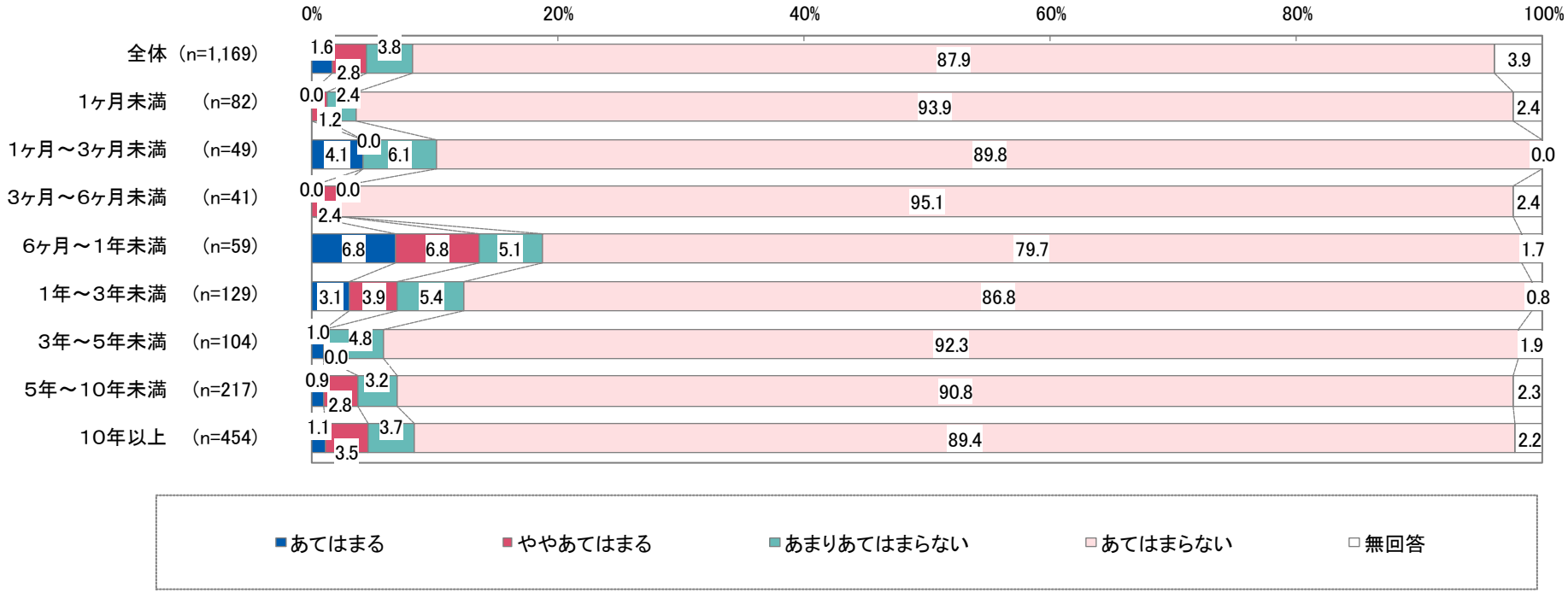
図表100-５　周囲とのつながりについて：NPO 等の団体が開催する集会・相談会等に参加している＜現在＞



問９ 周囲とのつながり

- NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加しているかについては、「６ヶ月～１年未満」の者の「あてはまる」の割合が高い（6.8%）。

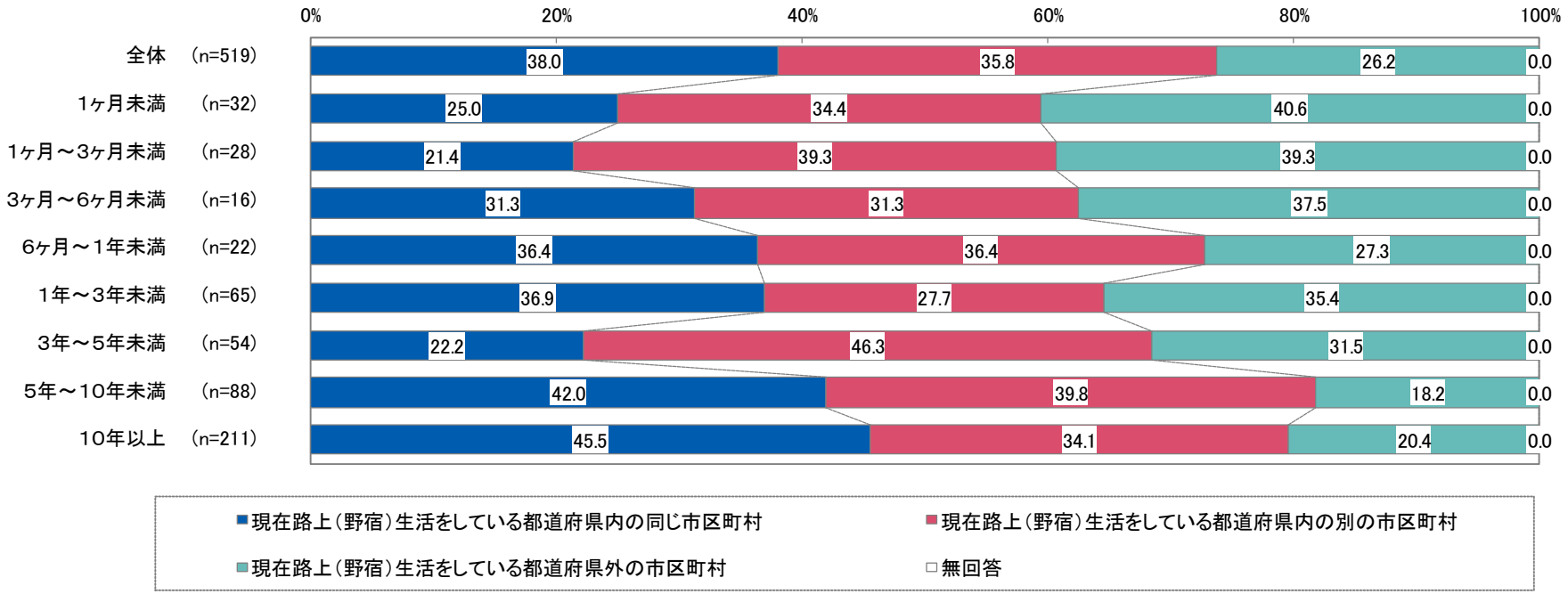
図表100-6　周囲とのつながりについて：行政が開催する集会・相談会等に参加している＜現在＞



問１８－１ 別の路上生活場所

- （別の路上（野宿）生活の経験がある人の）別の路上（野宿）生活場所については、「５年以上」の者では「同じ市区町村」の割合が高く、「３年～５年未満」の者では「別の市区町村」の割合が高く、「１ヶ月未満」の者では「都道府県外」の割合が高い。

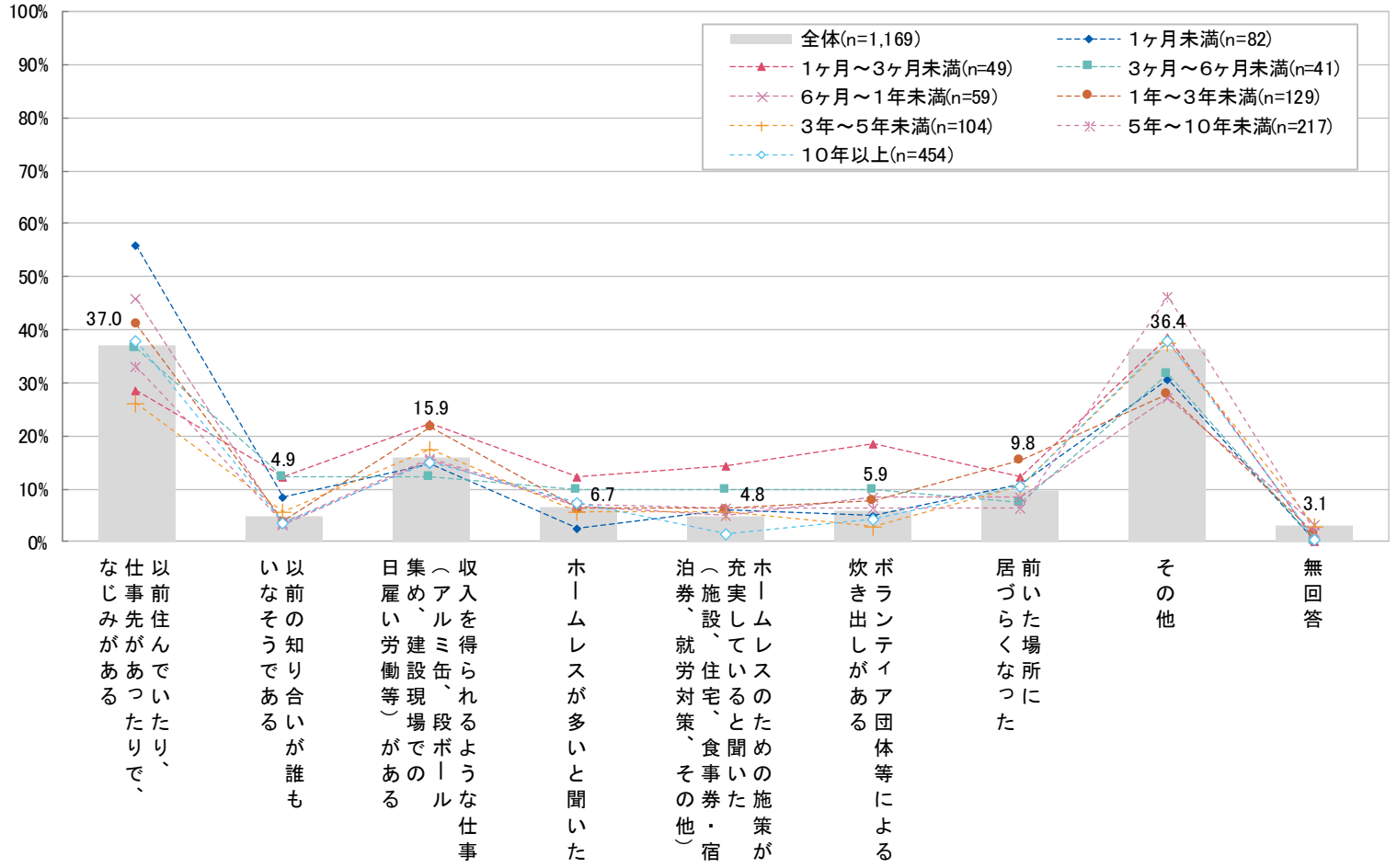
図表101　別の路上生活場所（今回の路上生活期間別）



問１９ 現在の市区町村にきた主な理由

- 現在の市区町村に来た主な理由については、「１ヶ月未満」及び「６ヶ月～１年未満」の者では「なじみがある」の割合が高い傾向にある。

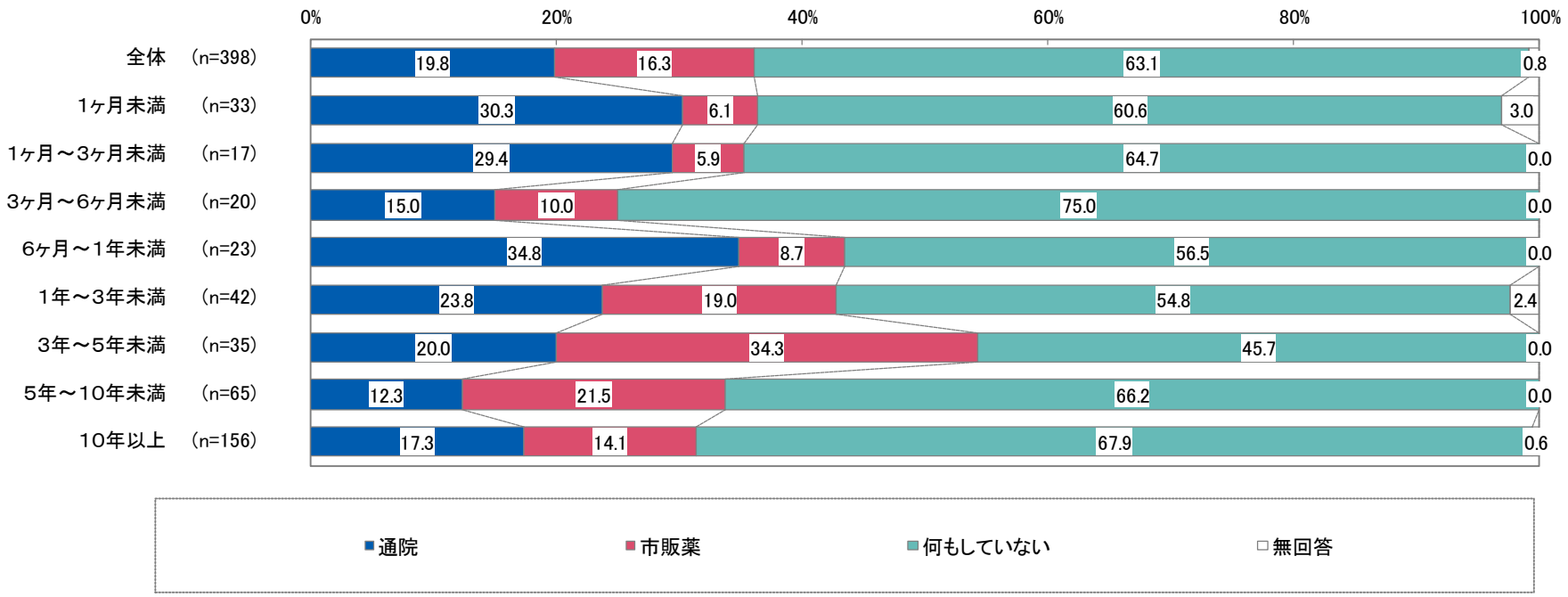
図表102　現在の市区町村にきた主な理由（今回の路上生活期間別）



問２１－１ 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法

- 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法について、「３年～５年未満」の者では「市販薬」の割合が高い（34.3%）。

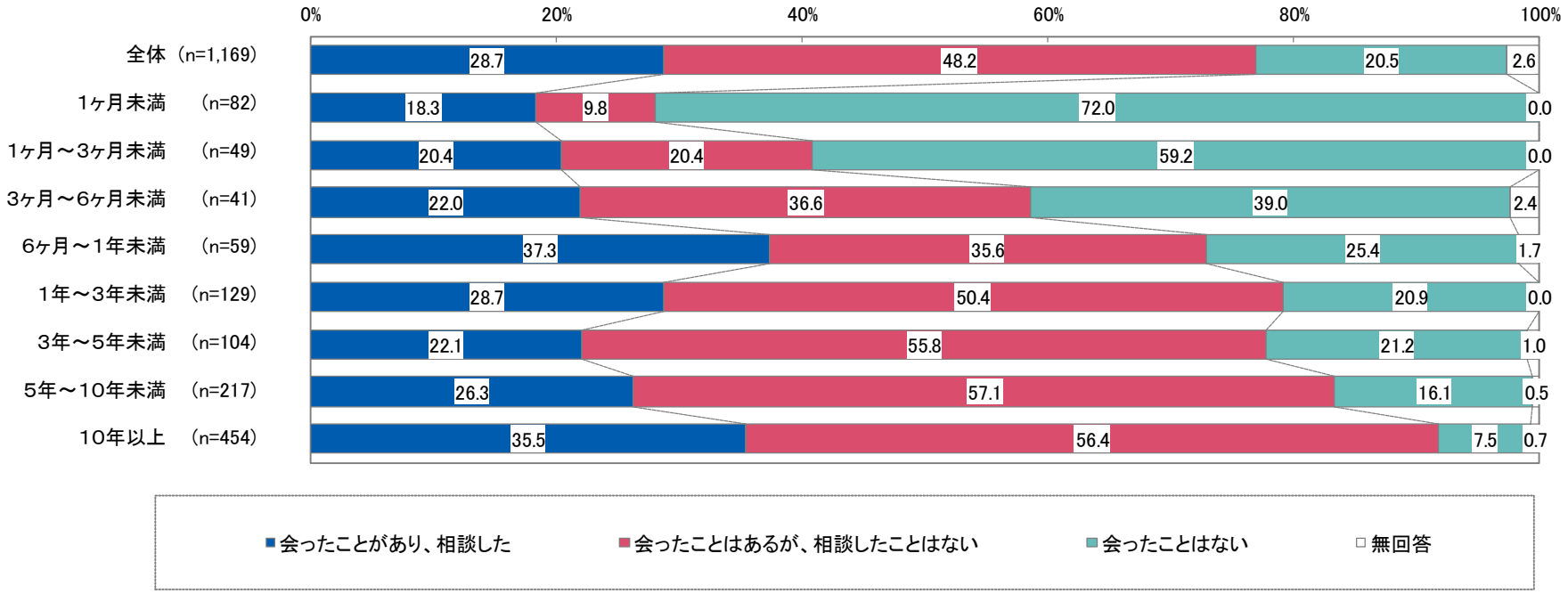
図表103　健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた人の対処法（今回の路上生活期間別）



問２７ 巡回相談員に会ったこと

- 巡回相談員に会ったことがあるかについては、「３ヶ月以上」の者では「（相談の有無によらず）会ったことがある」の割合が高い。

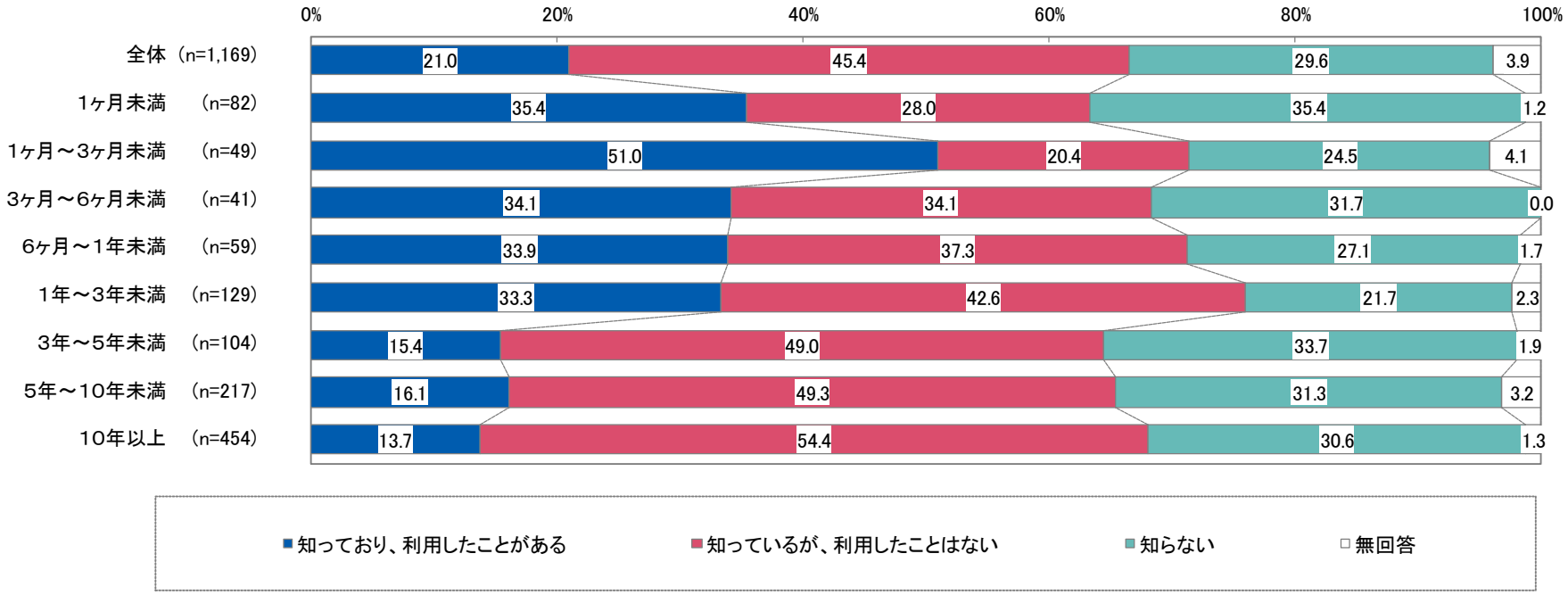
図表104　巡回相談員に会ったこと（今回の路上生活期間別）



問２８ シェルター内容の認知度・利用度

- シェルターの内容の認知度・利用度については、今回の路上生活期間が短いほど、「知っており、利用したことがある」の割合が高い傾向にある。
- 「１ヶ月～３ヶ月未満」の者では「利用したことがある」の割合が高い（51.0%）。

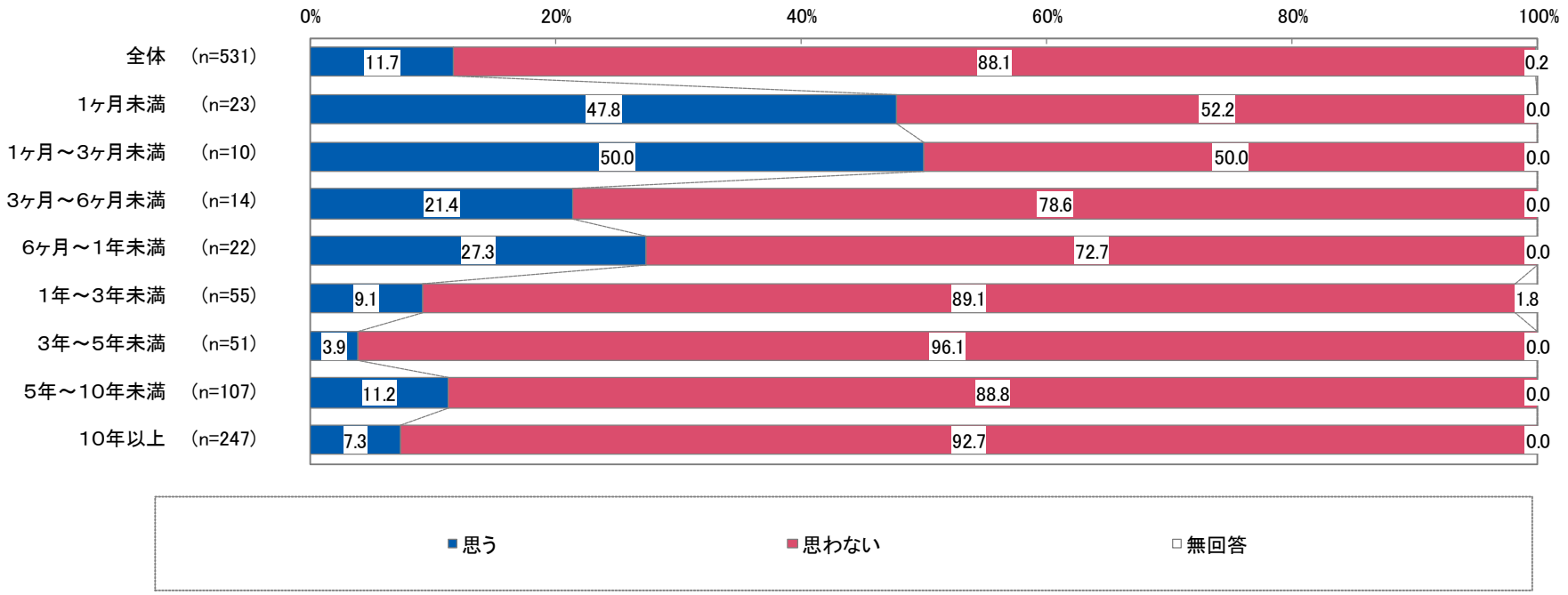
図表105　シェルター内容の認知度・利用度（今回の路上生活期間別）



問２８－１ シェルターの利用意向

- シェルターの利用意向については、今回の路上生活期間が短いほど、「思う」の割合が高い傾向にある。
- 「３ヶ月未満」の者では「思う」の割合が高い（50.0%）。

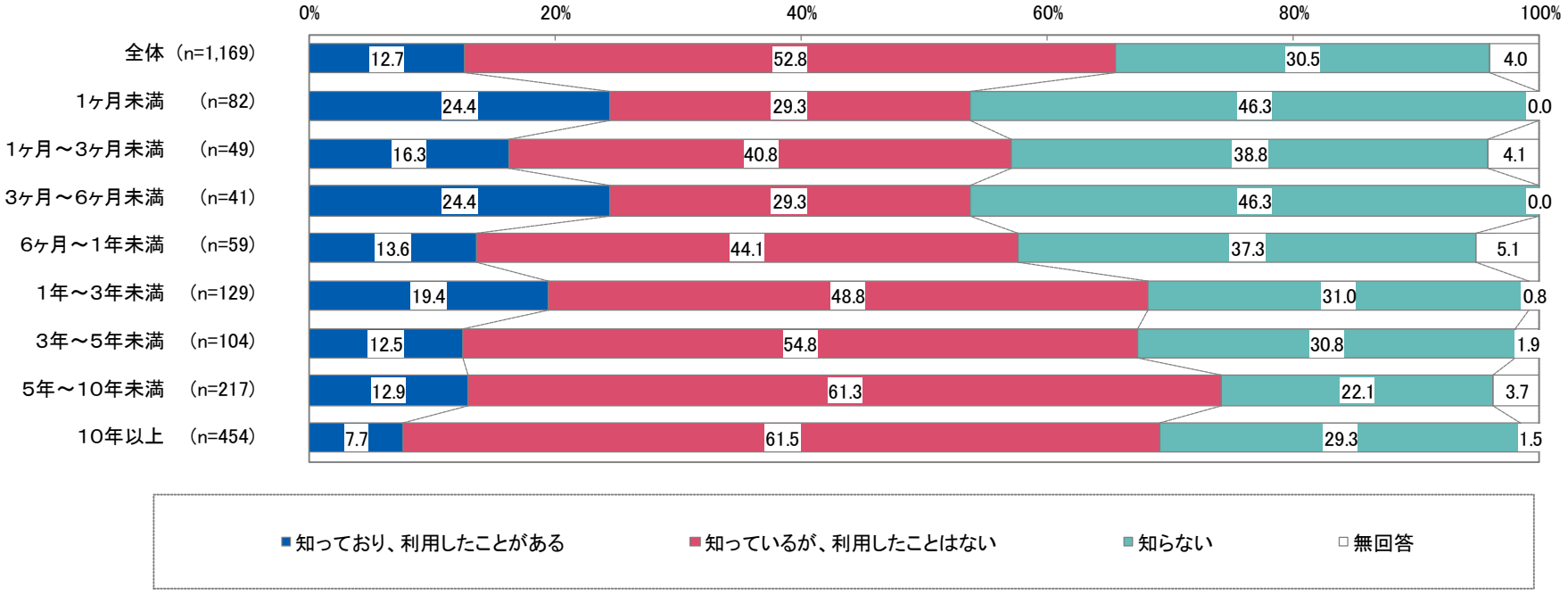
図表106　シェルターの利用意向（今回の路上生活期間別）



問２９ 自立支援センターの内容の認知度・利用度

- 自立支援センターの内容の認知度・利用度については、今回の路上生活期間が短いほど、「知っており、利用したことがある」の割合が高い傾向にある。
- 「１ヶ月未満」及び「３ヶ月～６ヶ月未満」の者では「利用したことがある」の割合が高い（それぞれともに24.4%）。

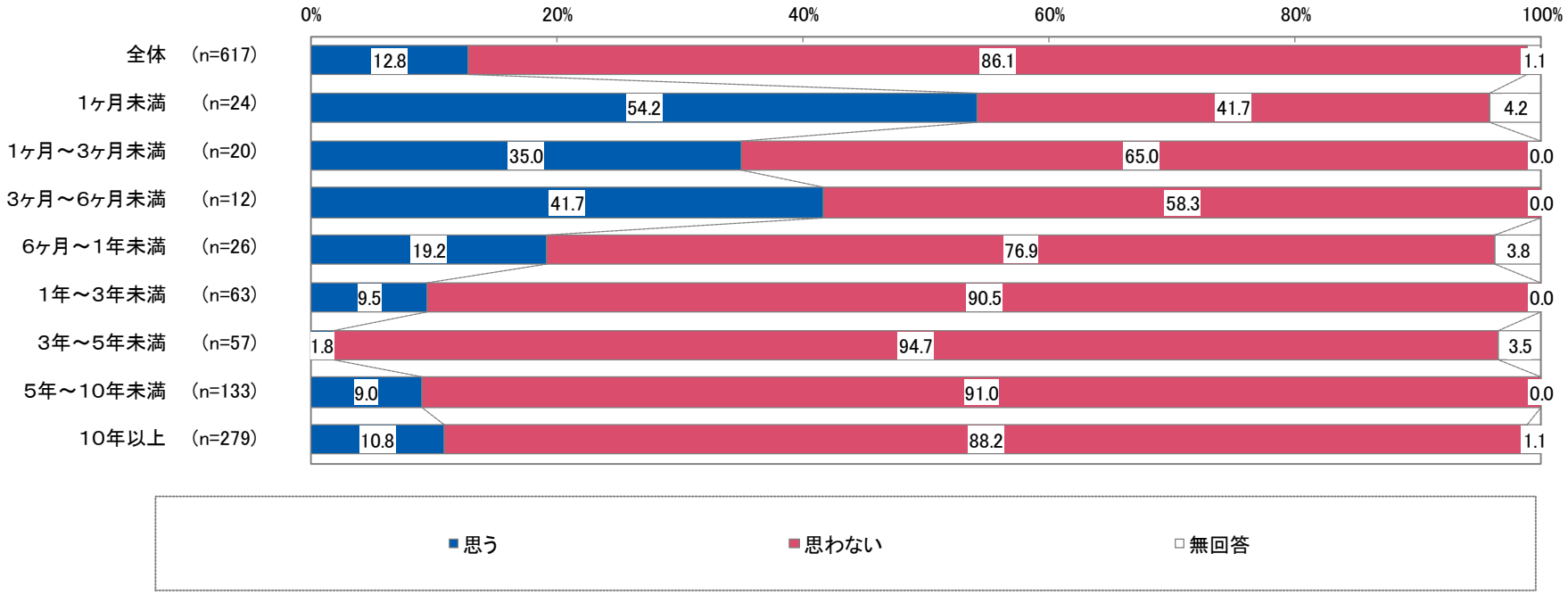
図表107　自立支援センターの内容の認知度・利用度（今回の路上生活期間別）



問２９－４ 自立支援センターの利用意向

- 自立支援センターの利用意向については、「６ヶ月未満」の者では「思う」の割合が高く、「６ヶ月以上」の者では「思う」の割合が低い。

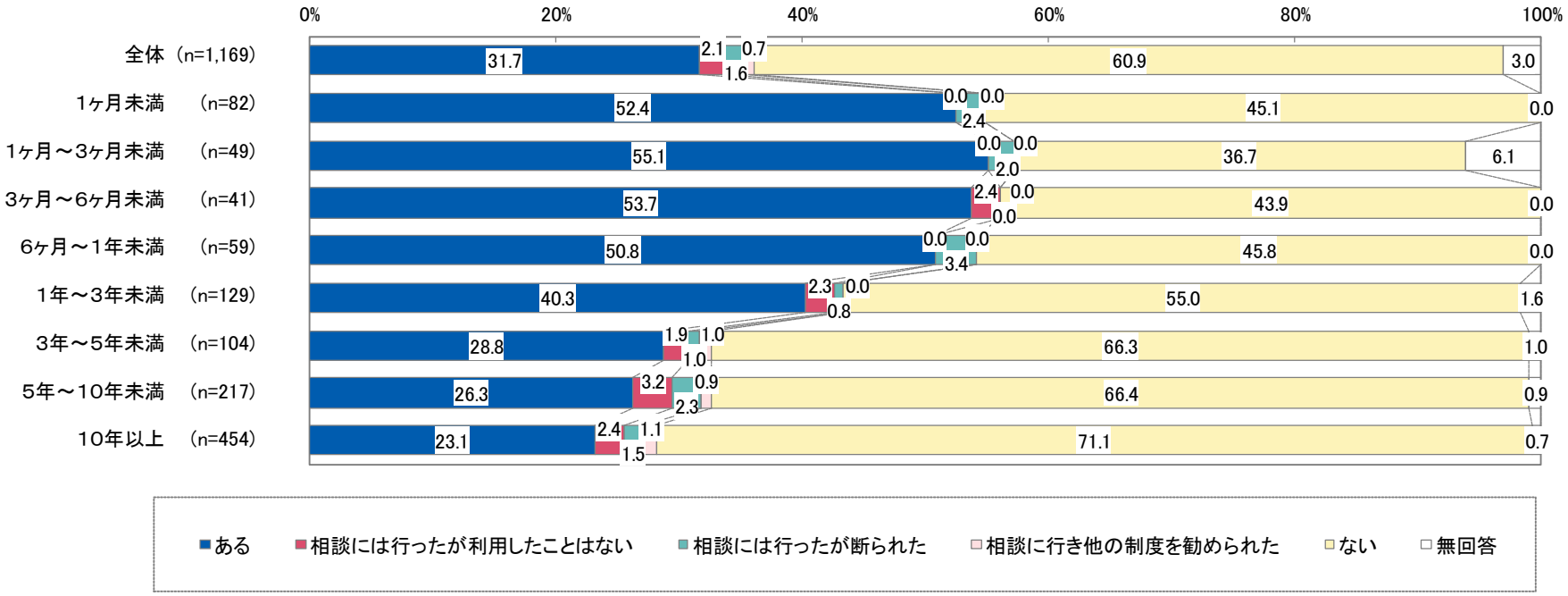
図表108　自立支援センターの利用意向（今回の路上生活期間別）



問３１ 生活保護の利用経験

- 生活保護制度の利用経験については、「１年未満」の者では「ある」の割合が高い傾向にある。

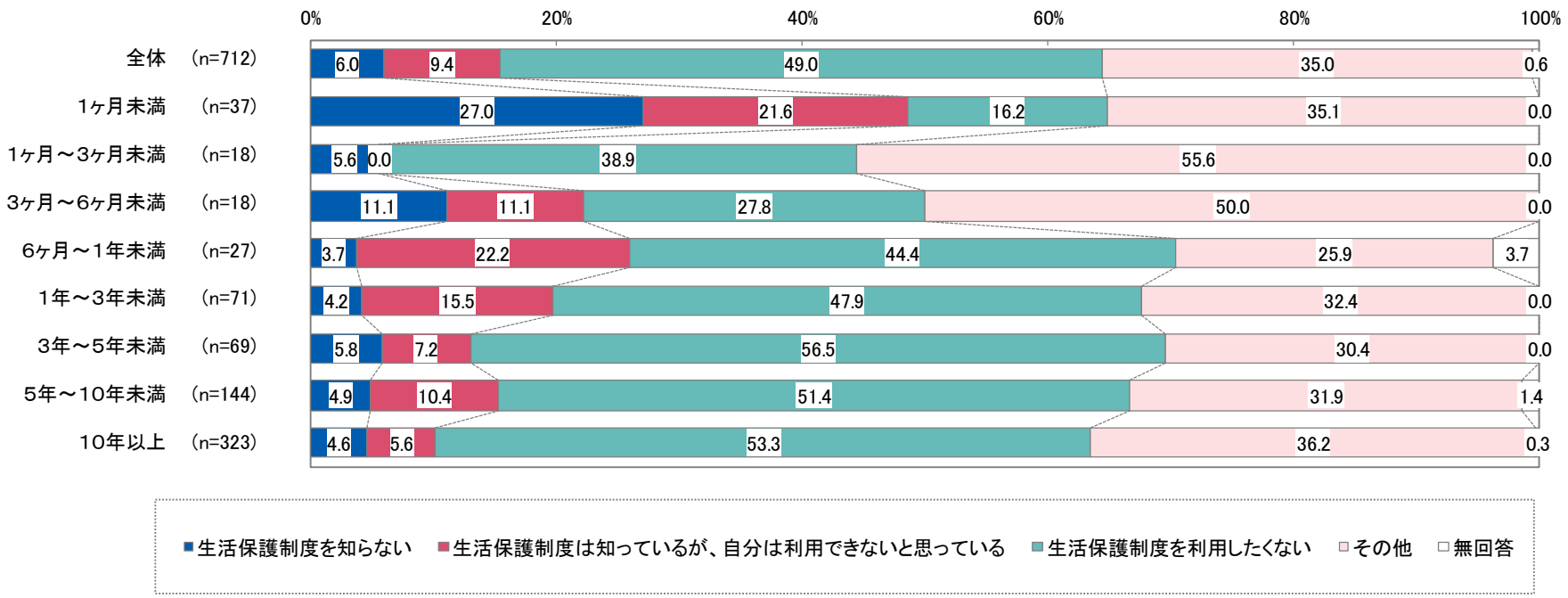
図表109　生活保護の利用経験（今回の路上生活期間別）



問３１－３ 生活保護制度を利用しなかった理由

- 生活保護制度を利用しなかった理由については、「６ヶ月～１年未満」の者では「自分は利用できないと思っている」の割合が高く（22.2%）、「６ヶ月以上」の者では「生活保護制度を利用したくない」の割合が高い傾向にある。

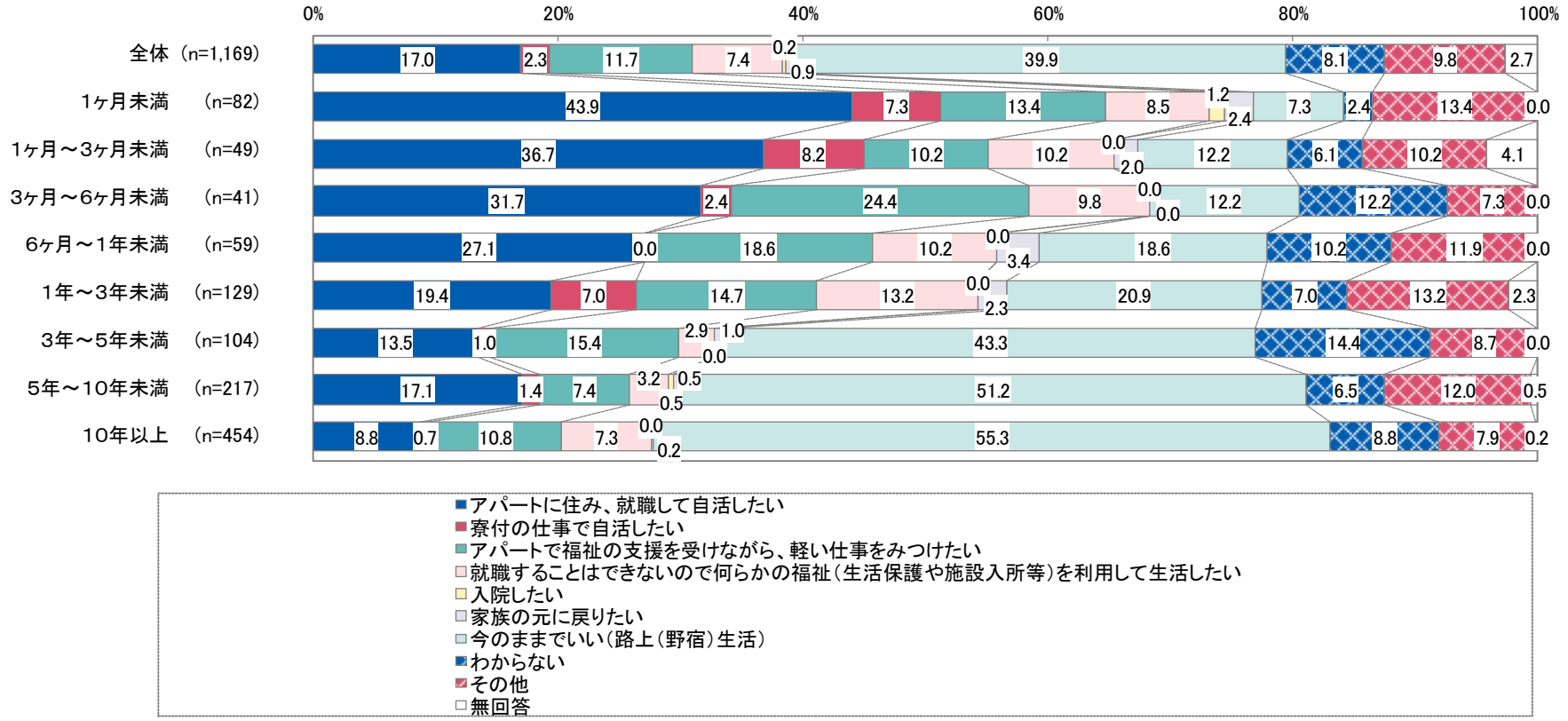
図表110　生活保護制度を利用しなかった理由（今回の路上生活期間別）



問３６ 今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、「１年未満」の者では「（アパートに住み、就職して＋寮付きの仕事で）自活したい」の割合が高く、「３年以上」の者では「今のままでいい」の割合が高くなる傾向にある。

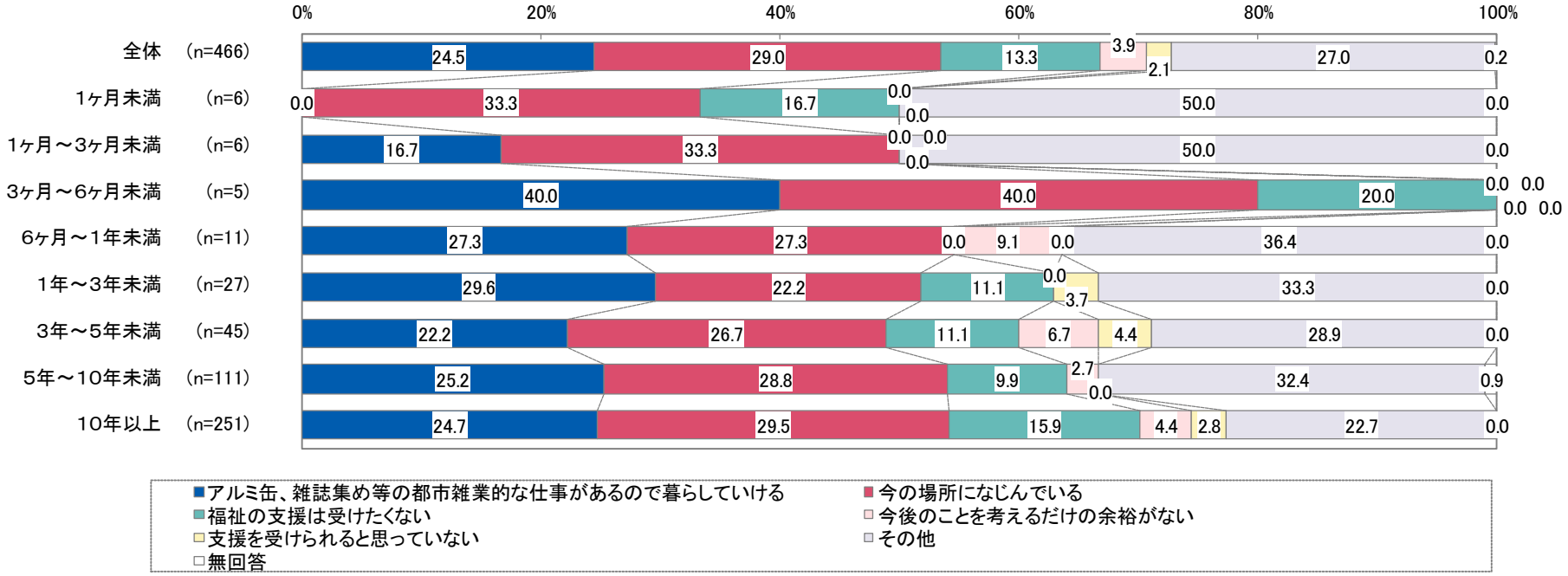
図表１１１　今後望んでいる生活（今回の路上生活期間別）



問３６－１ 今のままでいい理由

- 今のままでいい理由については、「６ヶ月～１年未満」の者では「都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」「今の場所になじんでいる」の割合が高い（それぞれ27.3%）。
- 「３年以上」の者では「今の場所になじんでいる」の割合が高い傾向にある。

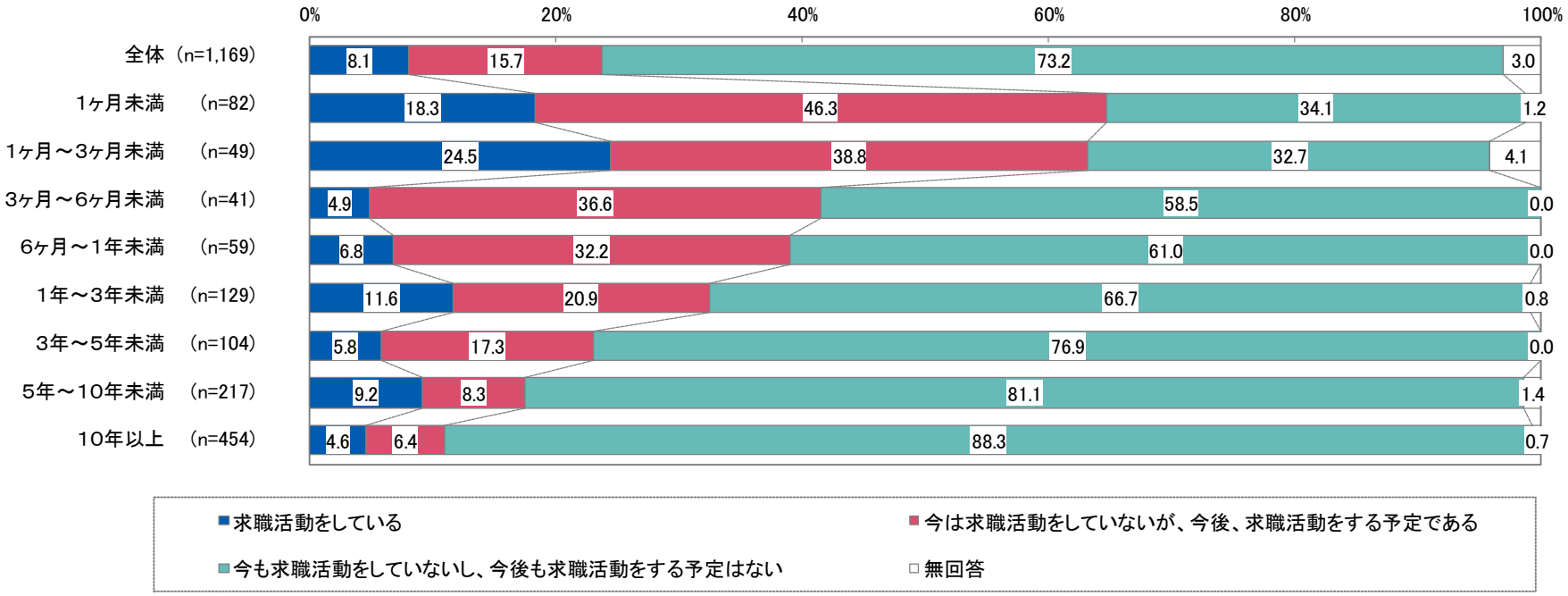
図表１１２　今のままでいい理由（今回の路上生活期間別）



問３７ 就職するための求職活動

- 就職するための求職活動については、「３ヶ月未満」の者では「求職活動をしている」及び「今後、求職活動する予定である」の割合が高く、「３ヶ月以上」の者では「求職活動をする予定はない」の割合が高い。

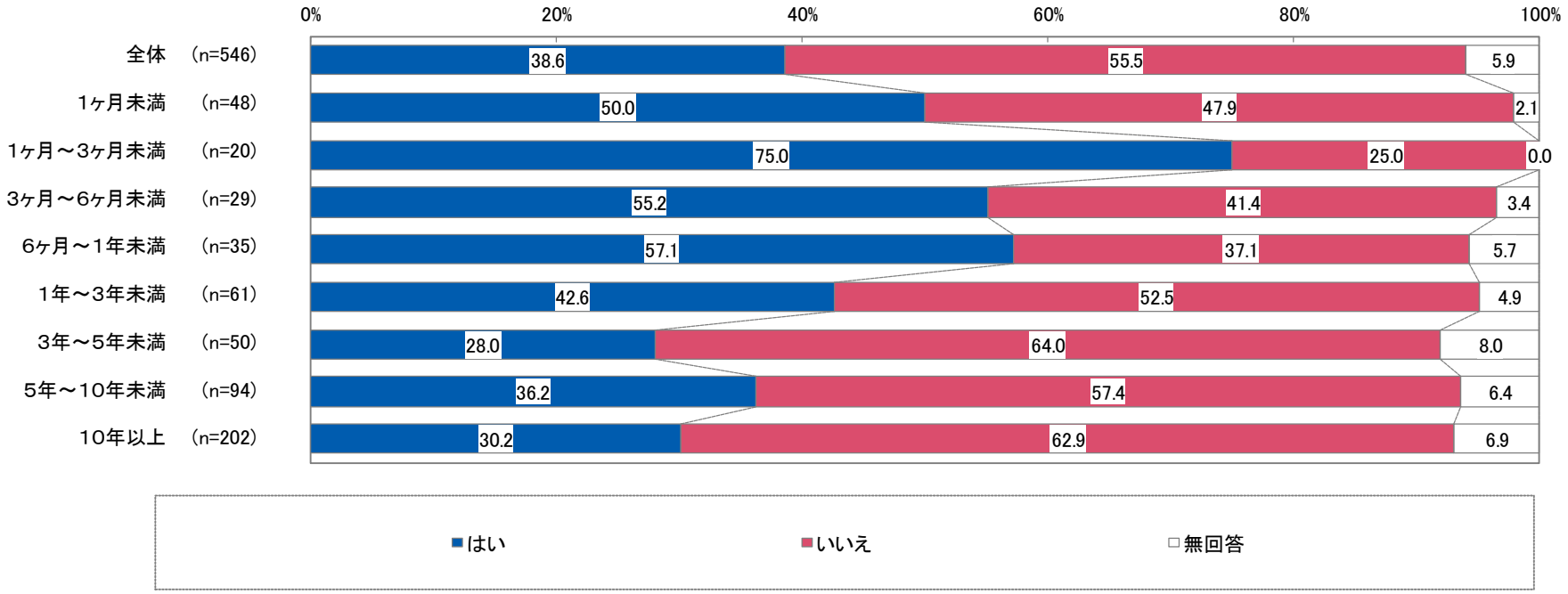
図表113　就職するための求職活動（今回の路上生活期間別）



問３７－３ 軽作業への参加意向

- 軽作業への参加意欲については、「1年未満」の者では「はい」の割合が高く、「１年以上」の者では「いいえ」の割合が高い。

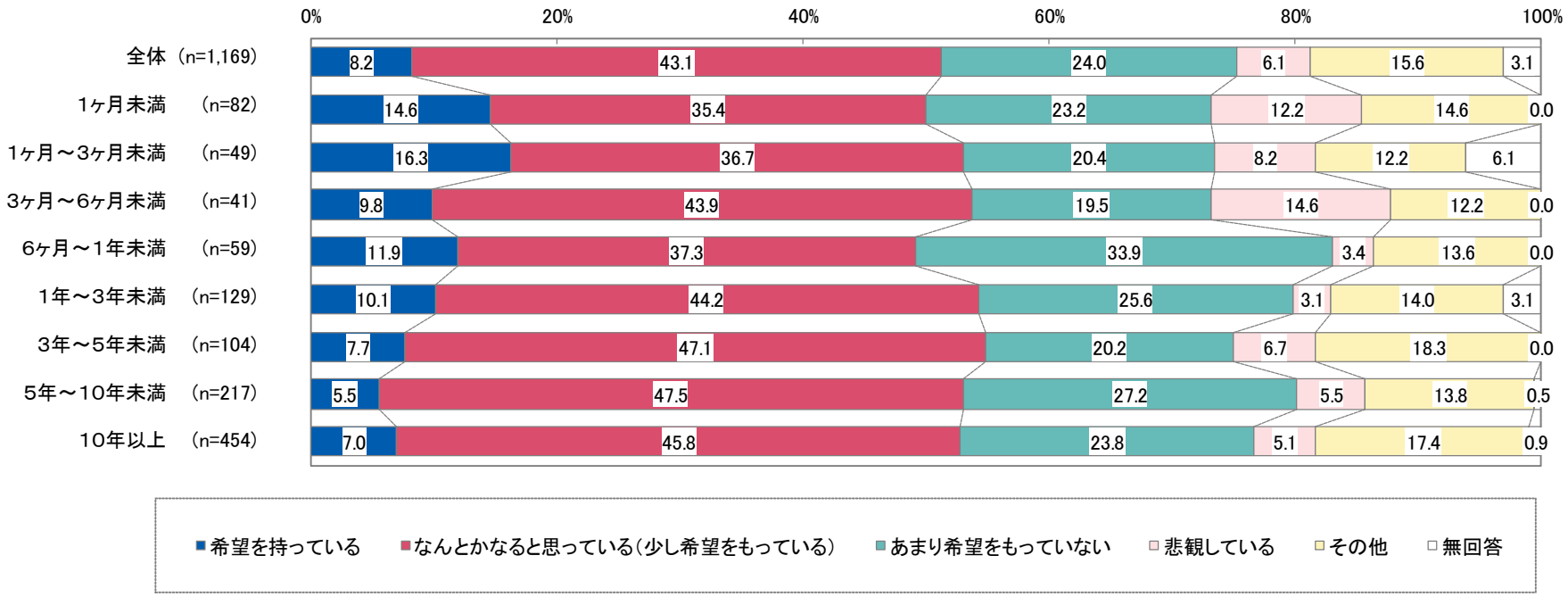
図表１１４　軽作業への参加意向（今回の路上生活期間別）



問４７ 現在の気持ち

- 現在の気持ちについて、「６ヵ月～１年未満」の者では「希望を持っている」「なんとかなると思っている（少し希望をもっている）」の割合が低い。

図表115　現在の気持ち（今回の路上生活期間別）



Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

支援制度

利用タイプ別

4

ひと、くらし、みらいのために

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

路上生活期間別の傾向について

今後の生活

- 今後の生活では、何らかの制度利用経験者と比べ、制度を利用していない者は、現状の路上生活を維持したい割合が高い。

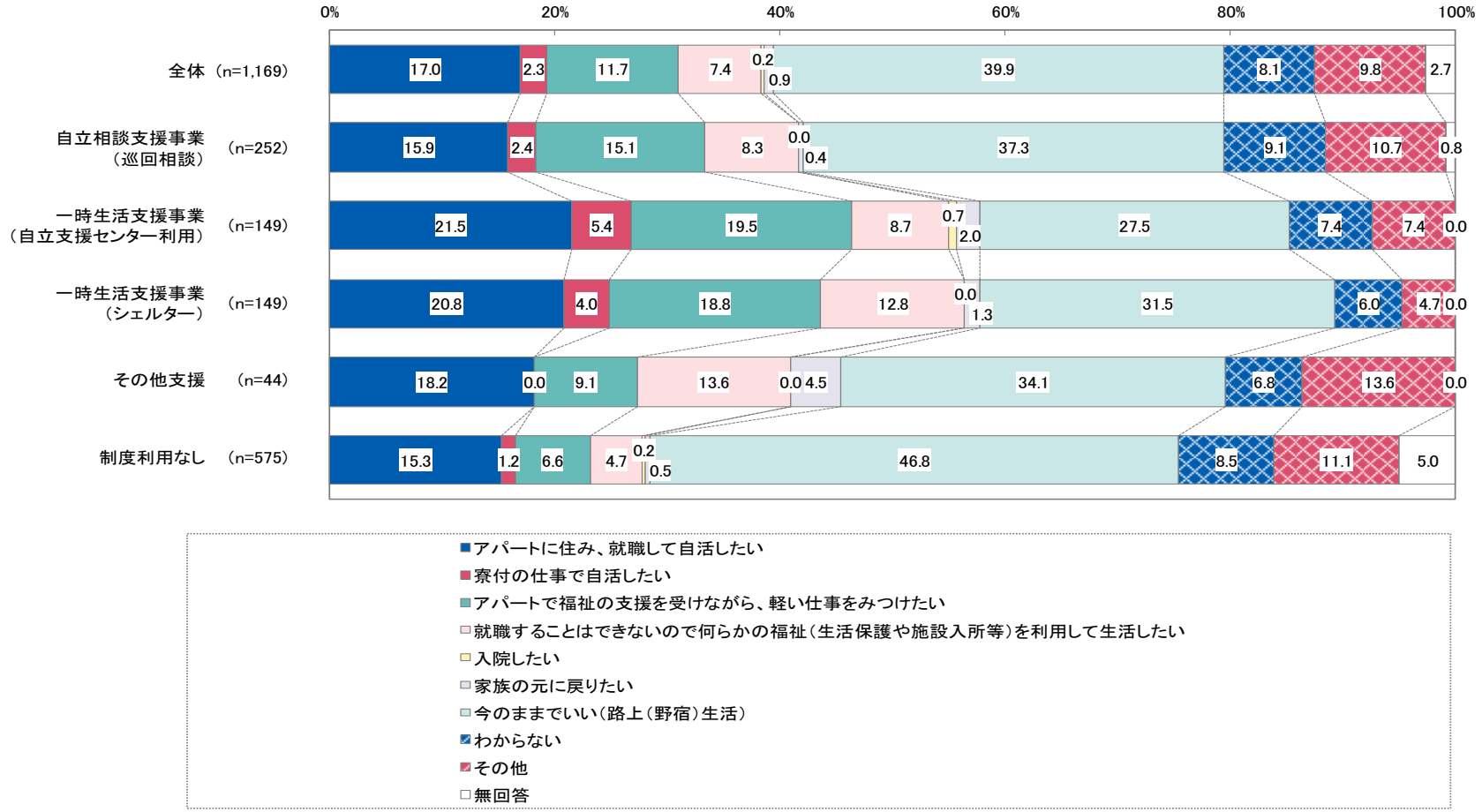
求職活動の状況

- 求職活動では、「自立支援センター」及び「シェルター」利用経験者では「求職活動をしている＋求職活動をする予定である」の割合が高く、「巡回相談」経験者及び「制度利用無し」者では「求職活動をする予定はない」の割合が高い。

問３６ 今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、「自立支援センター」及び「シェルター」利用経験者では「アパートに住み、就職して自活したい」（全体：17.0%、自立支援センター：21.5%、シェルター：20.8%）の割合が高く、「制度利用無し」者では「今のままでいい」（全体：39.9%、制度利用無し：46.8%）の割合が高く、「自立支援センター」及び「シェルター」利用経験者では割合が低い。

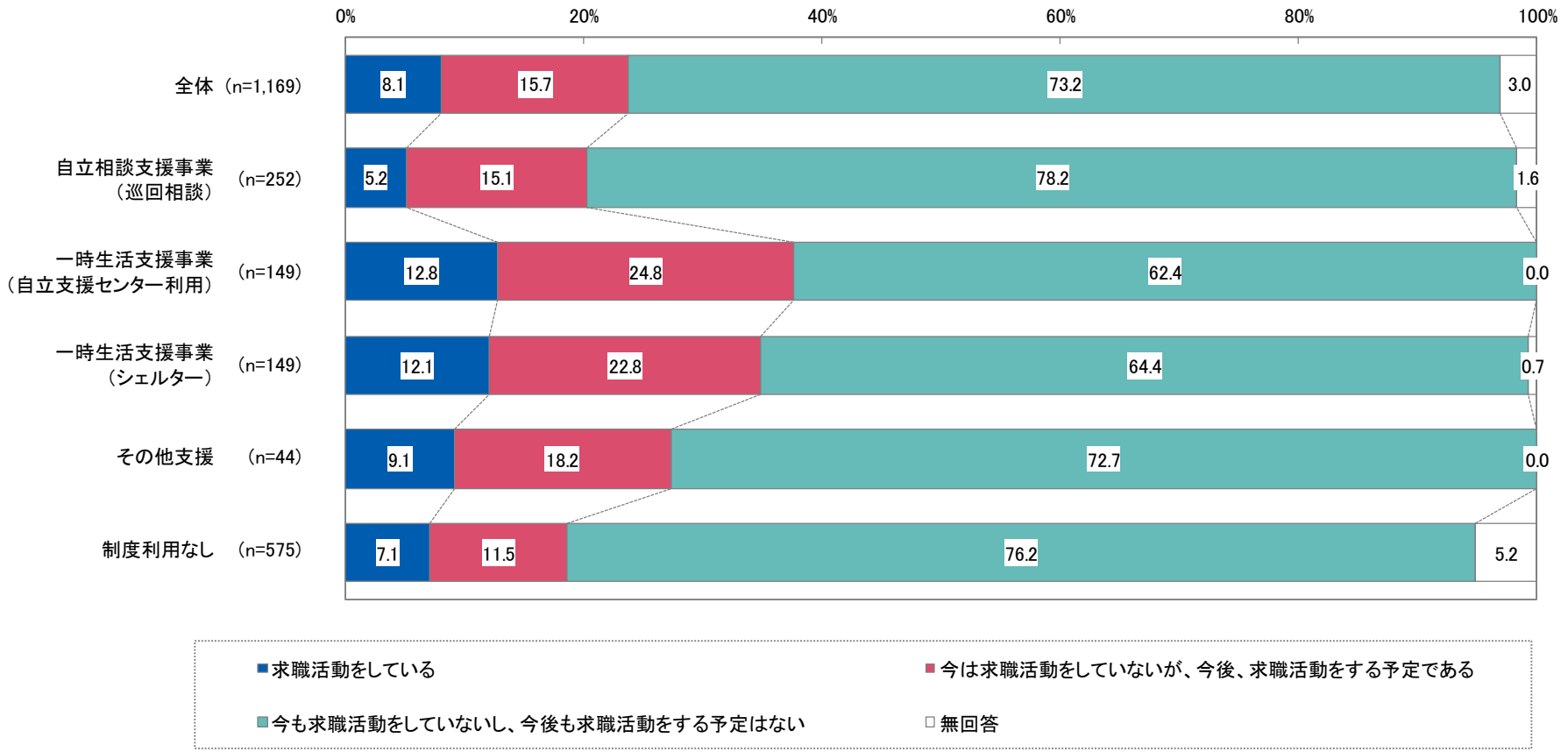
図表１１６　今後望んでいる生活（支援制度利用タイプ別）



問３７ 就職するための求職活動

- 就職するための求職活動については、「自立支援センター」及び「シェルター」利用経験者では「求職活動をしている＋求職活動する予定である」（全体：23.8%、自立支援センター：37.6%、シェルター：34.9%）の割合が高く、「巡回相談」経験者及び「制度利用無し」者では「求職活動をする予定はない」の割合が高い。

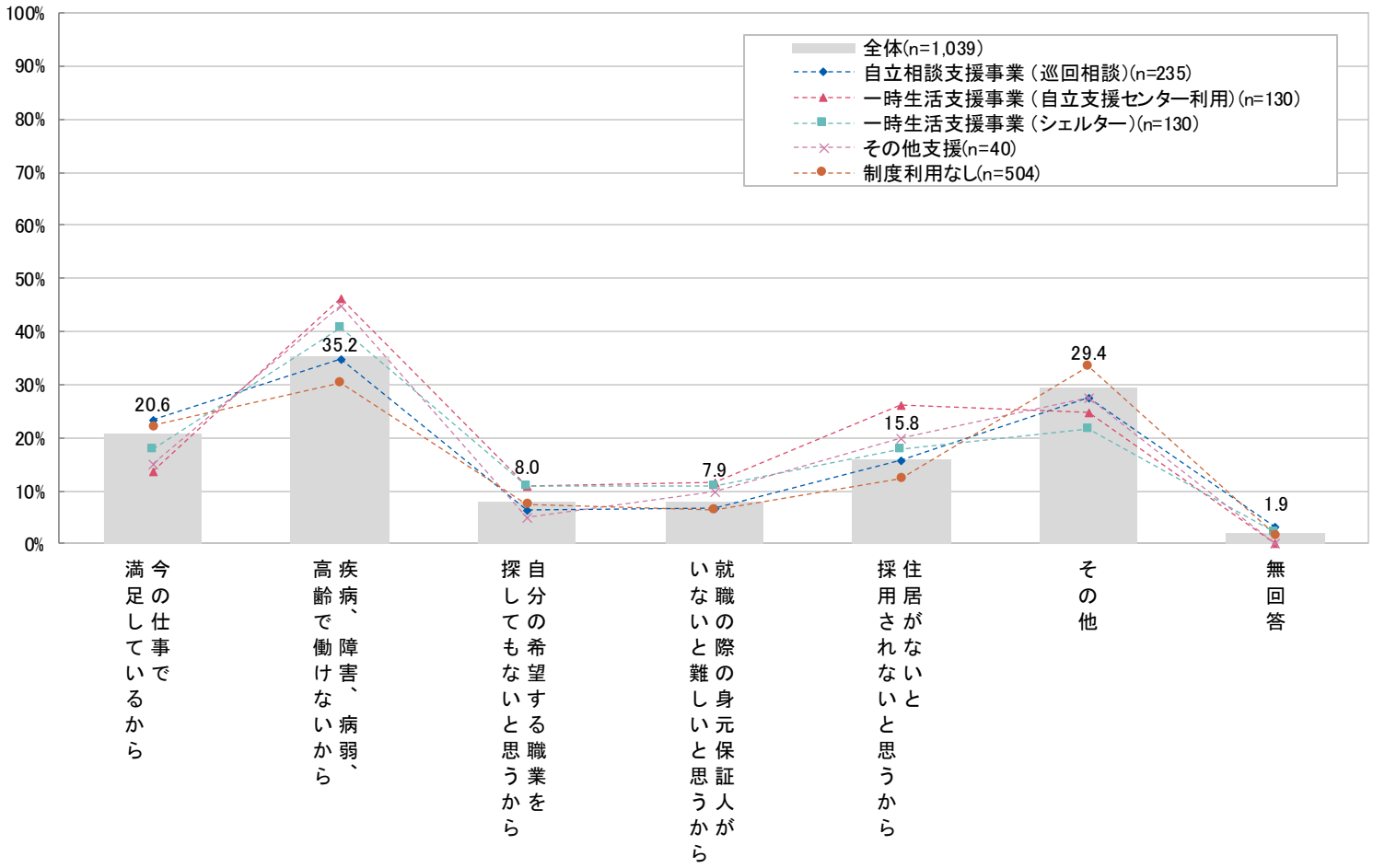
図表１１７　就職するための求職活動（支援制度利用タイプ別）



問３７－２ 求職活動をしていない理由

- 求職活動をしていない理由については、支援制度利用タイプにかかわらず、「疾病、障害、病弱、高齢」の割合が高い。

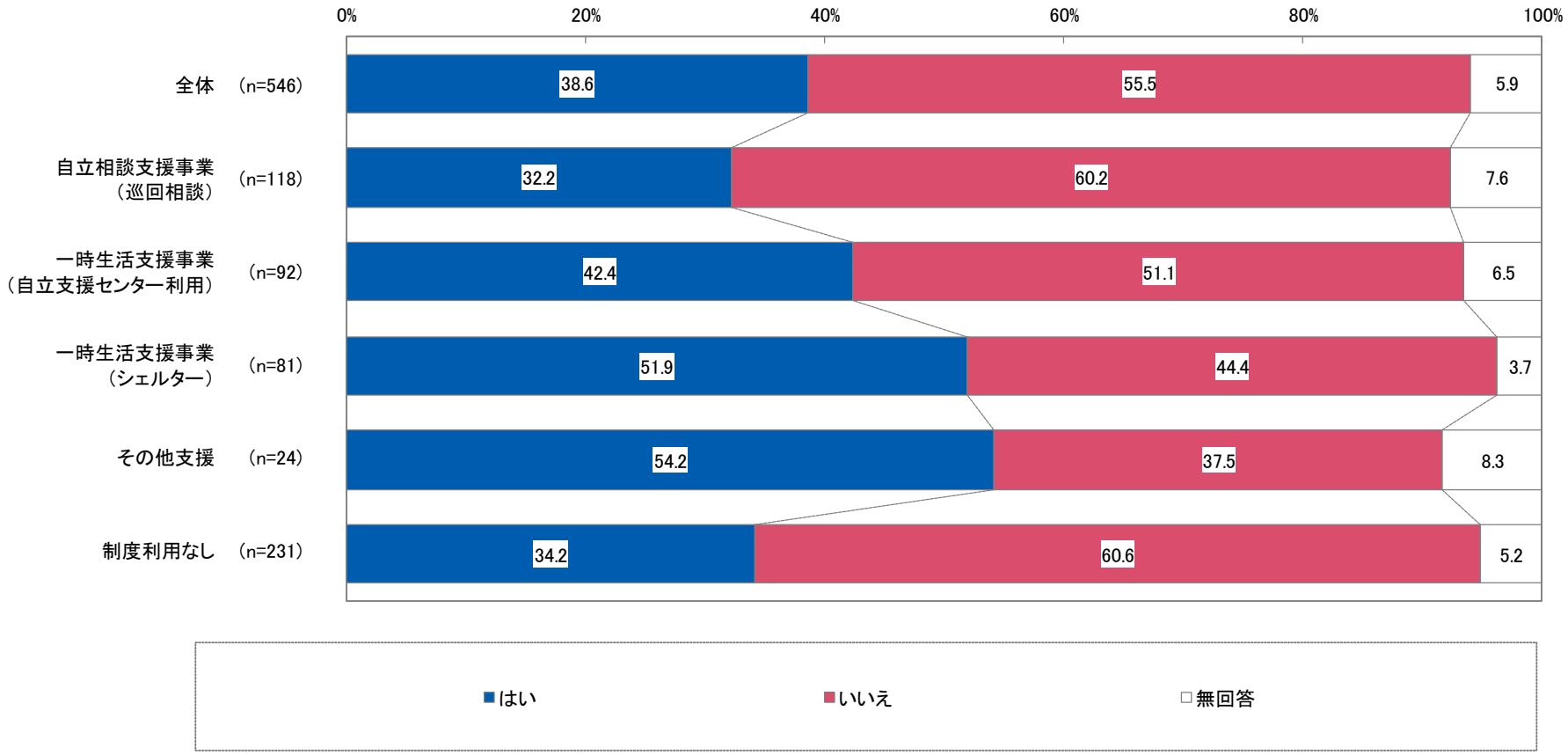
図表118　求職活動をしていない理由（支援制度利用タイプ別）



問３７－３ 軽作業への参加意向

- 軽作業への参加意向については、「シェルター」利用経験者では「はい」（全体：38.6%、シェルター：51.9%）の割合が高く、「制度利用無し」「巡回相談」者では「いいえ」の割合が高い。

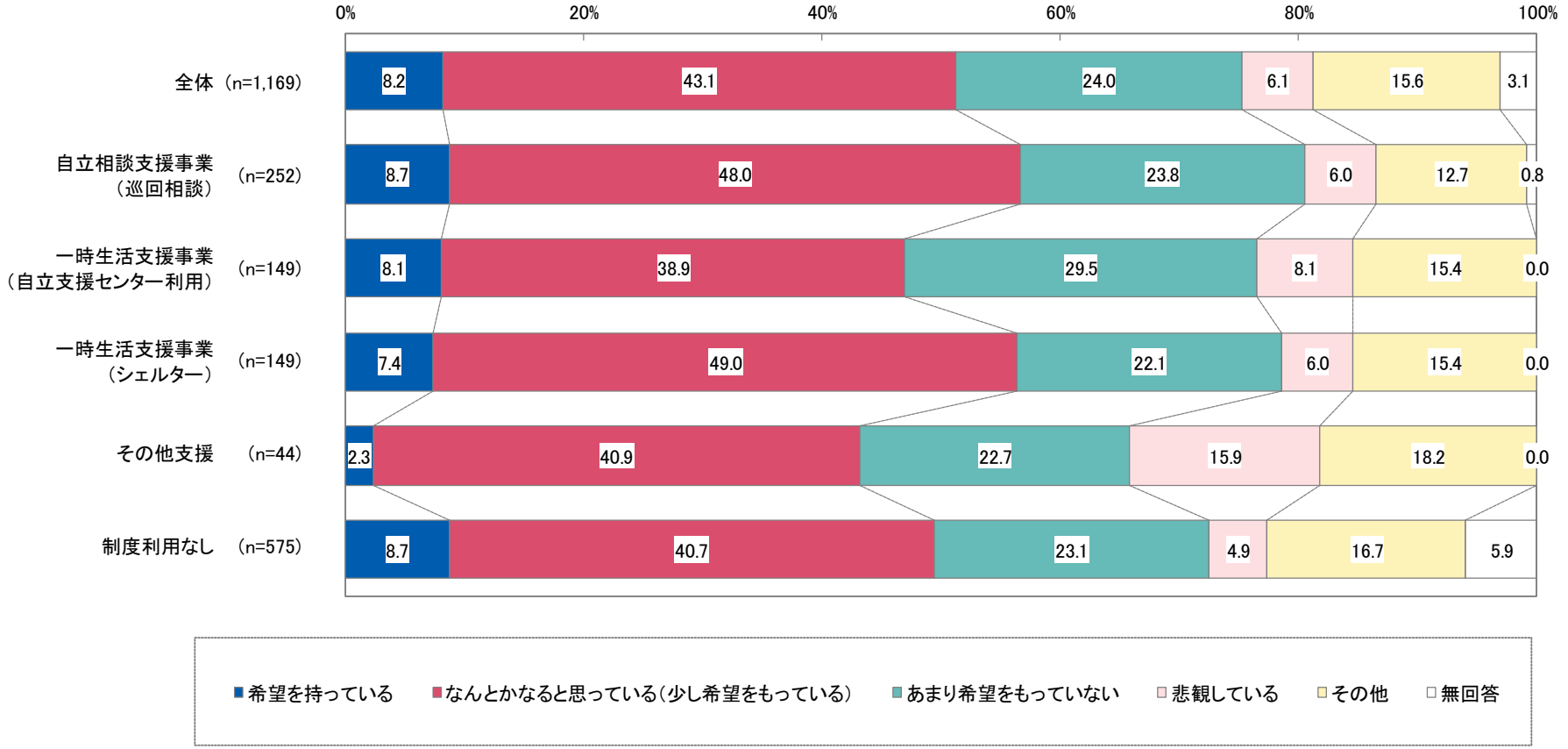
図表１１９　軽作業への参加意向（支援制度利用タイプ別）



問４７ 現在の気持ち

- 現在の気持ちについては、「巡回相談」利用経験者では「希望を持っている」（全体：8.2%、自立相談支援事業：8.7%）の割合が高く、「シェルター」利用経験者では「なんとかなると思っている」の割合が高い（全体：43.1%、シェルター：49.0%）。

図表120　現在の気持ち（支援制度利用タイプ別）



Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

5

地域別
（事業実施別）

ひと、くらし、みらいのために

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

地域別（事業実施別）の傾向について

路上での生活

- 寝場所では、「一時生活支援事業未実施自治体」は一定の場所で決まっている割合が高い。
- 具体的な寝場所では、「一時生活支援事業未実施自治体」は河川の割合が高く、その他の事業実施自治体では公園の割合が高い。
- 寝場所をつくる方法では、「一時生活支援事業未実施自治体」はテント又は小屋を常設する割合が高い。
- 仕事では、「一時生活支援事業未実施自治体」は仕事により収入を得ている割合が高く、「シェルターのみ実施自治体」は仕事による収入を得ている割合が低い。

路上生活までのいきさつ

- 初めて路上生活をする前に住んでいた地域との関係では、「一時生活支援事業未実施自治体」は同一県内の同じ市町村の割合が高い。

福祉制度の周知・利用状況

- シェルター、自立支援センターの周知度・利用度では、「自立支援センター」実施自治体及び「シェルター、自立支援センターの双方」は、周知度・利用度ともに高い。
- 生活保護は、「自立支援センター」実施自治体及び「シェルター、自立支援センターの双方」実施自治体は利用経験の割合が高い。

地域別（事業実施別）の傾向について

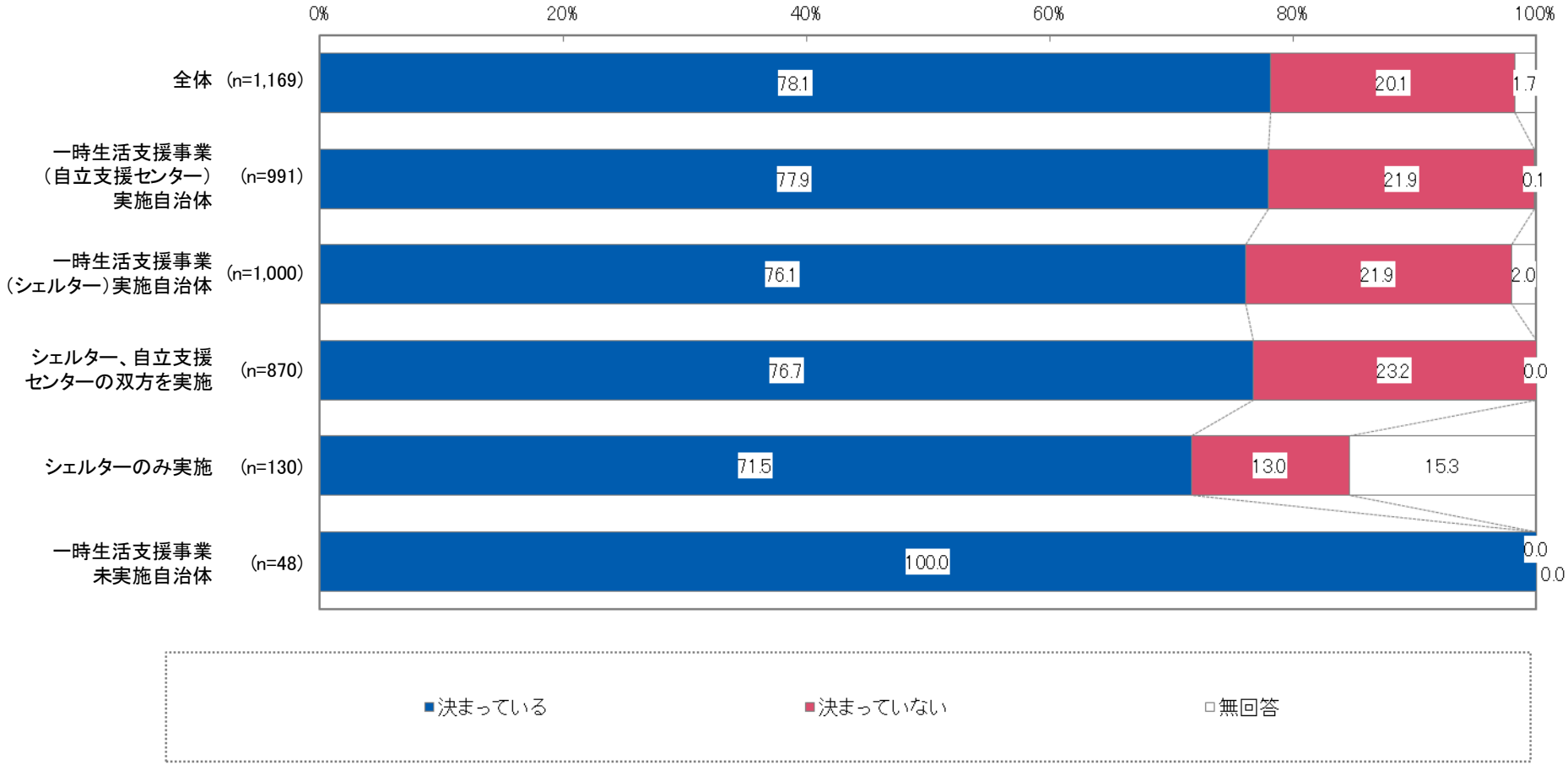
今後の生活

- 今後望んでいる生活では、「シェルターのみ実施」及び「一時生活支援事業未実施自治体」は、現在の路上生活を維持することを希望する割合が高い。

問１　寝ている場所

- 寝ている場所については、「一時生活支援」未実施自治体では、「一定の場所で決まっている」（全体：78.1%、一時生活支援未実施自治体：100.0%)）の割合が高く、「シェルター」実施自治体では「一定の場所で決まっている」の割合が低い（71.5%)。

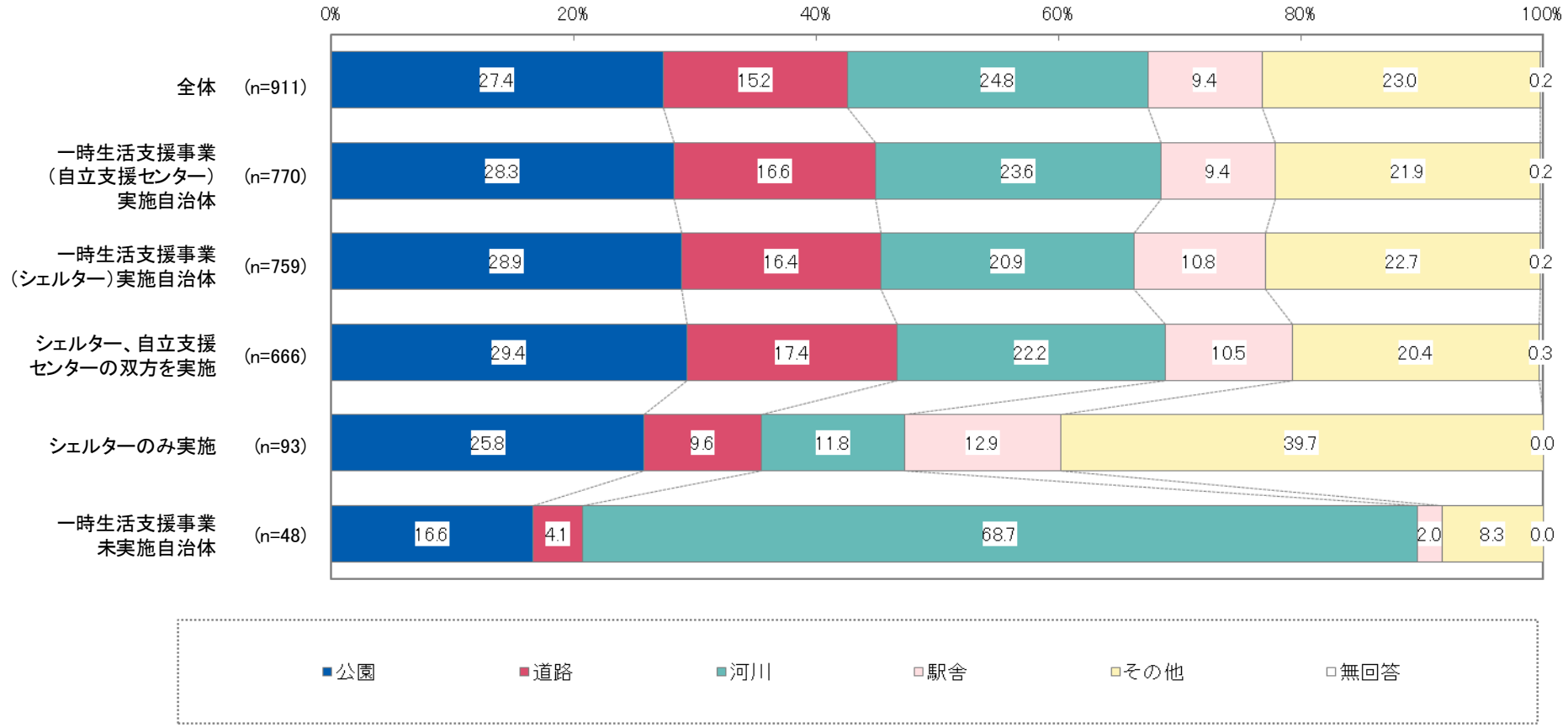
図表121　寝ている場所（地域別（事業実施別））



問１－１ 寝ている場所（具体的に）

- 具体的な寝場所については、「シェルター」及び「シェルターと自立支援センターの双方」実施自治体では「公園」の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「河川」（68.7%）の割合が高い。

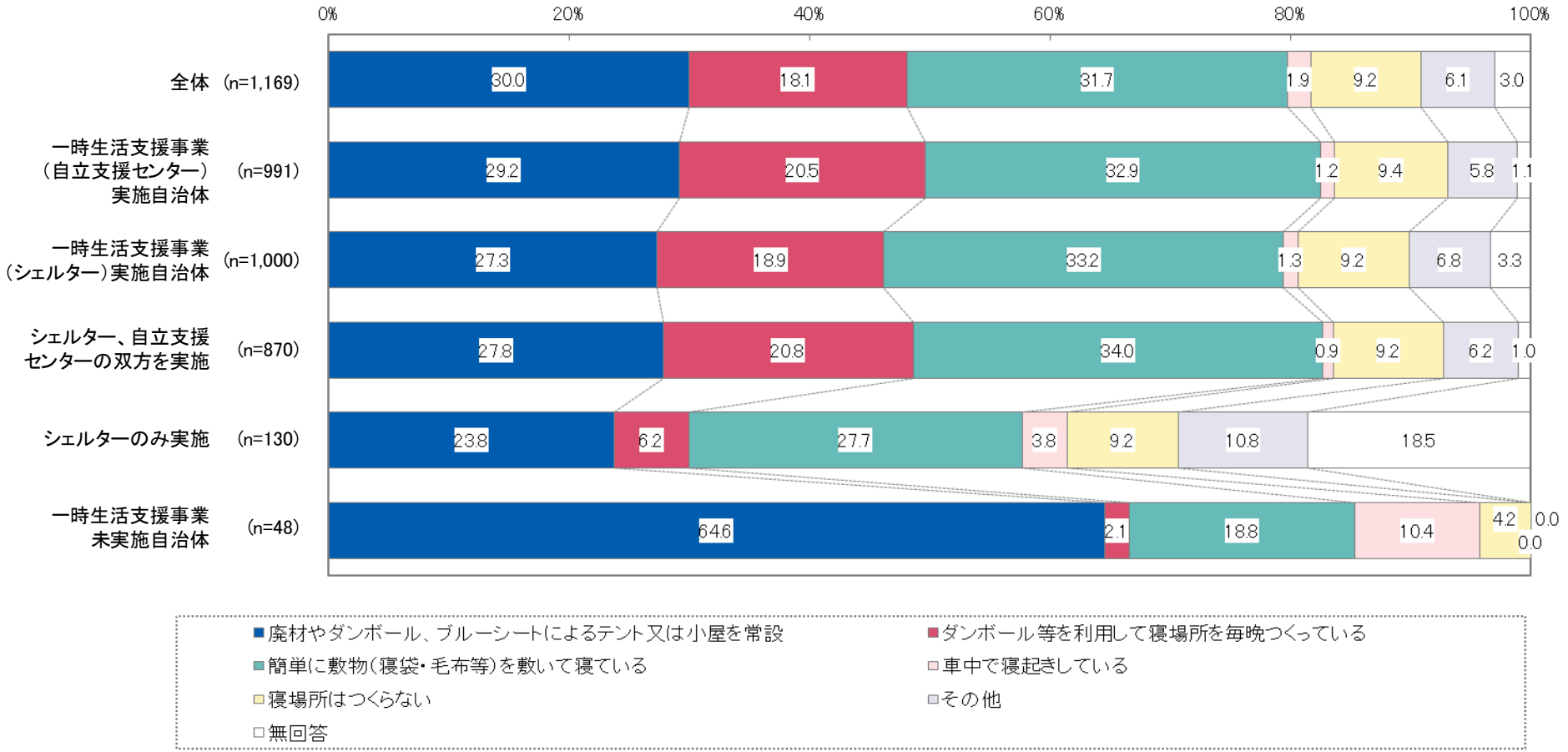
図表122　寝ている場所（具体的に）（地域別（事業実施別））



問２ 寝場所を作る方法

- 寝（野宿）場所をつくる方法については、「自立支援センター」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「小屋を常設」（全体：30.0%、自立支援センター：29.2%、一時生活支援事業未実施：64.6%）の割合が高い。

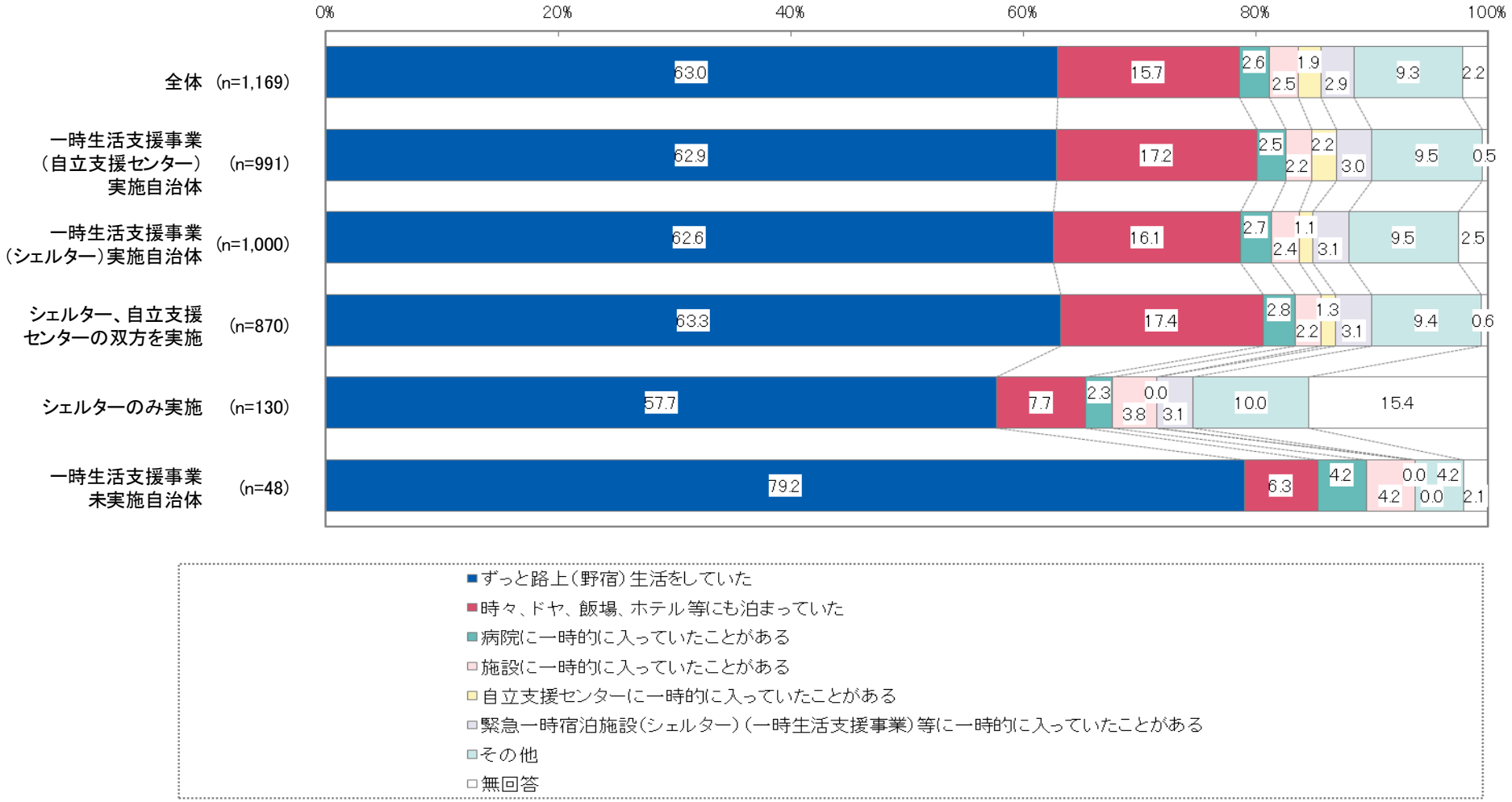
図表123　寝場所を作る方法（地域別（事業実施別））



問４ 今回の路上生活の継続について

- 今回の路上（野宿）生活の継続については、「シェルター、自立支援センターの双方を実施」及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「ずっと路上（野宿）生活をしていた」（全体：63.0%、シェルターと自立支援センター：63.3%、一時生活未実施：79.2%）の割合が高い。

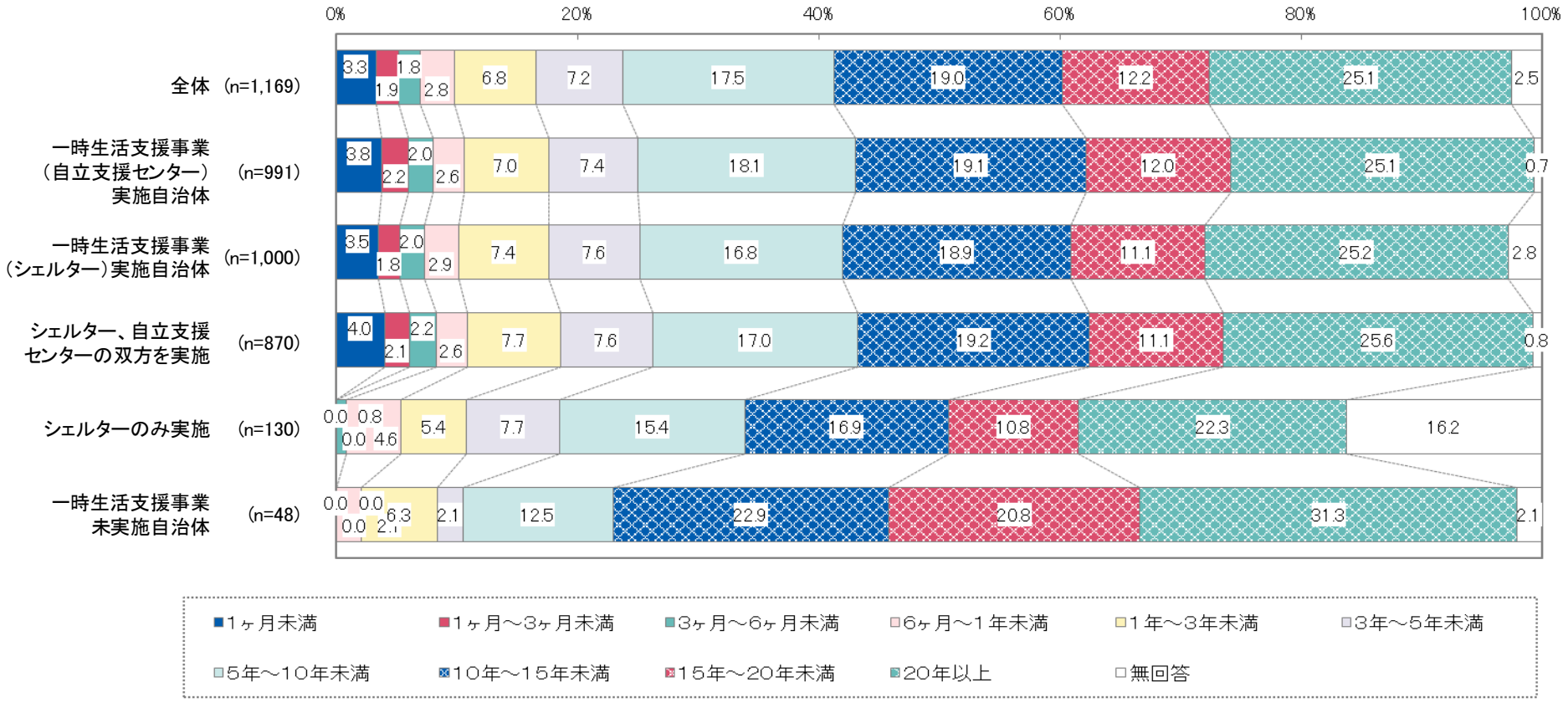
図表124　今回の路上生活の継続について（地域別（事業実施別））



問５ 初めて路上生活をしてからの期間

- 初めての路上（野宿）生活をしてからの期間については、「一時生活支援事業未実施」自治体では「１０年以上」の割合が高い。

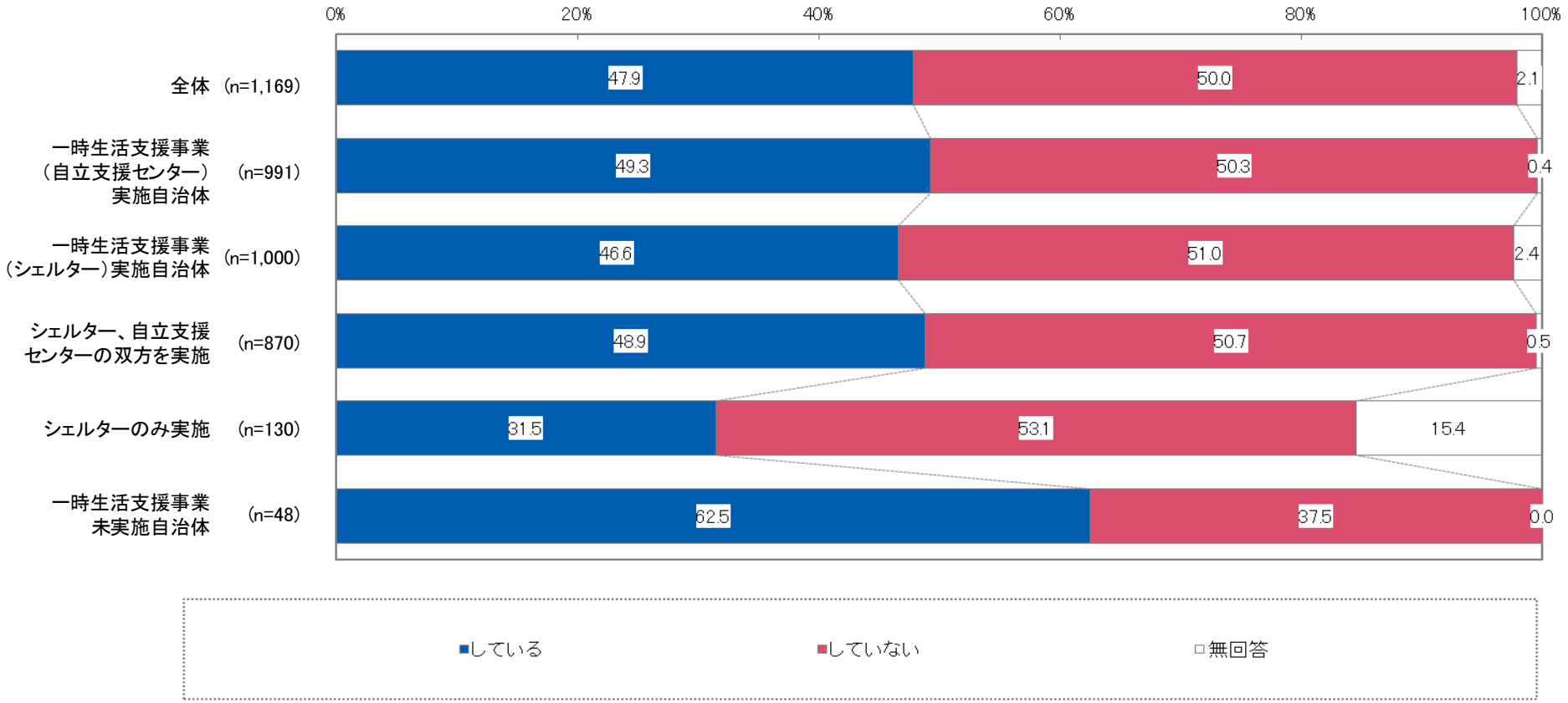
図表125　初めて路上生活をしてからの期間（地域別（事業実施別））



問６ 現在収入のある仕事

- 現在収入のある仕事をしているかについては、「一時生活支援事業未実施」自治体では「している」（全体：47.9%、一時生活未実施：62.5%）の割合が高く、「シェルターのみ」実施自治体では「していない」の割合が高い。

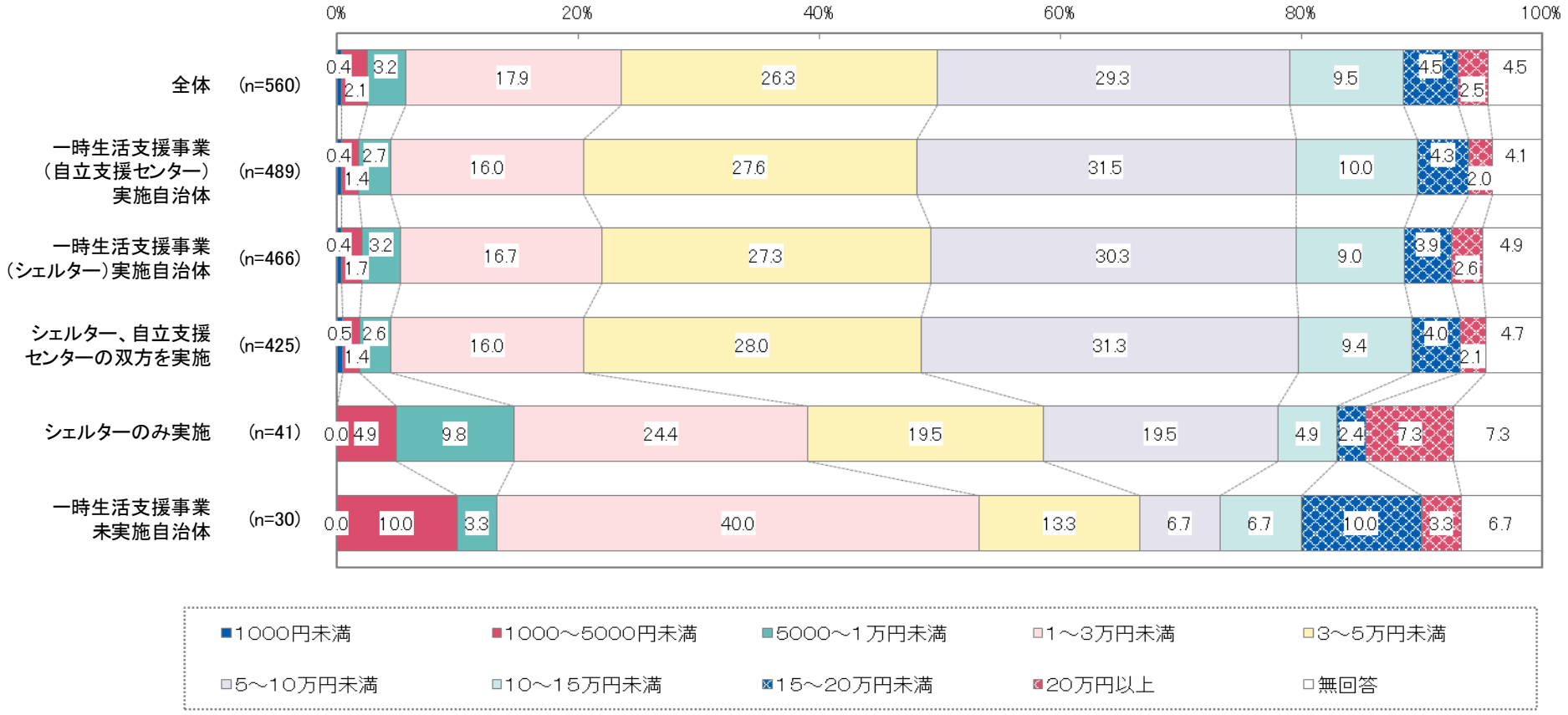
図表126　現在収入のある仕事（地域別（事業実施別））



問６－２ 仕事による平均収入

- 仕事による収入（月額）については、「自立支援センター」「シェルター、自立支援センターの双方を実施」実施自治体では「５～１０万円未満」（全体：29.3%、自立支援センター：31.5%、シェルター：30.3%、自立支援センターの双方を実施 ： 31.3%）の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「1～3万円未満」（全体：17.9%、一時生活未実施：40.0%）の割合が高い。

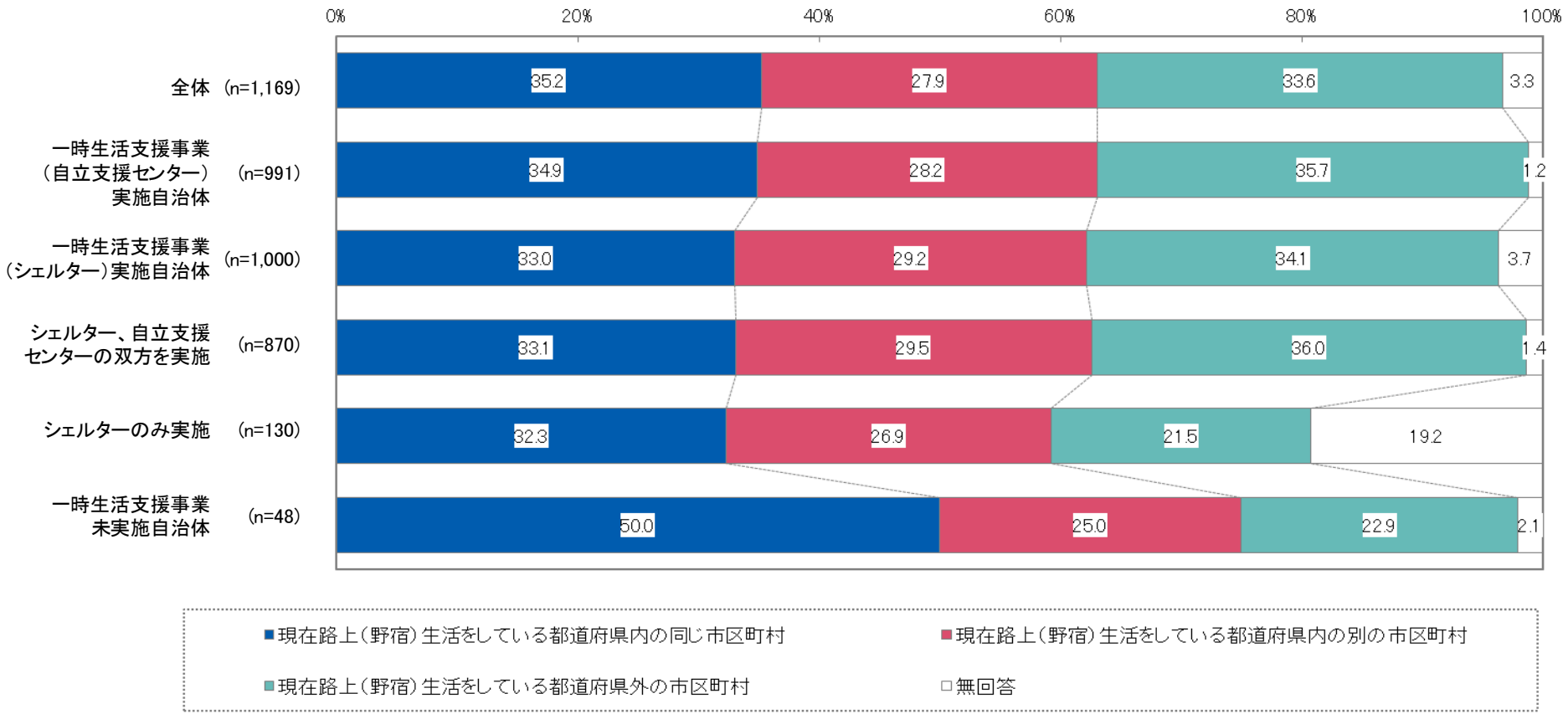
図表127　仕事による平均収入（地域別（事業実施別））



問１３ 初めて路上生活をする前に住んでいた地域

- 初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域については、「一時生活支援事業未実施」自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の同じ市区町村」の割合が高く（50.0%)、「現在路上生活をしている都道府県外の市区町村」の割合が低い（22.9%）。

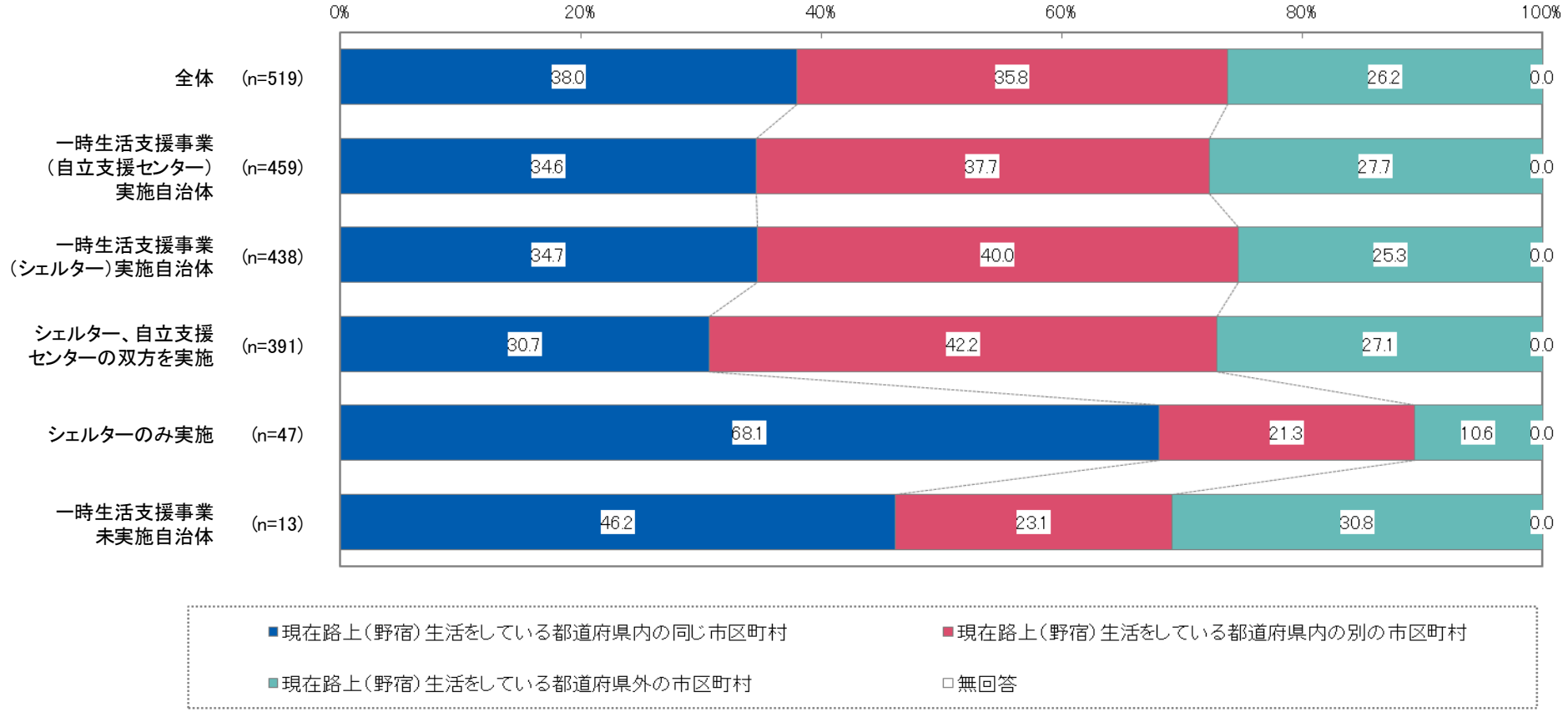
図表128　初めて路上生活をする前に住んでいた地域（地域別（事業実施別））



問１８－１ 別の路上生活場所

- 別の路上（野宿）生活場所での経験については、「一時生活支援事業未実施」自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の同じ市区町村」の割合が高い。

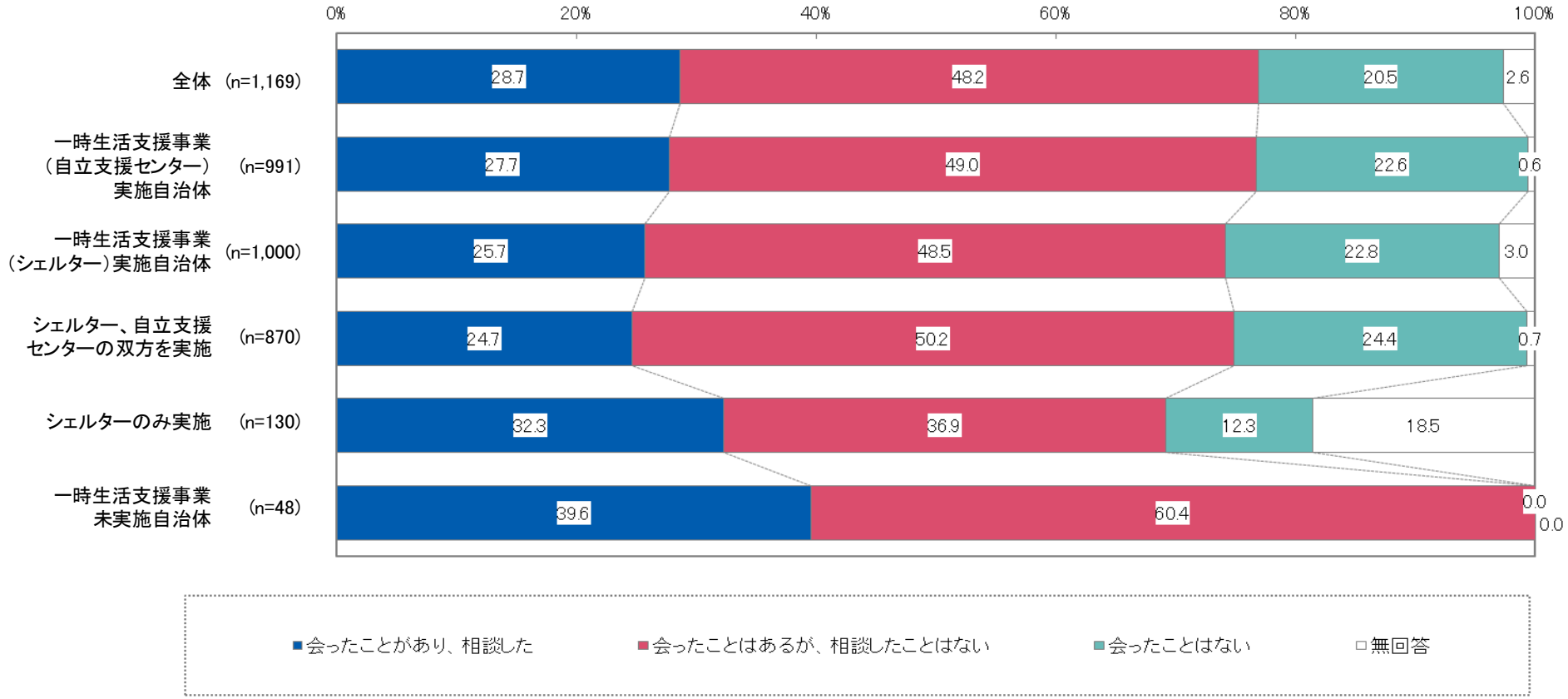
図表129　別の路上生活場所（地域別（事業実施別））



問２７ 巡回相談員に会ったこと

- 巡回相談員に会ったことがあるかについては、「一時生活支援事業未実施」自治体では「会ったことはあるが、相談したことはない」（全体：48.2%、一時生活未実施：60.4%）の割合が高い。

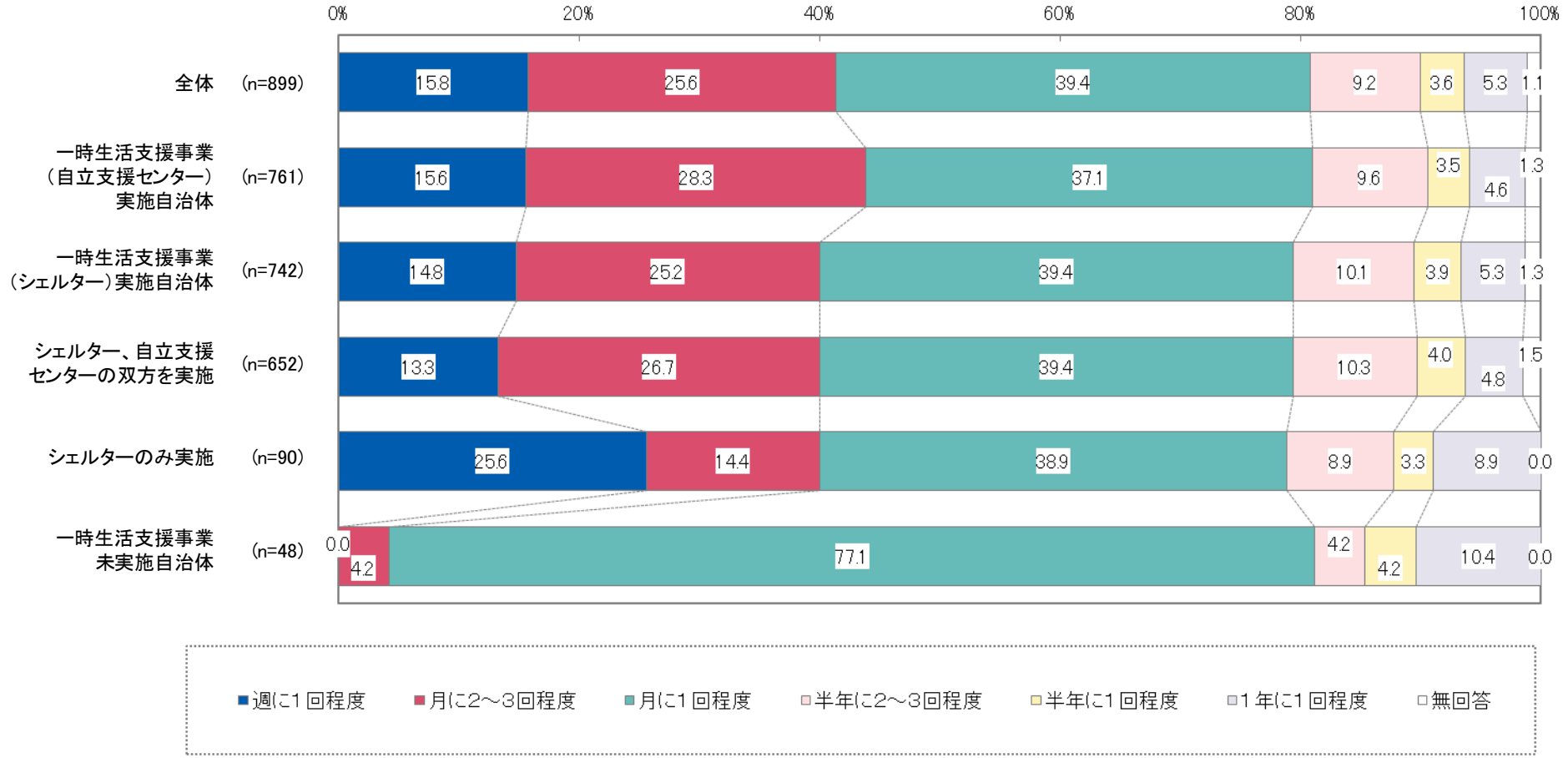
図表130　巡回相談員に会ったこと（地域別（事業実施別））



問２７－１ 巡回の頻度

- 巡回の頻度については、「シェルターのみ」実施自治体では「週に１回程度」（全体：15.8%、シェルターのみ：25.6%）の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「月に１回程度」（全体：39.4%、一時生活未実施：77.1%）の割合が高い。

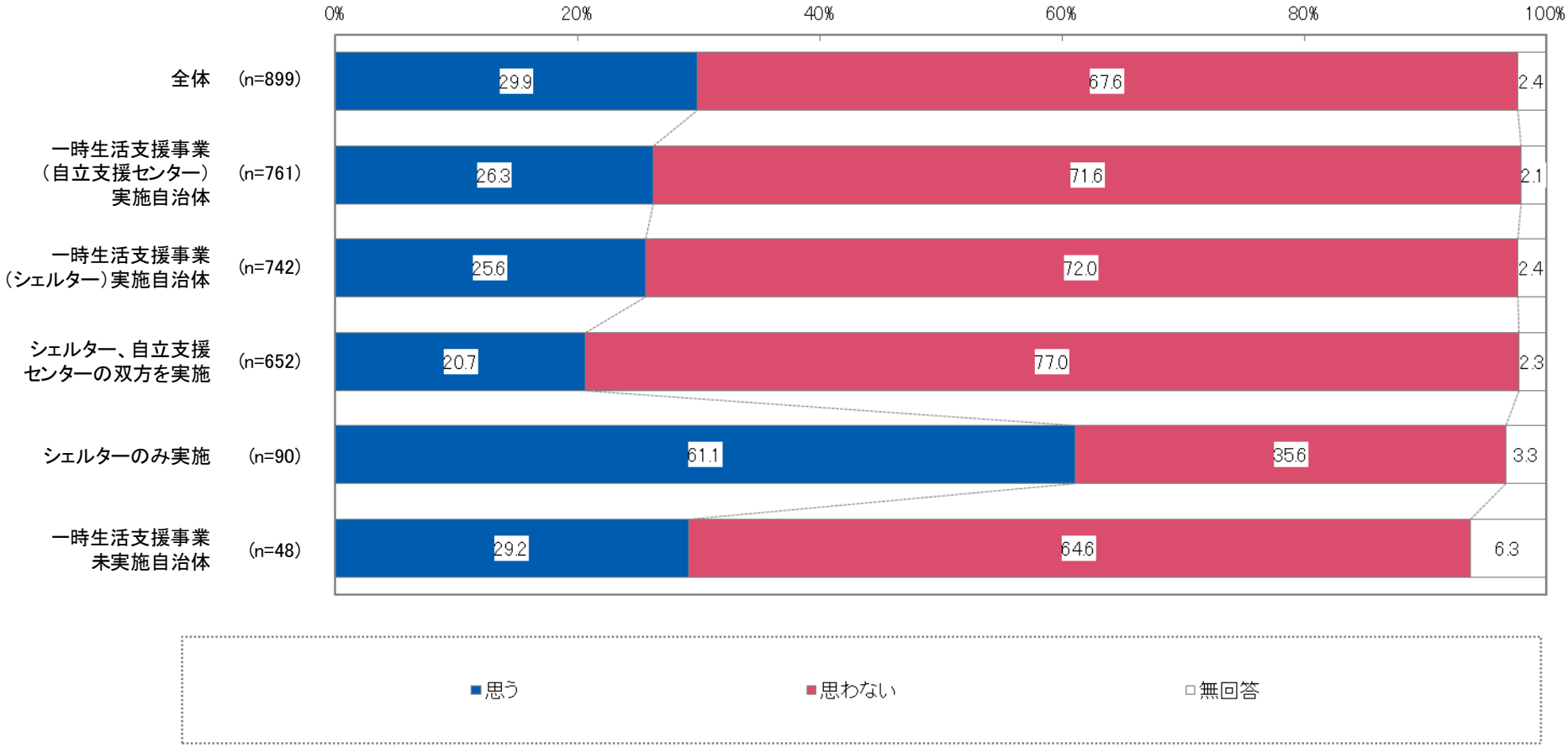
図表131　巡回の頻度（地域別（事業実施別））



問２７－２ 頻繁に巡回するようになったと思うか

- 巡回相談員が頻繁に巡回するようになったと思うかについては、「シェルターのみ」実施自治体では「思う」（全体：29.9%、シェルターのみ：61.1%）の割合が高く、「シェルター、自立支援センターの双方を実施」自治体では「思う」の割合が低い（ 20.7% ）。

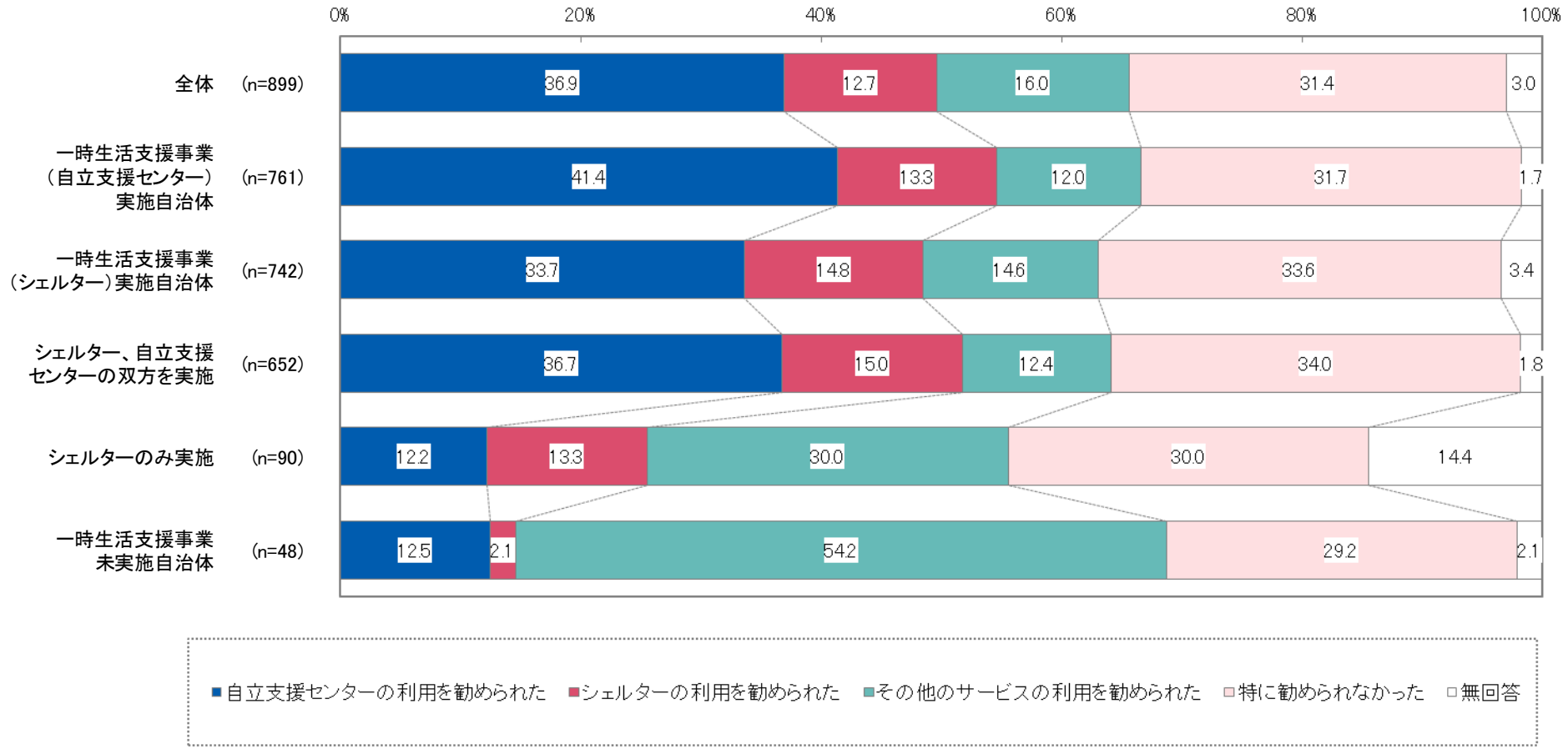
図表132　頻繁に巡回するようになったと思うか（地域別（事業実施別））



問２７－４ 自立支援センターやシェルター等の利用の勧め

- 自立支援センターやシェルター等の利用の勧めについては、「一時生活支援事業（自立支援センター）」実施自治体では「自立支援センターの利用を勧められた」（全体：36.9%、一時生活支援事業：41.4%）の割合が高い。

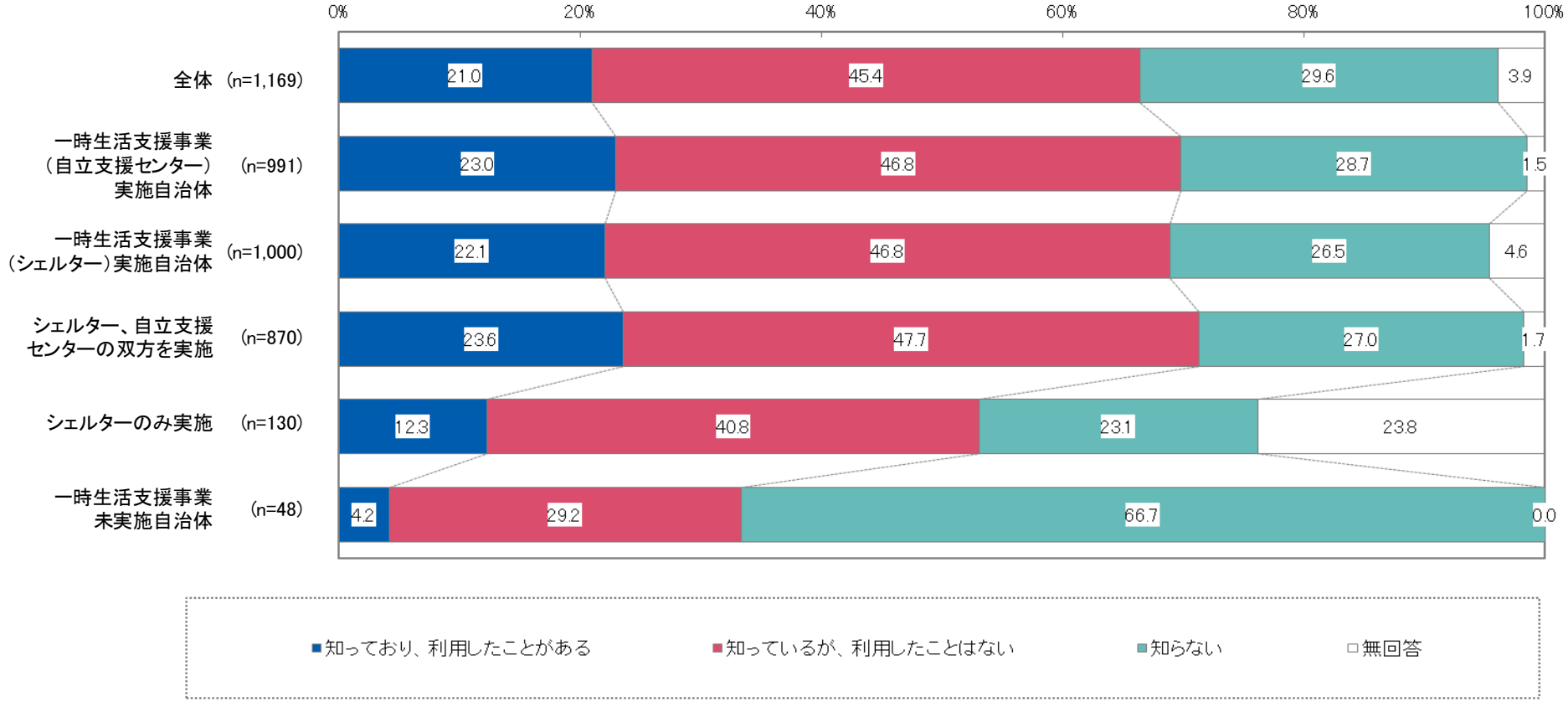
図表133　自立支援センターやシェルター等の利用の勧め（地域別（事業実施別））



問２８ シェルター内容の認知度・利用度

- シェルターの内容の認知度・利用度については、「シェルターのみ」実施自治体では「知っており、利用したことがある」の割合が低く（12.3%）、「シェルター、自立支援センターの双方を実施」自治体では「知っているが利用したことはない」の割合が高い（47.7%）。

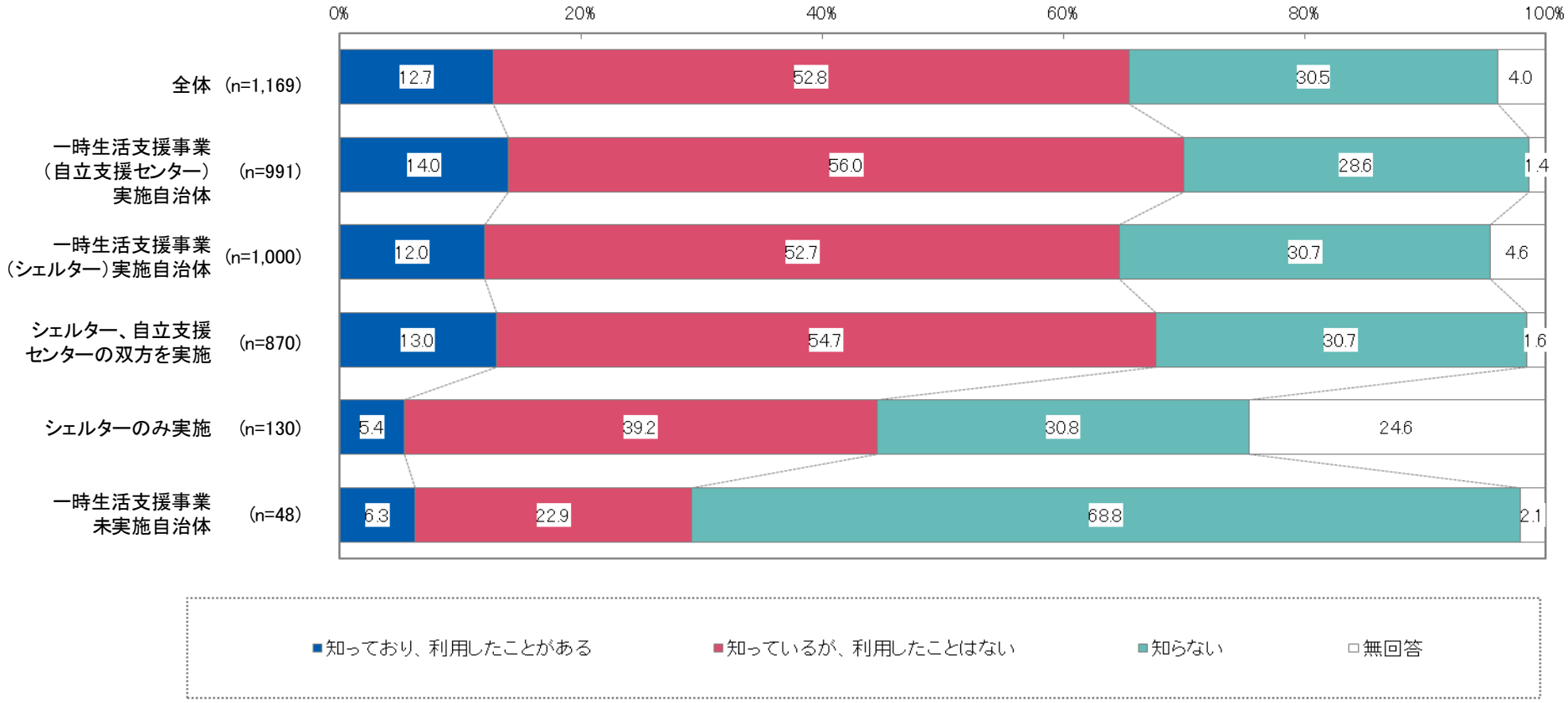
図表134　シェルター内容の認知度・利用度（地域別（事業実施別））



問２９ 自立支援センターの内容の認知度・利用度

- 自立支援センターの内容の認知度・利用度については、「自立支援センター」実施自治体では、「知っており、利用したことがある」の割合が高く（全体：12.7%、自立支援センター：14.0%）、「知っているが、利用したことはない」の割合が高い（全体：52.8%、自立支援センター56.0%）。

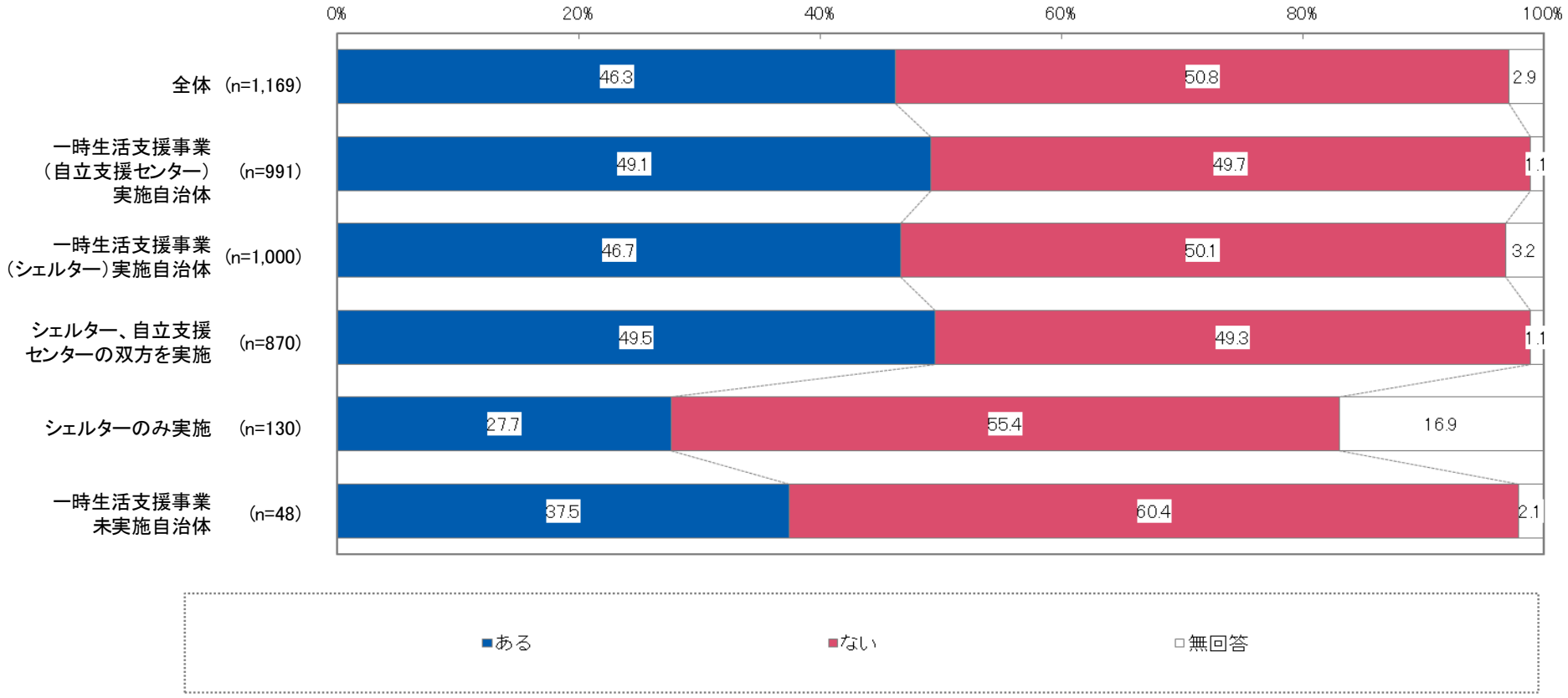
図表135　自立支援センターの内容の認知度・利用度（地域別（事業実施別））



問３０ 公的機関への相談

- 公的機関への相談については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「ある」（全体：46.3%、シェルターのみ：27.7%、一時生活未実施：37.5%）の割合が低い。

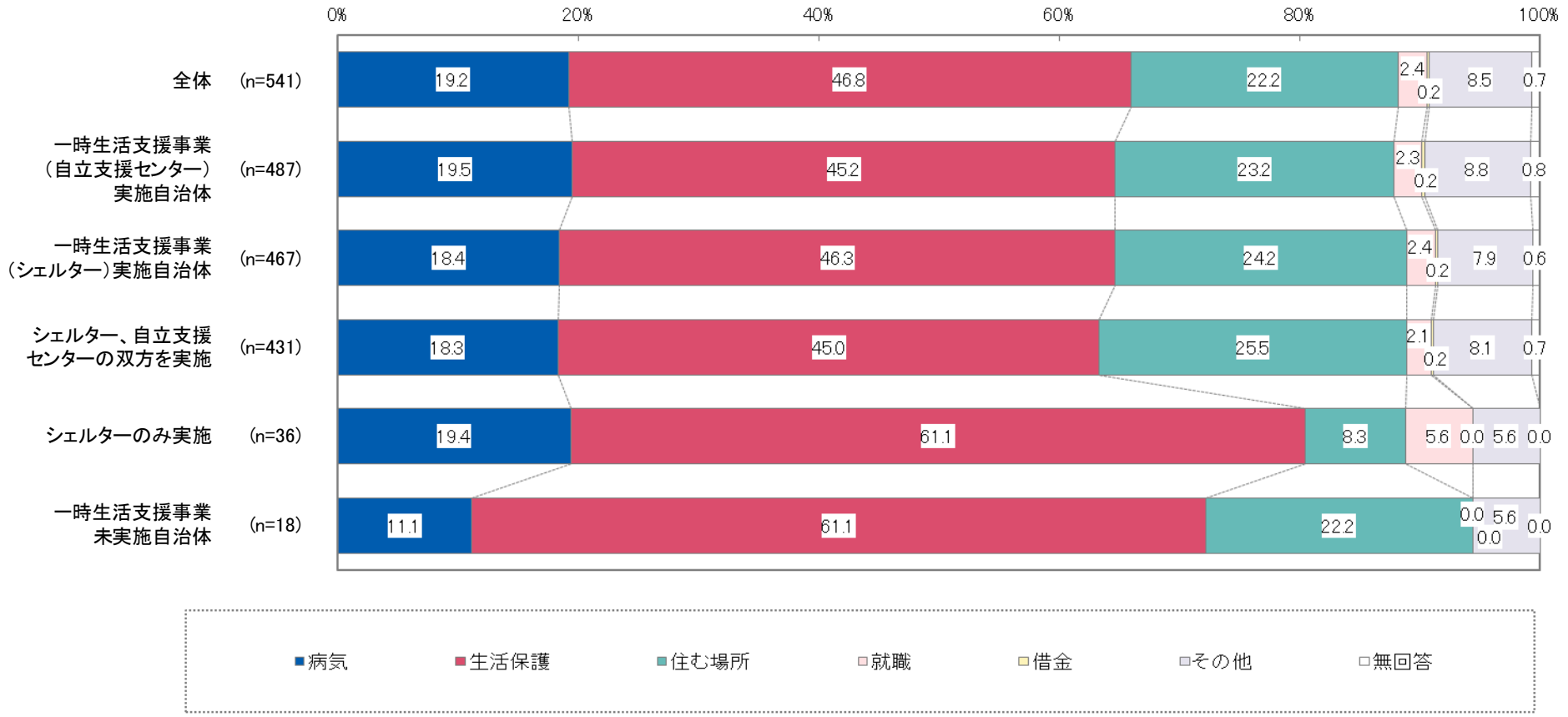
図表136　公的機関への相談（地域別（事業実施別））



問３０－１ 公的機関への相談内容

- 公的機関への相談内容については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「生活保護」（全体：46.8%、シェルターのみ：61.1%、一時生活未実施：61.1%）の割合が高く、 「シェルターのみ」実施自治体では「住む場所」（全体：22.2%、シェルターのみ：8.3%）の割合が低い。

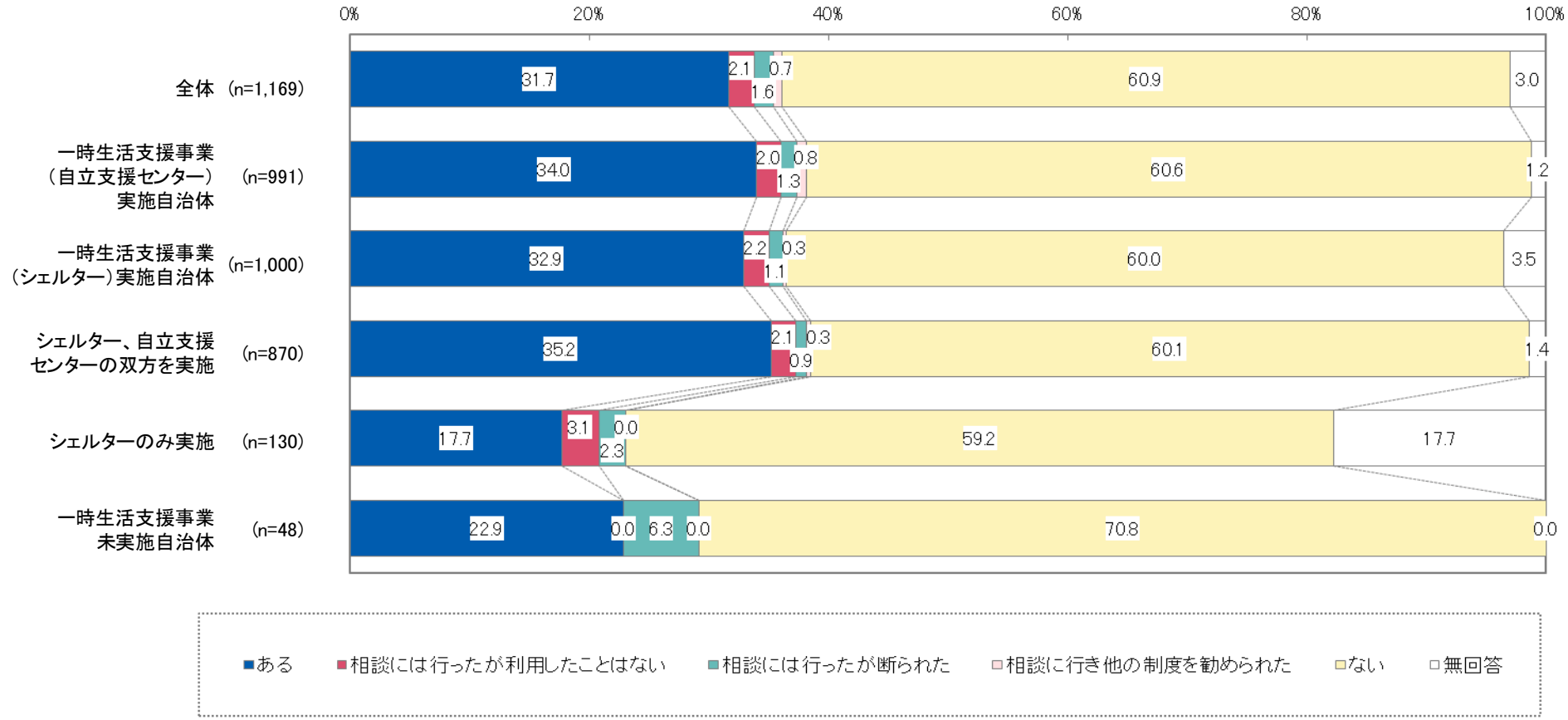
図表137　公的機関への相談内容（地域別（事業実施別））



問３１ 生活保護の利用経験

- 生活保護制度の利用経験については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「ある」（全体：31.7%、シェルターのみ：17.7%、一時生活未実施：22.9%）の割合が低い。

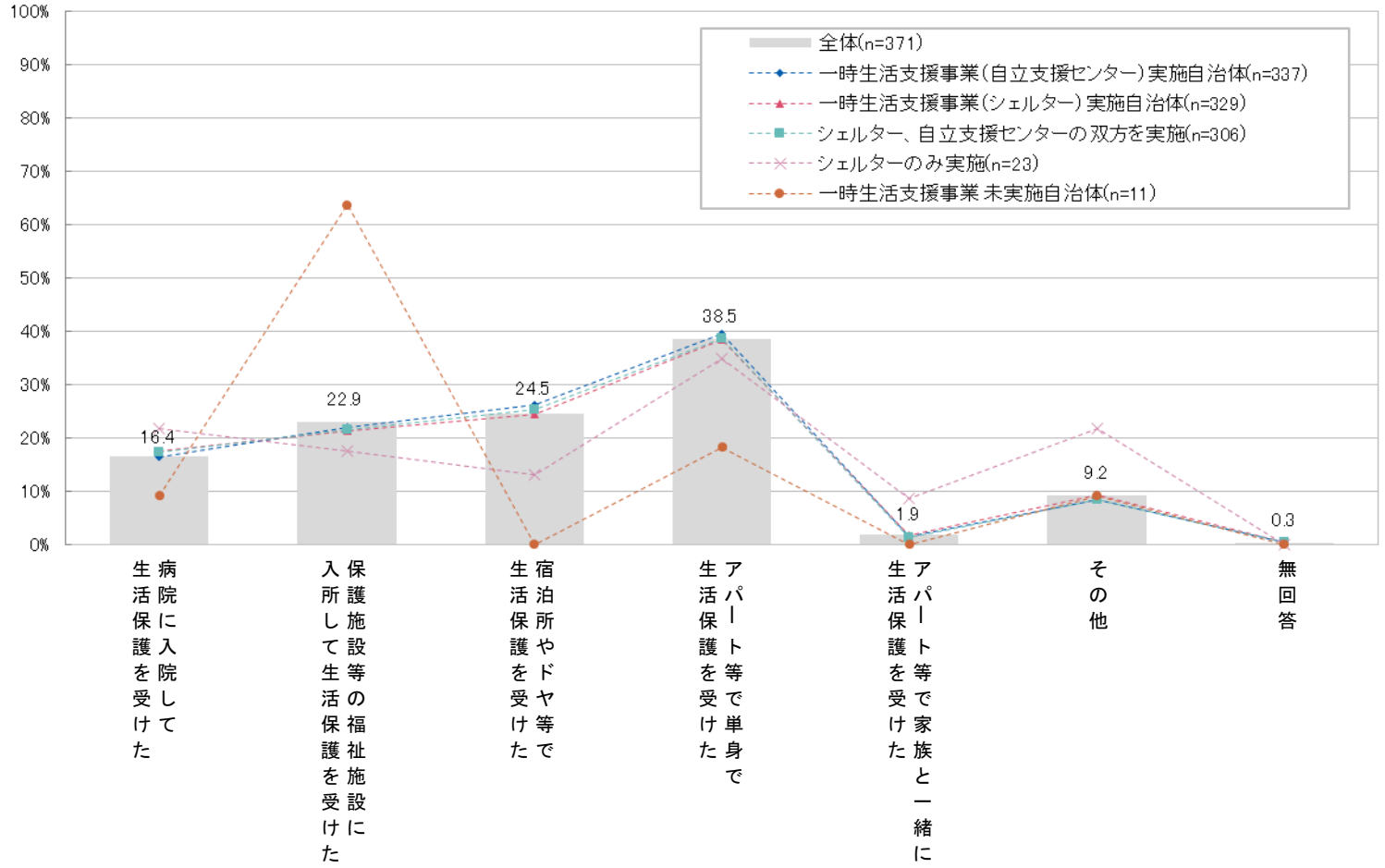
図表138　生活保護の利用経験（地域別（事業実施別））



問３１－１ 生活保護制度の利用方法

- 生活保護制度の利用方法については、「一時生活支援事業未実施」自治体以外では「アパート等で単身で生活保護を受けた」の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「保護施設等の福祉施設に入所して生活保護を受けた」の割合が高い。

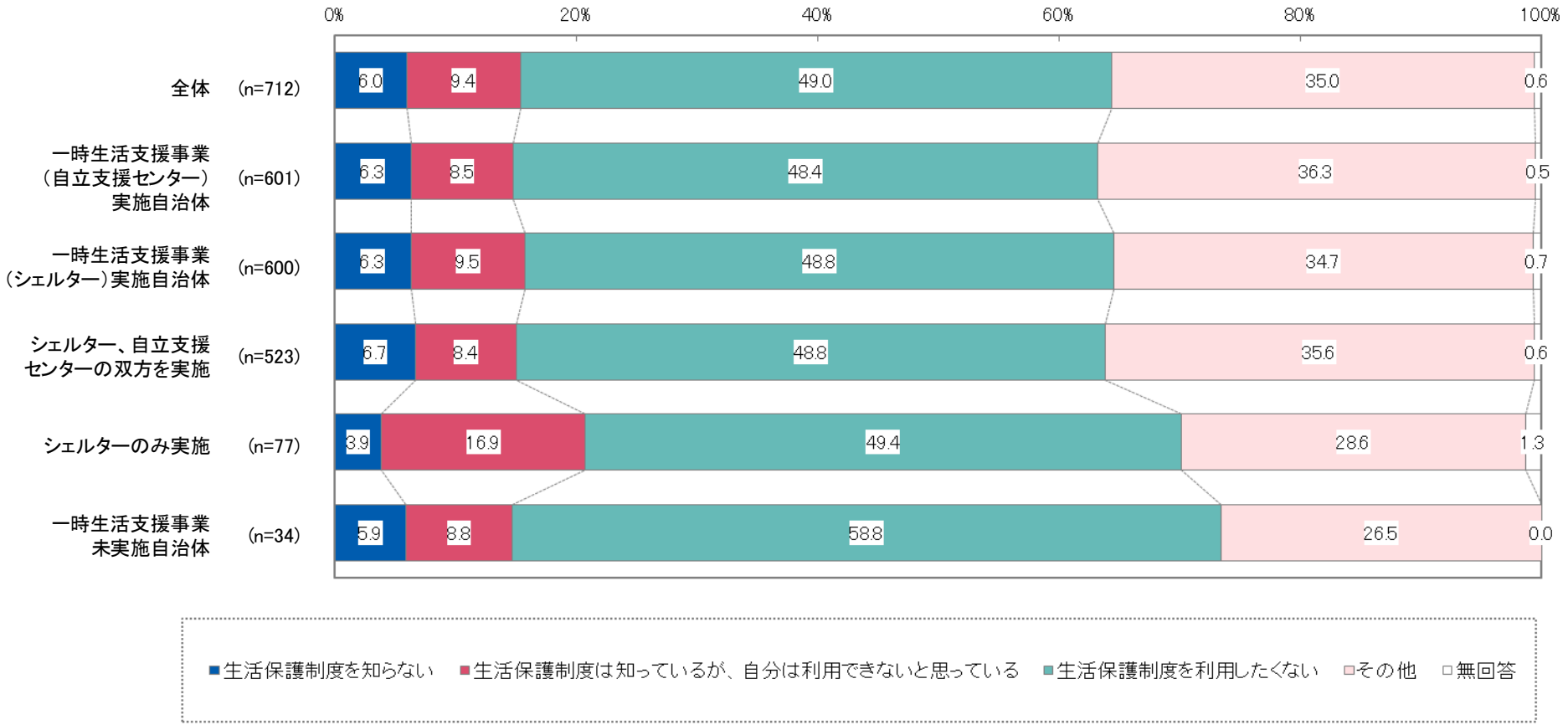
図表139　生活保護制度の利用方法（地域別（事業実施別））



問３１－３ 生活保護制度を利用しなかった理由

- 生活保護制度を利用しなかった理由については、「シェルターのみ」実施自治体では「生活保護制度は知っているが、自分は利用できないと思っている」（全体：9.4%、シェルターのみ：16.9%）の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「生活保護制度を利用したくない」（全体：49.0%、一時生活未実施：58.8%）が高い。

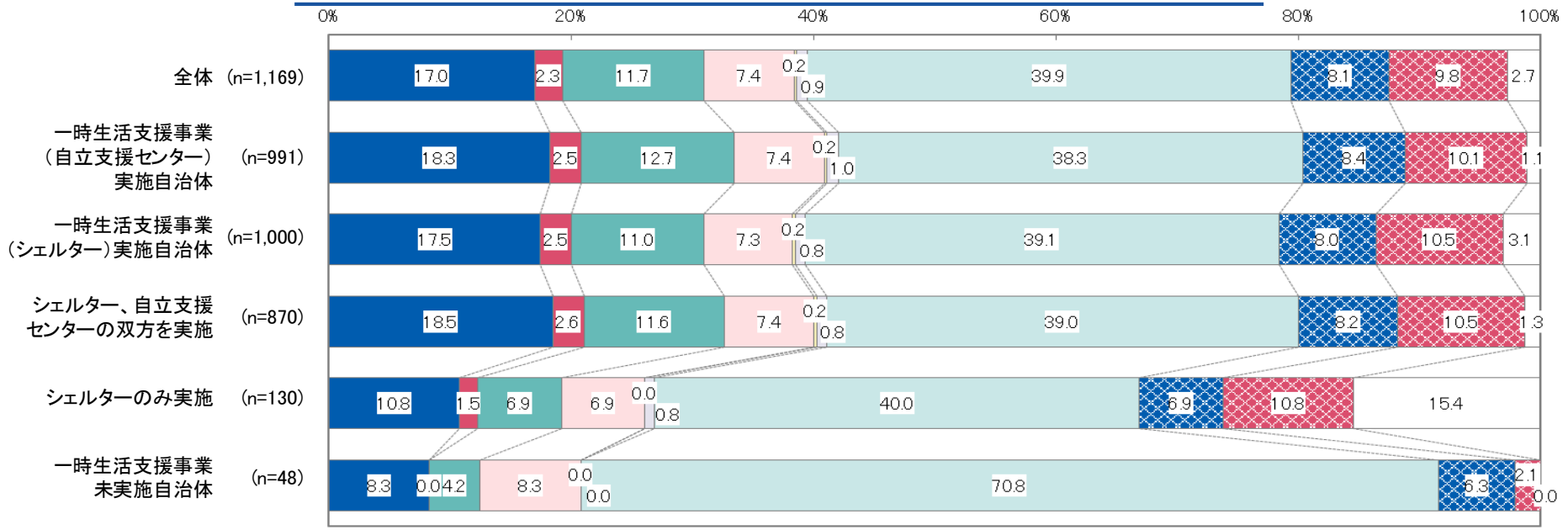
図表140　生活保護制度を利用しなかった理由（地域別（事業実施別））



問３６ 今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「アパートに住み、就職して自活したい」（全体：17.0%、シェルターのみ10.8%、一時生活未実施：8.3%）の割合が低く、「今のままでいい」（全体：39.9%、シェルターのみ：40.0%、一時生活未実施：70.8%）の割合が高い。

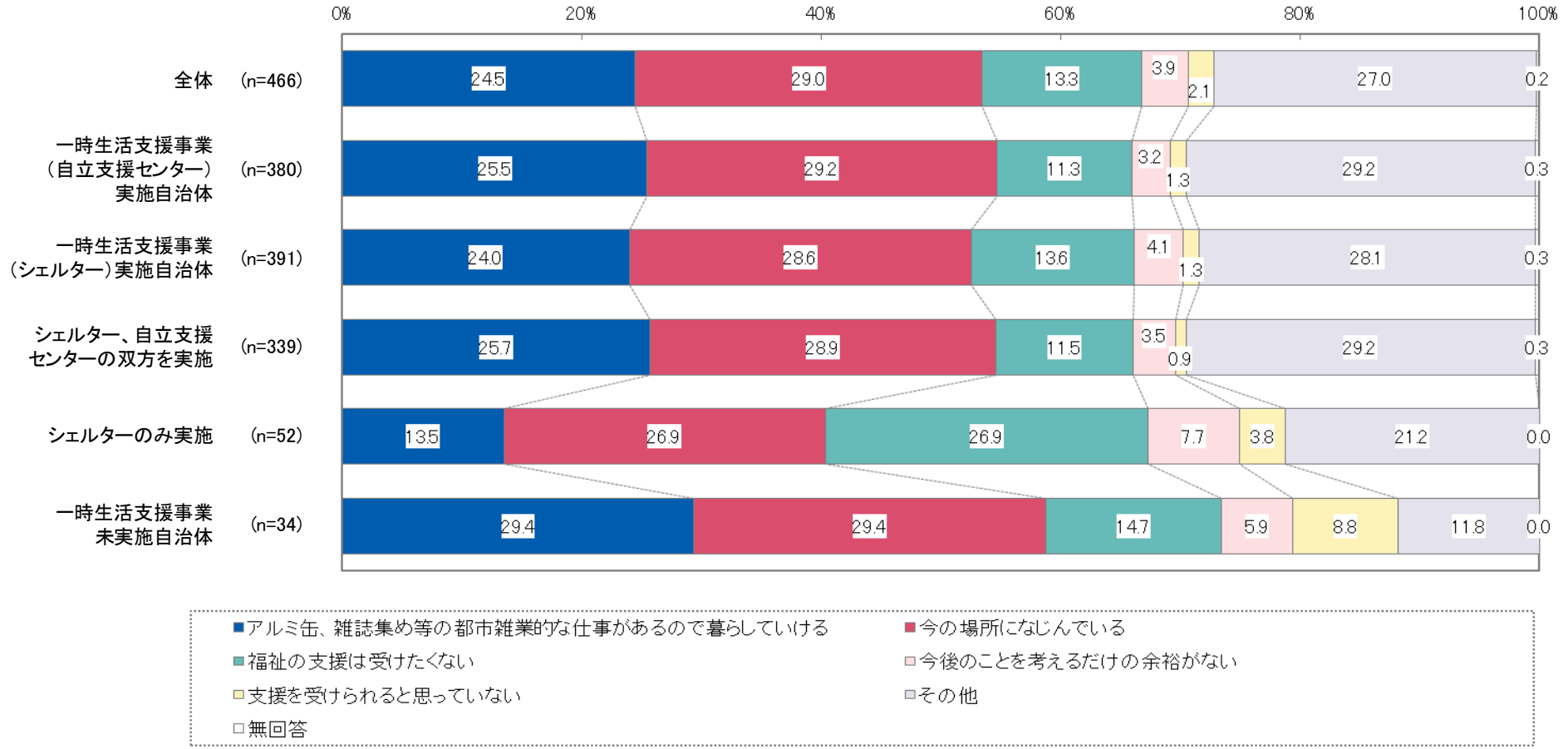
図表１４１　今後望んでいる生活（地域別（事業実施別））



問３６－１ 今のままでいい理由

- 今の生活のままでいい理由については、「シェルターのみ」実施自治体では「今の場所になじんでいる」及び「福祉の支援は受けたくない」の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「都市作業的な仕事があるので暮らしていける」の割合が高い。

図表142　今のままでいい理由（地域別（事業実施別））



地域別（人口別）

地域別（人口別）の傾向について

路上での生活

- 具体的な寝場所では、人口50万人以上の自治体で起居する者は公園の割合が高く、人口50万人未満の自治体で起居する者は河川の割合が高い。
- 寝場所をつくる方法では、人口50万人未満の自治体で起居する者はテント又は小屋を常設する割合が高い。
- 仕事では、人口50万人未満、200万人以上の自治体で起居する者は仕事により収入を得ている割合が高い。

路上生活までのいきさつ

- 初めて路上生活をする前に住んでいた地域との関係では、人口30万人未満の自治体で起居する者は同一都道府県内の別の市町村から移動している割合が高い。

福祉制度の周知・利用状況

- シェルター、自立支援センターの周知度は、30万人以上の自治体に起居する者では知っている割合が高く、利用度では、50万人以上の自治体に起居する者で利用した経験がある割合が高い。
- 生活保護では、人口50万人以上の自治体に起居する者は利用経験の割合が高い。また、人口50万人～100万人の自治体に起居する者は、制度を利用できないと思っている割合が高い。

地域別（人口別）の傾向について

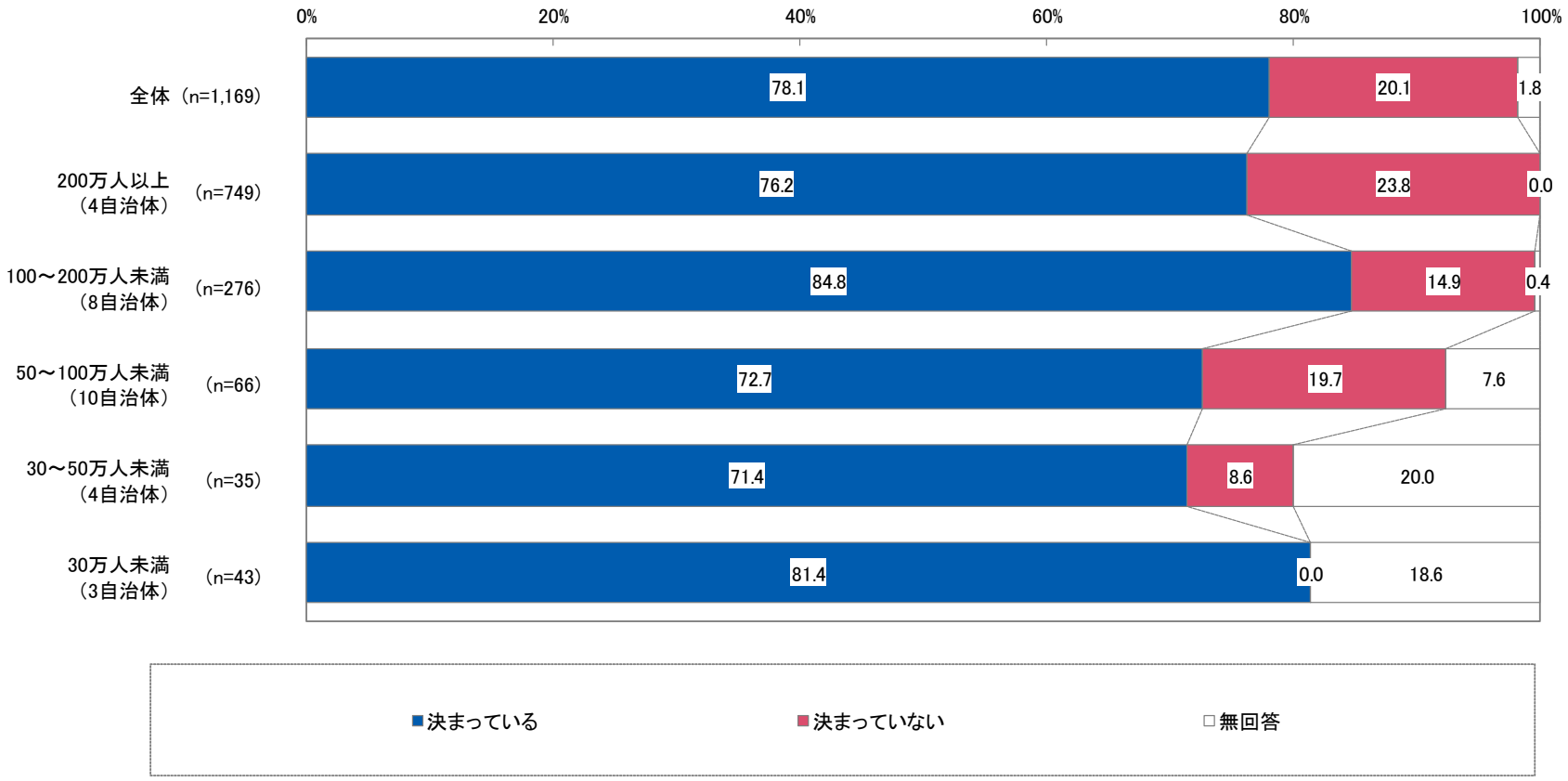
今後の生活

- 今後望んでいる生活では、人口規模の小さい自治体になればなるほど、現在の路上生活を維持することを希望する割合が高い。

問１　寝ている場所

- 寝ている場所については、「人口１００～２００万人未満」の自治体では「一定の場所で決まっている」の割りたいが高く（全体：78.1%、人口１００～２００万未満：84.8%)、「２００万人以上」の自治体では「決まっていない」の割合が高い（全体：20.1%、人口200万人以上：23.8%）。

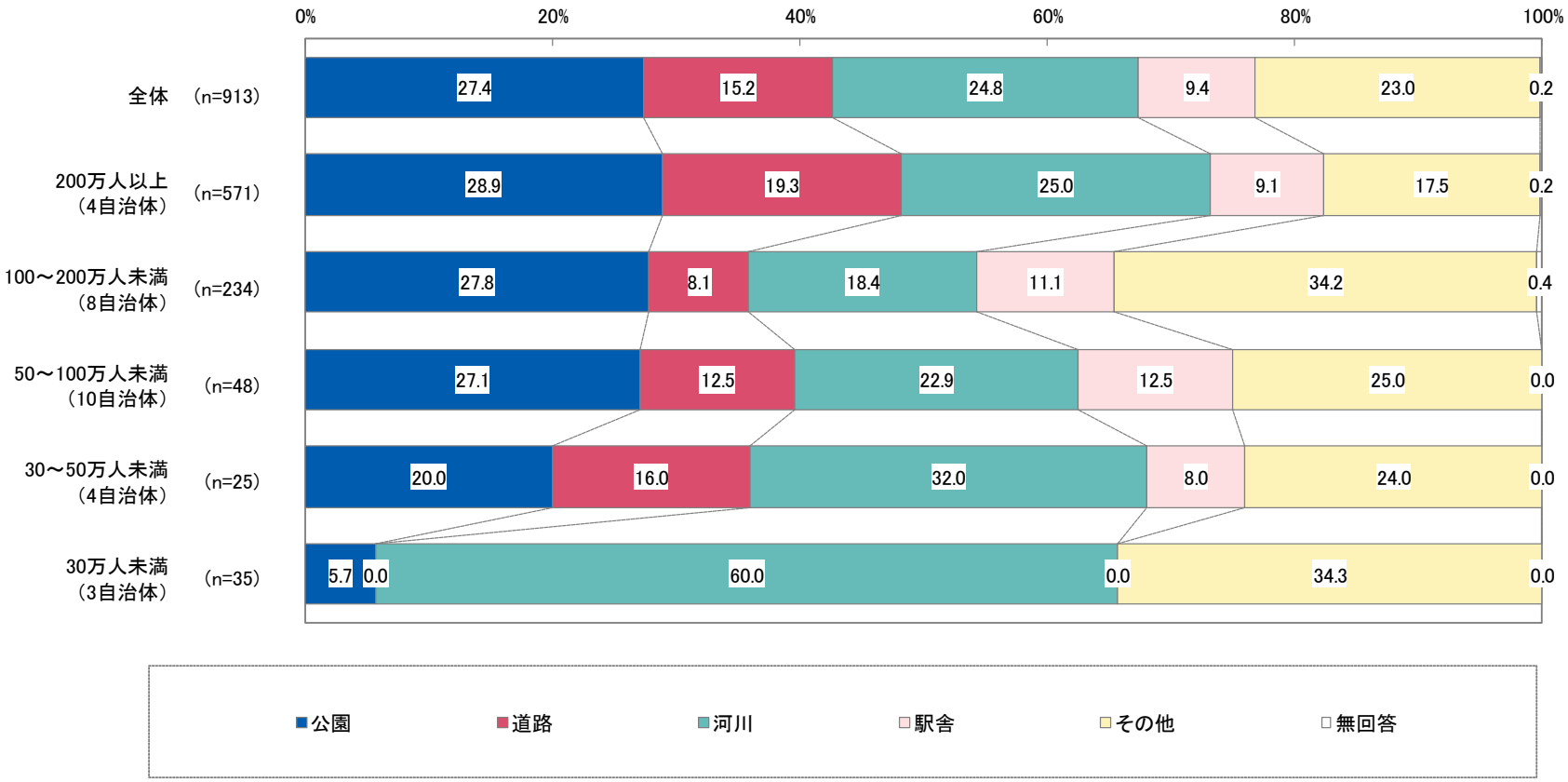
図表143　寝ている場所（地域別（人口別））



問１－１ 寝ている場所（具体的に）

- 具体的な寝場所については、「人口２００万人以上」の自治体では「公園」及び「道路」の割合が高く（それぞれ28.9%、19.3%）、「人口３０万人未満」の自治体では「河川」の割合が高い（60.0%）。

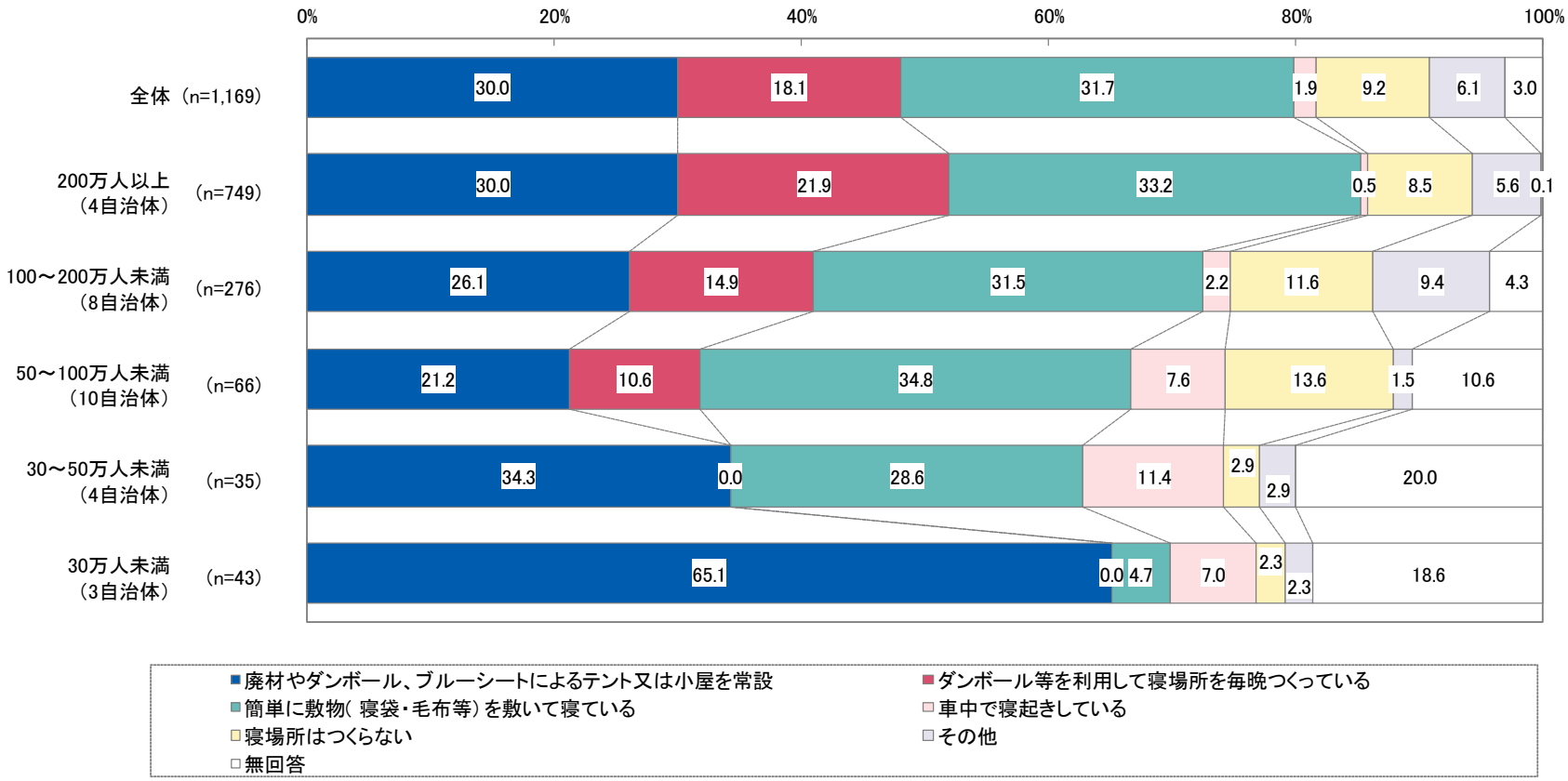
図表144　寝ている場所（具体的に）（地域別（人口別））



問２ 寝場所を作る方法

- 寝（野宿）場所をつくる方法については、「人口５０万人以上」の自治体では「敷物を敷いて寝ている」の割合が高く、「人口２００万人以上」の自治体では「ダンボール等を利用」の割合が高く（21.9%）、「人口３０万人未満」の自治体では「小屋を常設」の割合が高い（65.1%）。

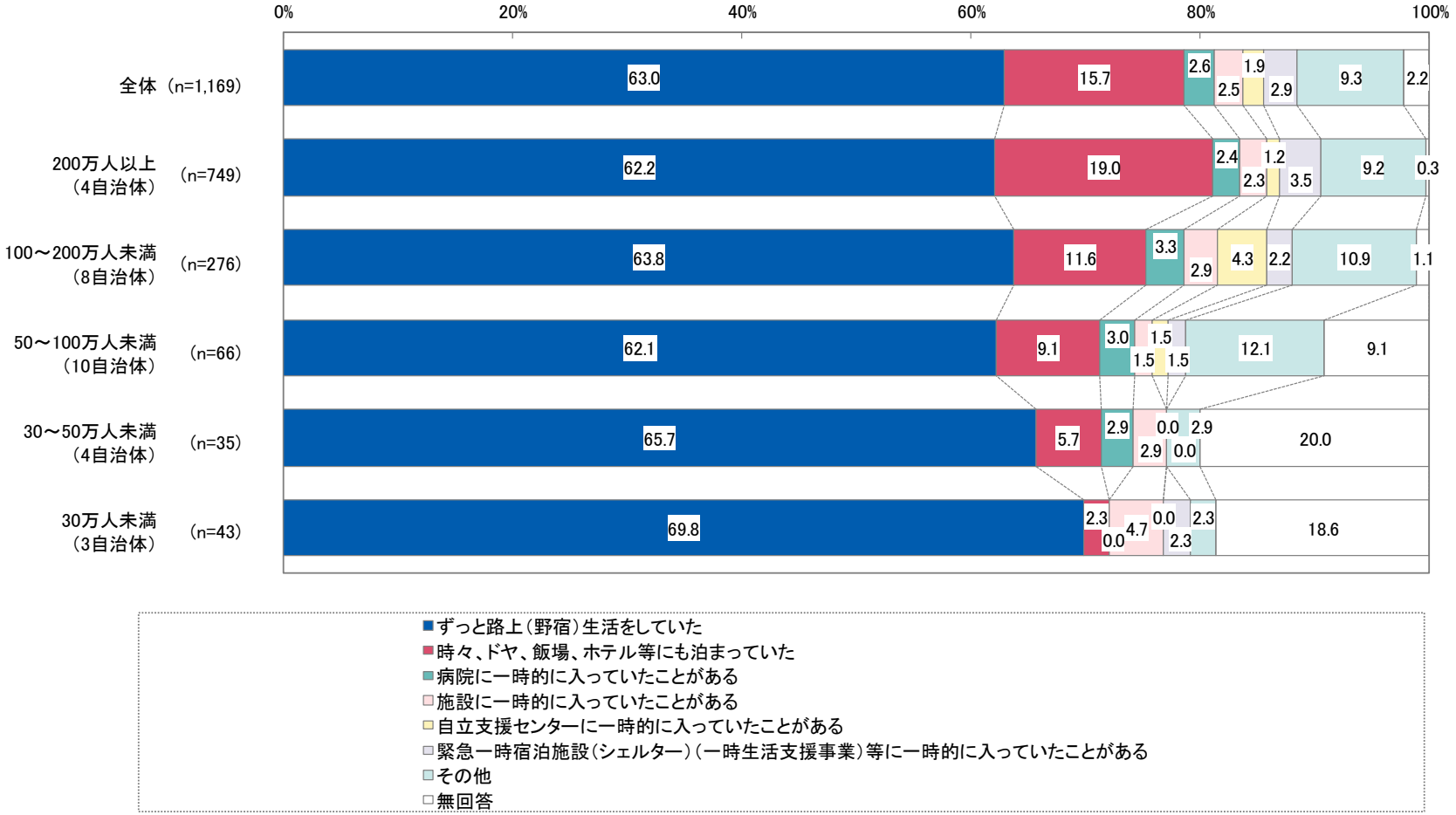
図表145　寝場所を作る方法（地域別（人口別））



問４ 今回の路上生活の継続について

- 今回の路上生活の継続については、「人口２００万人以上」の自治体では「時々、ドヤ、飯場、ホテル等」の割合が高く（19.0%）、「人口３０万人未満」の自治体では「ずっと路上生活をしていた」の割合が高く（69.8%）、「人口１００～２００万人未満」の自治体では「自立支援センターに一時的に」の割合が高い（3.3%）。

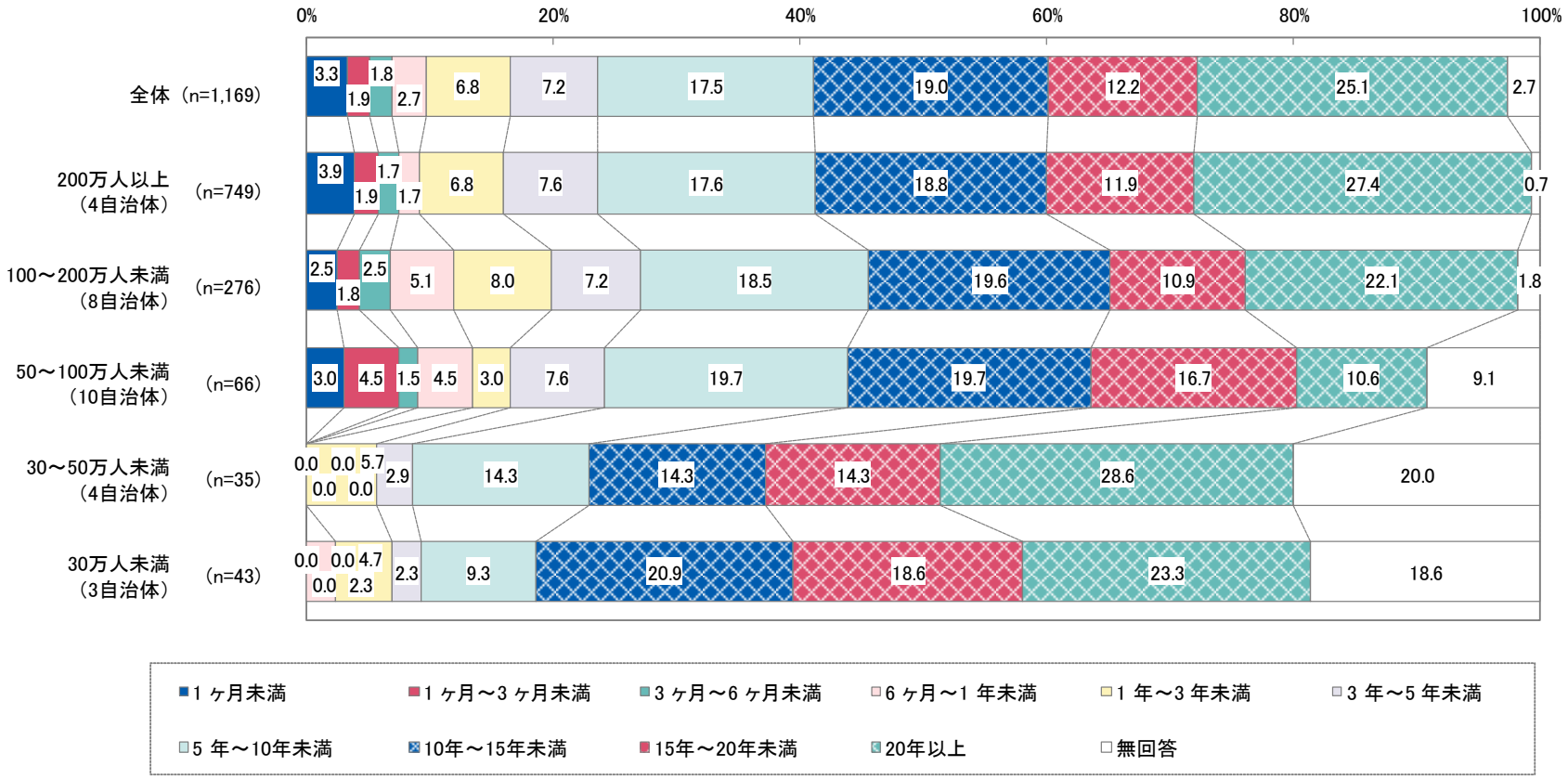
図表146　今回の路上生活の継続について（地域別（人口別））



問５ 初めて路上生活をしてからの期間

- 初めて路上（野宿）生活をしてからの期間については、「人口３０万人未満」の自治体では「１０年以上」の割合が高い。

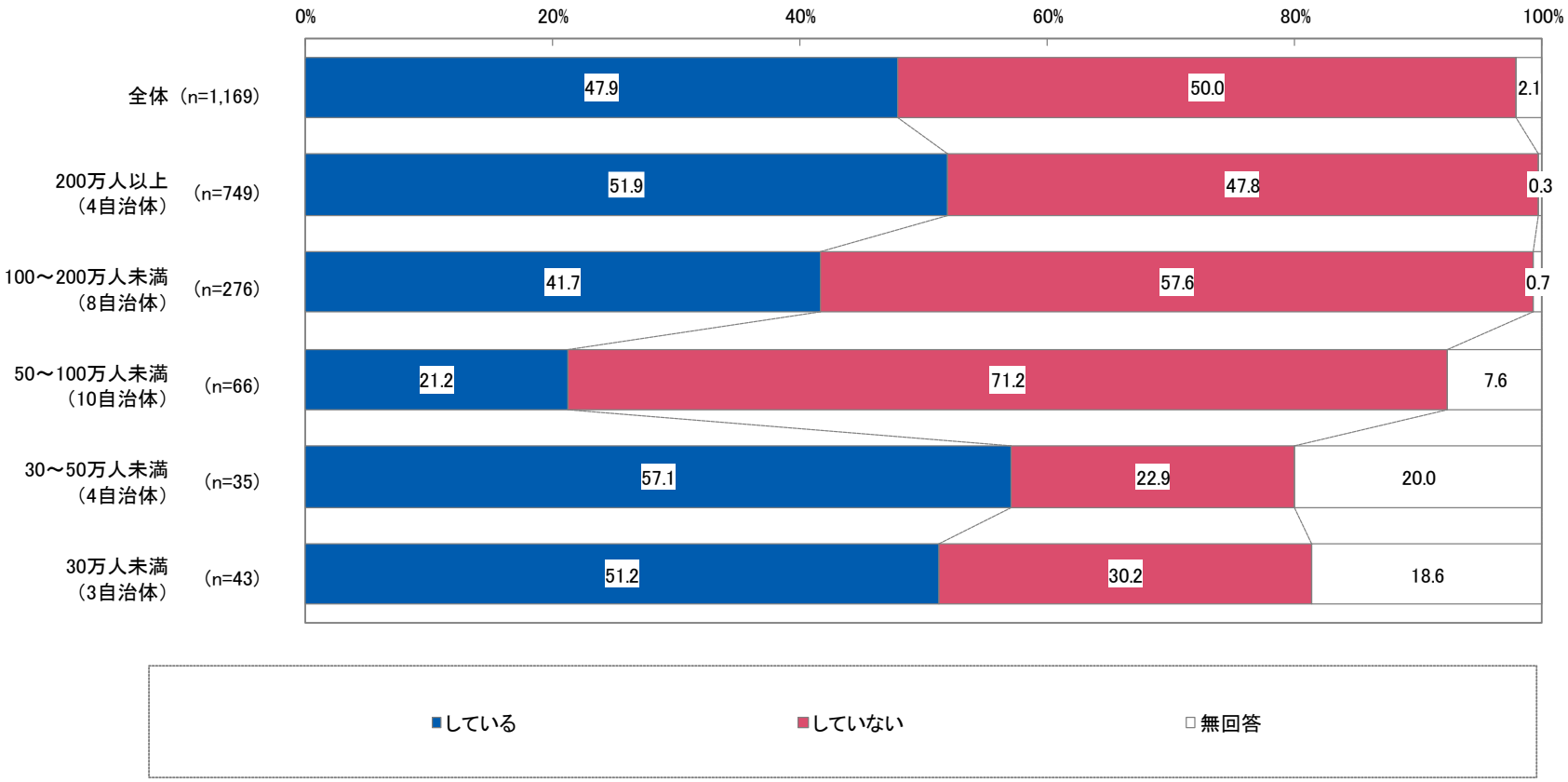
図表147　初めて路上生活をしてからの期間（地域別（人口別））



問６ 現在収入のある仕事

- 現在収入のある仕事をしているかについては、「人口３０～５０万人未満」の自治体では「している」（全体：47.9%、３０～５０万人未満：57.1%）の割合が高く、「人口５０～１００万人未満」の自治体では「していない」の割合が高い（71.2%）。

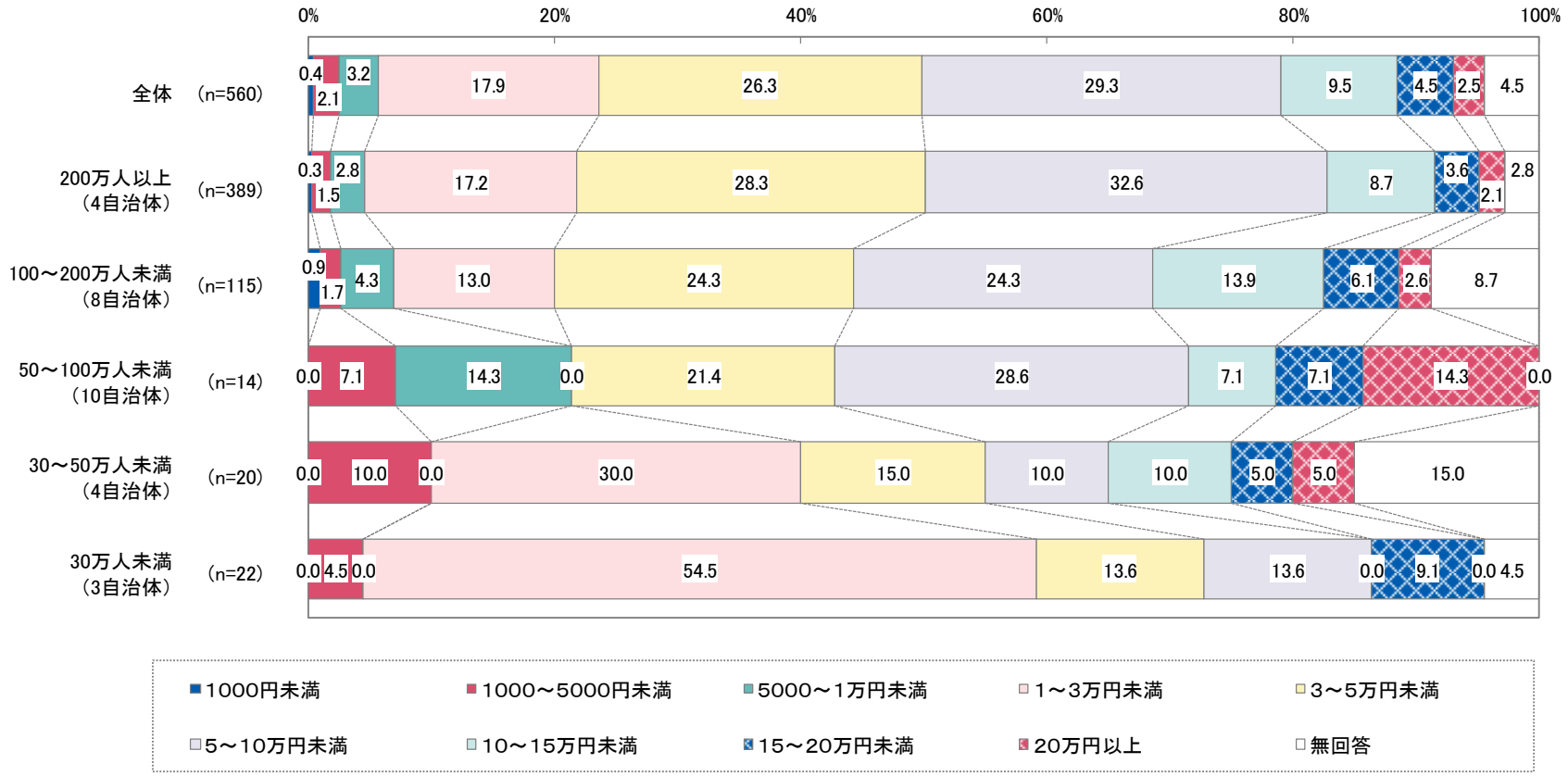
図表148　現在収入のある仕事（地域別（人口別））



問６－２ 仕事による平均収入

- 仕事による収入（月額）については、「人口５０万人未満」の自治体では「１～３万円未満」（全体：17.9%、３０～５０万人未満の自治体：30.0%、３０万人未満：54.5%）の割合が高く、「人口２００万人以上」の自治体では「５～１０万円未満」（全体：29.3%、２００万人以上：32.6%）の割合が高い。

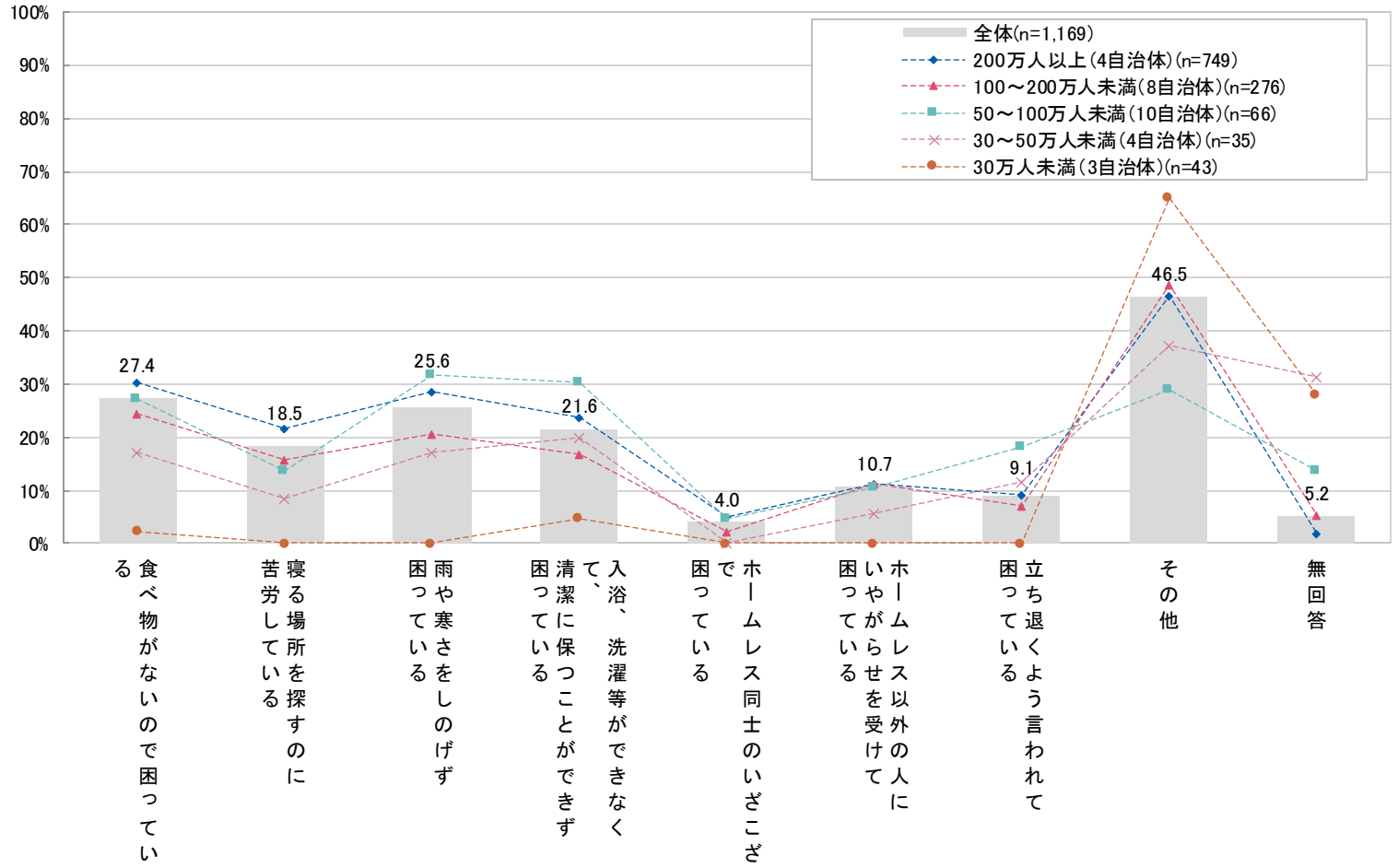
図表149　仕事による平均収入（地域別（人口別））



問８ 路上生活で困っていること

- 路上（野宿）生活の中で、困っていることについては、「人口２００万人以上」の自治体では「食べ物が十分にないので困っている」の割合が高く、「人口５０～１００万人」では「雨や寒さをしのげずに困っている」の割合が高い。

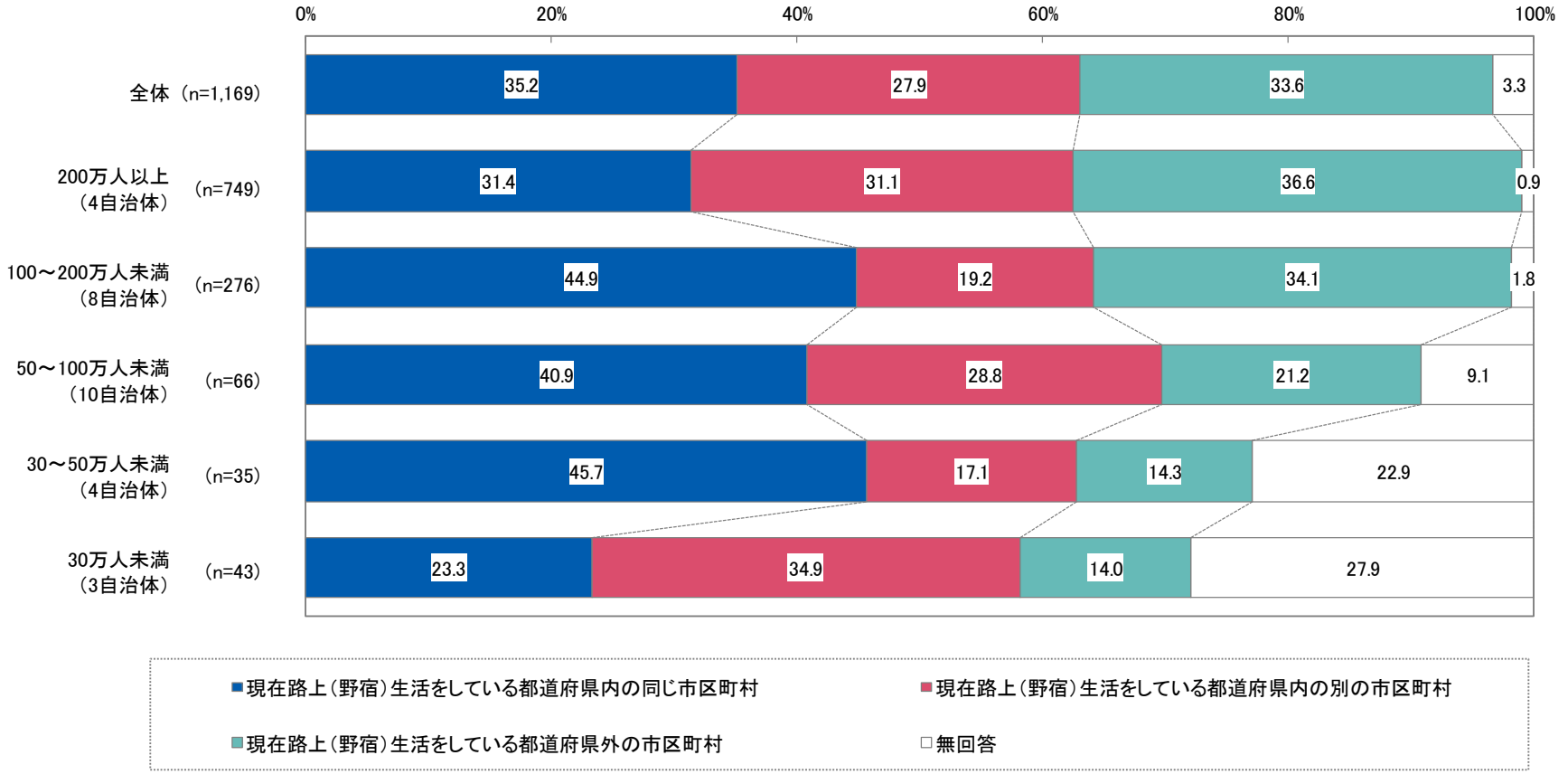
図表150　路上生活で困っていること（地域別（人口別））



問１３ 初めて路上生活をする前に住んでいた地域

- 初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域については、「人口３０～５０万人未満」の自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の同じ市区町村の割合が高く（全体：35.2%、人口５０～１００万人未満：45.7%)、「人口３０万人未満」の自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の別の市区町村」（全体：27.9%、３０万人未満：34.9%）の割合が高い。

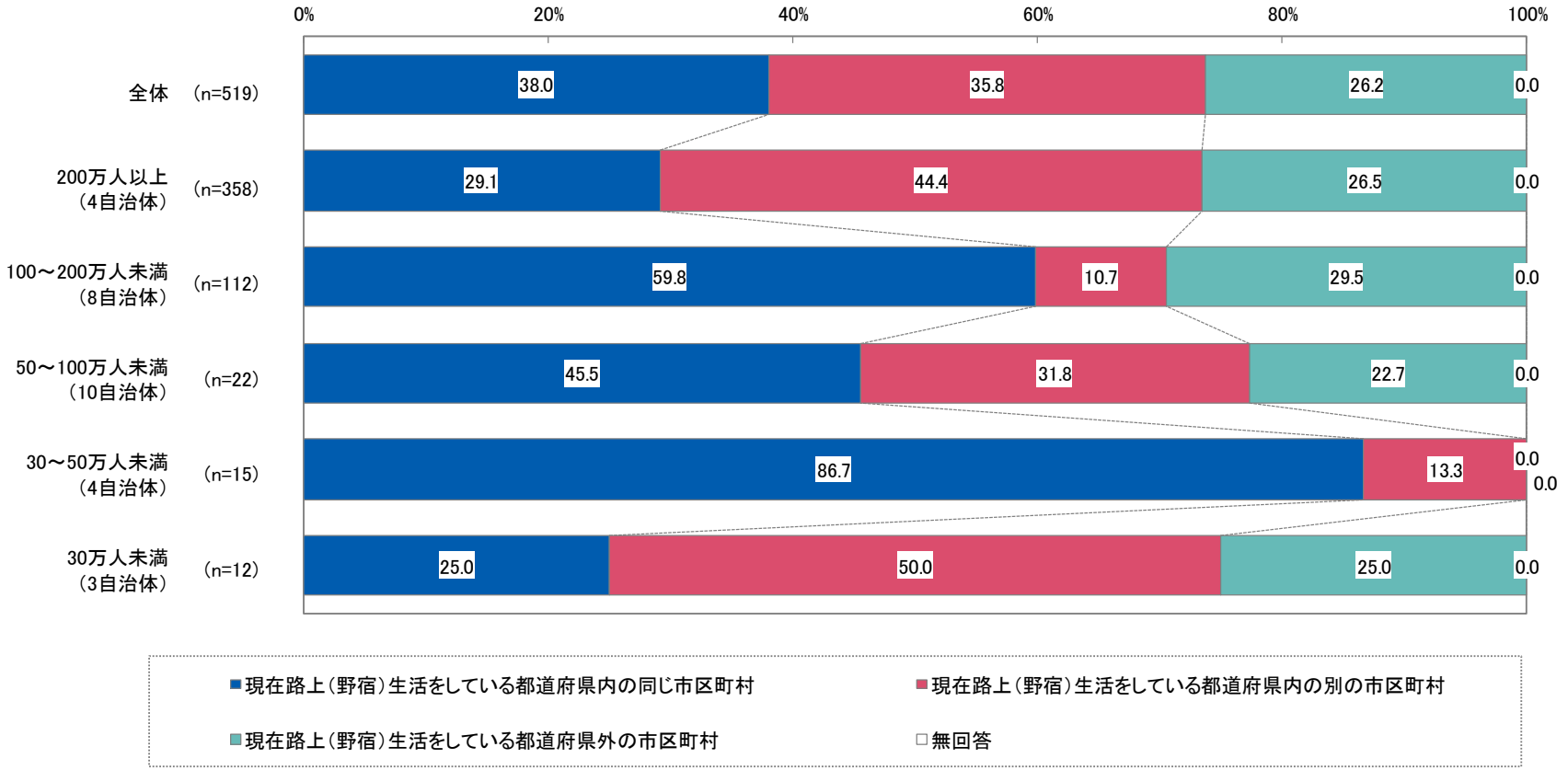
図表151　初めて路上生活をする前に住んでいた地域（地域別（人口別））



問１８－１ 別の路上生活場所

- 別の路上（野宿）生活場所での経験については、「人口３０～５０万人未満」の自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の同じ市区町村」の割合が高く（全体：38.0%、３０～５０万人未満：86.7%）、「人口２００万人以上」及び「人口３０万人未満」の自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の別の市区町村」の割合が高く割合が高い（それぞれ44.4%、50.0%）。

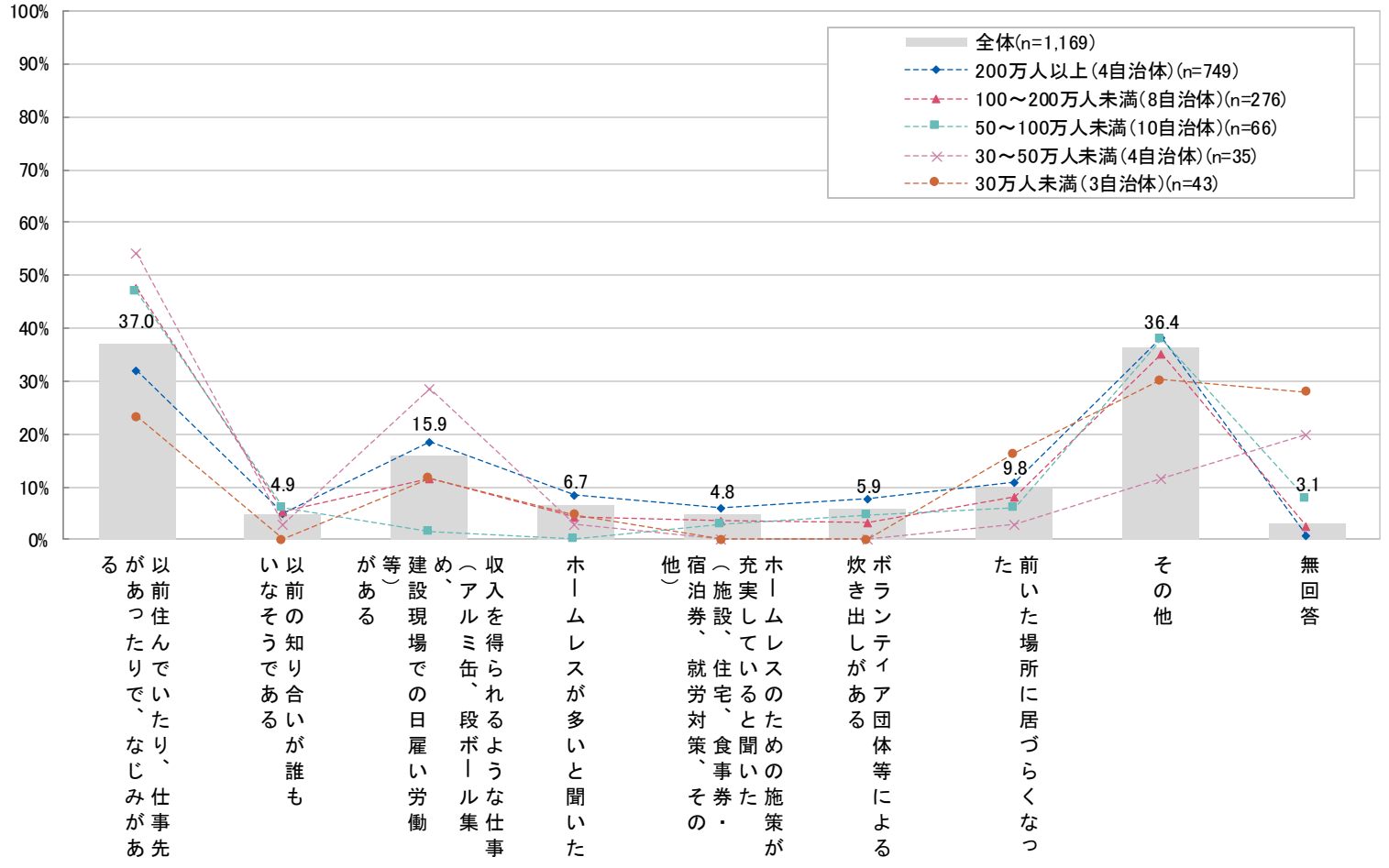
図表152　別の路上生活場所（地域別（人口別））



問１９ 現在の市区町村にきた主な理由

- 現在の市区町村に来た主な理由については、「人口３０～５０万人未満」の自治体では「以前住んでいたり、仕事先があったりで、なじみがある」の割合が高く、「人口２００万人以上」の自治体では「ホームレスが多いと聞いた」の割合が高く、「人口３０万人未満」の自治体では「前いた場所に居づらくなった」の割合が高い。

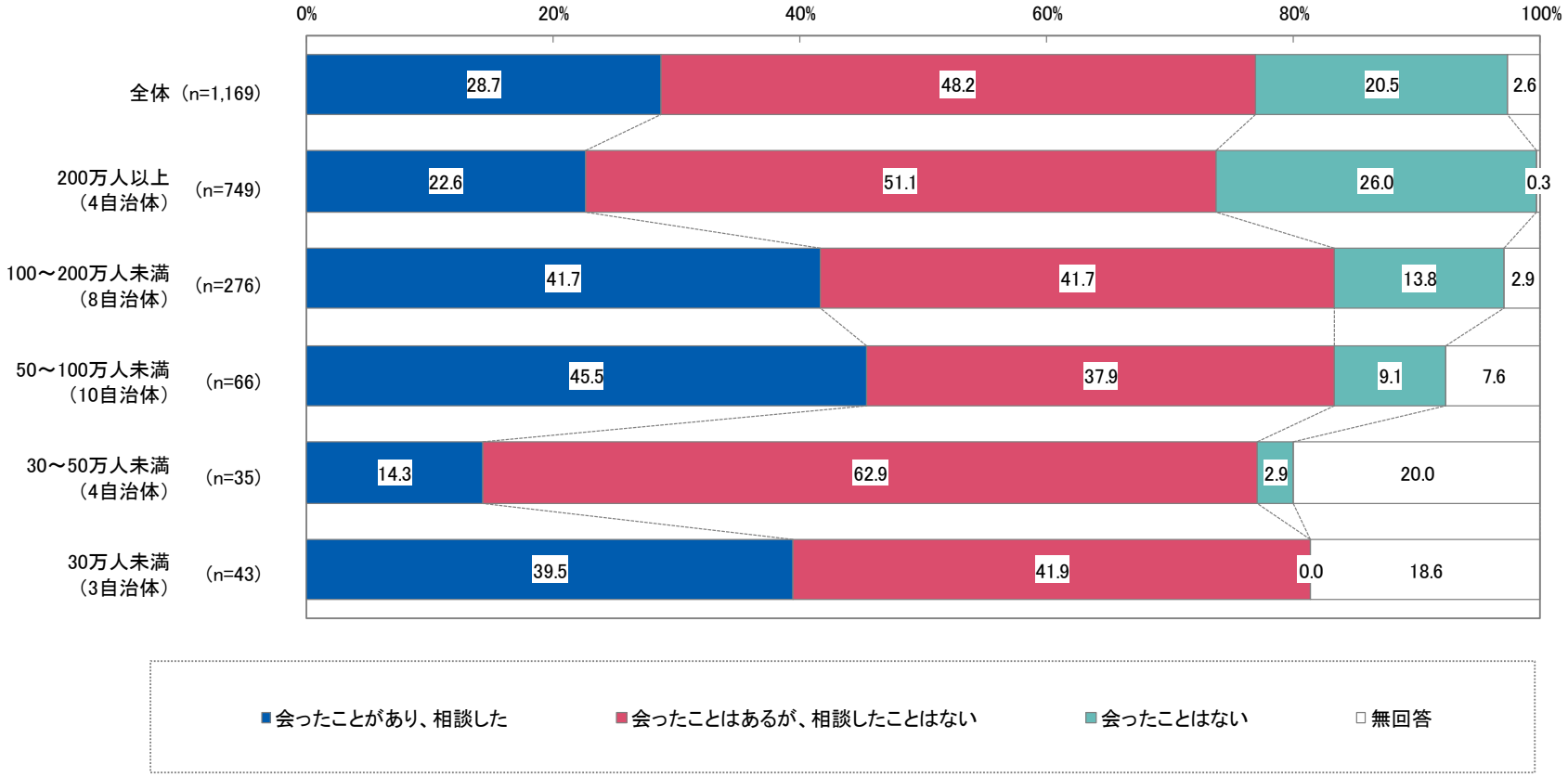
図表153　現在の市区町村にきた主な理由（地域別（人口別））



問２７ 巡回相談員に会ったこと

- 巡回相談員に会ったことがあるかについては、「人口１００～２００万人未満」及び「人口５０～１００万人未満」の自治体では「会ったことがあり、相談した」（全体：28.7%、１００～２００万人未満：41.7%、５０～１００満人未満：45.5%）の割合が高い。
- 「人口３０～５０万人未満」の自治体では「会ったことはあるが、相談したことはない」（全体：48.2%、３０～５０万人未満：62.9%）の割合が高い。

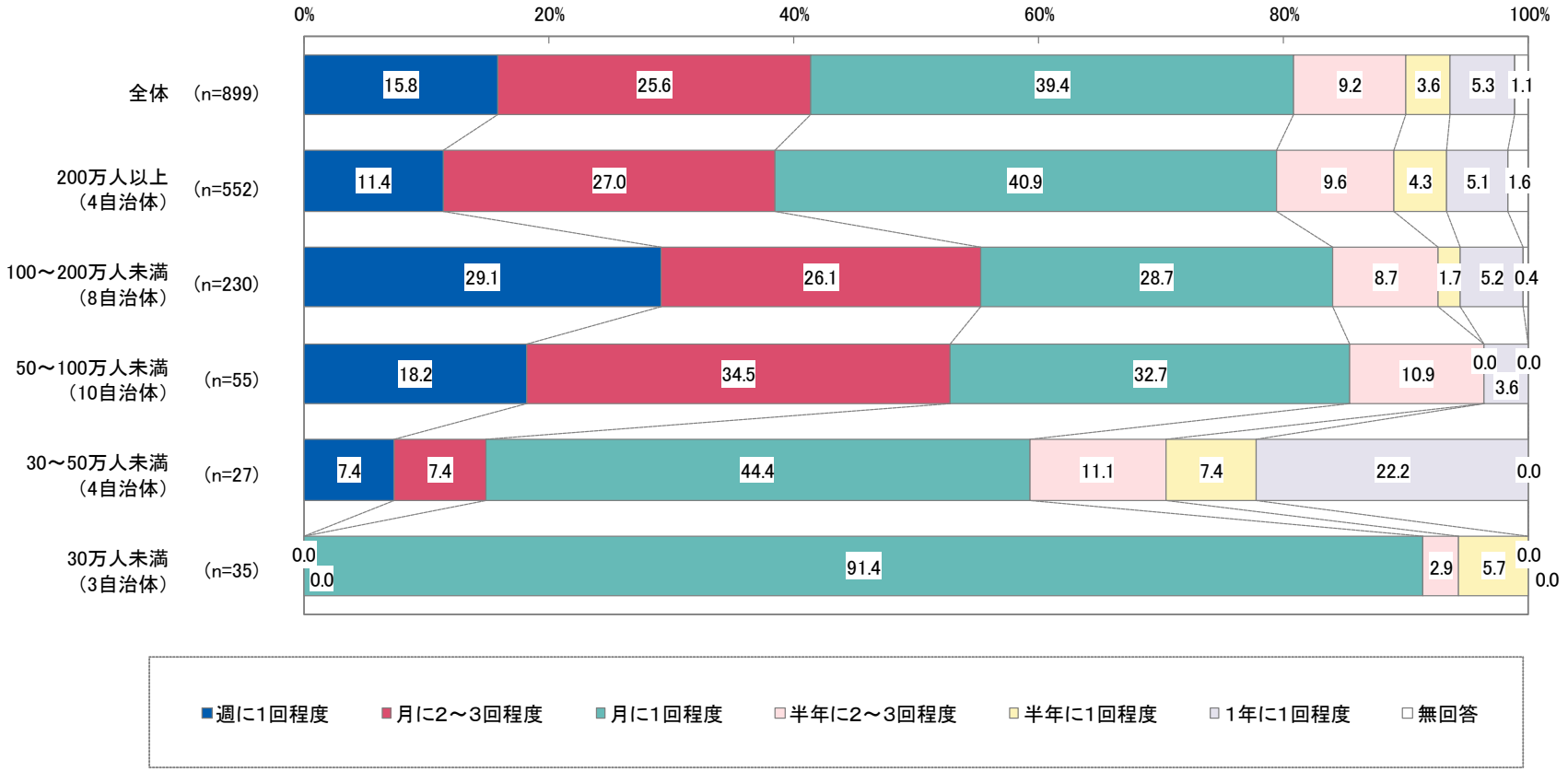
図表154　巡回相談員に会ったこと（地域別（人口別））



問２７－１ 巡回の頻度

- 巡回の頻度については、「人口１００～２００万人未満」の自治体では「週に１回程度」（29.1%）の割合が高く、「人口５０～１００万人未満」の自治体では「月に２～３回程度」（34.5%）の割合が高く、「人口３０～５０万人未満」及び「人口３０万人未満」の自治体では「月に１回程度」（全体：39.4%、３０～５０万人未満：44.4%、３０万人未満：91.4%）の割合が高い。

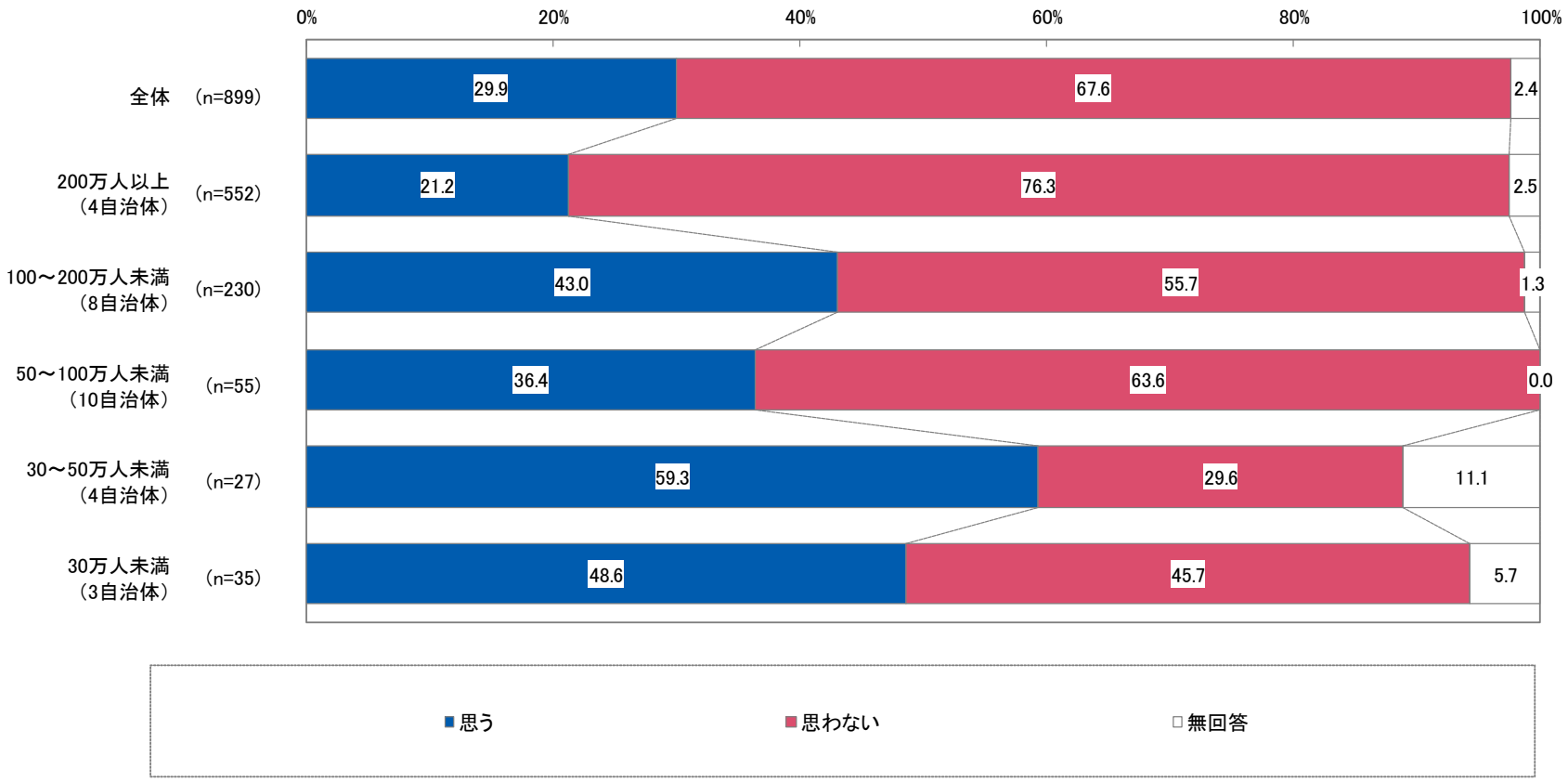
図表155　巡回の頻度（地域別（人口別））



問２７－２ 頻繁に巡回するようになったと思うか

- 巡回相談員が頻繁に巡回するようになったと思うかについては、「人口３０～５０万人未満」及び「人口３０万人未満」の自治体では「思う」（全体：29.9%、３０～５０万人未満：59.3%、３０万人未満：48.6%）の割合が高い。

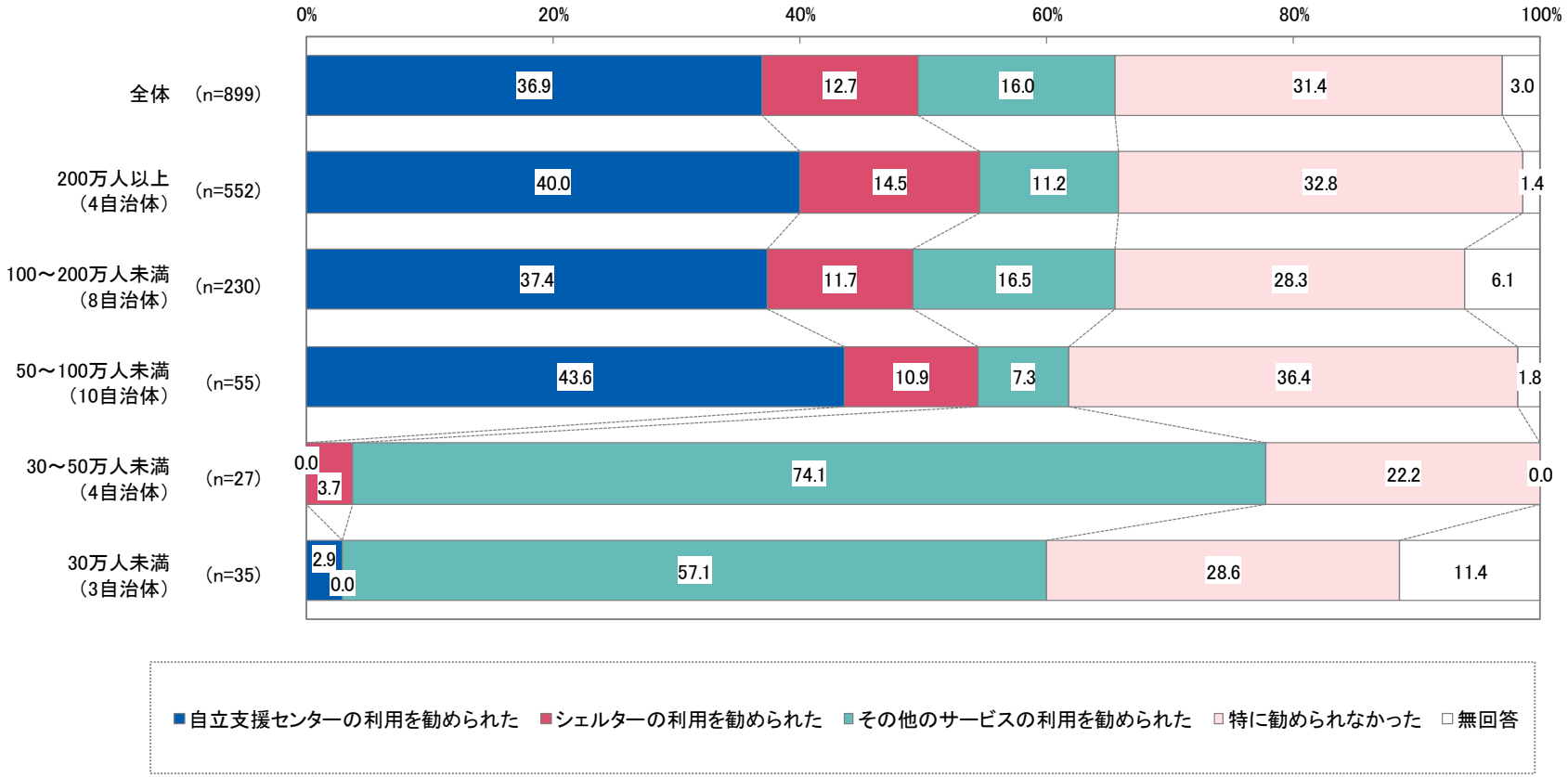
図表156　頻繁に巡回するようになったと思うか（地域別（人口別））



問２７－４ 自立支援センターやシェルター等の利用の勧め

- 巡回相談員に自立支援センターやシェルター等の利用を勧められたかについては、「人口５０～１００万人未満」の自治体では「自立支援センターの利用を勧められた」の割合が高く（43.6%）、「人口３０～５０万人未満」の自治体では「その他のサービスの利用を勧められた」の割合が高いが（74.1%）。

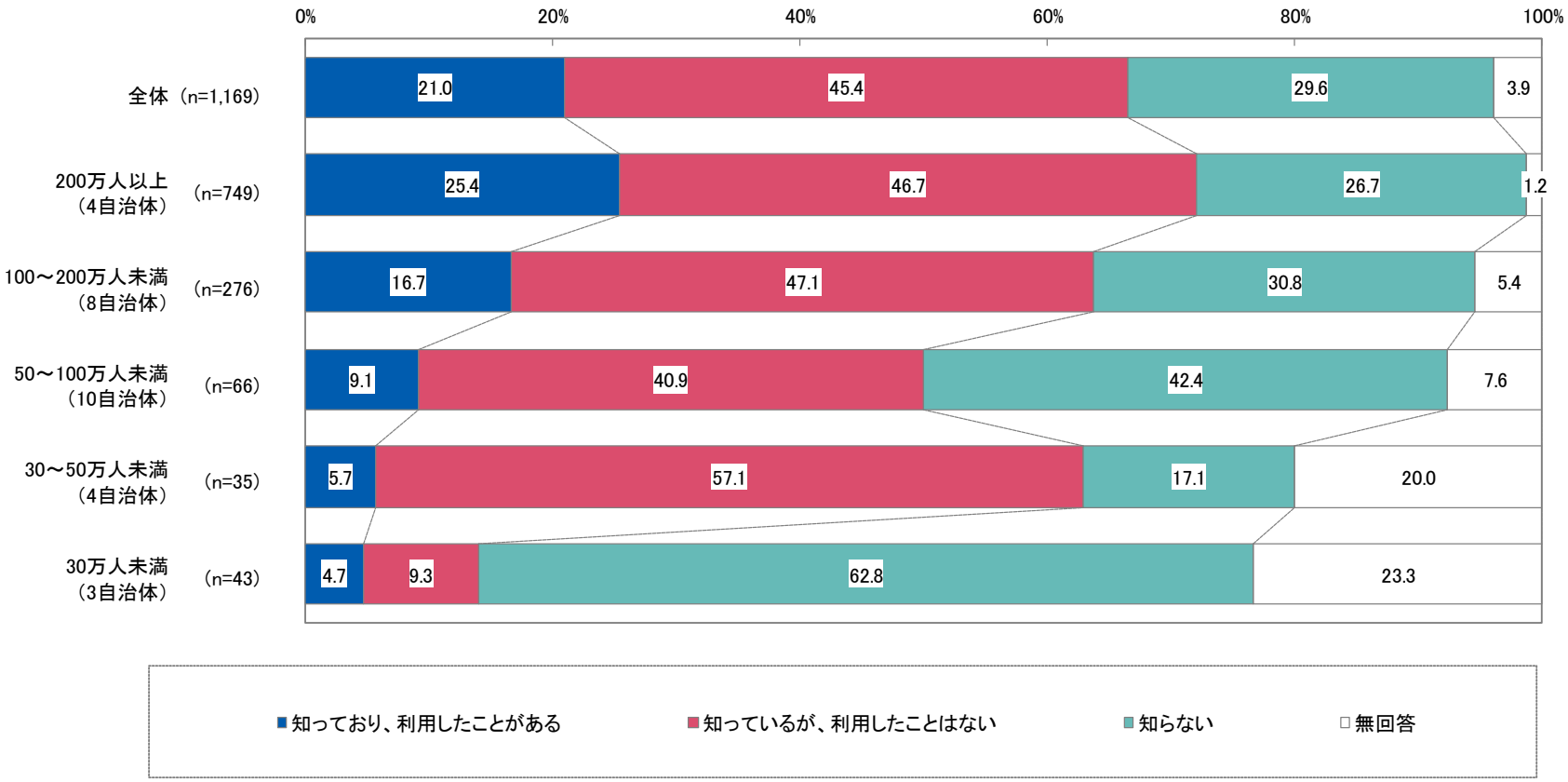
図表157　自立支援センターやシェルター等の利用の勧め（地域別（人口別））



問２８ シェルター内容の認知度・利用度

- シェルターの内容の認知度・利用度については、認知度・利用度ともに「人口２００万人以上」の自治体では割合が高い。

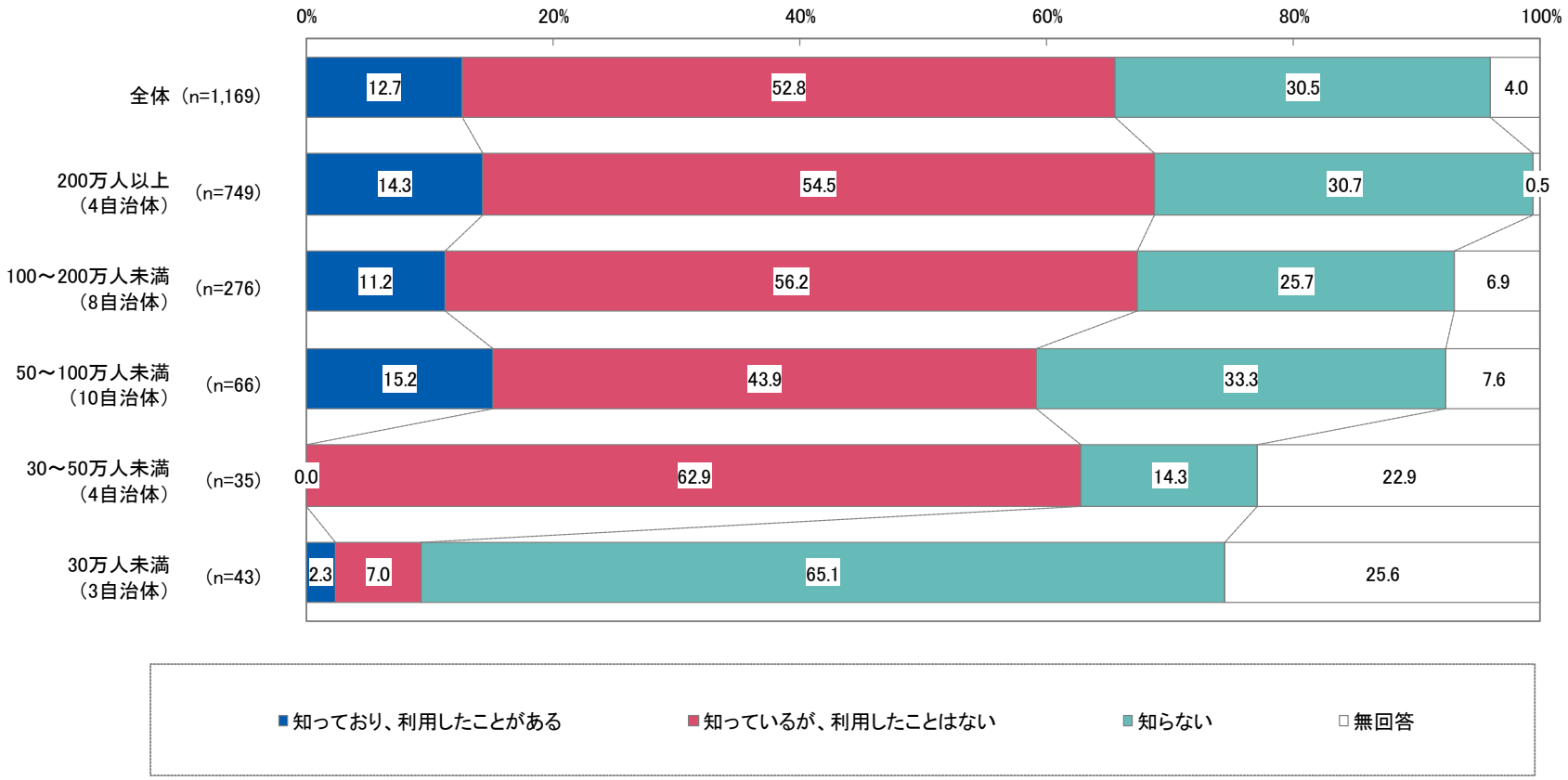
図表158　シェルター内容の認知度・利用度（地域別（人口別））



問２９ 自立支援センターの内容の認知度・利用度

- 自立支援センターの内容の認知度・利用度については、認知度・利用度ともに「人口２００万人以上」の自治体では割合が高い。

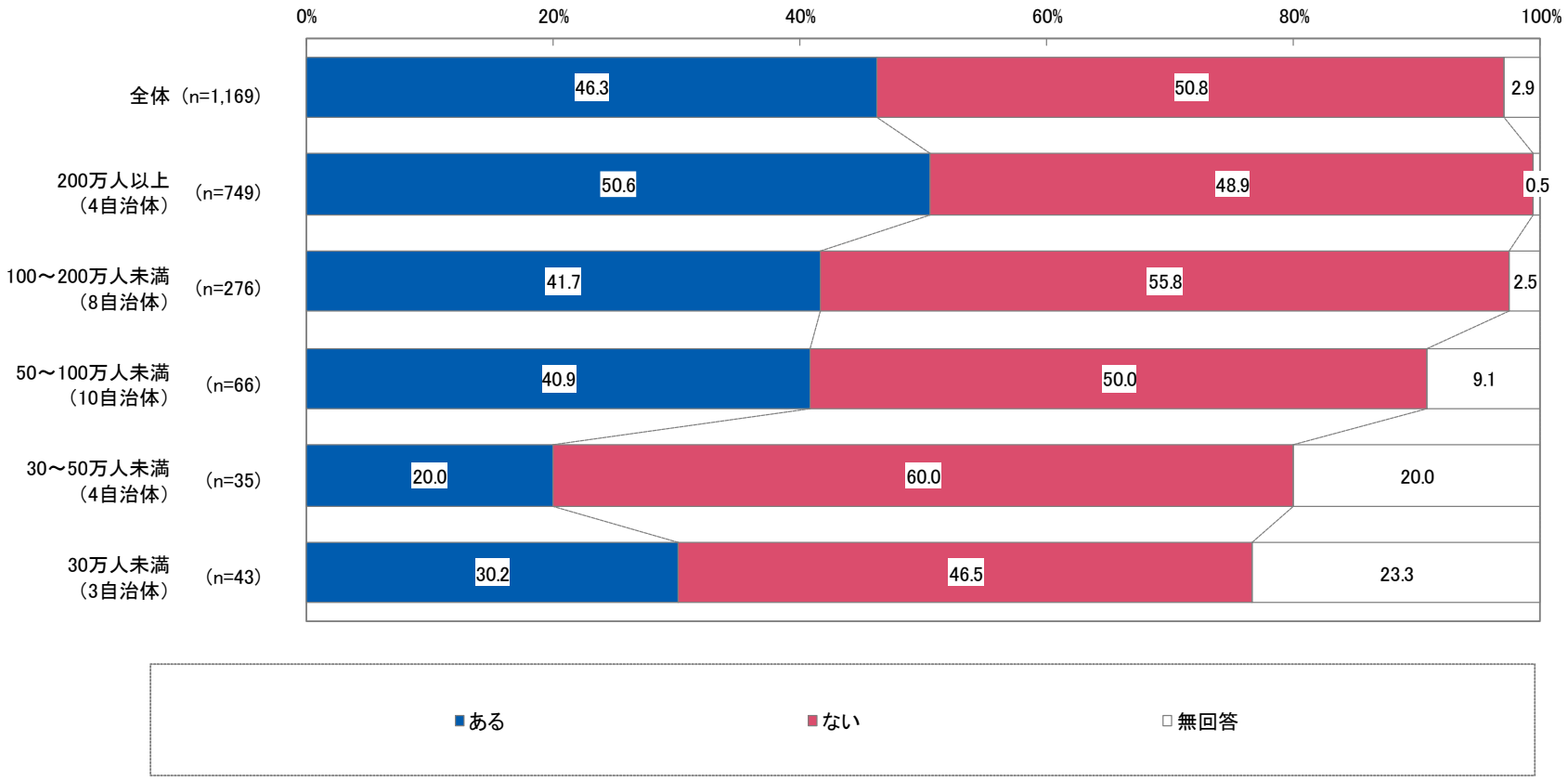
図表159　自立支援センターの内容の認知度・利用度（地域別（人口別））



問３０ 公的機関への相談

- 公的機関への相談については、「人口３０～５０万人未満」の自治体では「ある」（全体：46.3%、人口３０～５０万人未満：20.0%）の割合が低い。

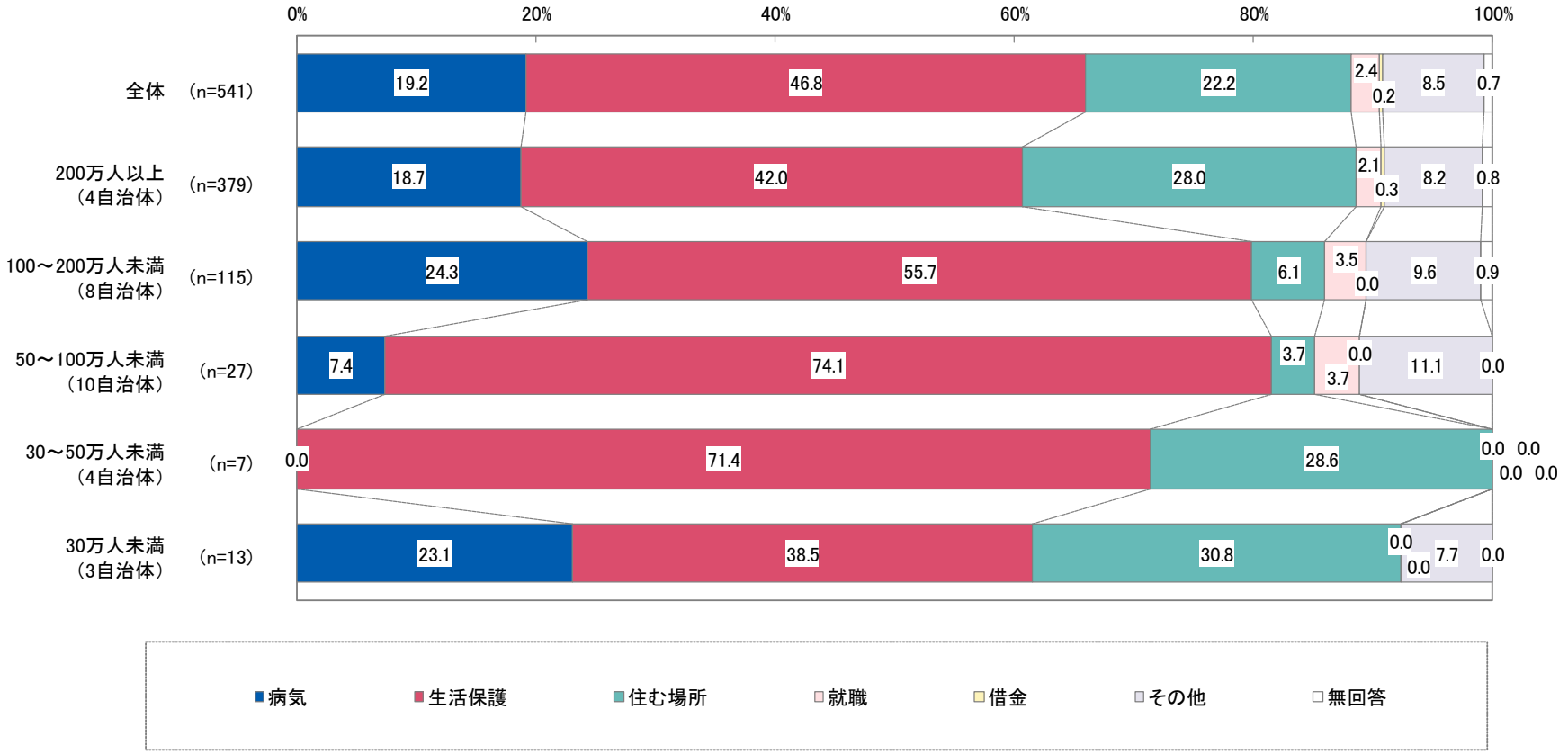
図表160　公的機関への相談（地域別（人口別））



問３０－１ 公的機関への相談内容

- 公的機関への相談内容については、「人口１００～２００万人未満」の自治体では「病気」（24.3%）の割合が高く、「人口５０～１００万人未満」の自治体では「生活保護」の割合が高いほか、「人口３０万人未満」及び「人口３０～５０万人未満」の自治体では「住む場所」の割合が高い（それぞれ30.8%、28.6%）。

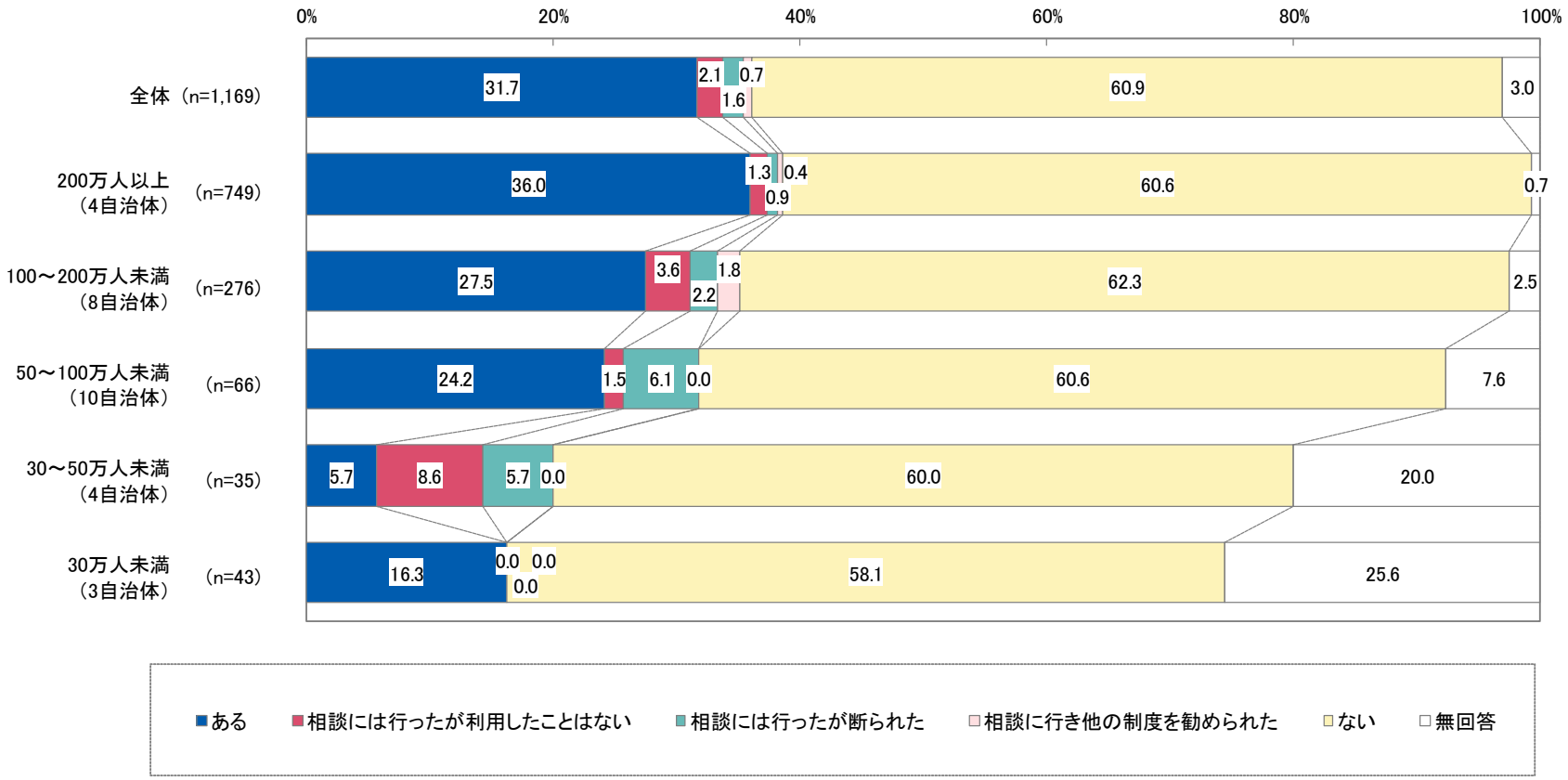
図表161　公的機関への相談内容（地域別（人口別））



問３１ 生活保護の利用経験

- 生活保護制度の利用経験については、「人口５０万人未満」の自治体では「ある」（全体：31.7%、３０万人未満：16.3%、３０～５０万人未満：5.7%）の割合が低い。

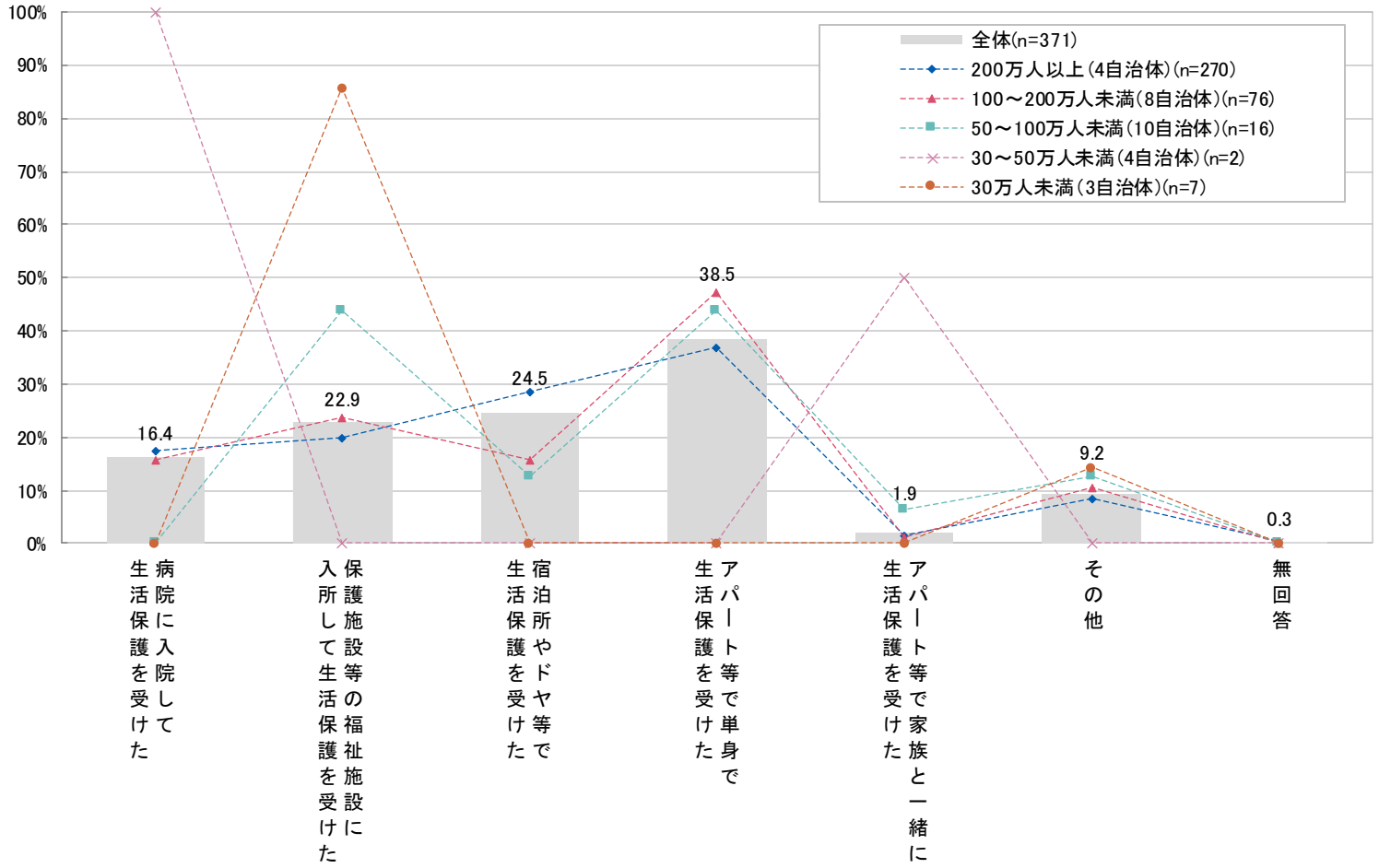
図表162　生活保護の利用経験（地域別（人口別））



問３１－１ 生活保護制度の利用方法

- 生活保護制度の利用方法については、「人口１００～２００万人未満」の自治体では「アパート等で単身で生活保護を受けた」の割合が高い。

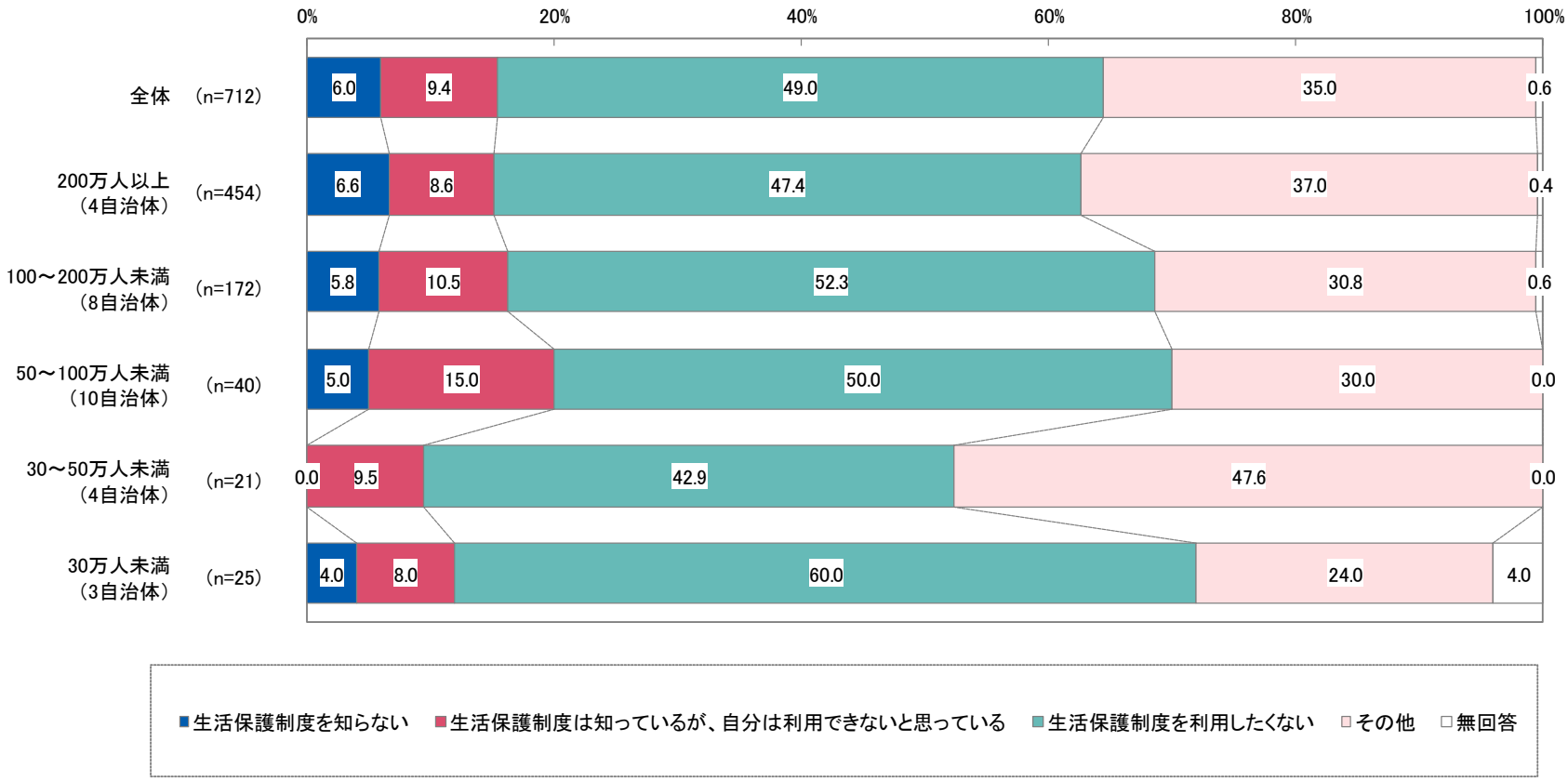
図表163　生活保護制度の利用方法（地域別（人口別））



問３１－３ 生活保護制度を利用しなかった理由

- 生活保護制度を利用しなかった理由については、「人口５０～１００万人未満」の自治体では「生活保護制度は知っているが、自分は利用できないと思っている」（15.0%）の割合が高く、「人口３０万人未満」の自治体では「生活保護を利用したくない」（60.0%）の割合が高い。

図表164　生活保護制度を利用しなかった理由（地域別（人口別））



問３６ 今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、「人口１００～２００万人未満」及び「人口２００万人以上」の自治体では「アパートに住み、就職して自活したい」（全体：17.0%、１００～２００万人未満：19.6%、２００万人以上：17.5%）の割合が高く、人口規模が小さくなるほど「今のままでいい」の割合が高い傾向にあり、「人口30万人未満」では割合が高い(53.5%)。

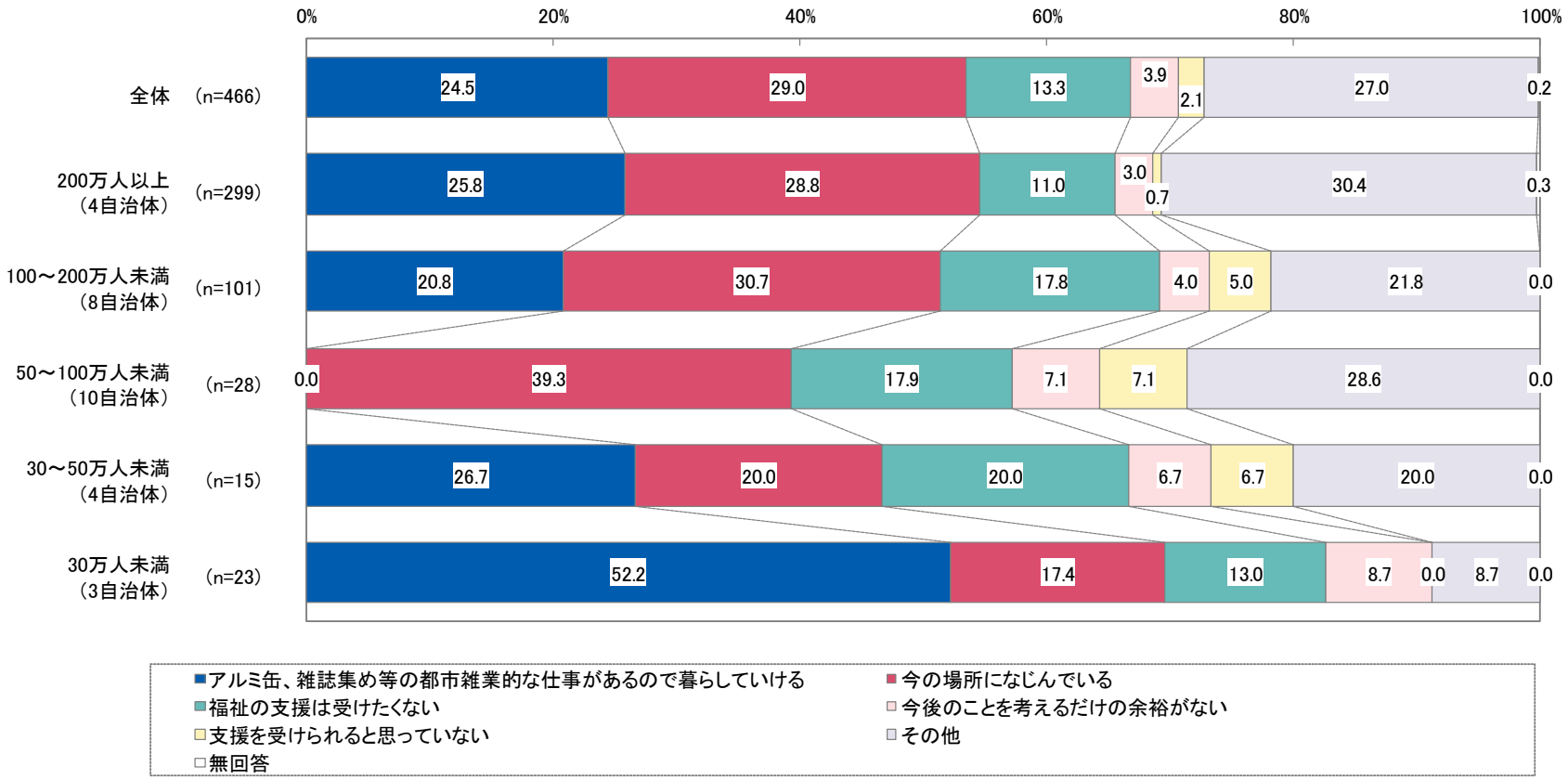
図表165　今後望んでいる生活（地域別（人口別））



問３６－１ 今のままでいい理由

- 今の生活のままでいい理由については、「人口３０万人未満」の自治体では「都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」の割合が高く（52.2%）、「人口５０～１００万人未満」の自治体では「今の場所になじんでいる」の割合が高い傾向にある（39.3%）。

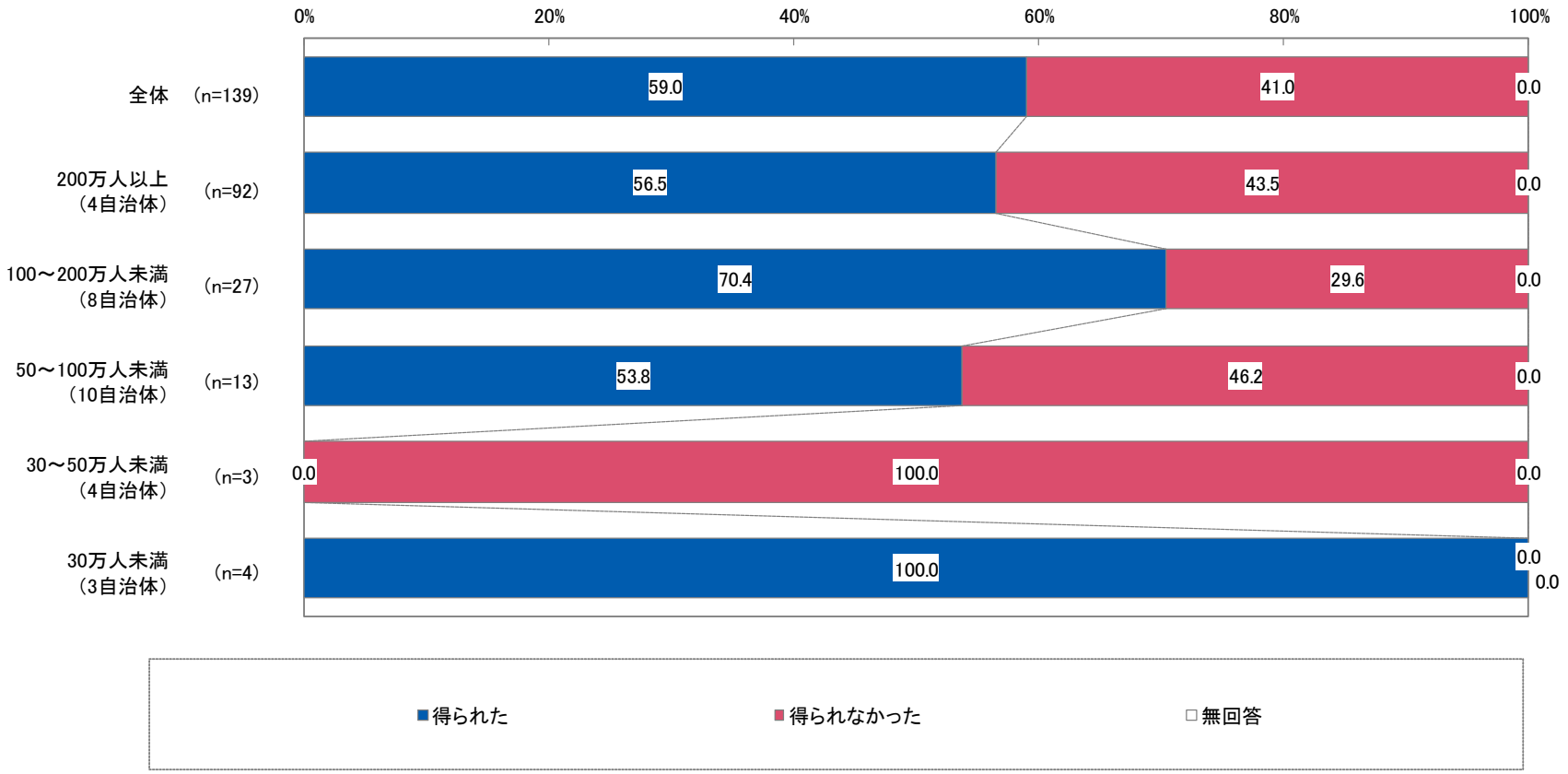
図表166　今のままでいい理由（地域別（人口別））



問３９－２ 安い家賃の情報

- 安い家賃の民間賃貸住宅に関する情報が得られたかについては、「人口１００～２００万人未満」の自治体及び「人口３０万人未満」の自治体では「得られた」（全体：59.0%、３０万人未満：100.0%、１００～２００万人未満：70.4%）の割合が高い。

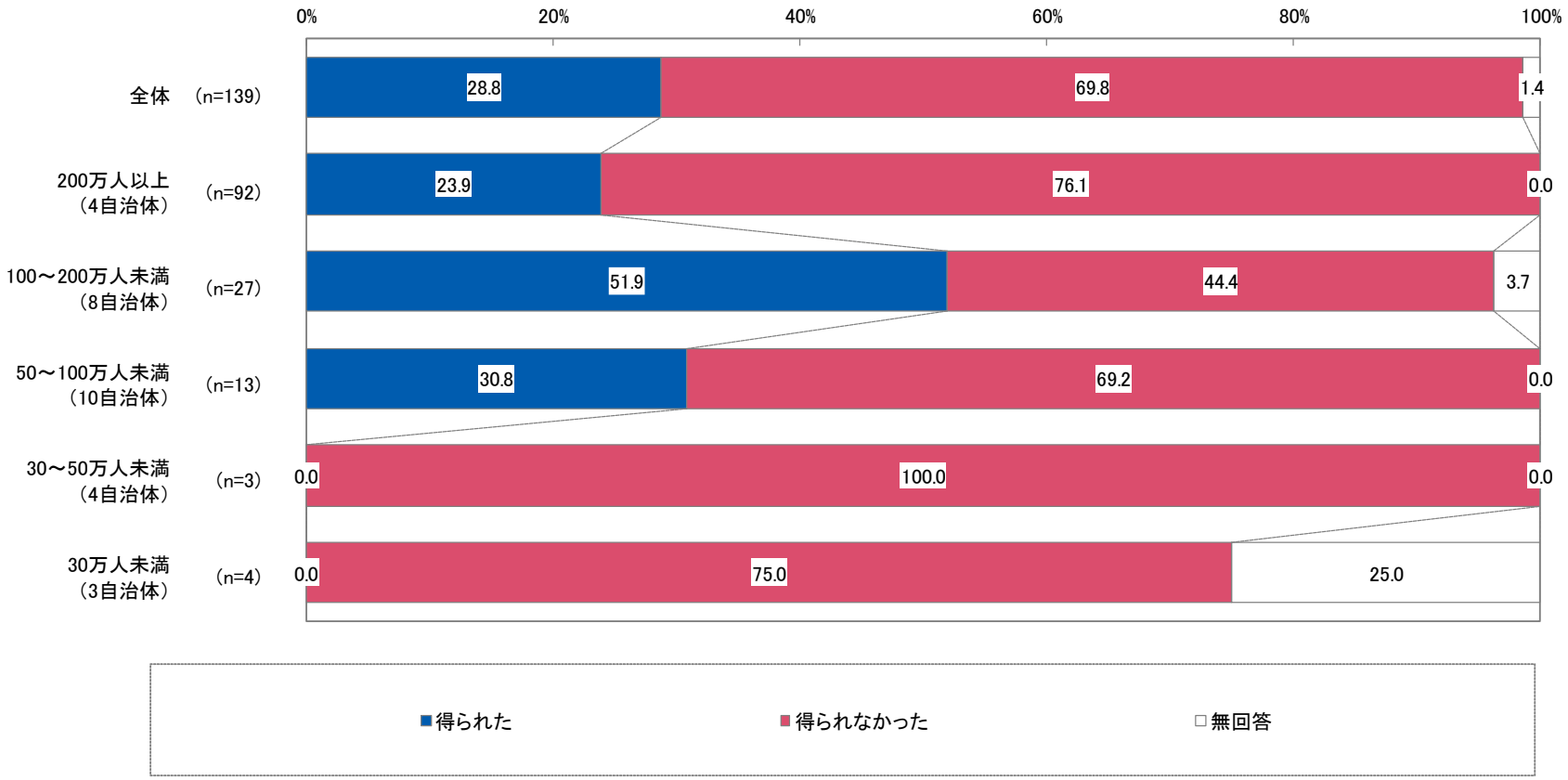
図表167　安い家賃の情報（地域別（人口別））



問３９－３ 民間保証会社の情報

- 民間保証会社の情報が得られたかについては、「人口１００～２００万人未満」の自治体以外では「得られなかった」の割合が高い。

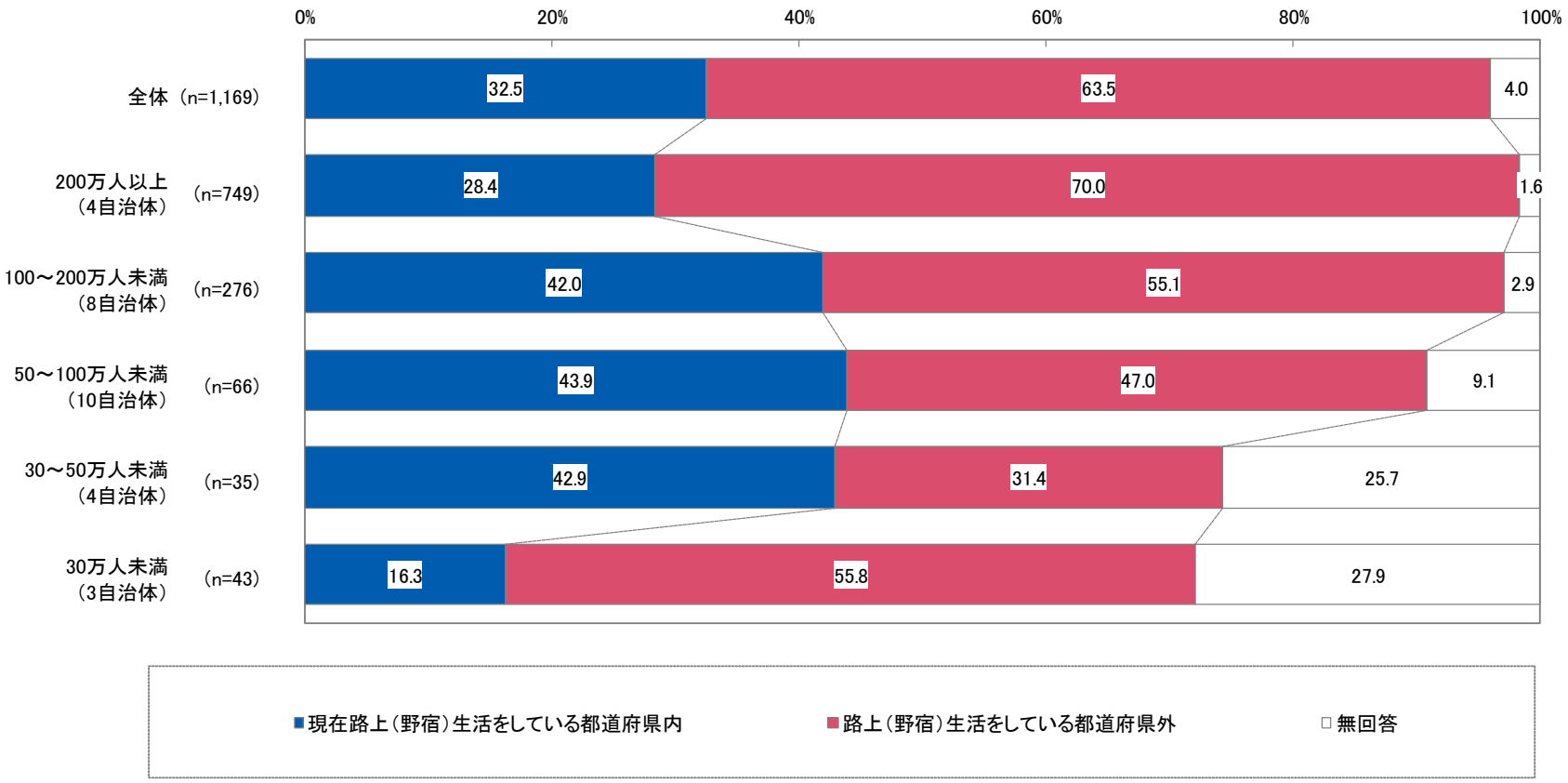
図表168　民間保証会社の情報（地域別（人口別））



問４０ 出身地

- 出身地については、「人口３０～５０万人未満」及び「人口５０～１００万人未満」の自治体では「現在路上（野宿）生活をしている都道府県内」（全体：32.5%、人口３０～５０万人未満：42.9%、５０～１００万人未満：43.6%）の割合が高い。

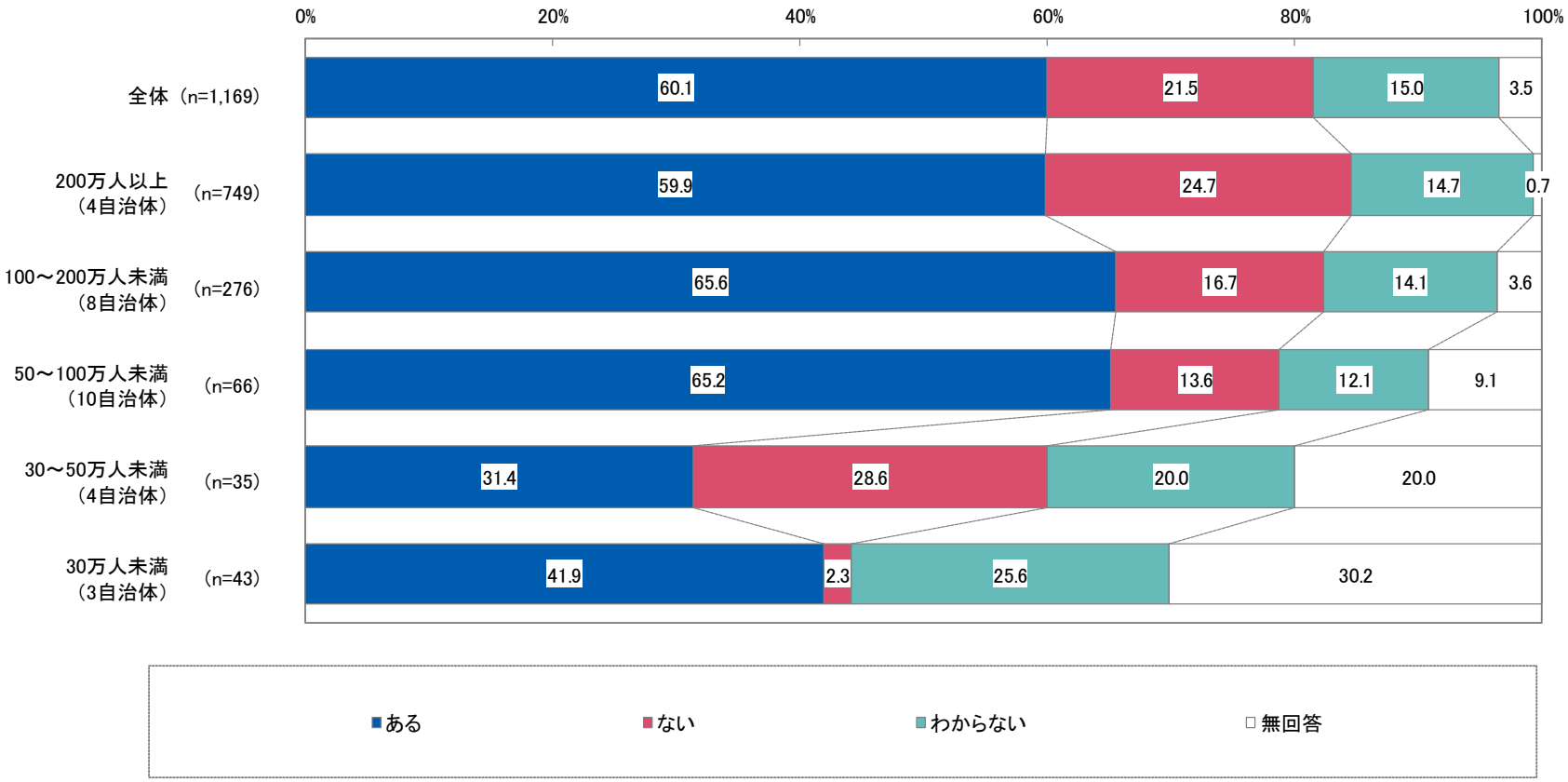
図表169　出身地（地域別（人口別））



問４３ 公的年金の保険料の納付

- 公的年金の保険料の納付状況については、「人口５０万人未満」以外の自治体では「ある」の割合が高い。

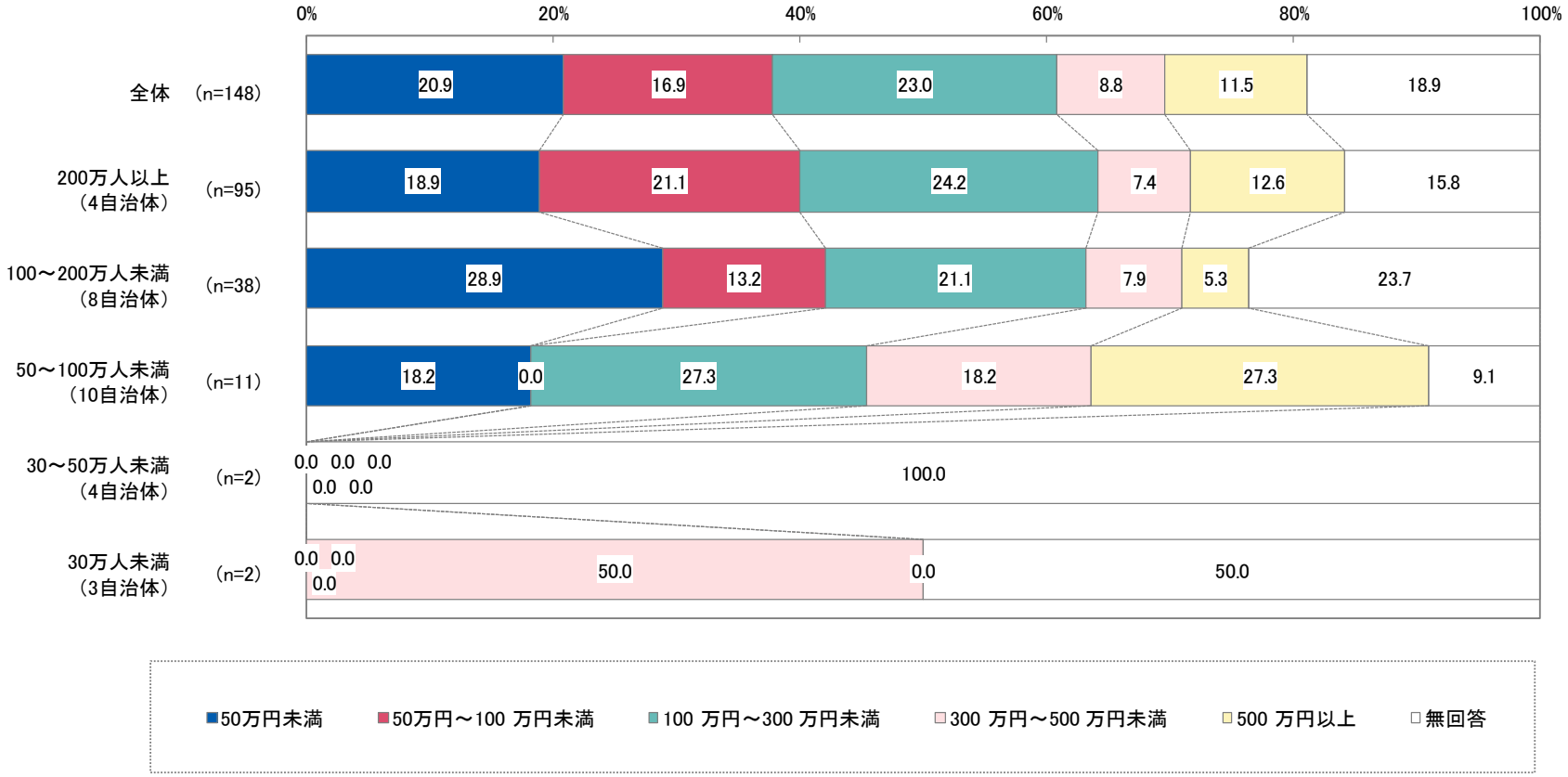
図表170　公的年金の保険料の納付（地域別（人口別））



問４４－１ 借金の金額

- 借金の金額については、「人口２００万人以上」の自治体では「１００～３００万円未満」の割合が高く（24.2%）、「人口１００～２００万人未満」では「５０万円未満」の割合が高く（28.9%）、「人口５０～１００万人未満」では「１００～３００万円」「５００万円以上」の割合が高い（それぞれ27.3%）。

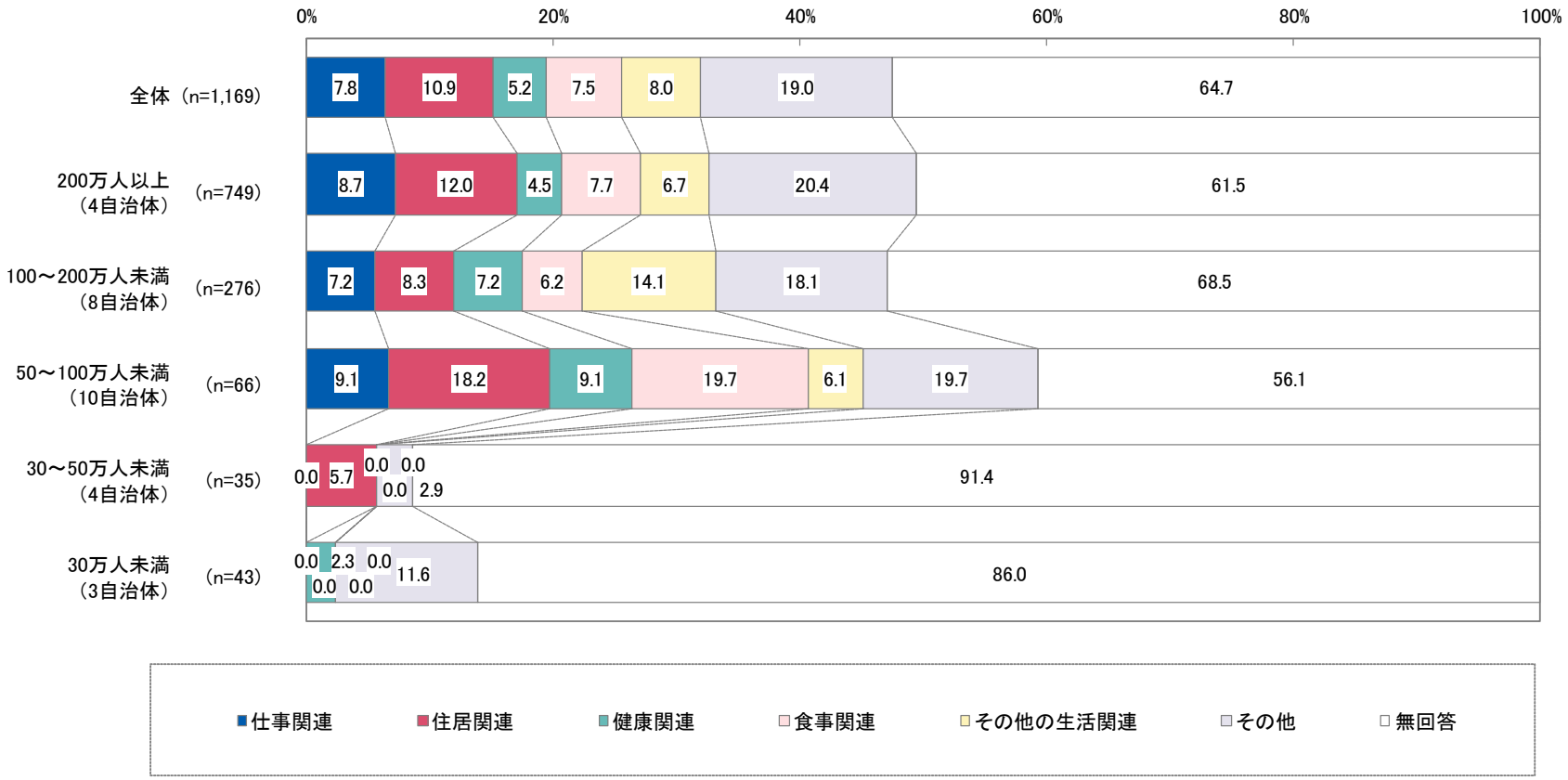
図表171　借金の金額（地域別（人口別））



問４９ 行政への要望・意見

- 行政への要望・意見については、「人口２００万人以上」の自治体では「住居関連」の割合が高く（12.0%）、「人口５０～１００万人未満」の自治体では「食事関連」の割合が高い（19.7%）。

図表172　行政への要望・意見（地域別（人口別））



Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

7

設問間クロス集計

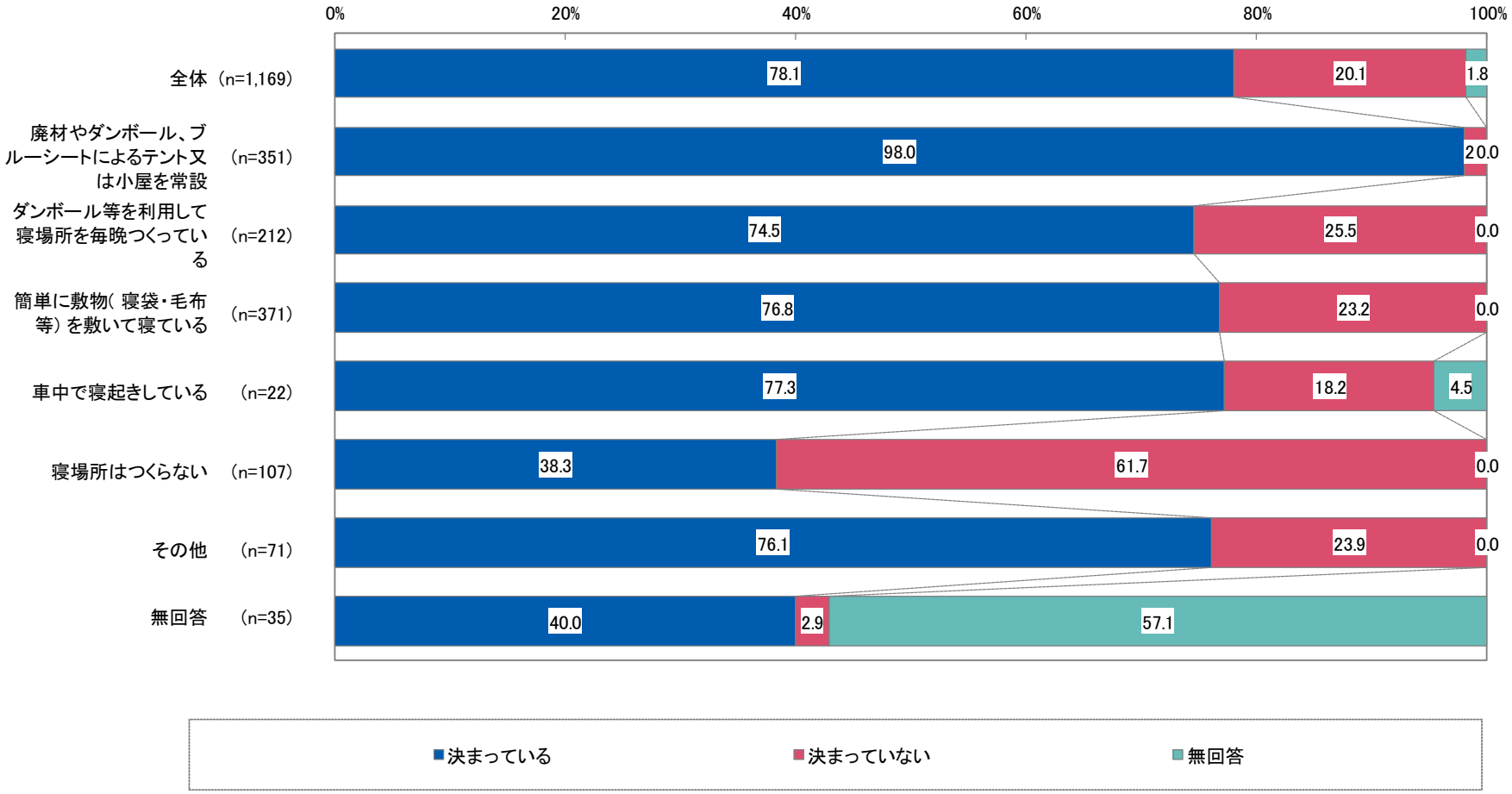
ひと、くらし、みらいのために

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

問２寝場所のつくり方×問１寝ている場所

- 寝場所のつくり方と寝ている場所について、「廃材やダンボール、ブルーシートによるテント又は小屋を常設」は「一定の場所で決まっている」割合が高く（98.0%）、「寝場所はつくらない」では「決まっていない」の割合が高い（61.7%）。

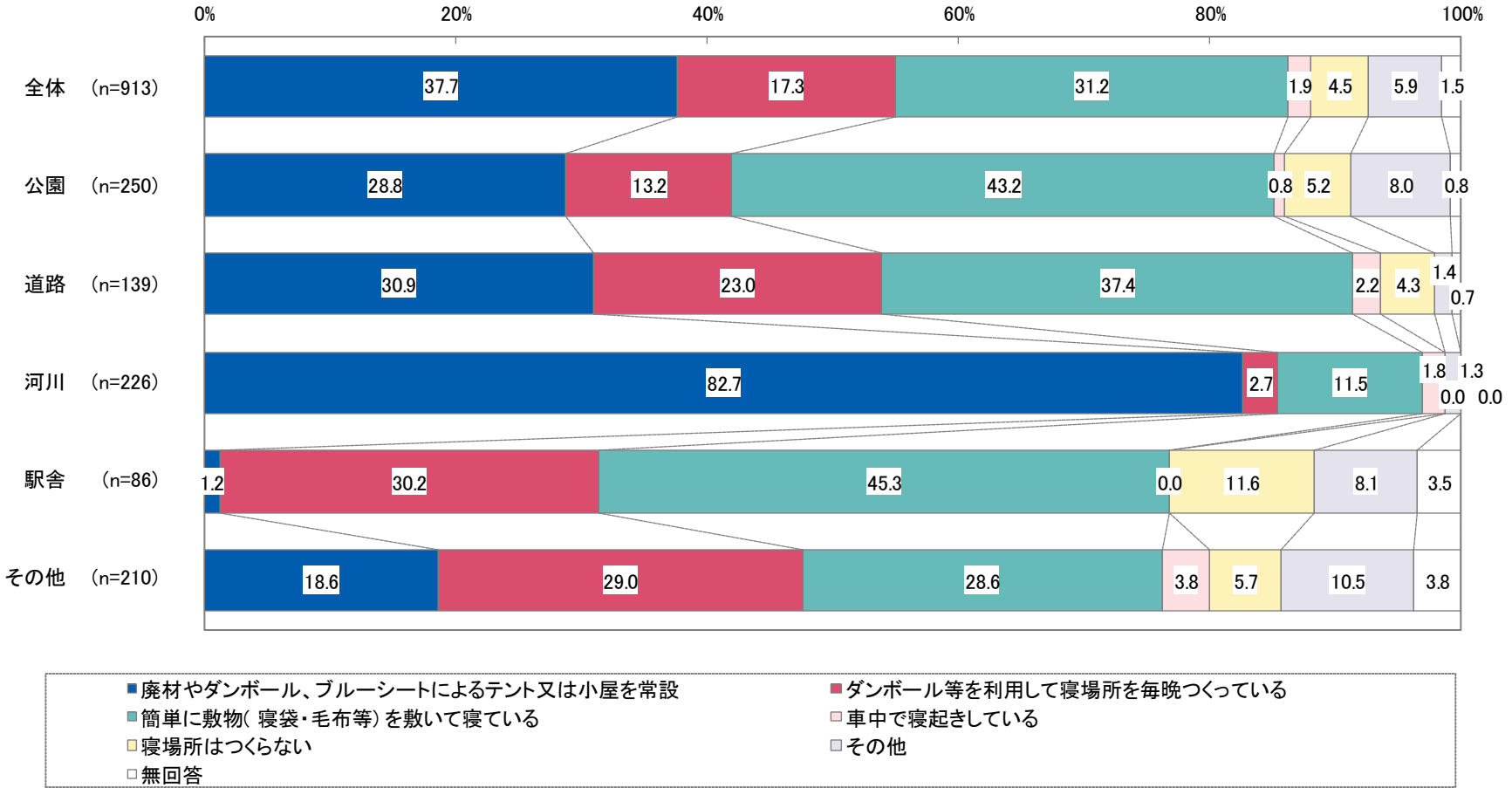
図表173　問2寝場所の作り方×問1寝ている場所



問１－１寝ている場所（具体的に）×問２寝場所の作り方

- 寝ている場所と寝場所の作り方との関係については、「河川」では、「廃材やダンボール、ブルーシートによるテント又は小屋を常設」の割合が高く（82.7%）駅舎では「ダンボール等を利用して寝場所を毎晩つくっている」（30.2%）、「敷物を敷いて寝ている」の割合が高い（45.3%）。

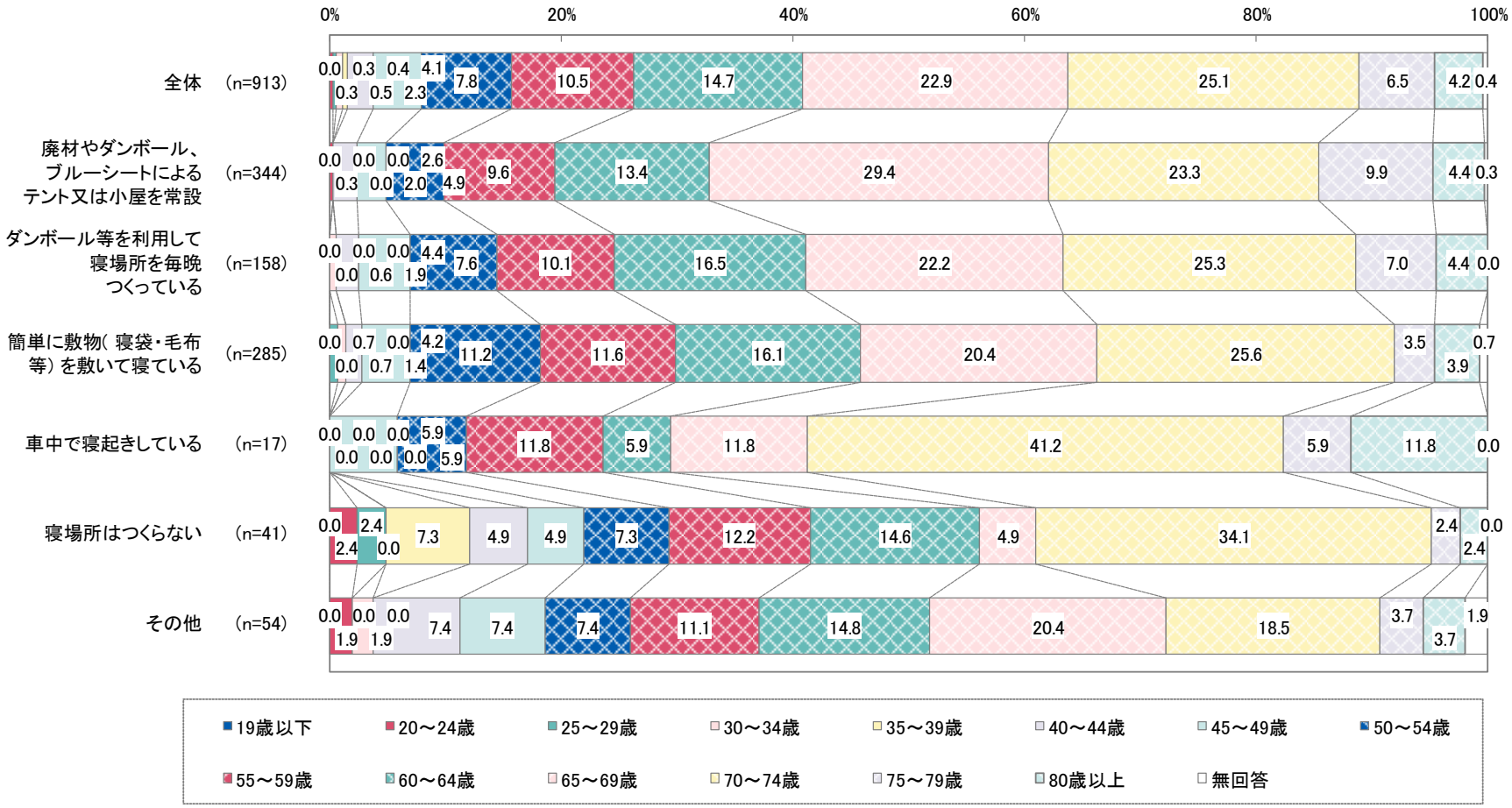
図表174　寝ている場所（具体的に）×寝場所の作り方



問２寝場所の作り方（寝場所が決まっている人のみ） × 年齢

- 寝場所の作り方が「廃材やダンボール、ブルーシートによるテント又は小屋を常設」と回答した人では、「６５～６９歳」の割合が高く（29.4%）、「車中で寝起きしている」と回答した人では、「７０～７４歳」の割合が高い（41.2%）。

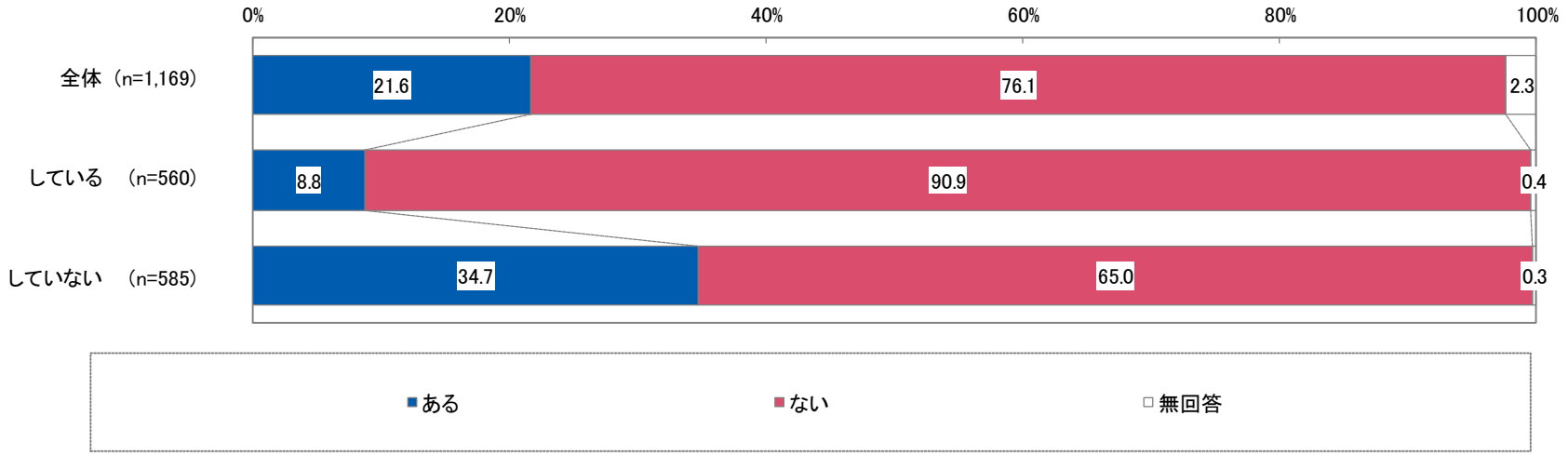
図表175　寝場所の作り方（寝場所が決まっている人のみ） × 年齢



問６現在収入のある仕事をしている × 問７ここ３ヶ月の仕事以外の収入

- 収入のある仕事と仕事以外の収入の有無との関係については、「（現在収入のある仕事を）していない」者の方が、仕事以外の収入が「ある」と回答した割合が高い（34.7%）。

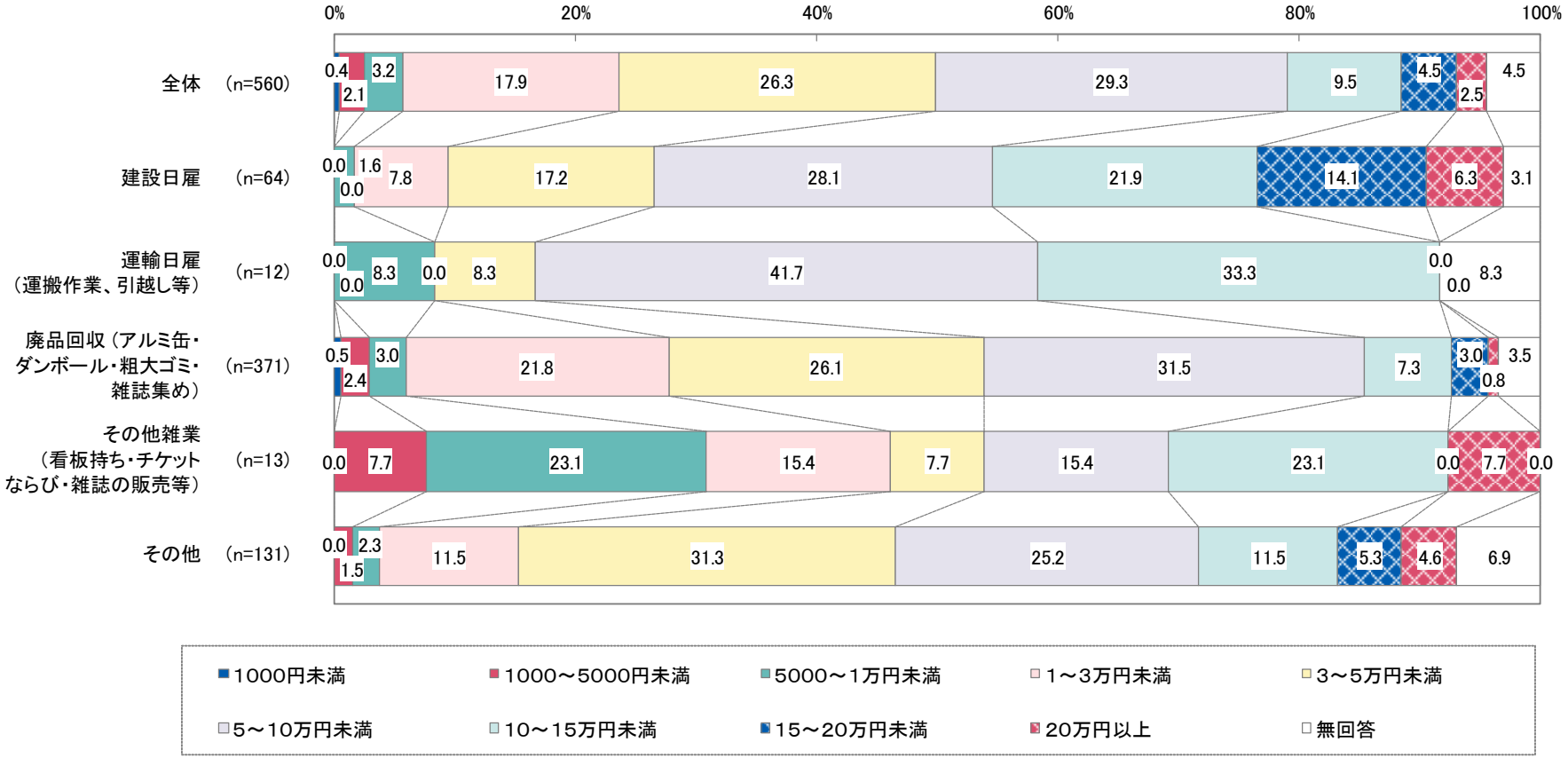
図表176　現在収入のある仕事をしている×ここ３ヶ月の仕事以外の収入



問６－１仕事（具体的に）（複数回答）×問６－２仕事による平均収入

- 仕事による収入と平均収入（月額）との関係については、「建設日雇」、「運輸日雇」、 「廃品回収」では「５～１０万円未満」の割合が高い（それぞれ28.1%、41.7%、31.5%）。

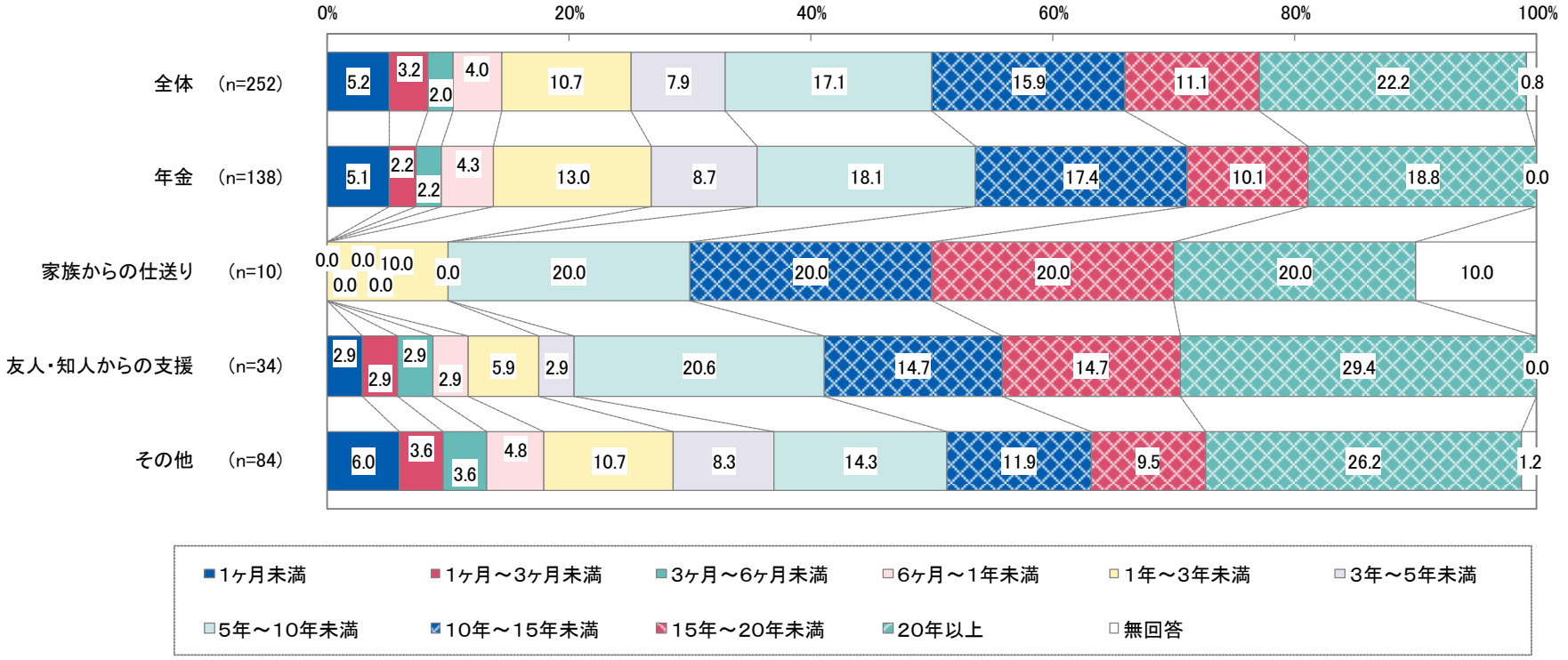
図表177　仕事（具体的に）（複数回答）× 仕事による平均収入



問７－１仕事以外の収入の種類（複数回答）×問５初めての路上生活をしてからの期間

- 仕事以外の収入の種類と初めて路上生活をしてからの期間の関係については、「年金」では「２０年以上」と回答した者の割合が高い（18.8%）。
- 「家族からの仕送り」では、「５年～１０年未満」「１０年～１５年未満」「１５年～２０年未満」「２０年以上」の割合が高い（それぞれ20.0%）。

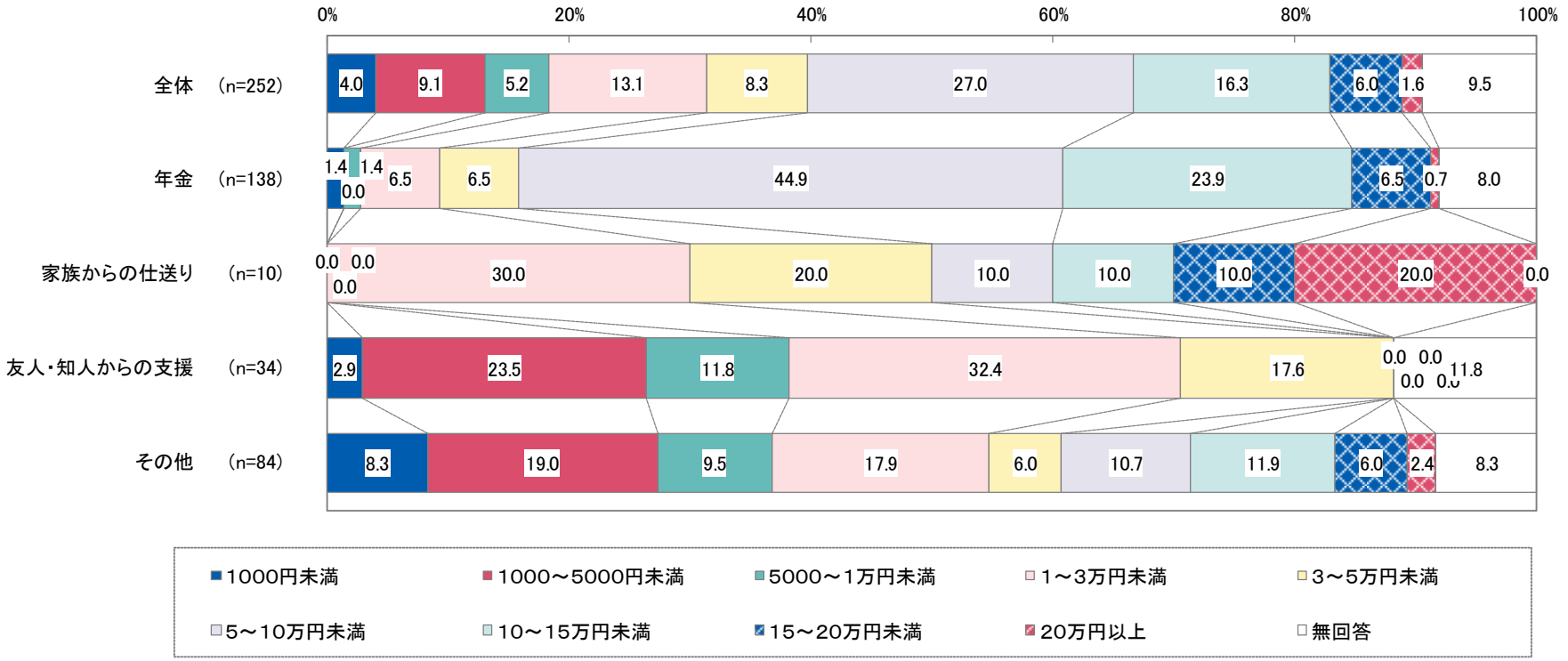
図表178　仕事以外の収入の種類（複数回答）×初めての路上生活をしてからの期間



問７－１仕事以外の収入の種類（複数回答） × 問７－２仕事以外の平均収入

- 仕事以外の収入の種類と仕事以外の平均収入（月額）との関係については、「年金」を受給している者では「５～１０万円未満」の割合が高い（44.9%）。
- 「家族からの仕送り」「友人・知人からの支援」を受けている者では「１～３万円未満」の割合が高い（30.0%）。

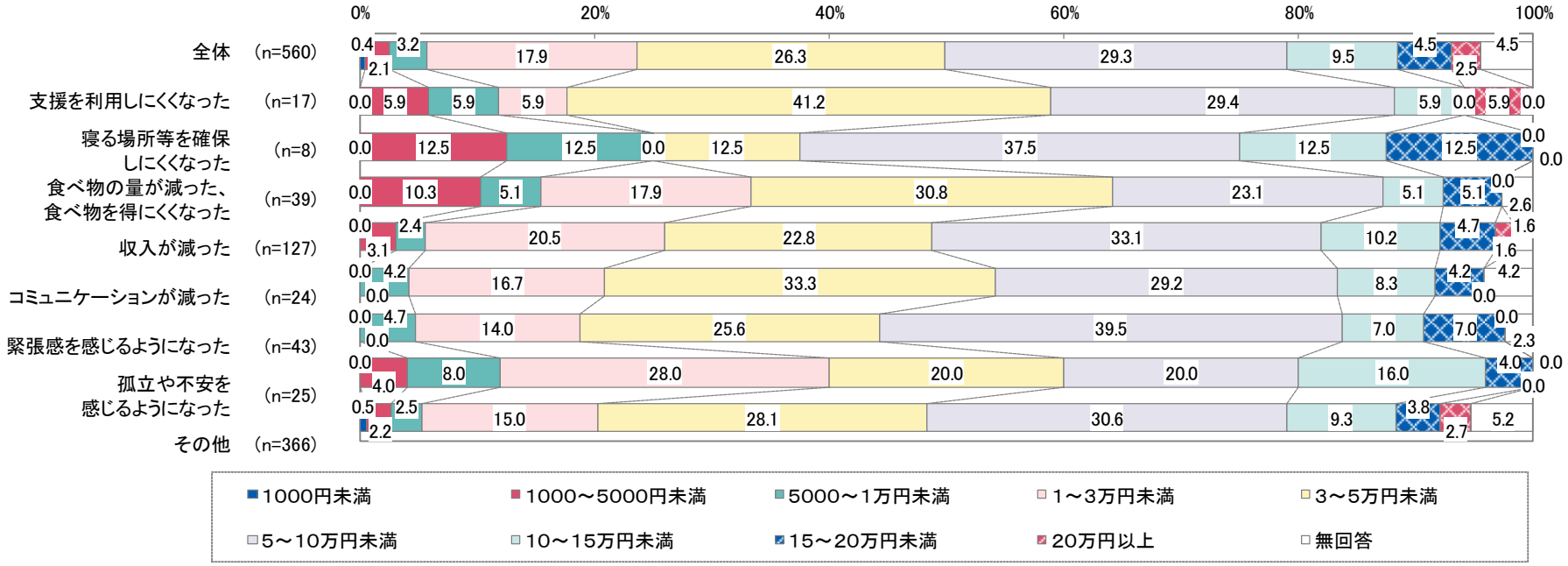
図表179　仕事以外の収入の種類（複数回答）×仕事以外の平均収入



問１０コロナの影響 × 問６－２仕事による平均収入

- コロナの影響と仕事による平均収入との関係については、「支援を利用しにくくなった」と回答した者では「３～５万円未満」の割合が高い（41.2%）。
- 「収入が減った」と回答した者では「５～１０万円未満」の割合が高い（33.1%）。

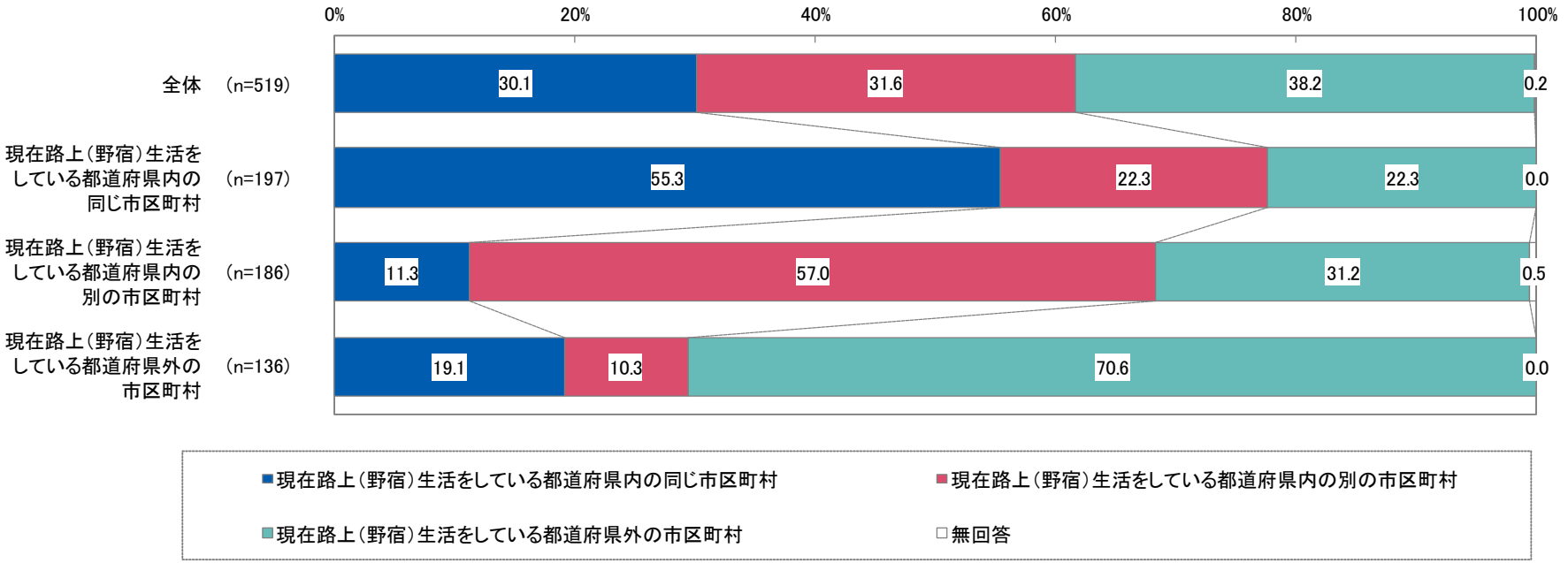
図表180　コロナの影響×仕事による平均収入



問１８－１別の路上生活場所 × 問１３初めて路上生活をする前に住んでいた地域

- 路上（野宿）生活後に別の場所に移動経験のある者の移動パターンは、初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域からの移動パターンと同様である割合が高い。

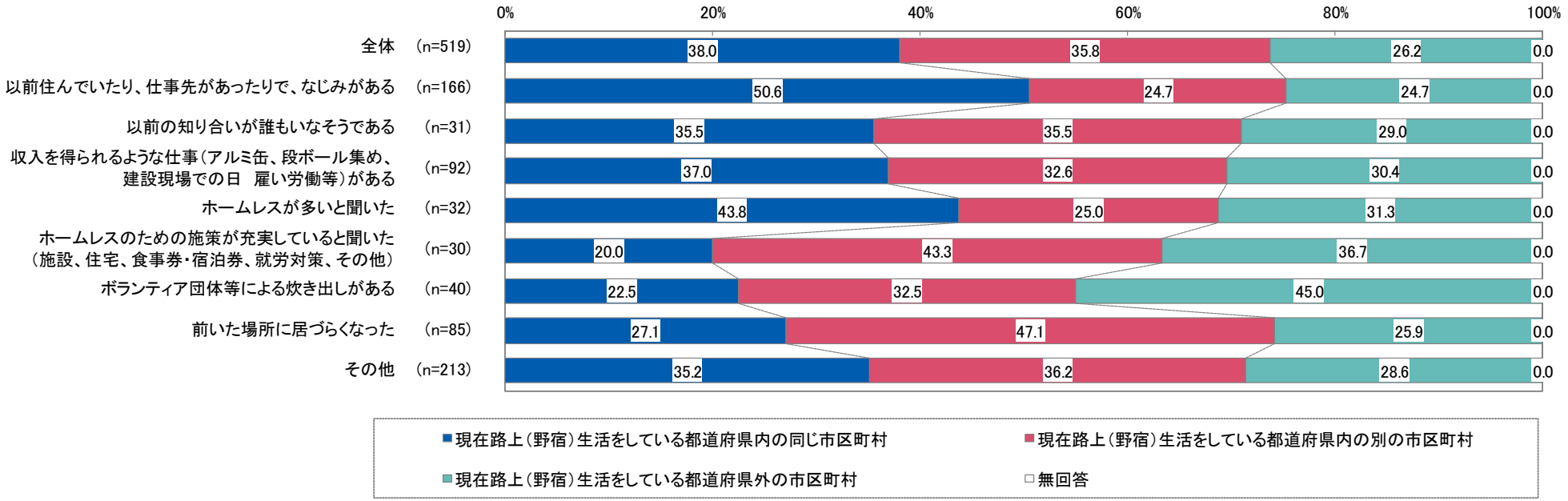
図表181　別の路上生活場所×初めて路上生活をする前に住んでいた地域



問１９現在の市区町村に来た主な理由（複数回答）× 問１８－１別の路上生活場所

- 別の路上（野宿）生活場所については、「現在路上（野宿）生活をしている都道府県内の同じ市区町村」の者では「なじみがある」ことを理由とする割合が高い（50.6%）。
- 「現在路上（野宿）生活をしている都道府県内の別の市区町村」から来た者では「ホームレスのための施策が充実していると聞いた」を理由とする割合が高い（43.3%）。
- 「現在路上（野宿）生活をしている都道府県外の市区町村」から来た者では「ボランティア団体等による炊き出し」を理由とする割合が高い（45.0%）。

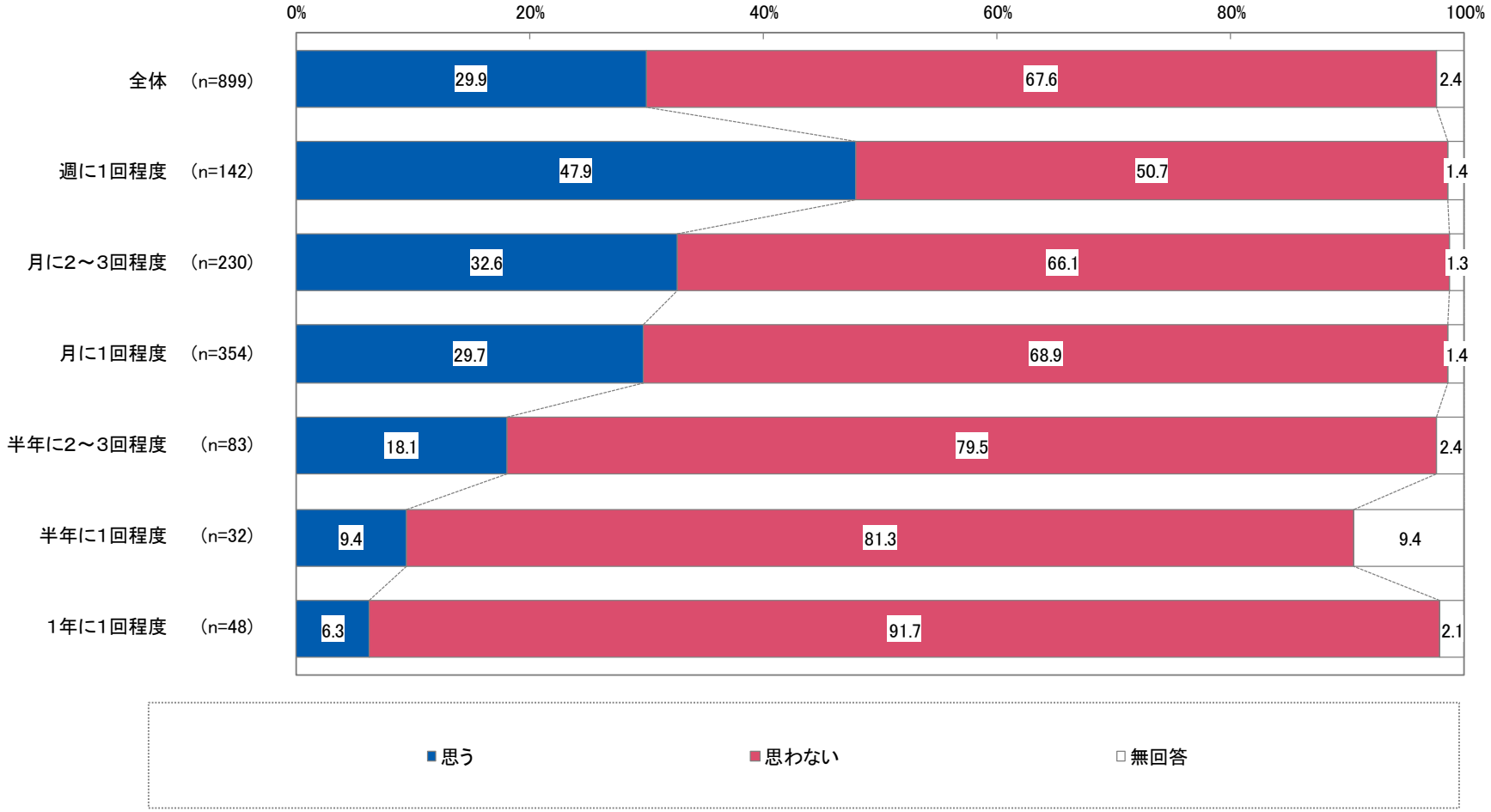
図表182　現在の市区町村に来た主な理由（複数回答）× 別の路上生活場所



問２７－１巡回の頻度 × 問２７－２頻繁に巡回するようになったと思うか

- 「巡回の頻度」 と「頻繁に巡回するようになったと思うか」との関係では「月に１回程度」以上の巡回があることにより、「思う」の割合が高い傾向にある。

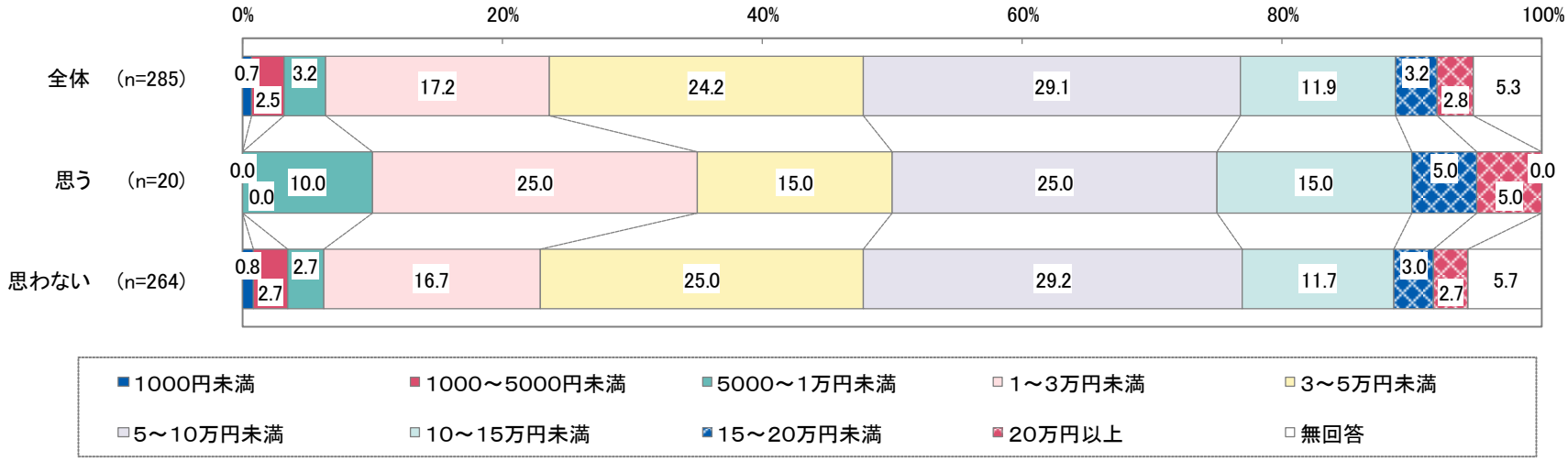
図表183　巡回の頻度×頻繁に巡回するようになったと思うか



問２８－１シェルターの利用意向 × 問６－２仕事による平均収入

- 仕事による収入（月額）については、「（シェルターを利用したいと）思わない」者では「３～５万円未満」及び「５～１０万円未満」の割合が高い（それぞれ25.0%、29.2%）。

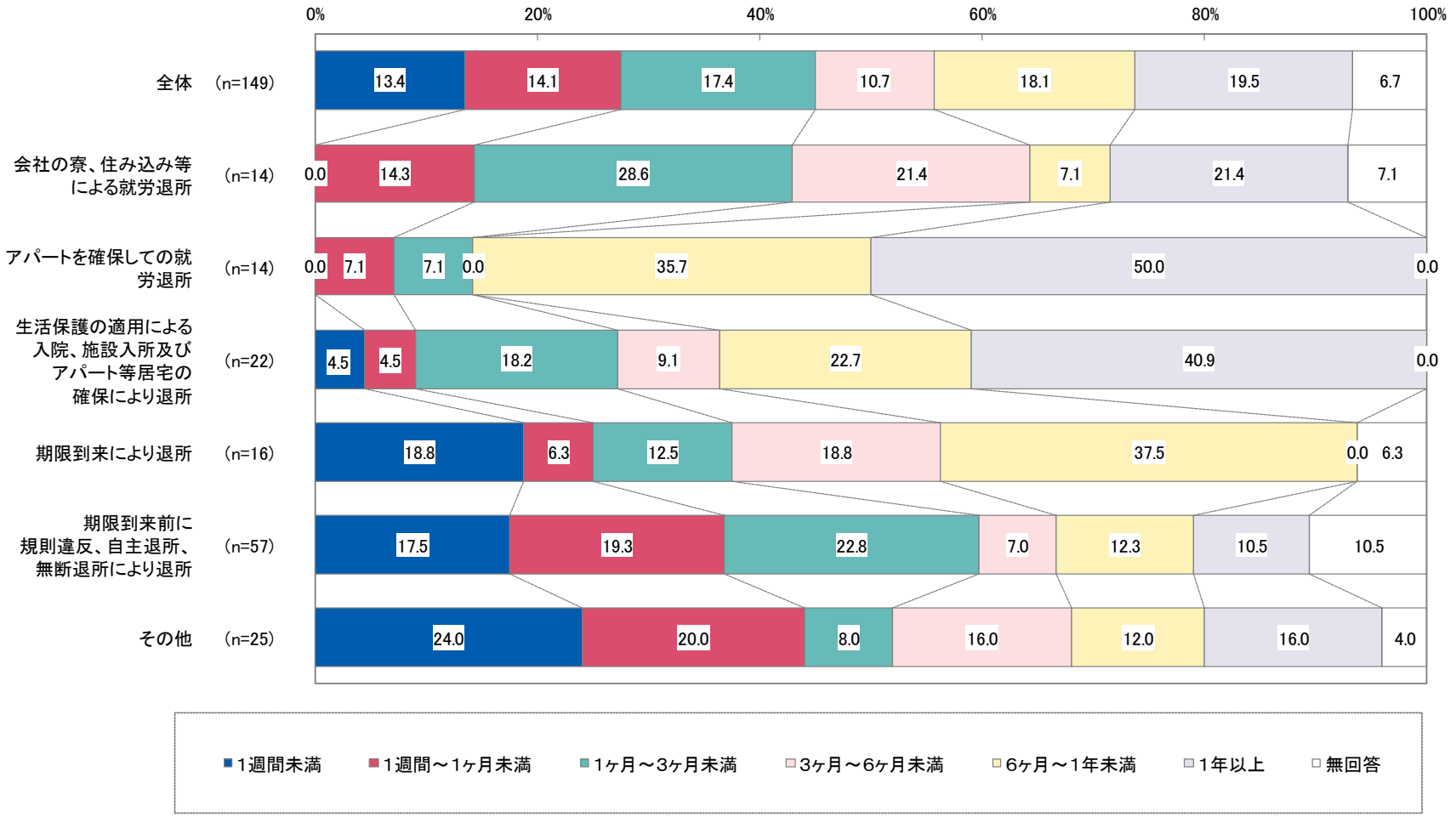
図表184　シェルターの利用意向×仕事による平均収入



問２９－２自立センターの退所理由 × 問２９－１退所から路上（野宿）生活に戻るまでの期間

- 自立支援センターの退所から路上生活に戻るまでの期間については、退所理由を、「アパートを確保しての就労退所」、「生活保護の適用」（と回答した者では、「１年以上」の割合が高い（それぞれ50.0%、40.9%）。「無断退所」と回答した者では、「１ヶ月～３ヶ月未満」の割合が高い（22.8%）。

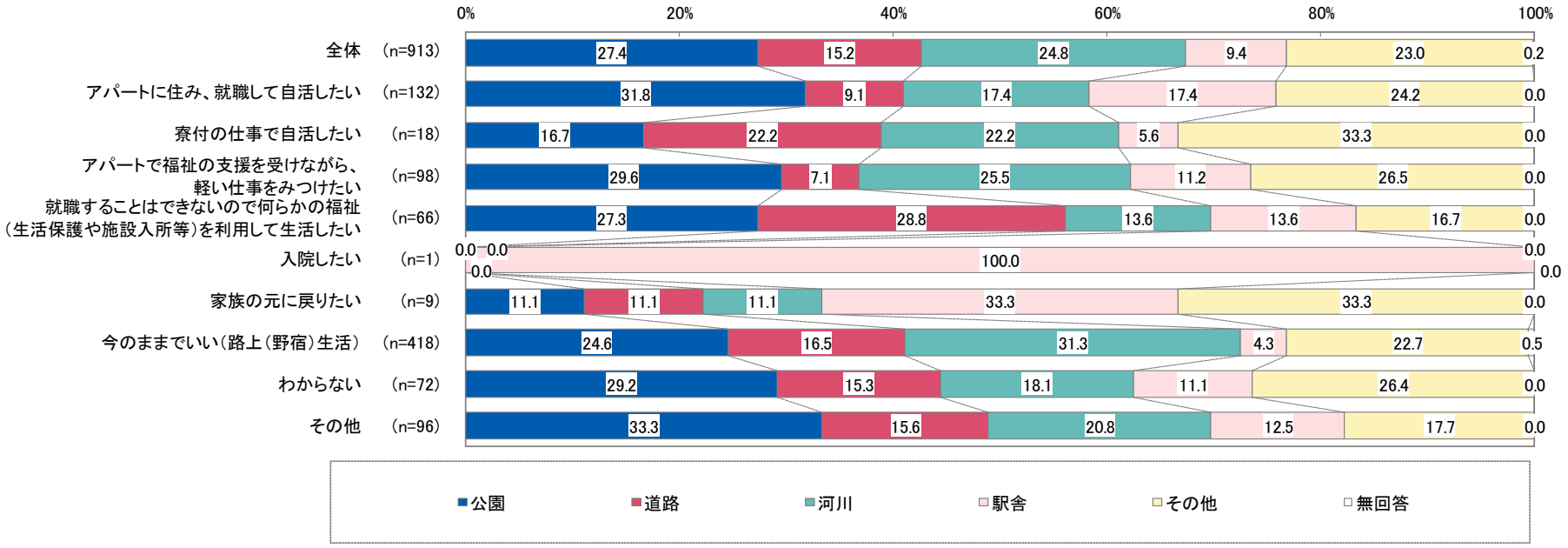
図表185　自立センターの退所理由×退所から路上（野宿）生活に戻るまでの期間



問３６今後望んでいる生活 × 問１－１寝ている場所（具体的に）

- 寝ている場所と今後望んでいる生活との関係については、「アパートに住み、就職」、 「何らかの福祉を利用」 では「公園」にいる者の割合が高い 。「今のままでいい」では「河川」にいる者の割合が高い（31.3%）。「家族の元に戻りたい」では「駅舎」にいる者の割合が高い（33.3%）。

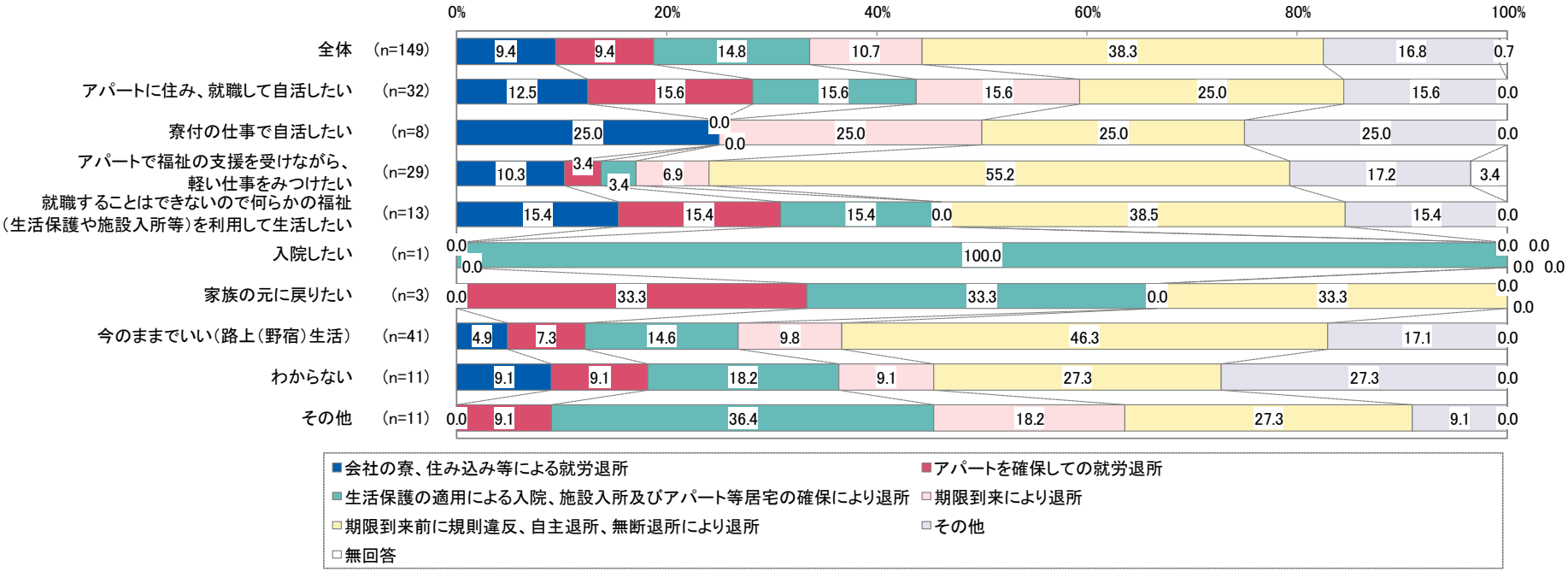
図表186　今後の望んでいる生活×寝ている場所（具体的に）



問３６今後望んでいる生活 × 問２９－２自立センターの退所理由

- 今後望んでいる生活と自立支援センターの退所理由との関係については、「会社の寮、住み込み等による就労退所」と回答した者では「寮付の仕事で自活」の割合が高い（25.0%）。「無断退所等」と回答した者では、「今のままでいい」の割合が高い（46.3%）。

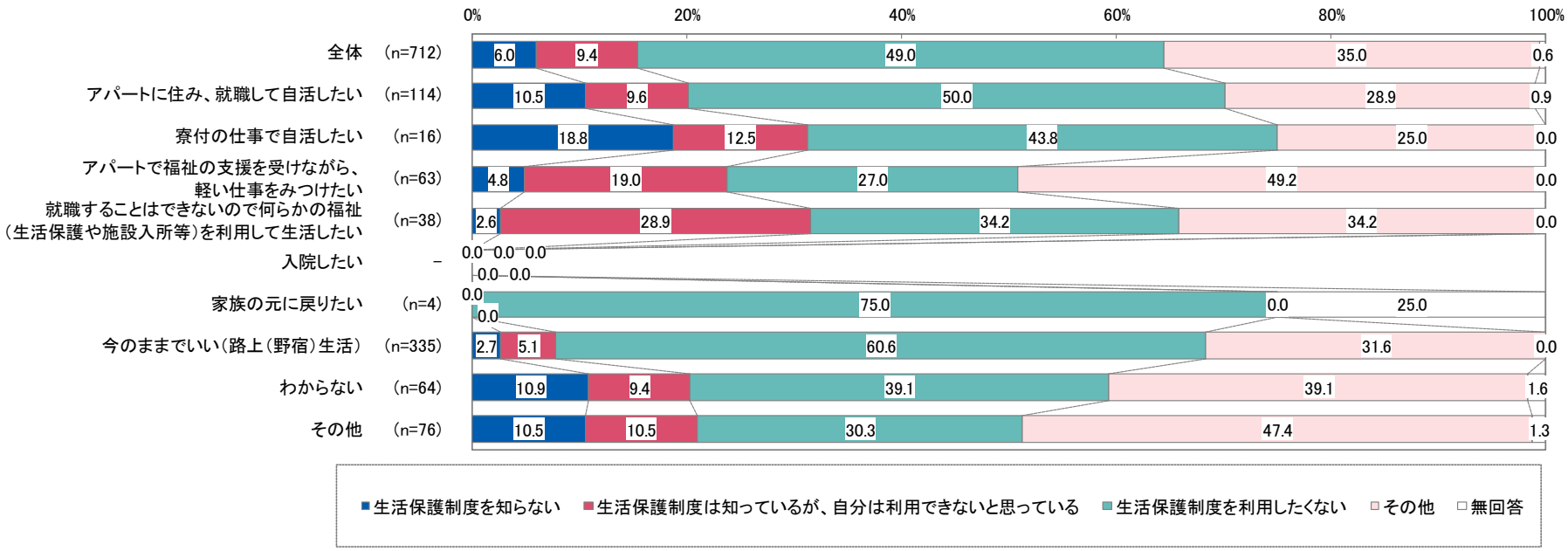
図表187　今後の望んでいる生活×自立センターの退所理由



問３６今後望んでいる生活 × 問３１－３生活保護制度を利用しなかった理由

- 今後望んでいる生活と生活保護制度を利用しなかった理由の関係については、 「自分は利用できないと思っている」と回答した者では「何らかの福祉を利用したい」割合が高い（28.9%）。「生活保護を利用したくない」と回答した者では「アパートに住み、就職」、「寮付きの仕事で自活」、「今のままでいい」の割合が高い（それぞれ50.0%、43.8%、60.6%）。

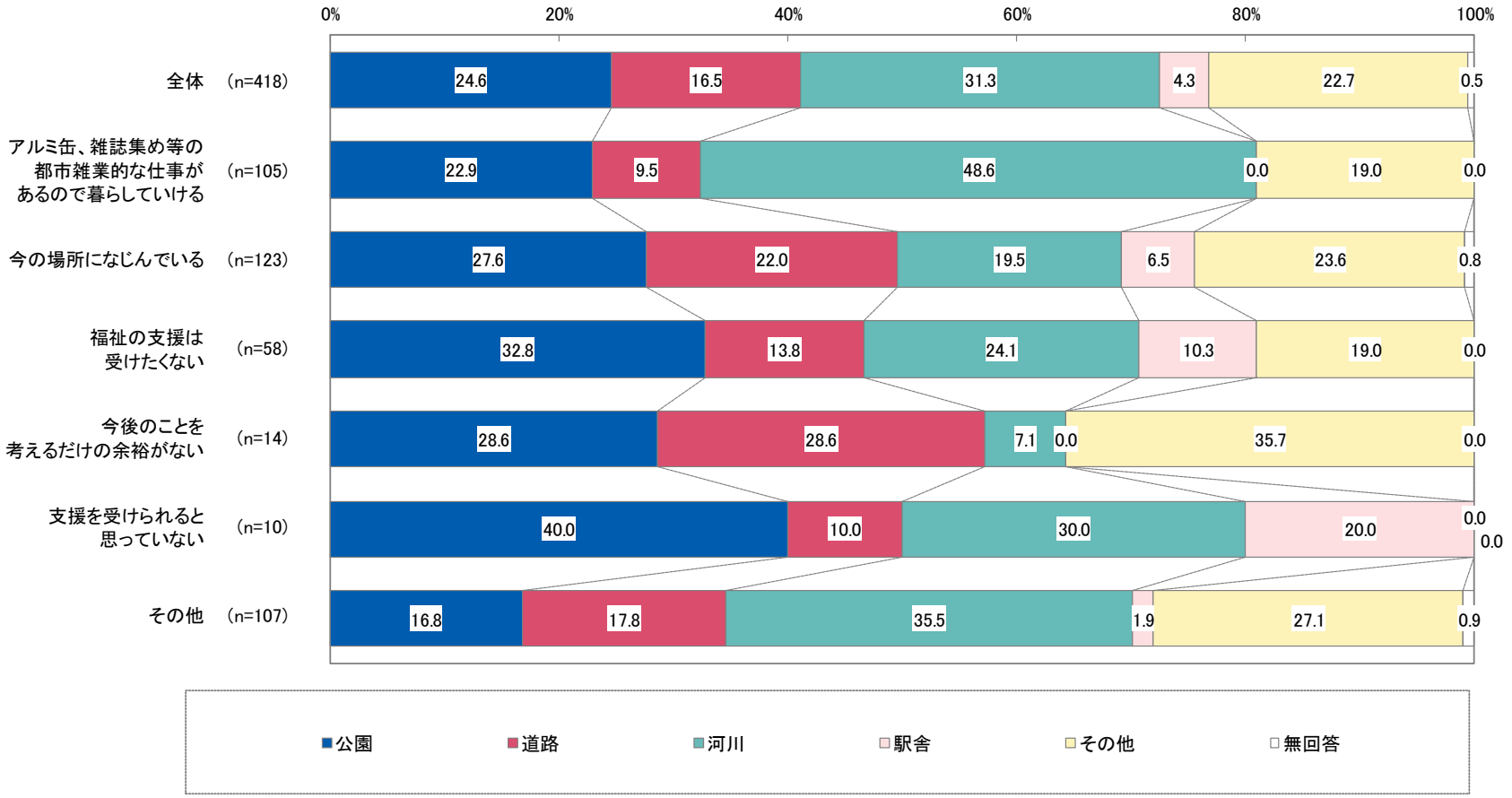
図表188　今後望んでいる生活×生活保護制度を利用しなかった理由



問３６－１今のままでいい理由 × 問１－１寝ている場所（具体的に）

- 寝ている場所と今のままでいい理由の関係については、「河川」にいる者では「都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」の割合が高い（48.6%）。「公園」にいる者では「福祉の支援は受けたくない」 及び「支援を受けられると思っていない」の割合が高い（それぞれ32.8%、40.0%）。「道路」にいる者では「今後のことを考えるだけの余裕がない」の割合が高い（28.6%）。

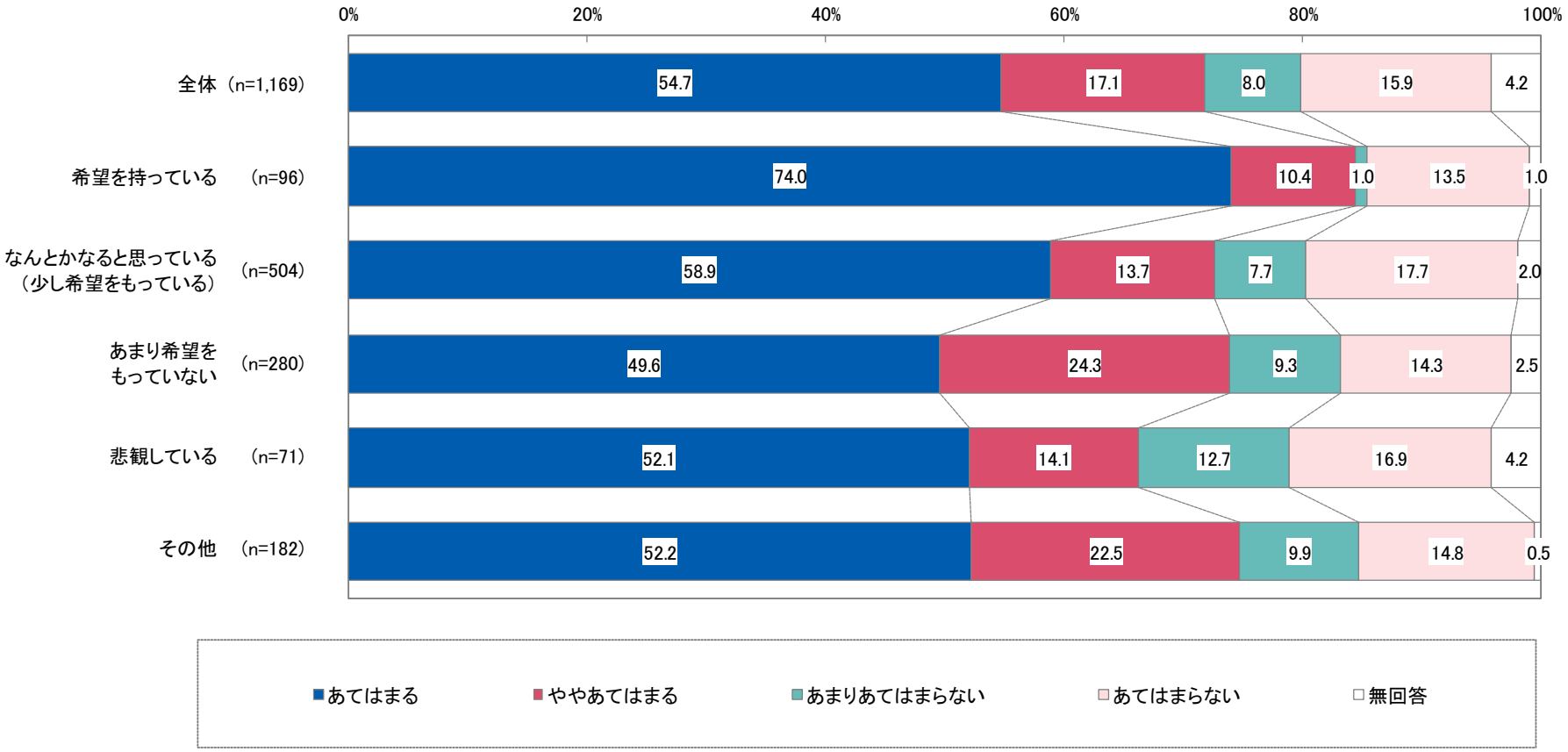
図表189　今のままでいい理由×寝ている場所（具体的に）



問４７現在の気持ち × 問９ 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（挨拶をする相手がいる（路上・野宿　生活前）、に）当てはまる」の割合が高い（74.0%）。「あまり希望を持っていない」者では「やや当てはまる」及び「あまり当てはまらない」の割合が高い（それぞれ24.3%、9.3%）。

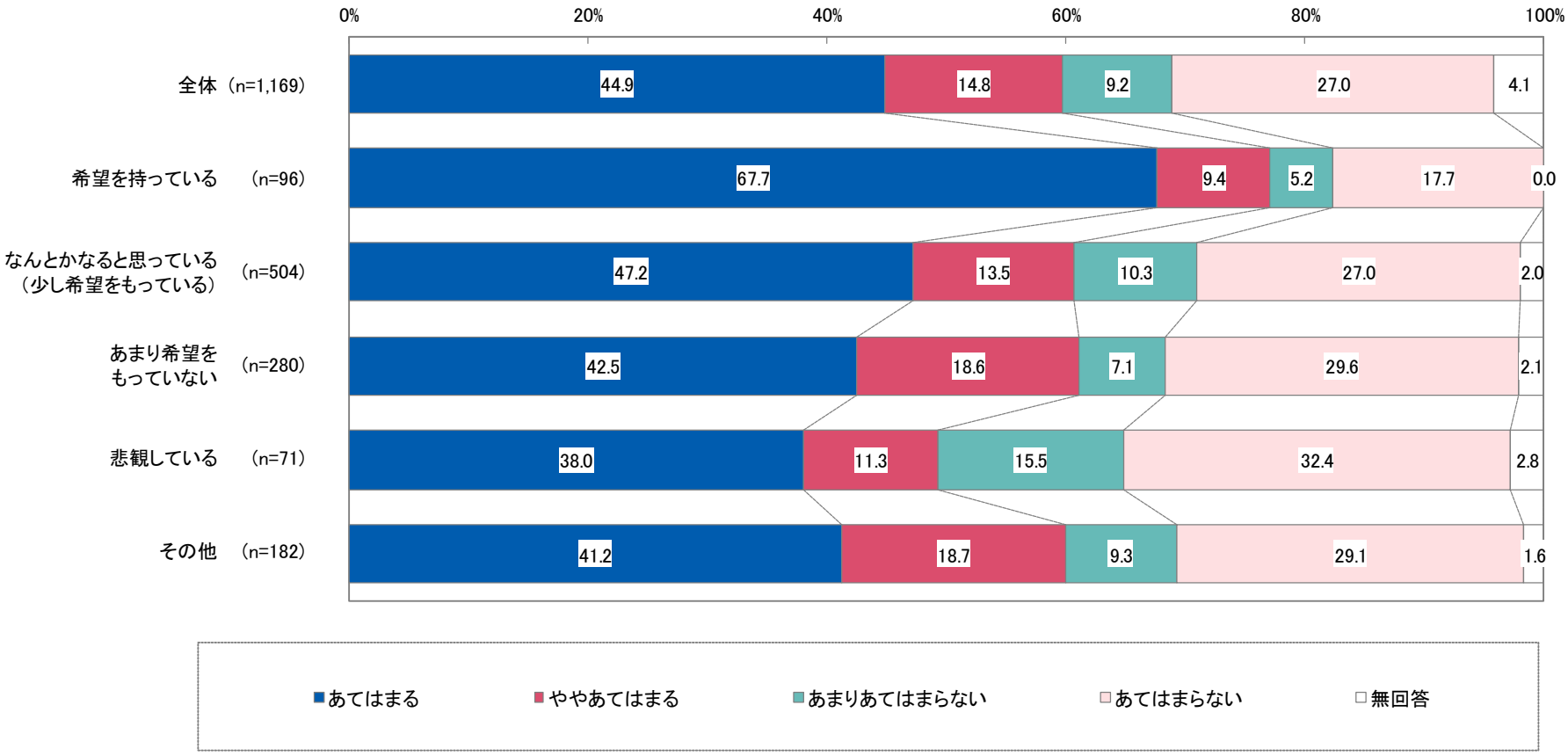
図表190-1　現在の気持ち×周囲とのつながり：挨拶をする相手がいる＜路上（野宿）生活前＞



問４７現在の気持ち × 問９ 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（挨拶をする相手がいる（現在）、に）当てはまる」の割合が高い（67.6%）。「悲観している」者では「あまり当てはまらない」及び「当てはまらない」の割合が高い（それぞれ15.5%、32.4%）。

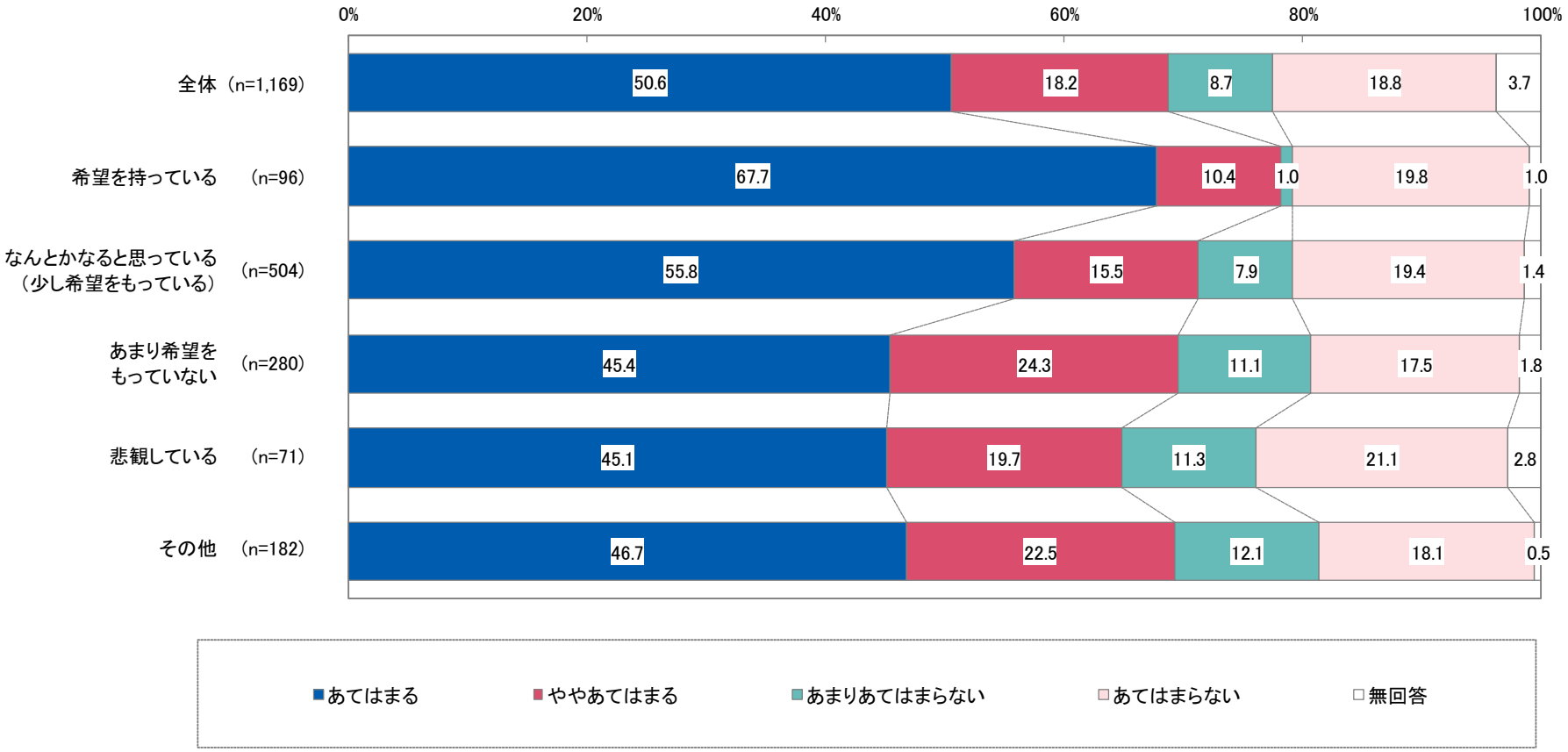
図表190-2　現在の気持ち×周囲とのつながり：挨拶をする相手がいる＜現在＞



問４７現在の気持ち × 問９ 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（世間話をする相手がいる（路上・野宿　生活前）、に）当てはまる」の割合が高い（67.7%）。「あまり希望を持っていない」「悲観している」者では「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

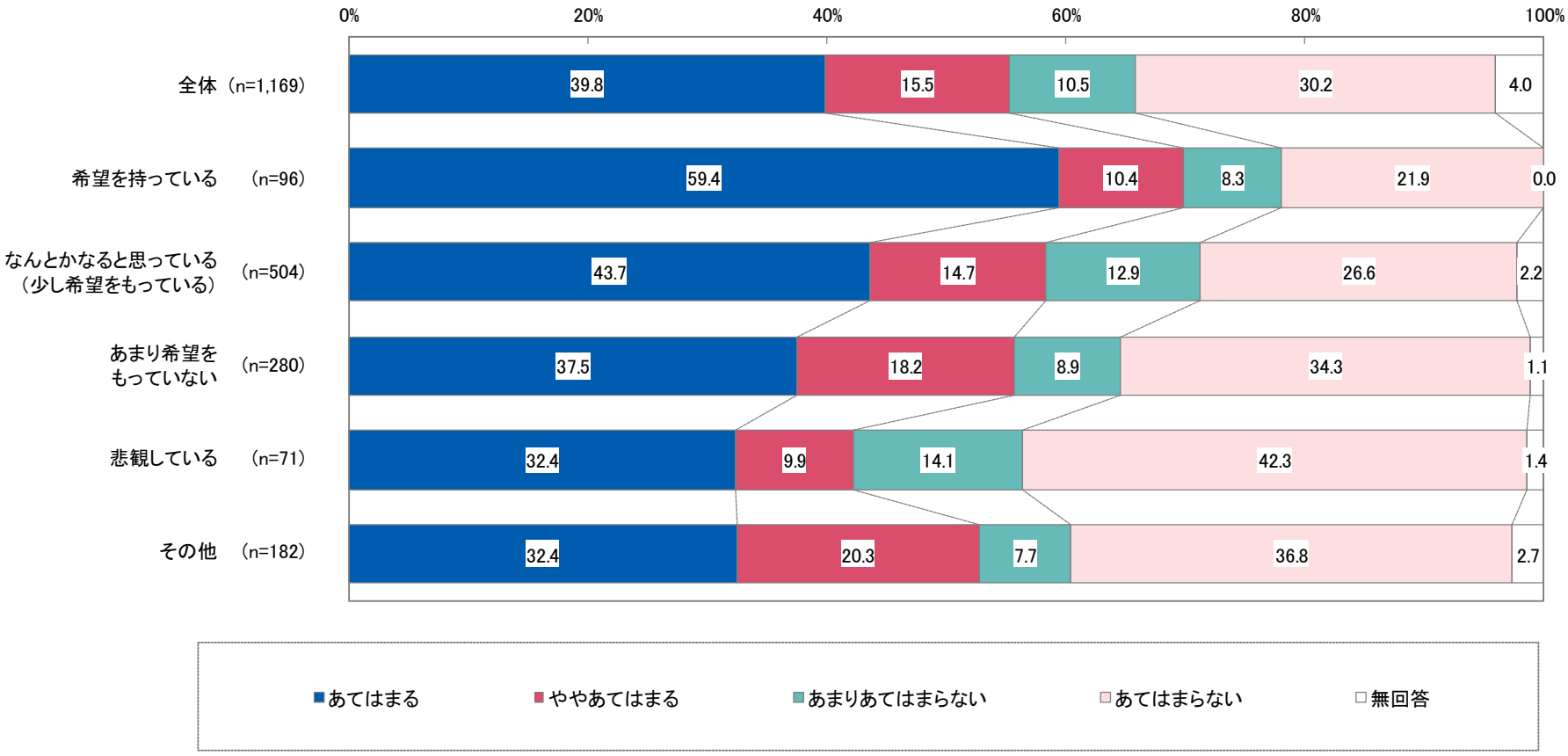
図表190-3　現在の気持ち×周囲とのつながり：世間話をする相手がいる＜路上（野宿）生活前＞



問４７現在の気持ち × 問９ 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（世間話をする相手がいる（現在）、に）当てはまる」の割合が高い（59.4%）。「あまり希望を持っていない」「悲観している」者では「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

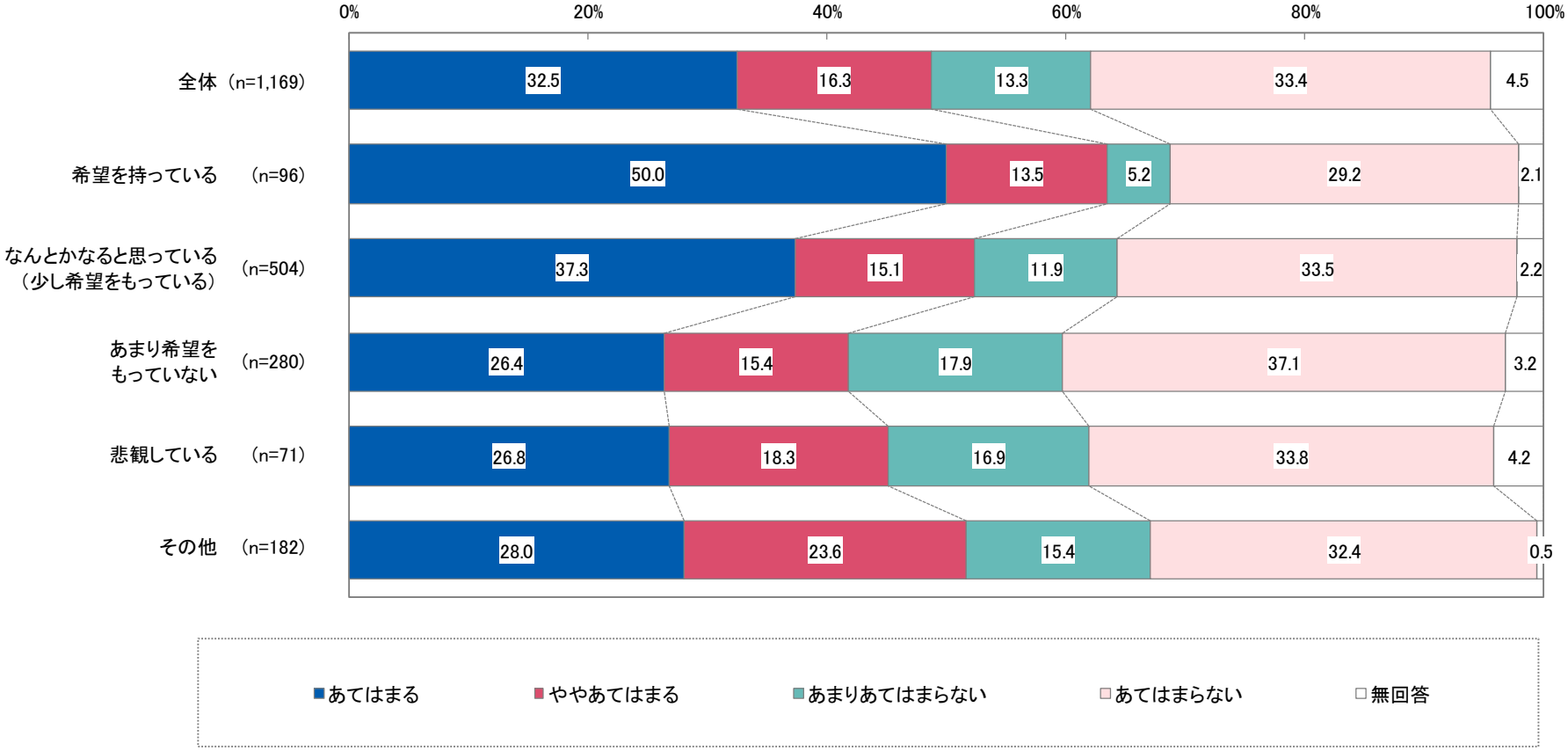
図表190-4　現在の気持ち×周囲とのつながり：世間話をする相手がいる＜現在＞



問４７現在の気持ち × 問９ 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（困った時に相談できる相手がいる（路上・野宿　生活前）、に）当てはまる」の割合が高い（50.0%）。「あまり希望を持っていない」「悲観している」者では「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

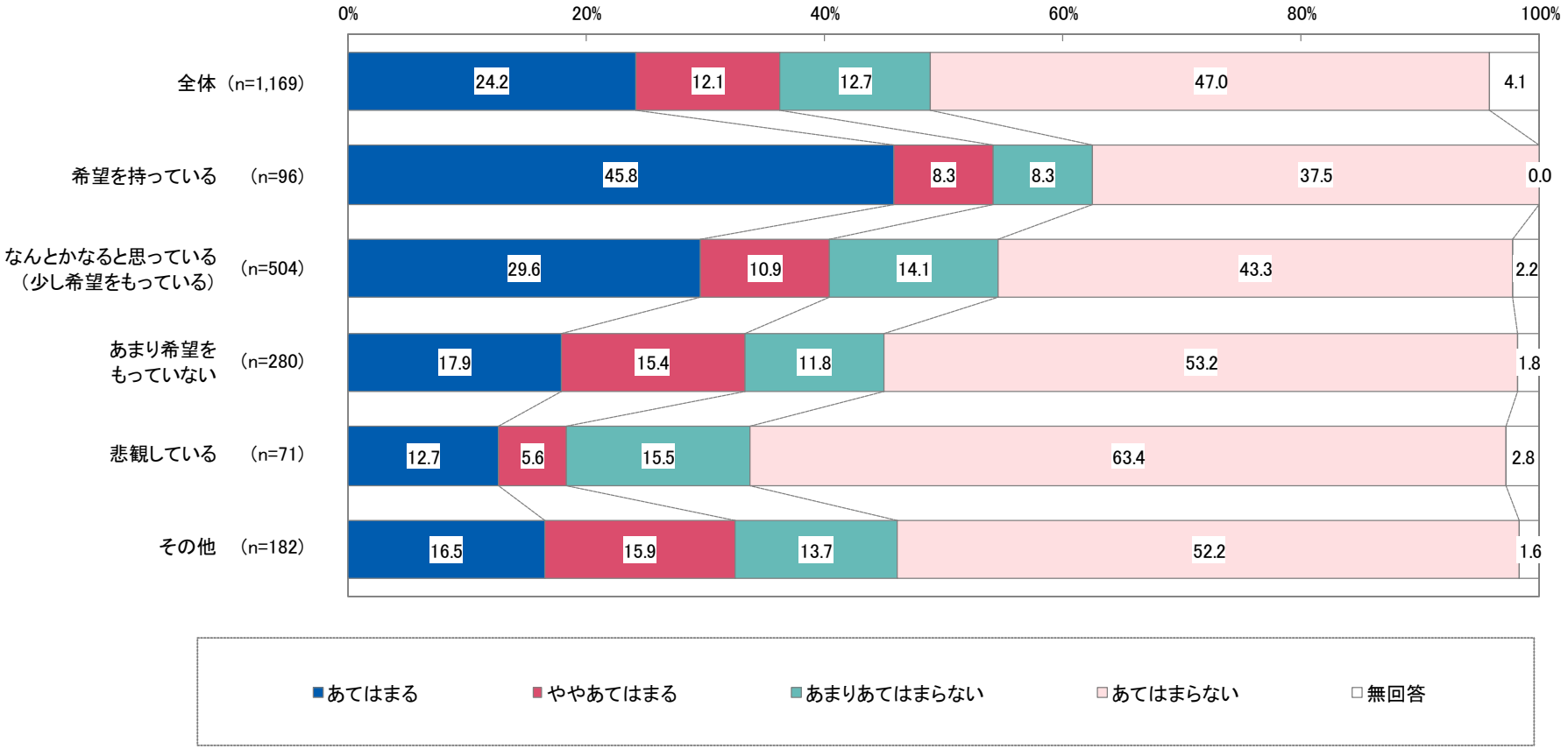
図表190-5　現在の気持ち×周囲とのつながり：困った時に相談できる相手がいる＜路上（野宿）生活前＞



問４７現在の気持ち × 問９ 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（困った時に相談できる相手がいる（現在）、に）当てはまる」の割合が高い（45.8%）。「あまり希望を持っていない」「悲観している」者では「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

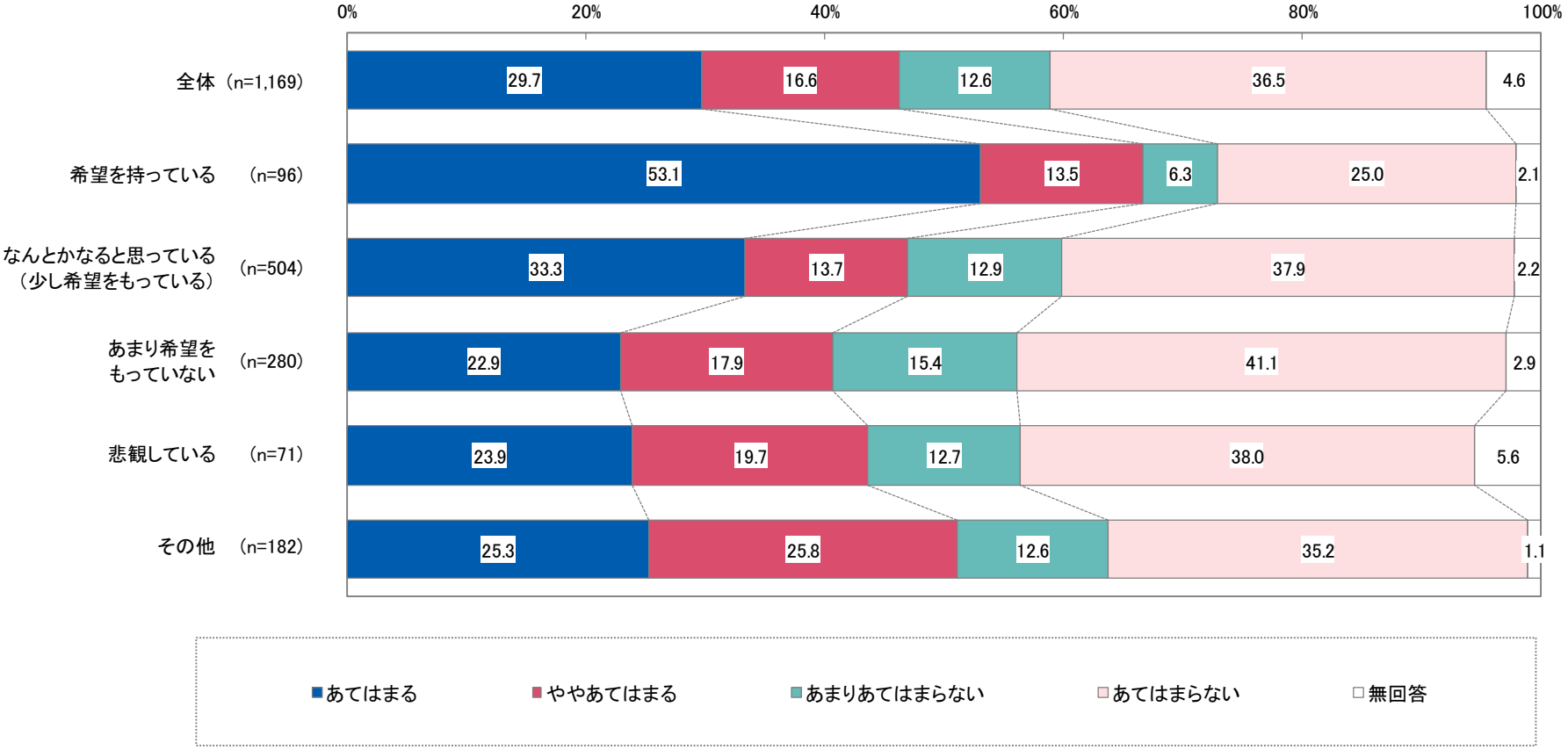
図表190-6　現在の気持ち×周囲とのつながり：困った時に相談できる相手がいる＜現在＞



問４７現在の気持ち × 問９ 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（困った時に助けてくれる相手がいる（路上・野宿　生活前）、に）当てはまる」の割合が高い（53.1%）。「あまり希望を持っていない」「悲観している」者では「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

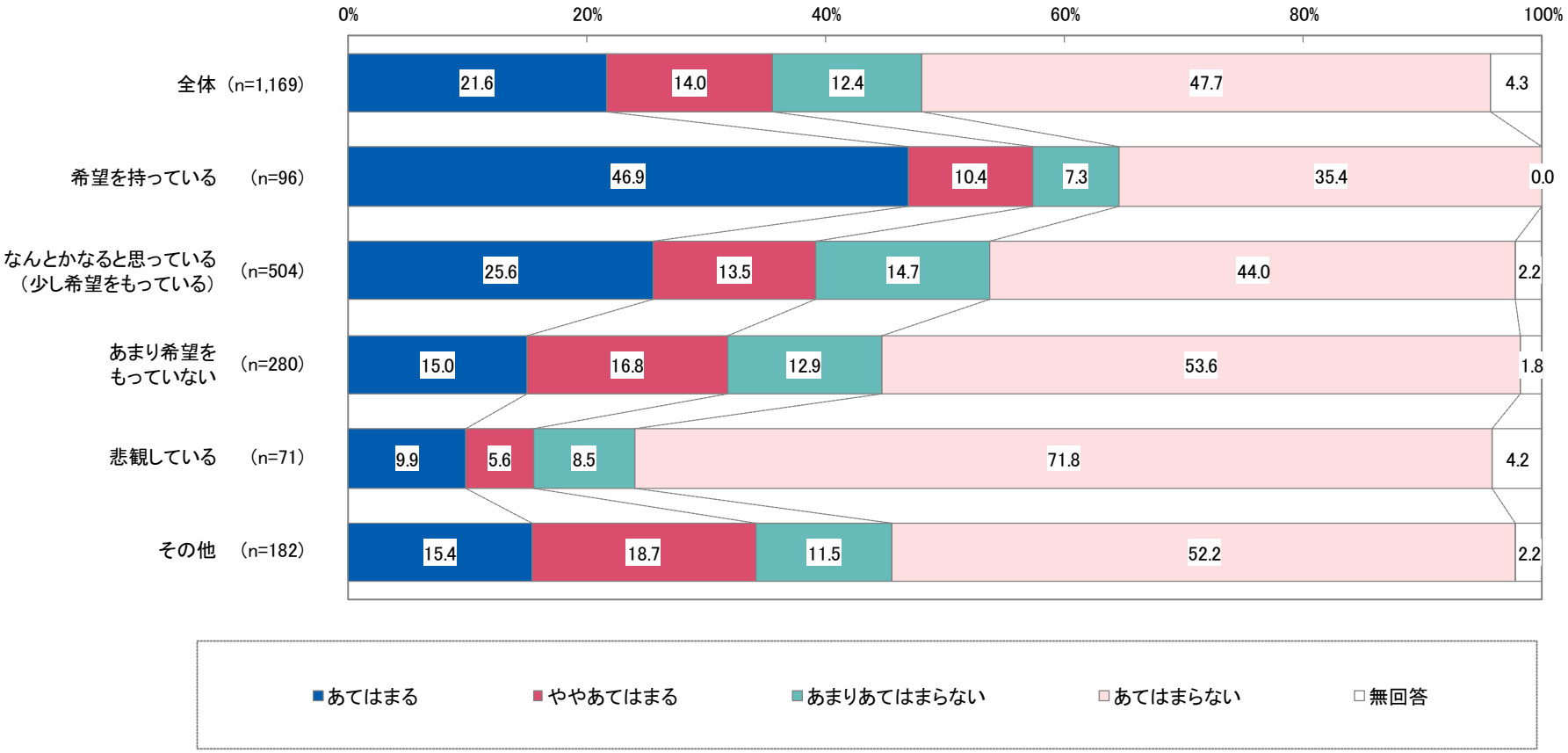
図表190-7　現在の気持ち×周囲とのつながり：困った時に助けてくれる相手がいる＜路上（野宿）生活前＞



問４７現在の気持ち × 問９ 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（困った時に助けてくれる相手がいる（現在）、に）当てはまる」の割合が高い（46.9%）。「あまり希望を持っていない」「悲観している」者では「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

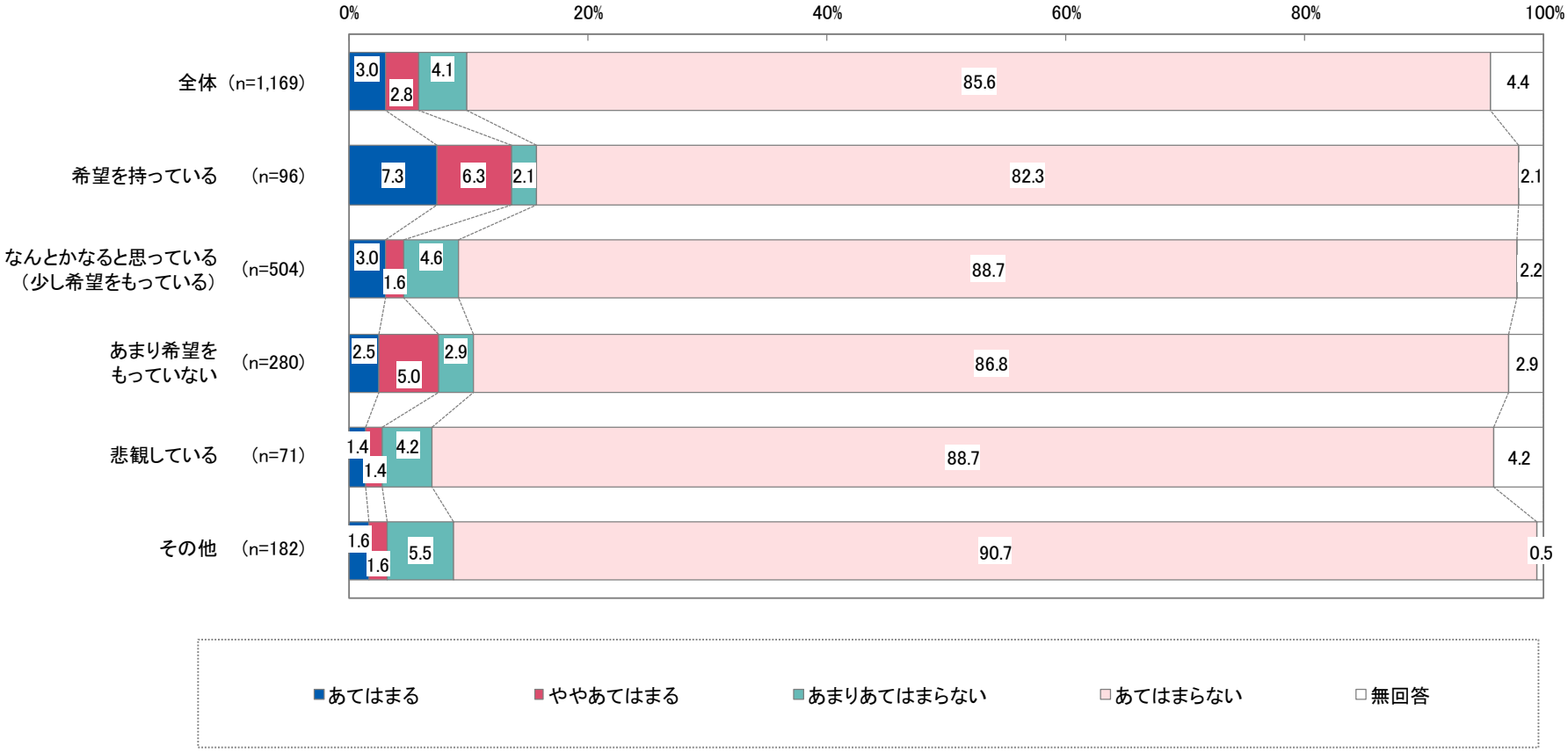
図表190-8　現在の気持ち×周囲とのつながり：困った時に助けてくれる相手がいる＜現在＞



問４７現在の気持ち × 問９ 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（NPO等の団体が開催する集会・相談回答に参加している（路上・野宿　生活前）、に）当てはまる」の割合が高い（7.3%）。全体に「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

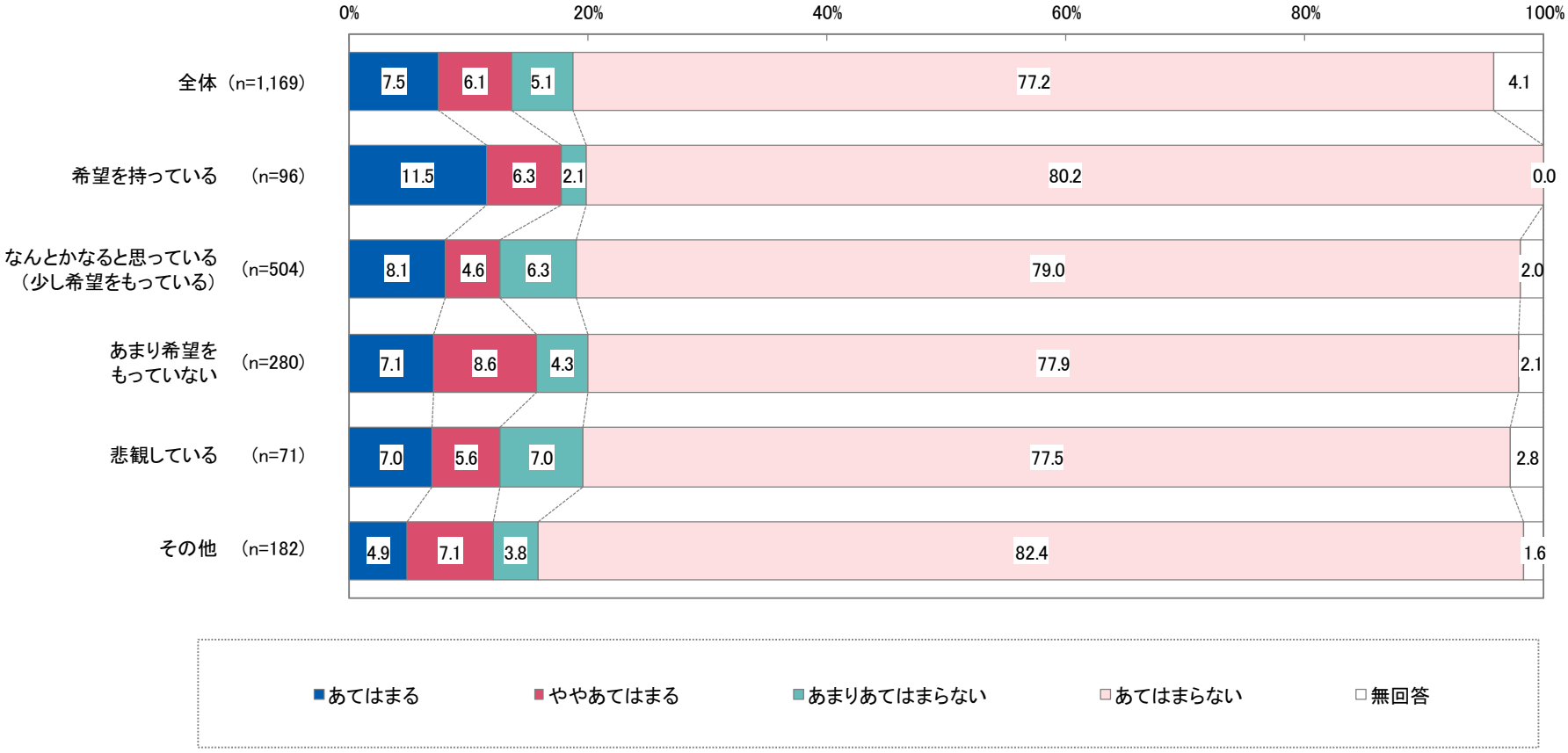
図表190-9　現在の気持ち×周囲とのつながり：NPO等の団体が開催する集会・相談等に参加している＜路上（野宿）生活前＞



問４７現在の気持ち × 問９ 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「希望を持っている」者では「（NPO等の団体が開催する集会・相談回答に参加している（現在）、に）あてはまる」の割合が高い（11.5%）。全体に「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

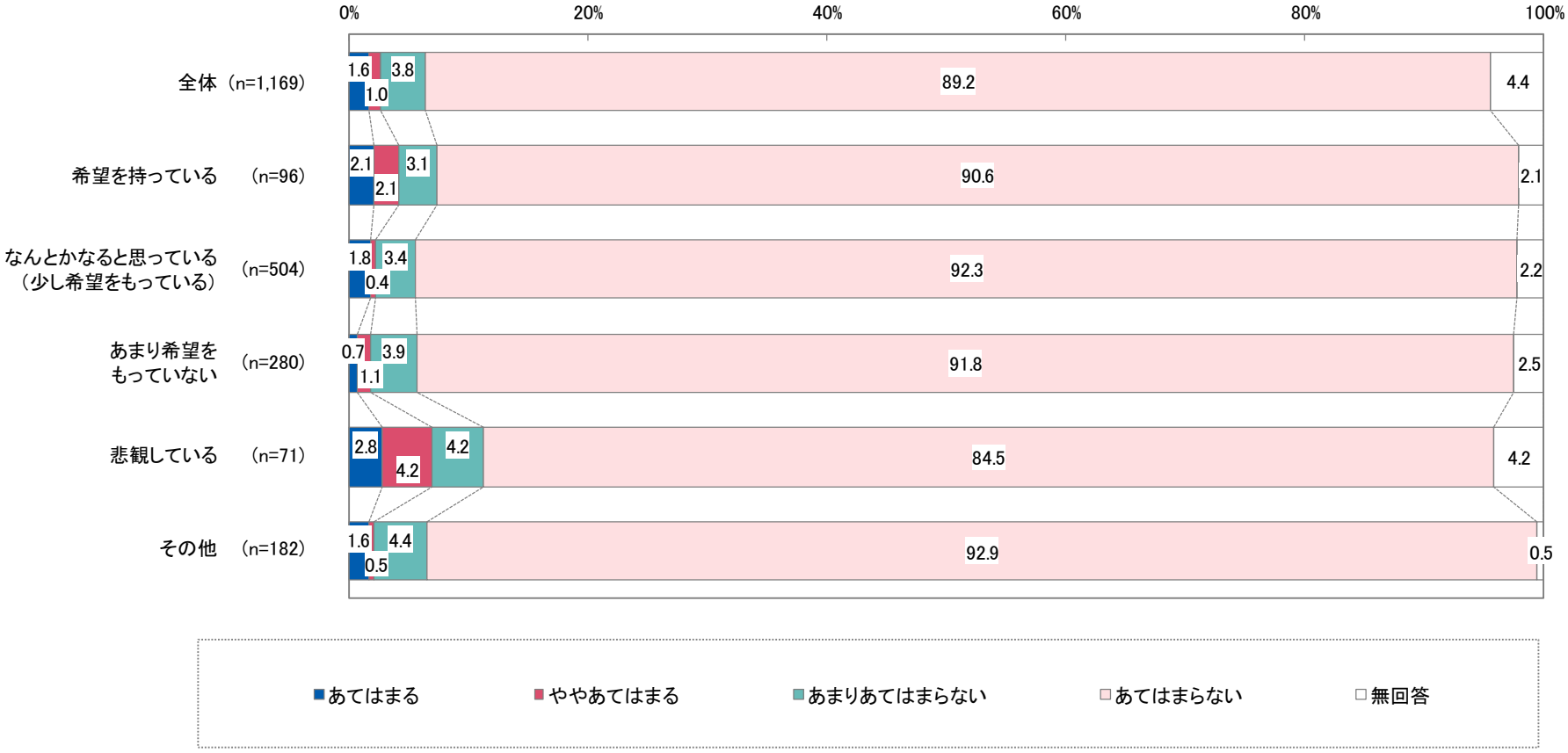
図表190-10　現在の気持ち×周囲とのつながり：NPO等の団体が開催する集会・相談会等に参加している＜現在＞



問４７現在の気持ち × 問９ 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、「悲観している」者では「（行政が開催する集会・相談回答に参加している（路上・野宿生活前）、に）あてはまる」の割合が高い（2.8%）。全体に「あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

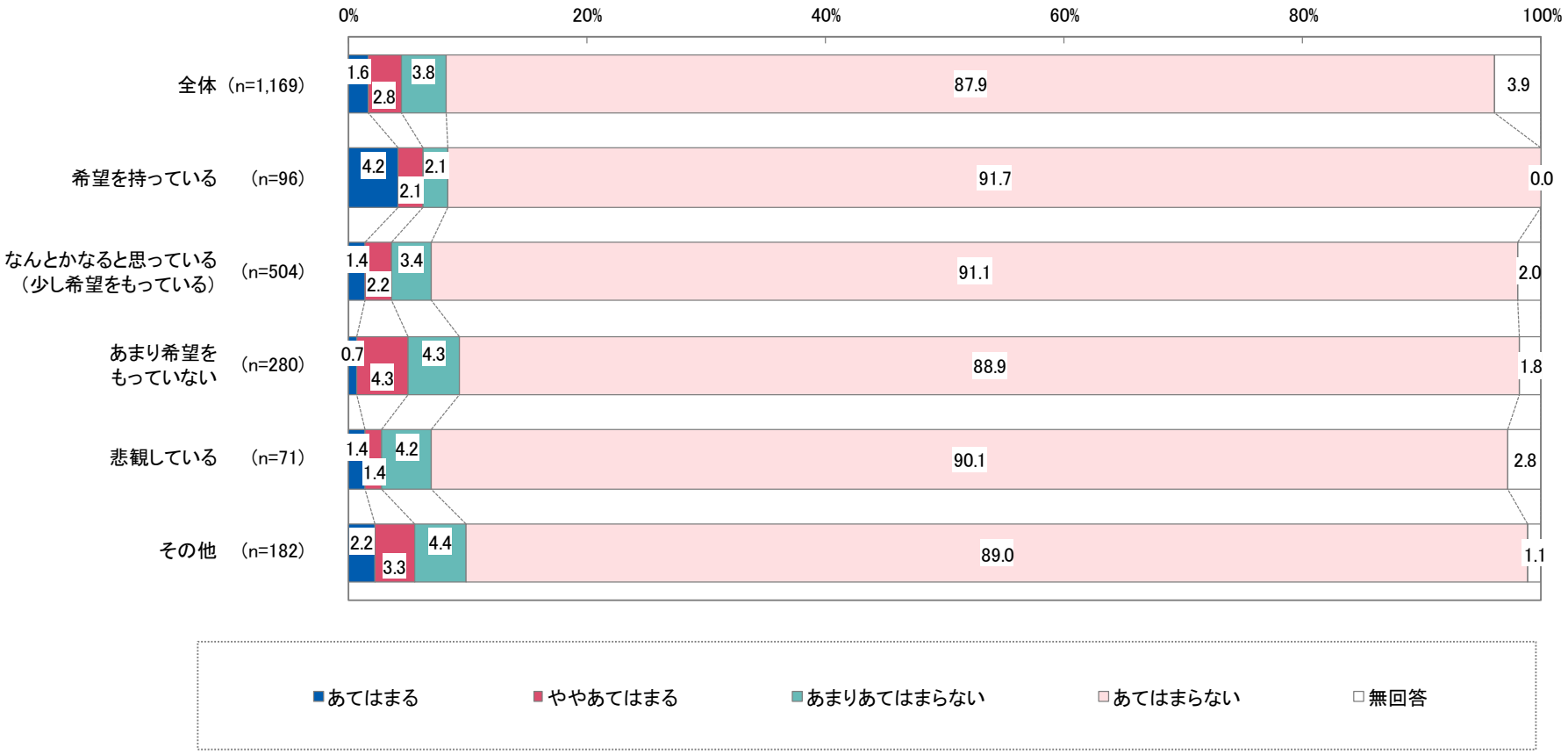
図表190-11　現在の気持ち×周囲とのつながり：行政が開催する集会・相談会等に参加している＜路上（野宿）生活前＞



問４７現在の気持ち × 問９ 周囲とのつながり

- 現在の気持ちと周囲とのつながりの関係については、全体に「 （行政が開催する集会・相談回答に参加している（現在）に）あまりあてはまらない」及び「あてはまらない」の割合が高い。

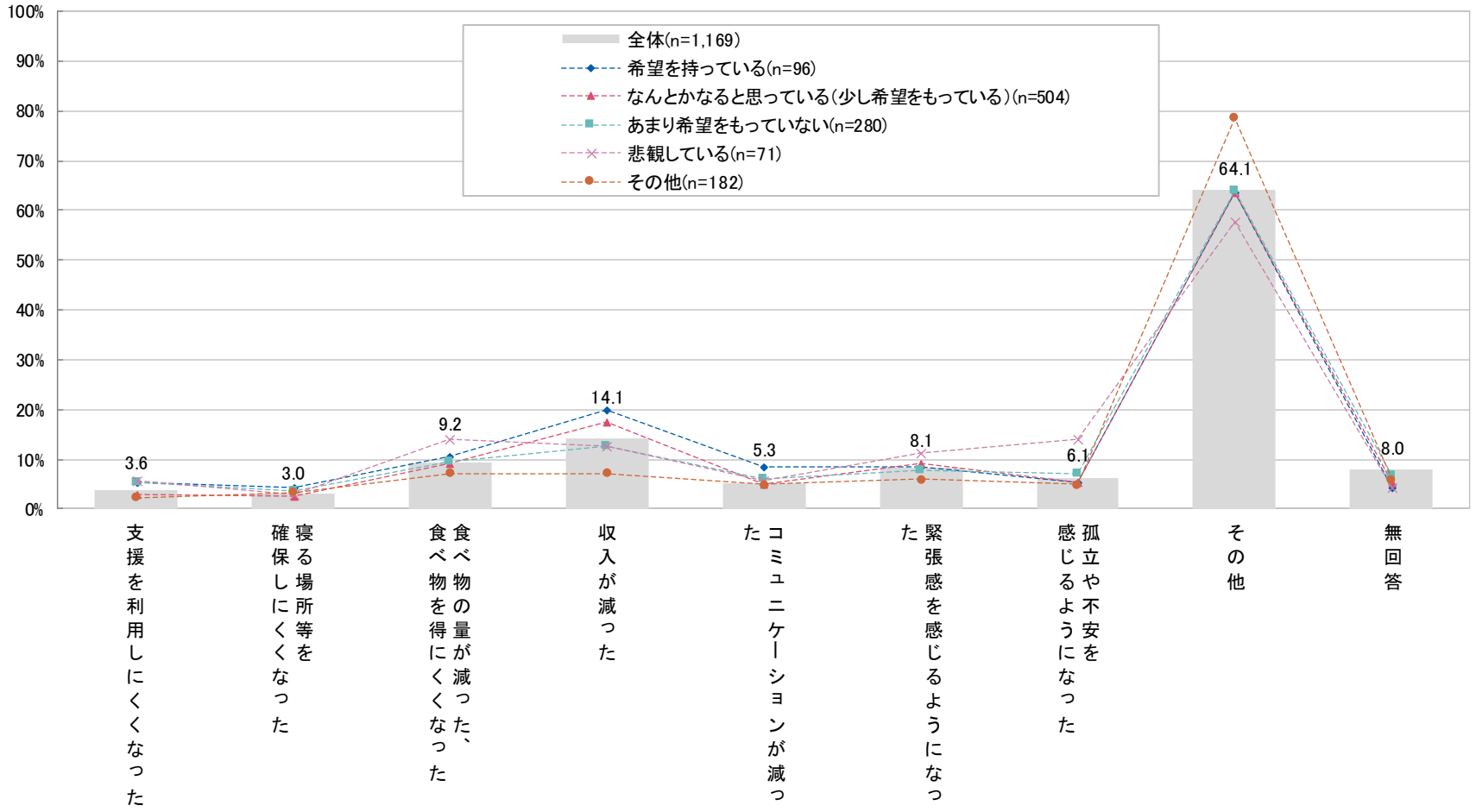
図表190-12　現在の気持ち×周囲とのつながり：行政が開催する集会・相談会等に参加している＜現在＞



問４７現在の気持ち × 問１０ コロナの影響

- 現在の気持ちとコロナの影響については、「希望を持っている」者では「収入が減った」の割合が高い。「悲観している」者では「食べ物が減った」の割合が高い。

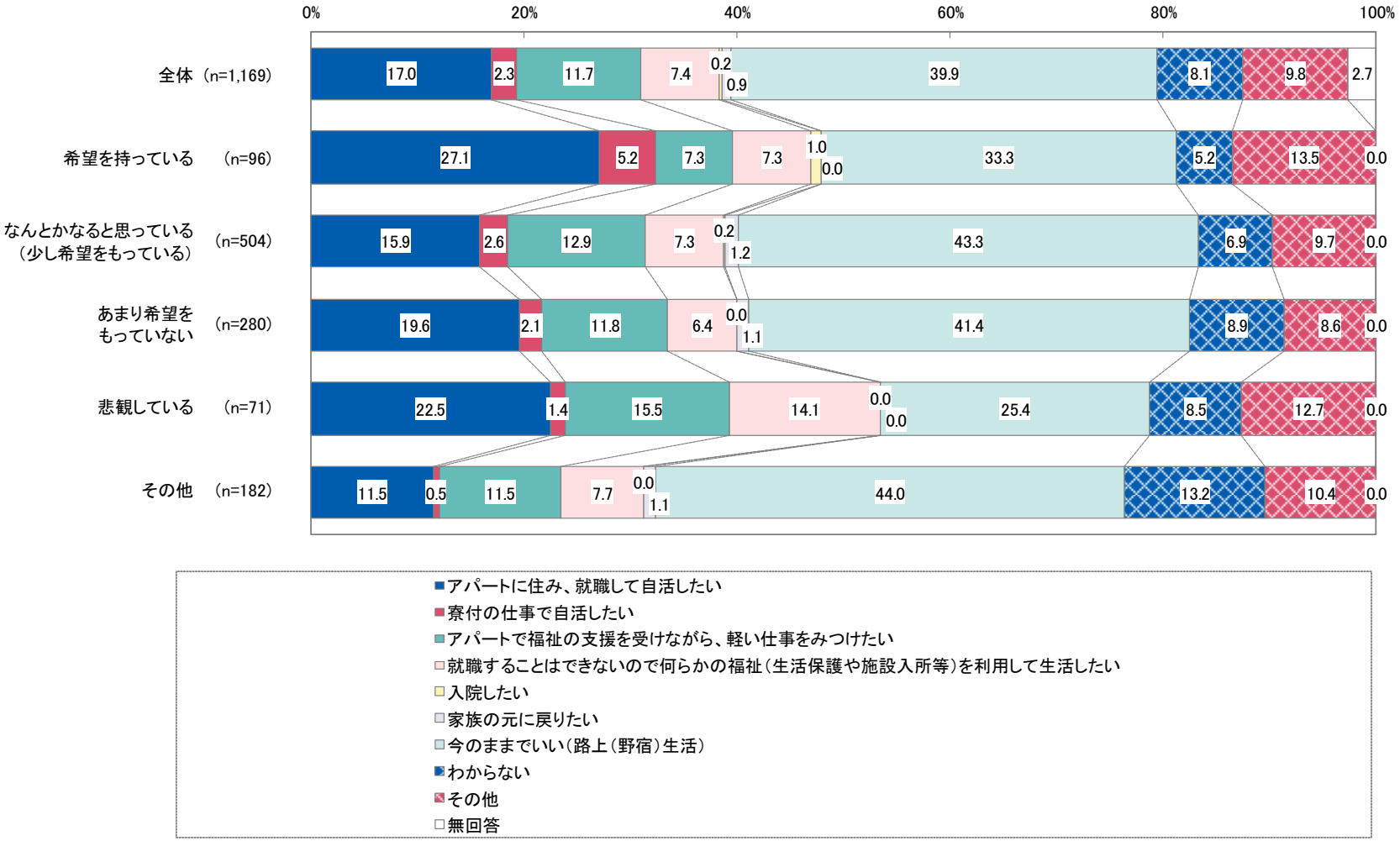
図表191　現在の気持ち×コロナの影響



問４７現在の気持ち × 問３６今後望んでいる生活

- 現在の気持ちと今後望んでいる生活については、「希望を持っている」者では「アパートに住み、就職して自活したい」の割合が高い（27.1%）。「悲観している」者では「今のままでいい」の割合が低い（25.4%）。

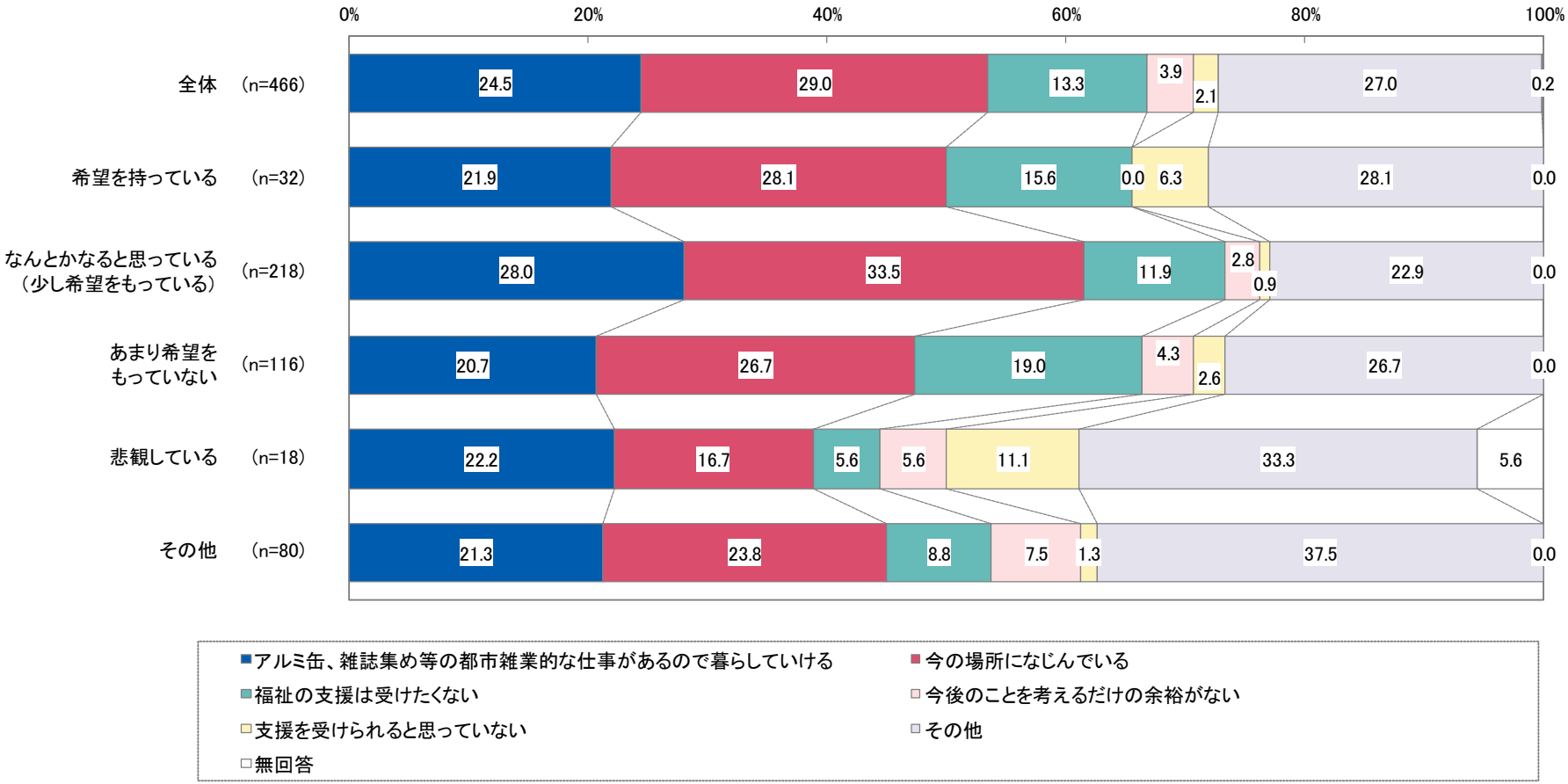
図表192　現在の気持ち×今後望んでいる生活



問４７現在の気持ち × 問３６－１今のままでいい理由

- 現在の気持ちと今のままでいい理由については、「なんとかなると思っている」者では「都市雑業的な仕事がある」「今の場所になじんでいる」の割合が高い（それぞれ28.0%、33.5%）。「悲観している」者では「支援を受けられると思っていない」の割合が高い（11.1%）。

図表193　現在の気持ち×今のままでいい理由



問４７現在の気持ち × 問３７就職するための求職活動

- 現在の気持ちと就職するための求職活動については、「希望を持っている」者では「求職活動をしている」の割合が高い（17.7%）。「悲観している」者では「今はしていないが今後求職活動をする予定である」の割合が高い（21.1%）。

図表194　現在の気持ち×就職するための求職活動

